

FD Review vol.4

2008 年度の総括



入学前教育 自校教育

本学の「建学の精神」についての学長の講義。
熱心に聞く入学予定の受講生。



入学前教育 学びの導入

各学部の教員による「学びの導入」の授業。
大学での必要な知識や学び方を知ること、入学前の不安が緩和されていく入学予定の受講生。



入学前教育 体験授業

各学部の専門性にかかわる体験授業。
積極的なコミュニケーションで主体的に授業にかかわる
入学予定の受講生。



入学前教育 体験授業

メディアの世界について、パワーポイントや雑誌を用いた体験授業。
視覚に訴えることにより更に興味を増す入学予定の受講生。



秋学期授業公開

理学療法での手技指導。試行錯誤の過程で実技に自信をつけさせる。



秋学期授業公開

学生の受講意欲を促すための e-Learning の活用。



目 次

はじめに しなやかなFDのために／FD効果の測定	教授法開発室長 達富 洋二	
英語基礎力調査	教授法開発室員 持留 浩二	1
基礎学力調査の結果と今後の指針	教授法開発室員 近藤 敏夫	45
授業アンケート	教授法開発室員 小林 隆	53
授業公開	教授法開発室員 藤松 素子	97
e－Learning システム使用状況と今後の展開	教授法開発室員 有田 和臣	101
入学前教育	教授法開発室員 榎本 福寿	113
FD 研究会 実施報告		
第 1 回 (初年次教育)	教授法開発室長 達富 洋二	185
第 2 回 (授業アンケート)	教授法開発室員 小林 隆	187
第 3 回 (授業公開)	教授法開発室員 藤松 素子	189
第 4 回 (英語基礎力調査)	教授法開発室員 持留 浩二	192
第 5 回 (e－Learning)	教授法開発室員 有田 和臣	194
第 14 回 FD フォーラム参加報告		
〔(財) 大学コンソーシアム京都主催〕 (教授法開発室員 小林 隆・有田 和臣・近藤 敏夫・持留 浩二)		197
2008 年度の回顧と 2009 年度の展望	教学部長 八木 透	209
活動記録		211
教授法開発室		213

FD Review

FD Review

はじめに

はじめに

しなやかな FD のために / FD 効果の測定

教授法開発室長 達 富 洋 二

本学の FD は新しい局面を迎えようとしている。英語基礎力試験、基礎学力試験、授業アンケート、授業公開、e-Learning、入学前教育など、その取り組みは定着した。それぞれの取り組みの大いなる成果と今後に向けた具体的な課題は、本誌のそれぞれの章に詳細に記述されているとおりである。

また、2007 年度からはそれぞれの取り組みごとに FD 研究会を設定し、成果と課題について詳細な議論を行った。これらの取り組みは学内でも周知されている。

初等教育や中等教育と同様、高等教育においても学習者がかわれば、教授法の見直しは不可欠である。受け継がなければならぬものと、柔軟かく改善を図らなければならぬものが存在する。大学全入時代である。教授法に対する考え方にはしなやかさが必要であろう。FD も同様である。しなやかさをもった考え方が FD には必要であると考えられる。そのためにも、FD 効果の測定が求められる。

本学「教授法開発室」は、2008 年度、15 回の室会議及び 5 回の FD 研究会を開催してきた。回数がそのまま評価の規準と重なるものではないが、「教授法開発室」の軌跡には、継続してきた成果を具体的にみることができる。この点は自負するところでもある。一方で課題も明らかになってきている。それが、先にも述べた FD の見直しである。

端的に言えば FD 効果の測定である。これまで、ともすれば教員の教授法としての FD であり、そこに学生を参画させようとする考えが基本であった。誰もが、カリキュラムの改革や、あるいは大学の入口から出口までをデザインする学修プランに結びつけることの魅力に必要性を感じながらも、そこまでを FD の範囲としてとらえることは少なかったかもしれない。

FD 効果の測定は測定することだけが目的ではない。測定の結果はこのようなカリキュラムや学修プラン改善の根拠となるものであろうし、あるべき高等教育機関の姿へのいざないにもなるものであろう。

本誌「授業公開」の章で、藤松室員が以下のように述べている。

今年度、授業公開を担当した筆者の個人的見解としては、やはり、従来型の授業公開の方法は検討を有すると考えている。日々、自己の授業改善にたゆまぬ努力をしている教員の授業を参観し、そこから多くを学び、他方で提供した教員もまたその中から課題を発見し、さらなる努力へとつなげていける。そのことは、とても大切な営みである。しかしながら、先に述べたとおり、現状の環境においてはこうした相互のやり取りは、正規の授業時間内に自然に行える交流であるとはいえないのが現状である。むしろ、教員の研修プログラムとして組み込み、だれもが参加できる

条件を整え、全学的に取り組むことを可能とする運営に切り替えていくことが必要な時期なのではないであろうか。また、一足飛びに教職員が一堂に会すことを前提に考えずとも、学部・学科単位で試験的に取り組みはじめ、課題を共有する中で最も効果的な内容・方法・時期において全学的に実施するという段階を設定することも一考に値するのではないかと考えている。

また、近藤室員は「基礎学力調査」の章で以下のように述べている。

2009年度は基礎学力調査の結果を初年次教育・導入教育等のカリキュラムに生かすことを念頭におき、新たな調査を実施することになった。(略)1回生の「日本語文章表現：等のカリキュラムに反映することを検討している。

いずれも、個々のFDメニューが、カリキュラムや学修プラン改善と一体化していくための提案である。まさにしなやかなFDに向かう兆しと感じられる。

本学のこの10年間のFDには確たる軌跡がある。教授法開発室を開設し、FD活動を大学が組織的に行うことの重要性をうたった2000年度。本学固有のFDの模索を図った2002年度。以降、教授法開発という潜在的な課題を抱えている領域であるFDのあり方と方法を検討し、大学コンソーシアム京都とも関連しながら1-supportシステムや授業評価アンケートの見直し、さらには、学生への学習支援や学生からの「異議申し立て」の制度化の検討、教育支援のあり方について、詳細に検討を重ねた経緯がある。最近の2年間は、組織的なFD活動の具現化に向けた取り組みの展開を図ってきた。2009年度に向け、これまでの軌跡に立脚した展開を図るとともに、その効果の測定にも着眼し、しなやかなFDへの展開を期待したい。

FD Review

英語基礎力調查

英語基礎力調査

教授法開発室員 持 留 浩 二

1. はじめに

佛教大学ではカリキュラム改革が実施された2004年度より、全新1回生を対象にして、入学時と1回生終了時にTOEIC Bridge IPテストを使用した英語基礎力調査を実施している。この調査は本学における英語教育プログラムをより効果的なものへと改善させていく上で大きな役割を果たしている。

現在のカリキュラムにおいて全学共通科目・必修外国語「英語」（文学部のみ選択必修）で習熟度別クラスを編成しているが、これはこの調査結果をもとになされている。1回生では「Basic Reading」、「Basic Listening」、「Basic Communication」の3科目が必修となっており、受講生は春、秋学期にそれぞれの授業を同じ指定クラスで受講することになる。2回生では「Intermediate Communication」を1回生終了時の調査結果をもとに指定されたクラスで受講することになっている。

ここでは、2008年度の英語基礎力調査結果を紹介するとともに、2004年度からの調査結果と比較し新1回生の英語力がどのように変化してきているのか、また各学部、学科別の調査結果及び一年間の学修後の学力の変化を見ながら本学における今後の英語教育の課題を考えてみたい。

英語基礎力調査の結果の分析は佛教大学の学生の英語力の変化を知る上で重要なものであるが、その結果は学生の英語力のみを明らかにするにとどまらず、学生の一般的な学力を知る手掛かりにもなる。例えば、学科別に学生の英語力を高い方から順に並べていくと、見事に学科の入学難易度の順になっている。つまり学生の英語力は、ある程度その学生の全体的な学力を示す指標ともなっている。それだけに毎年の学生の英語力の推移を分析することは、学生の全体的な学力の現状を知る上でも重要であるといえる。

2. TOEIC Bridge TEST IP について

TOEIC Bridge とは TOEIC の特長を備えつつ初・中級レベルの英語能力測定に照準を合わせて設計されたテストで、テスト時間と問題数は TOEIC テストの半分に設計されている。問題はリスニングセクション（25分間・50問）と、リーディングセクション（35分間・50問）からなっており、スコアはリスニング10点～90点、リーディング10点～90点、トータル20点～180点の2点刻みで表示される。TOEIC テストよりも日常的で身近なコミュニケーション場面や素材をテスト問題に採用しており、リスニングセクションの出題スピードは TOEIC テストより遅く、ネイティブスピーカーが「注意深く」話す際のスピードとなっている。また、TOEIC Bridge では、各セクションスコア、トータル

スコアの他に5分野3段階のサブスコアが表示される。IP TESTとはTOEIC運営委員会が実施する公開テストではなく、実施団体が独自に運営・管理する団体特別受験制度のことである。

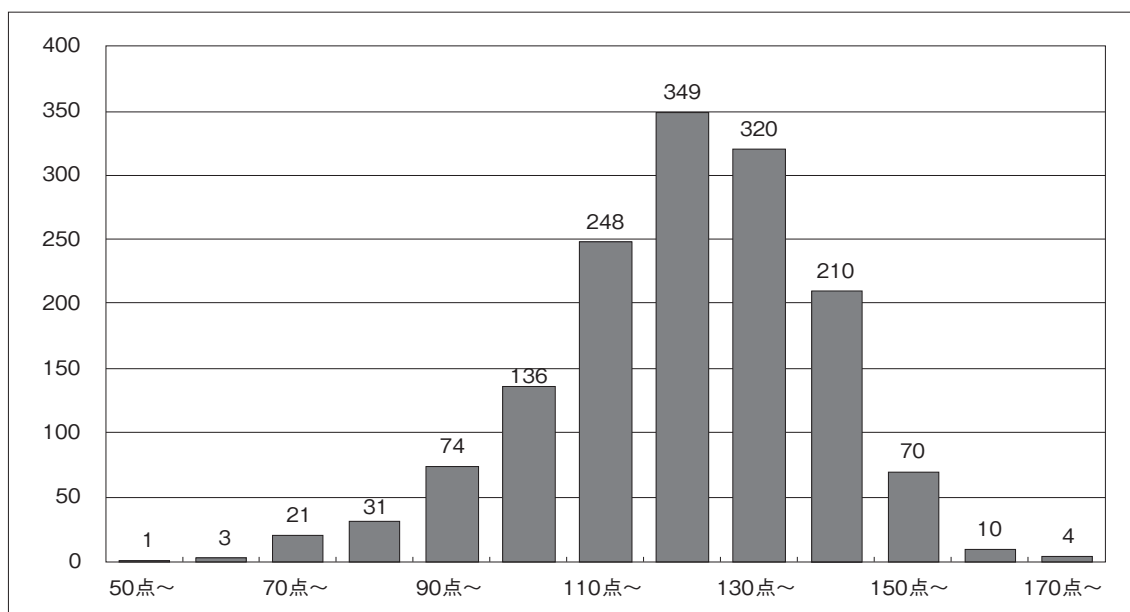
TOEIC TESTとの相関性については、TOEIC運営委員会が以下の比較表を公開している。

TOEIC Bridge	90	100	110	120	130	140	150	160
TOEIC	230	260	280	310	345	395	470	570

3. 入学時のスコア

3.1 全体の傾向

		第1回				
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
Total	平均点	117.6	122.4	124.2	124.8	124.0
	標準偏差	18.2	17.5	17.5	18.5	17.6
	最高点	170.0	168.0	178.0	178.0	174.0
	最低点	62.0	38.0	66.0	60.0	58.0
Listening	平均点	56.8	58.6	59.6	60.4	60.1
	標準偏差	9.8	8.4	9.2	9.1	9.2
	最高点	86.0	88.0	90.0	90.0	90.0
	最低点	28.0	20.0	30.0	28.0	28.0
Reading	平均点	60.7	63.8	64.6	64.4	63.9
	標準偏差	10.7	11.0	10.0	11.3	10.2
	最高点	88.0	86.0	90.0	88.0	86.0
	最低点	30.0	12.0	24.0	26.0	24.0



入学時にスコアについて『FD Review Vol.3——2007年度の総括——』で紹介されたデータでは、調査が開始された2004年度以降で、2007年度が入学時のトータルスコアにおいて最も好成績だったことが指摘されている。2008年度の結果は上の表のようになっており、最も成績の良かった2007年度と比べると、リスニングは60.1点で前年度より0.3点の下降、リーディングは63.9点で0.5点の下降、トータルでは124点で0.8点の下降となっている。とはいうものの、ゆるやかな下降にすぎず、前年度の学生よりは英語力が劣るものの、そのさらに前の2006年度とほぼ同じくらいの英語力をキープしていることが分かる。

3.2 学部学科の傾向

第1回学部スコア

第1回					
	文学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
受験者数	489	193	406	306	83
Total					
平均点	121.2	133.4	120.5	124.2	135.7
標準偏差	18.6	16.1	17.2	14.6	13.7
最高点	162.0	174.0	174.0	166.0	164.0
最低点	58.0	82.0	68.0	70.0	102.0
Listening					
平均点	58.9	64.4	58.4	60.1	65.2
標準偏差	9.6	8.8	8.9	8.2	8.1
最高点	82.0	88.0	90.0	84.0	84.0
最低点	28.0	40.0	36.0	34.0	44.0
Reading					
平均点	62.3	68.9	62.1	64.1	70.5
標準偏差	10.7	9.0	10.3	8.7	7.6
最高点	84.0	86.0	84.0	84.0	84.0
最低点	24.0	38.0	30.0	32.0	48.0

第1回学科スコア

第1回										
	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
受験者数	345	55	89	131	62	236	170	306	40	43
Total										
平均点	119.6	113.8	131.9	133.9	132.3	122.4	117.9	124.2	141.1	130.7
標準偏差	18.9	15.0	14.9	14.9	18.4	17.0	17.2	14.6	12.6	12.7
最高点	158.0	138.0	162.0	170.0	174.0	174.0	156.0	166.0	164.0	160.0
最低点	58.0	78.0	94.0	90.0	82.0	68.0	70.0	70.0	108.0	102.0
Listening										
平均点	58.1	55.5	64.2	64.6	64.0	59.1	57.4	60.1	67.5	63.1
標準偏差	9.6	8.7	8.1	8.3	9.8	8.8	9.0	8.2	7.8	7.9
最高点	80.0	70.0	82.0	86.0	88.0	90.0	80.0	84.0	84.0	84.0
最低点	28.0	36.0	50.0	40.0	40.0	38.0	36.0	34.0	54.0	44.0
Reading										
平均点	61.5	58.3	67.7	69.2	68.3	63.3	60.5	64.1	73.6	67.7
標準偏差	11.0	9.0	8.6	8.4	10.1	10.5	9.8	8.7	7.0	6.9
最高点	84.0	74.0	84.0	86.0	86.0	84.0	82.0	84.0	84.0	80.0
最低点	24.0	36.0	44.0	46.0	38.0	30.0	32.0	32.0	48.0	50.0

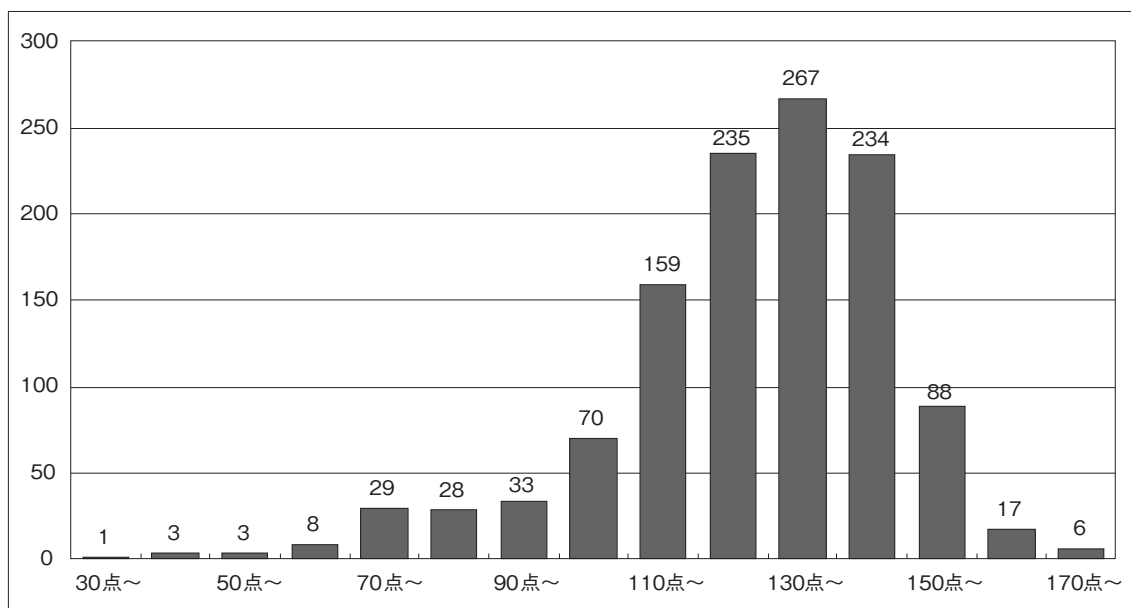
まず学部別のトータルスコアを見てみると、2007年度同様教育学部と保健医療技術学部が高いスコアを記録しており、この2学部が全体の平均スコアを大きく上回っている。続く社会福祉学部も実はわずかながら全体の平均スコアを上回っている。それに続いて、文学部、そして社会学部という順序でスコアは低下していくが、学部別平均スコアのこの順位は2007年度と変わっていない。全体的にリスニングよりリーディングの方が良いという傾向も調査が開始された2004年度以降同じである。2007年度との比較で言うと、一つ気になるのが、教育学部と保健医療技術学部という上位の学部の平均スコアが2007年度より下落しているということである。教育学部が前年度136.2から133.4へ、保健医療技術学部が前年度137.8から135.7と落ちている。下位の学部の平均スコアはほとんど変わっていないので、2007年度と比べると、上位の学部と下位の学部の差が縮まった結果となっている。

学科別に見ると、理学療法学科が最も高く、それに続いて、教育学科、臨床心理学科、英米学科、作業療法学科、社会福祉学科と続き、そこまでが全体の平均スコアよりも高いスコアを記録している。前年度は臨床心理学科の方が教育学科よりも平均スコアが高かったのであるが、2008年度ではわずかながらその順位が逆転している。その差は無視できるくらいわずかなものなので、実際には前年度とほぼ同じ順位だと考えてよいだろう。

4. 1回生終了時のスコア

4.1 全体の傾向

		第2回				
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
Total	平均点	124.4	126.9	126.0	126.9	126.7
	標準偏差	20.6	18.8	22.5	19.7	20.2
	最高点	172.0	176.0	176.0	176.0	178.0
	最低点	26.0	46.0	36.0	22.0	30.0
Listening	平均点	61.6	61.6	62.4	62.8	64.1
	標準偏差	10.0	8.6	11.1	9.0	9.2
	最高点	86.0	86.0	86.0	88.0	88.0
	最低点	14.0	28.0	20.0	10.0	12.0
Reading	平均点	62.8	65.3	63.6	64.1	62.6
	標準偏差	12.1	11.7	12.7	12.3	12.2
	最高点	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0
	最低点	12.0	18.0	14.0	12.0	14.0



今回の1回生終了時のスコアで一つ珍しい現象が起きている。リスニングとリーディングそれぞれのスコアに注意してもらいたい。毎年の傾向として、入学時においても終了時においても、リスニングよりリーディングの方が高いスコアを示していたのであるが、今回の終了時のスコアはリーディングよりもリスニングの方が高くなっている。何がその原因なのかははっきりしないが、毎年の傾向として一年間の学習を経てリスニング力がアップしリーディング力がダウンするという傾向があるのだが、その傾向が2008年度は一年のうちに急激に進んだのかもしれない。

また前年2007年度のトータルスコアは再び過去最も高かった2005年度のトータルスコアに並んだのであるが、今年度はわずかながらそのスコアには及ばなかった。入学時においても過去最高とは行かなかったが、終了時においても同じように過去最高の成績とはいかなかった。毎年少しずつでも過去最高スコアを更新してもらえれば理想であるが、毎年そううまくいくわけもない。とはいうものの、過去三年間の平均スコアと比較しても良いスコアを示しているわけで、終了時のスコアとしては良いスコアが出たと言える。

4.2 学部学科の傾向

第2回学部別スコア

第2回					
	文学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
受験者数	286	176	359	282	78
Total					
平均点	128.2	132.4	121.0	126.4	136.5
標準偏差	20.8	20.2	21.9	15.7	15.8
最高点	164.0	178.0	178.0	166.0	168.0
最低点	54.0	48.0	30.0	52.0	96.0
Listening					
平均点	64.9	66.7	61.4	64.0	68.1
標準偏差	8.9	8.7	10.4	7.6	7.7
最高点	84.0	88.0	88.0	84.0	86.0
最低点	40.0	28.0	12.0	18.0	50.0
Reading					
平均点	63.2	65.7	59.6	62.3	68.4
標準偏差	13.1	12.9	12.7	9.6	9.4
最高点	90.0	90.0	90.0	84.0	84.0
最低点	14.0	20.0	18.0	24.0	44.0

第2回学科別スコア

第2回										
	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
受験者数	209	0	77	118	58	214	145	282	39	39
Total										
平均点	123.9		139.7	131.4	134.3	122.0	119.5	126.4	142.6	130.3
標準偏差	21.3		13.7	20.7	18.9	23.8	18.6	15.7	14.7	14.5
最高点	160.0		164.0	172.0	178.0	178.0	158.0	166.0	166.0	168.0
最低点	54.0		110.0	48.0	76.0	30.0	66.0	52.0	110.0	96.0
Listening										
平均点	62.8		70.7	66.4	67.2	61.6	61.1	64.0	71.1	65.1
標準偏差	8.7		6.2	9.1	7.9	11.5	8.6	7.6	7.2	7.0
最高点	84.0		84.0	84.0	88.0	88.0	84.0	84.0	84.0	86.0
最低点	40.0		56.0	28.0	48.0	12.0	32.0	18.0	54.0	50.0
Reading										
平均点	61.1		69.0	64.9	67.1	60.4	58.4	62.3	71.5	65.2
標準偏差	13.7		9.0	13.2	12.0	13.3	11.5	9.6	8.8	8.9
最高点	84.0		90.0	90.0	90.0	90.0	80.0	84.0	84.0	82.0
最低点	14.0		50.0	20.0	28.0	18.0	30.0	24.0	50.0	44.0

今回の終了時スコアでは、保健医療技術学部で興味深い現象がみられる。例年の保健医療技術学部は、一年間の学修を経て、全学部の中で最も大きなスコアの下落を示していたのであるが、今回の調査ではそうはなっていない。後で触れるが、実はプラスの成長へと変化しているのである。これは今まで見られなかった大きな変化である。

前年度の、入学時、終了時のデータを簡単に総括すると、入学時に高いスコアを示していた学部、学科は終了時に若干スコアが下落し、逆に入学時に低いスコアの学部、学科は終了時に若干スコアが上昇し、結果としては、一年間でスコアの高い学部、学科と低い学部、学科の差が縮小するという大まかな傾向が見られた（英米学科は除く）。しかし今回のデータを見ると、入学時において同じスコアが高かった教育学部と保健医療技術学部の2学部で、終了後のスコアに大きな差ができてきているのである。なぜそうなったのかは正直分からない。今後のさらなる多面的な分析をする必要があるだろう。

さて、今回の終了時スコアを学部別に見てみると、多くの学部で前年度の終了時スコアよりも良い成績を取れていることが分かる。社会学部ではほぼ前年度と同じであったが、文学部、社会福祉学部、保健医療技術学部ではそれぞれ前年度より2～3点の上昇となっている。唯一足を引っ張っているのが教育学部で、前年度の終了時スコアよりも4.5点のマイナスとなっているが、もう少し良い成績が出せていれば、終了時において全体の過去最高スコアが出ていたかもしれない。これによって前年度とは学部別スコアの順位が変わっている。前年度は、教育、保健医療、文、社会福祉、社会という順位だったが、上位2学部が入れ替わり、2008年度は、保健医療、教育、文、社会福祉、社会という順位になっている。

次に学科別のスコアだが、前年度の終了時スコアと比較すると、教育学科で-4.7点、臨床心理学科で-4.4点の大幅な下落が見られる。他方、理学療法学科では+3.8点、作業療法学科でも+3.6点の大幅な上昇がみられ、社会福祉学科でも小幅ながら+1.8点の上昇がみられる。その他の学科では前年度とそれほど変わってはいない。

学科別順位を見てみると、ここ数年トップを飾っていた英米学科の順位が2位に後退してしまっている。代わりに1位を飾ったのが理学療法学科である。前年度の終了時スコアと比べ3.8点のプラスを記録した理学療法学科に対し、英米学科のスコアは前年度とほぼ同じであった結果である。理学療法、英米に続いて、臨床、教育、作業という順位になるが、ここまでが平均スコア以上の学科ということになる。さらに続いて、社会福祉、人文、現代社会、公共政策という順位になる。人文と現代社会の順位を除き、この順位は前年度とほぼ同じである。2008年度では人文が現代社会を抜いている。

5. スコアの伸び

5.1 全体の傾向

		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
Total	第1回	117.6	122.4	124.2	124.8	124.0
	第2回	124.4	126.9	126.0	126.9	126.7
	伸び	6.8	4.5	1.8	2.1	2.7
Listening	第1回	56.8	58.6	59.6	60.4	60.1
	第2回	61.6	61.6	62.4	62.8	64.1
	伸び	4.8	3.0	2.8	2.4	4.0
Reading	第1回	60.7	63.8	64.6	64.4	63.9
	第2回	62.8	65.3	63.6	64.1	62.6
	伸び	2.1	1.5	-1.0	-0.3	-1.3

スコアの伸び悩み、リーディングセクションのスコア低下というここ数年の傾向は2008年度にも引き継がれている。とはいうものの、入学時スコアが124点台という比較的高いスコアを記録した2006年度以降では、1.8、2.1、2.7というように、小幅ながらも伸びの幅が着実に増加しているのはいい傾向である。この幅を今後とも少しずつ増加させることにより、佛教大学における英語教育の意義が見出されることだろう。

5.2 学部学科の傾向

学部

	全体	文学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
Total	2.7	7.0	-1.0	0.5	2.1	0.7
Listening	4.0	6.1	2.2	3.0	3.9	2.9
Reading	-1.3	0.9	-3.3	-2.5	-1.8	-2.2

学科

	全体	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
Total	2.7	4.3		7.8	-2.5	2.0	-0.3	1.6	2.1	1.5	-0.4
Listening	4.0	4.7		6.5	1.8	3.1	2.6	3.7	3.9	3.6	2.0
Reading	-1.3	-0.4		1.3	-4.3	-1.2	-2.9	-2.1	-1.8	-2.1	-2.4

学部別にトータルスコアの伸びを見てみると、今回は教育学部以外の全学部でスコアの上昇が見られた。前年度は保健医療技術学部のみでマイナス成長が見られたのであるが、今回の保健医療技術学部は前年度の-4.2点から大きく好転して+0.7点という伸びとなっている。文学部でも前年度+4.7点であったが、今回は+7.0点という大きな伸びを記録している。人文学科がかなり健闘したためである。それに比べ教育学部では大きく伸びが下落してしまっている。前年度のレビューで触れているが、2006年度では+4.3という伸びを示していた教育学部が2007年度には+0.8となり、今回はとうとう-1.0点という結果にまで落ち込んでしまっている。

次に学科別に伸びを見てみると、それぞれの学科によってさまざまな結果が出ているのがよく分かる。まず一番の伸び率を示しているのは+7.8点の英米学科であるが、これは例年の傾向どおりである。次に大きな伸びを示しているのは人文学科で、+4.3点となっている。前年度の+2.9点からさらに前進しておりよく健闘したといえる。公共政策学科、社会福祉学科でも伸び率は小幅ながらアップしている。公共政策学科は前年度+1.0から+1.6へ、社会福祉学科では前年度+1.3から+2.1へ伸び率のアップが見られる。

しかしなんといっても今年度大きく前進したのが保健医療技術学部の二学科、理学療法学科と作業療法学科である。理学療法学科では、前年度-3.6から今年度は+1.5、作業療法学科では、前年度-5.5から今年度は-0.4という伸び率へかなりの改善を見せた。この二学科が見せたスコアの伸びの改善が今回の英語基礎力調査の結果における最も特筆すべきデータであるが、その変化の原因はまだ今のところよく分からない。今後のさらなる調査が必要となってくるであろう。

その一方で教育学部における伸びの低下、前年度のプラスマイナスゼロという伸びから

今回は -2.5 点というマイナスの伸びへの低下は少々深刻かもしれない。今回の調査で伸びの低下を示したのは、教育学科、現代社会学科、作業療法学科の三学科であるが、現代社会学科の -0.3（前年度は +1.8）、作業療法学科の -0.4（前年度は -5.5）に対し、教育学科の -2.5（前年度はプラスマイナスゼロ）のマイナスの度合いは際立っているからである。

6. TOEIC Bridge 150 点以上

6.1 全体の傾向

	2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
150点以上	52	111	51	92	93	122	101	95	84	111
割合	3.5%	9.2%	3.6%	8.5%	6.1%	10.2%	6.9%	8.2%	5.7%	9.4%
受験者数	1469	1211	1424	1085	1526	1191	1471	1155	1477	1181
平均点	117.6	124.4	122.4	126.9	124.2	126	124.8	126.9	124	126.7

本学の英語プログラムの教学目標は、2年間の学修で TOEIC 500 点に到達することである。前に示した TOEIC と TOEIC Bridge の比較表を見ると、TOEIC Bridge の 150 点が TOEIC470 点に相当するので、そのスコアを超える人数を集計したのが上の表である。2008 年度について言うと、入学時では人数においても割合においてもここ三年で一番悪い数字となっている。しかし 1 回生終了時では 150 点以上を取った受験者数の割合は全体の 9.4% となり、全体の英語力が比較的高かった前年度の 8.2% よりも良い数字となっている。前年度に比べると、2008 年度は高得点取得者の割合は順調に増加していると言える。

6.2 学部学科別の傾向

学部

	文学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
第 1 回	26	28	14	5	11
84 人中	31.0%	33.3%	16.7%	6.0%	13.1%
第 2 回	36	24	25	9	17
111 人中	32.4%	25.3%	26.3%	9.5%	17.9%

学科

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
第 1 回	14	0	12	18	10	10	4	5	9	2
84 人中	16.7%	0.0%	14.3%	21.4%	11.9%	11.9%	4.8%	6.0%	10.7%	2.4%
第 2 回	14		22	15	9	17	8	9	13	4
111 人中	12.6%		23.2%	15.8%	9.5%	17.9%	8.4%	9.5%	13.7%	4.2%

学部別に見ると、今回は教育学部以外の学部で人数の増加が見られた。ここにも今回の教育学部の不振がよく表れている。

学科別に見ると、やはり教育学科、臨床心理学科で人数の減少がみられる。英米学科でかなりの増加が見られるのは例年の傾向であるが、今回現代社会学科でかなりの増加が見られたことは注目すべき事実である。現代社会学科の学科全体の伸びがマイナスだったことを考えあわせると、成績上位者と成績下位者の差が随分開いてしまっているのかもしれない。

英米学科で毎年英語力がアップする理由は、当然のことながら履修科目のほとんどが英語に関する科目だからであろう。ここでもやはり英語学習には時間がかかるし、また時間をかけるしか英語力を上げる方法はないという当たり前の事実を思い起こさせられる。全体的に学生の英語力を上げるには、いかにして多くの時間を英語に触れさせるかということを考える必要がある。

7. サブスコア

TOEIC Bridge は受験者の英語能力向上に役立てるため 5 分野 3 段階の診断情報をサブスコアとしてフィードバックしている。リスニング、リーディング、トータルスコアの他に下記の 5 つのカテゴリーごとに 1～3 の評価が提示されるが、各カテゴリーの数値が高いほど他の受験者に比べて評価が高いことを意味している。各カテゴリーは次の通りである。

Listening Strategies

(聞く技術)

英語を聞いて、必要な情報を聞き取る、話の要旨をつかむ、内容を推測する、アクセント・発音・時制などを正しく聞き分けることができる。

Functions

(言葉のはたらき)

どのような目的と意図（例：何かの申し出・要求・時間を伝える・指示・情報収集など）で英語が使用されているのかを理解できる。

Reading Strategies

(読む技術)

英語を読んで、必要な情報を読み取る、さっと読んで意味をつかむ、話の要旨を見極める、内容を推測する、文章内の構造が理解できる。

Vocabulary

(語彙)

日常生活、嗜好、趣味、娯楽、旅行、健康、簡単な商取引などに関する単語や語句、及び文脈における意味を把握できる。

Grammar

(文法)

文法を理解し、用法も把握している。

2008年度のサブスコアとその伸び

		Listening Strategies	Functions	Reading Strategies	Vocabulary	Grammar
第1回	平均	1.68	1.55	1.78	2.03	1.95
	標準偏差	0.61	0.58	0.62	0.58	0.60
第2回	平均	1.98	1.91	2.25	2.31	2.08
	標準偏差	0.66	0.55	0.68	0.66	0.67
伸び		0.31	0.37	0.47	0.29	0.14

今回のサブスコアの数値は興味深い。全てのカテゴリーにおいて満遍なくスキルは向上している。前年度であれば、VocabularyとGrammarにおいて学力の低下が見られたのであるが、今回はそのあたりの学力がアップに転じている。バランス良く英語力が身につけているようだ。

8. 英語基礎力調査アンケート

一年に二回1回生対象に英語基礎力調査を行なう際、同時に英語学習に関するアンケートを行なっている。詳しいアンケート結果については、学科別、あるいは得点別に集計されたものを掲載しているので見てもらいたい。

英語の教員には二つの果たすべき目的があると私は考えている。学生の英語力を向上させることと学生の英語学習へのモチベーションを上げることである。英語基礎力調査の結果からは、学生の英語力の変化は見る事が出来るが、モチベーションの変化は見る事は出来ない。モチベーションが大切な理由は、学生の英語力を上げるためには、授業時間内だけの学習だけでは不十分なので授業時間外にも学生に学習をさせる必要があるのだが、そのためには学習への強い動機付けが必要になってくるからだ。

今回の英語基礎力調査アンケート結果の中から、学生のモチベーションの変化、つまり情意的変化に注目してみたい。「あなたは英語力を伸ばしたいですか」という質問項目があり、学生による入学時と1回生終了時の回答数が出ている。学科ごとに入学時と1回生終了時それぞれの数及びをパーセンテージで表すと以下の表になる。

入学時

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたとも思わない	合計
人文	88	71	155	9	20	343
	26%	21%	45%	3%	6%	100%
英米	62	20	6	0	0	88
	70%	23%	7%	0%	0%	100%
教育	42	40	48	1	0	131
	32%	31%	37%	1%	0%	100%
臨床	22	19	20	0	0	61
	36%	31%	33%	0%	0%	100%
現社	69	61	92	6	7	235
	29%	26%	39%	3%	3%	100%
公共	46	47	67	2	7	169
	27%	28%	40%	1%	4%	100%
福祉	57	90	142	10	6	305
	19%	30%	47%	3%	2%	100%
理学	15	10	14	1	0	40
	38%	25%	35%	3%	0%	100%
作業	9	10	21	1	2	43
	21%	23%	49%	2%	5%	100%
合計	410	368	565	30	42	1415
	29%	26%	40%	2%	3%	100%

1 回生終了時

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたとも思わない	合計
人文	63	38	87	3	11	202
	31%	19%	43%	1%	5%	100%
英米	53	17	2	0	1	73
	73%	23%	3%	0%	1%	100%
教育	38	31	32	6	4	111
	34%	28%	29%	5%	4%	100%
臨床	15	15	24	1	2	57
	26%	26%	42%	2%	4%	100%
現社	51	43	95	9	11	209
	24%	21%	45%	4%	5%	100%
公共	41	34	51	7	9	142
	29%	24%	36%	5%	6%	100%
福祉	53	55	129	19	25	281
	19%	20%	46%	7%	9%	100%
理学	8	16	13	1	1	39
	21%	41%	33%	3%	3%	100%
作業	9	4	20	2	3	38
	24%	11%	53%	5%	8%	100%
合計	331	253	453	48	67	1152
	29%	22%	39%	4%	6%	100%

全体の結果を見ると、入学時は、「もっと伸ばしたい」29%、「伸ばしたい」26%、「できるなら伸ばしたい」40%、「その必要はない」2%、「満足ではないが伸ばしたいとも思わない」3%となっている。続いて1回生終了時は、「もっと伸ばしたい」29%、「伸ばしたい」22%、「できるなら伸ばしたい」39%、「その必要はない」4%、「満足ではないが伸ばしたいとも思わない」6%となっている。全体的に見ると、一年間の学修を通してモチベーションはやや下降しているが、これらの数値は前年2007年度とほぼ同じ値である。ただこの数字だけではよく分からないので、入学時と1回生終了時の数値の変化を表にしてみた。それが以下の表である。

「あなたは英語力を伸ばしたいですか」への回答数の変化

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたとも思わない
人文	6%	-2%	-2%	-1%	0%
英米	2%	1%	-4%	0%	1%
教育	2%	-3%	-8%	5%	4%
臨床	-10%	-5%	9%	2%	4%
現社	-5%	-5%	6%	2%	2%
公共	2%	-4%	-4%	4%	2%
福祉	0%	-10%	-1%	3%	7%
理学	-17%	16%	-2%	0%	3%
作業	3%	-13%	4%	3%	3%
合計	0%	-4%	-1%	2%	3%

前年度のレビューでこれと同じデータを紹介し、モチベーションの低下が激しい学科において学力低下が見られることを指摘した。しかしながら今回のデータは一部その主張を裏切るような結果となっている。

まず前年度激しいモチベーションの低下を見せていた理学療法学科と作業療法学科で今回はそれほどの低下を見せていないことが上の表からわかる。前年度は「もっと伸ばしたい」と「伸ばしたい」の回答数の変化がそれぞれ、理学療法学科で-18%、-13%、作業療法学科で-11%、-11%であったのに対し、今回は理学療法学科で-17%、+16%、作業療法学科で+3%、-13%となっており、彼らの英語学習へのモチベーションに改善が見られる。それが保健医療技術学部の英語力改善につながっているのではと推測することも可能であるが、同じことが教育学科では全く当てはまらないこともこのデータから読み取れる。

前年度「もっと伸ばしたい」、「伸ばしたい」の数値が一年間で大きく低下した教育学科であるが（それぞれ-12%、-2%という低下を見せた）、今回のアンケート調査ではそれほどモチベーションの低下は見られない。モチベーション自体は前年よりも改善している。他学科と比べても特別低い数値というわけでもない。にもかかわらず前年よりも英語力の伸びが大きくマイナスとなってしまったわけである。

このアンケート項目では学生の英語学習への意識を明らかにするには不十分な点も多い。今後より詳細なアンケートを実施することにより、彼らの英語学習への意識を少しでも明らかにし、本学の英語教育に何が足りないのか、どうすればより効果的な英語教育が可能なのかについて答えを出すことができればと思っている。

9. おわりに

『FD Review Vol.3——2007年度の総括——』では、2007年度の英語基礎力調査の結果を受けて2007年度1回生の英語力の全体的な傾向は「伸び悩み」と総括されている。2008年度の結果を見ると、やはり同じような総括が出来るが、入学時スコアが良くなった2006年度以降、小幅ながらも徐々に一年間の学修を経て英語力が伸び続けていることは明るいニュースだと言える。

今回のデータで注目すべきは、ここ数年ずっとマイナスの伸びを見せていた保健医療技術学部でプラスの伸びを記録したことである。特に理学療法学科の結果は素晴らしく、入学時に続いて、1回生終了時にも一番良いスコアを出している。例年であれば、終了時に英米学科に抜かれるところを、今回2008年度は学科として英語力1位をキープした。

その一方で教育学科は全学科の中で唯一と言っていいほど悪い結果を残してしまった。実は前年度も教育学科の伸びはプラスマイナスゼロと芳しくなく、さらに同時に行われたアンケート調査の結果からモチベーションの低下が見られたので、前年度のレビューでは教育学科における英語の成績不振の背景にはモチベーションの低下があるのではと指摘したのであるが、今回のアンケート結果はその主張を覆すものとなっている。モチベーションはそれほど低下していないのだ。

保健医療技術学部と教育学部は両方とも入学時において高い英語力を持った学生が集まっている。今回の英語基礎力調査では、その片方がその後も良い成績をキープし続ける一方、もう片方はマイナスの伸びに甘んじたわけで、その差がどこに起因するのかを突き止めることが今後の課題である。

今後とも佛教大学におけるよりよい英語教育のために考察を続けていくつもりである。そのためには学力調査とともにアンケート調査で学生の英語学習への意識を明らかにする必要があると私は考えている。学力調査で英語力の実態やその変化を知る一方、アンケート調査で学生の英語学習や英語の授業への考えやニーズを知る必要がある。次年度は、もう少し明確な形で学生の英語学習への考えが分かるようアンケート項目に工夫を加えたものを実施するつもりである。今後ともより効果的な英語教育の姿を徐々に明らかにできるよう教授法開発室員と一緒にFD活動を続けていきたい。

英語基礎力調査 アンケート集計結果

英語基礎力調査アンケート（春学期分）

* 回答項目は最もあてはまるもの1つだけ選んでください。

【Ⅰ】あなたは英語が得意ですか。

- 0. 得意である
- 1. どちらかといえば得意である
- 2. あまり得意ではない
- 3. 苦手である

【Ⅱ】あなたは英語でコミュニケーションできますか

- 0. あらゆる状況において十分なコミュニケーションができる
- 1. 日常生活レベルである程度のコミュニケーションができる
- 2. 片言で話せる程度
- 3. 挨拶などの簡単な表現をしっている程度
- 4. 全く話せない

【Ⅲ】あなたは英語力を伸ばしたいですか。

- 0. もっと伸ばしたい
- 1. 伸ばしたい
- 2. できるなら伸ばしたい
- 3. その必要はない
- 4. 満足ではないが伸ばしたいとも思わない

【Ⅳ】自分が目標とする英語コミュニケーション能力はどの程度ですか。

- 0. あらゆる状況において十分なコミュニケーションができる
- 1. 仕事に支障のない程度にコミュニケーションができる
- 2. 日常生活に困らないくらいコミュニケーションができる
- 3. 片言で話せる程度
- 4. 話せなくてもよい

【Ⅴ】英語は必要だと思いますか

- 0. とても必要だ
- 1. 必要だ
- 2. やや必要だ
- 3. あまり必要でない
- 4. 必要でない
- 5. 全く必要でない

【Ⅵ】英語は何に役立つと思いますか。次のうちから1つだけ選択してください。

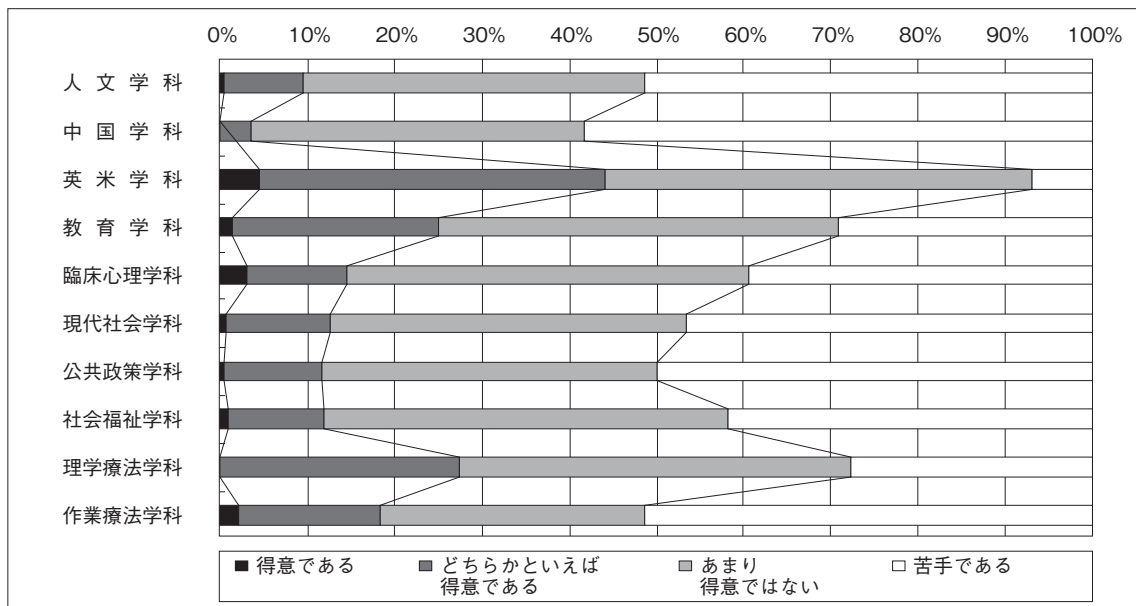
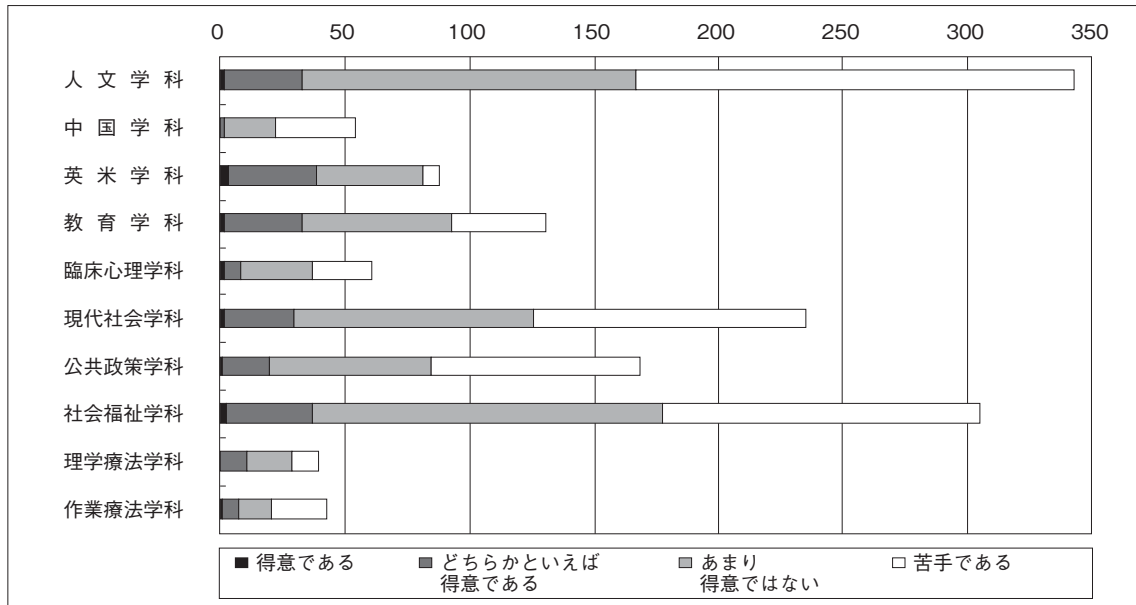
- 0. 学問
- 1. 進学
- 2. 留学
- 3. 就職
- 4. 公務員、教員採用試験
- 5. 国際交流・貢献
- 6. その他
- 7. 役立つとは思わない

※このアンケートに対する回答は、解答用紙の「属性欄」に記入してください。

2008 年度春学期 英語基礎力調査アンケート集計結果（学科別）

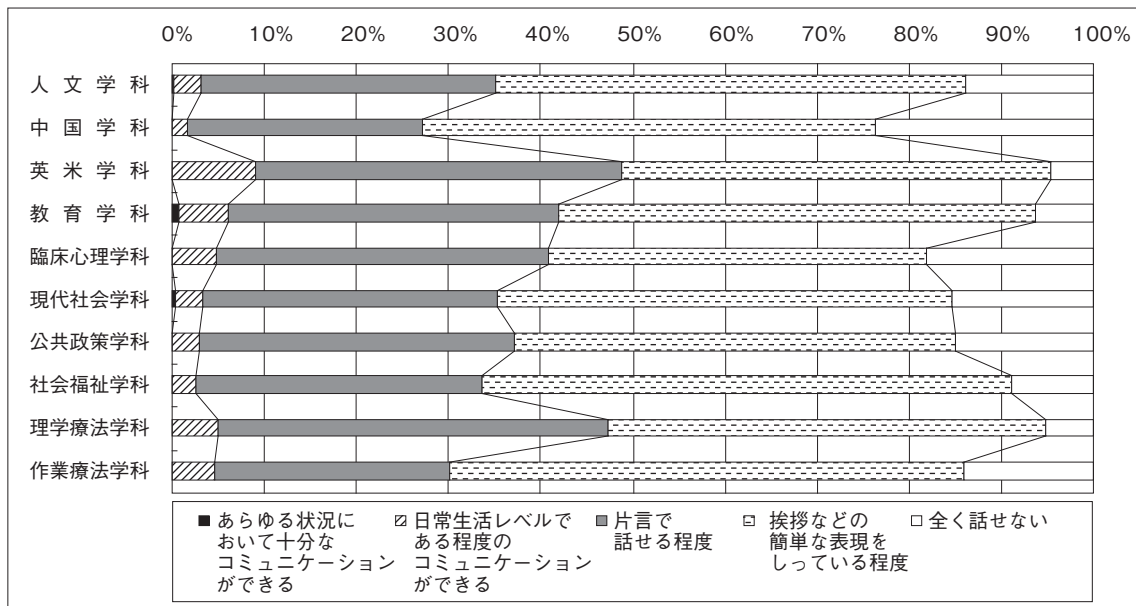
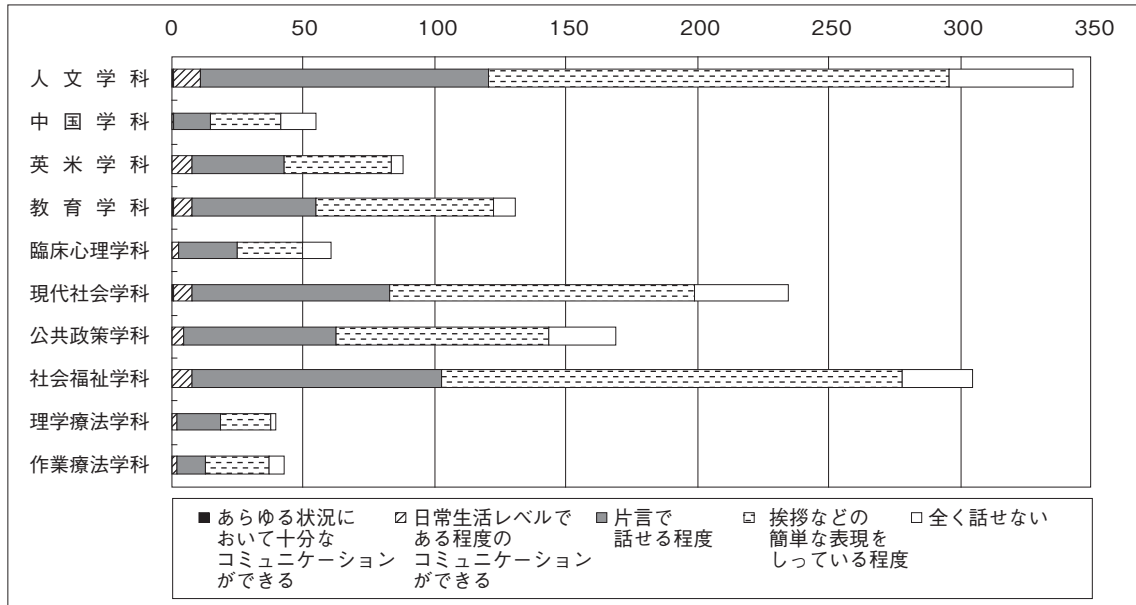
I あなたは英語が得意ですか

	得意である	どちらかといえば得意である	あまり得意ではない	苦手である	合計
人文学科	2	31	134	176	343
中国学科	0	2	21	32	55
英米学科	4	35	43	6	88
教育学科	2	31	60	38	131
臨床心理学科	2	7	28	24	61
現代社会学科	2	28	96	109	235
公共政策学科	1	19	65	84	169
社会福祉学科	3	34	141	127	305
理学療法学科	0	11	18	11	40
作業療法学科	1	7	13	22	43
合計	17	205	619	629	1470



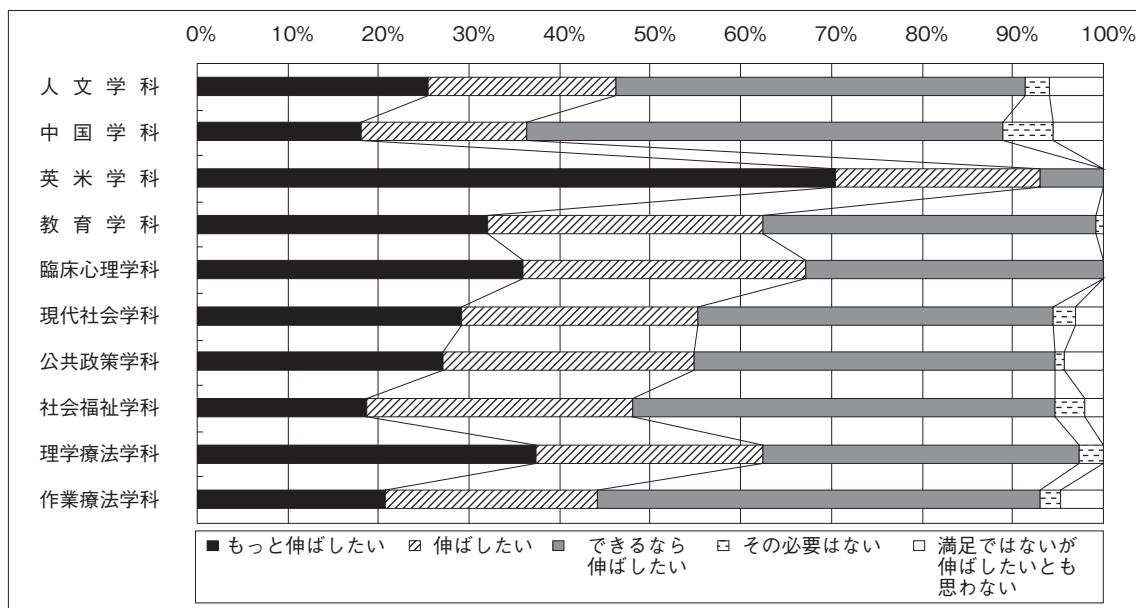
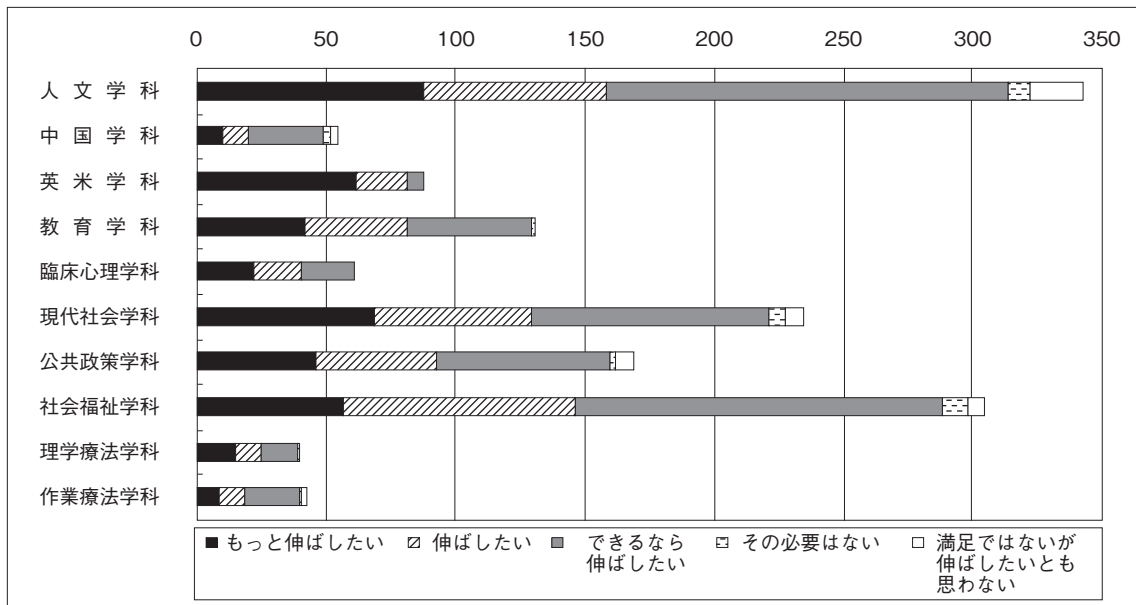
Ⅱ あなたは英語でコミュニケーションできますか

	あらゆる状況において十分なコミュニケーションができる	日常生活レベルである程度のコミュニケーションができる	片言で話せる程度	挨拶などの簡単な表現をしている程度	全く話せない	合計
人文学科	1	10	110	175	47	343
中国学科	0	1	14	27	13	55
英米学科	0	8	35	41	4	88
教育学科	1	7	47	68	8	131
臨床心理学科	0	3	22	25	11	61
現代社会学科	1	7	75	116	36	235
公共政策学科	0	5	58	81	25	169
社会福祉学科	0	8	95	175	27	305
理学療法学科	0	2	17	19	2	40
作業療法学科	0	2	11	24	6	43
合計	3	53	484	751	179	1470



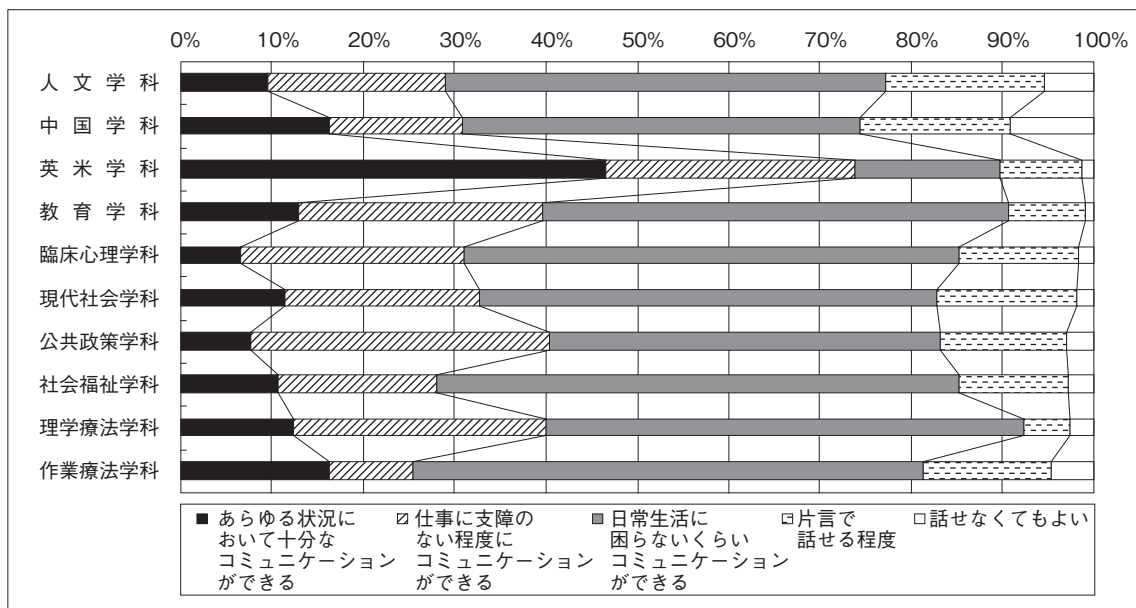
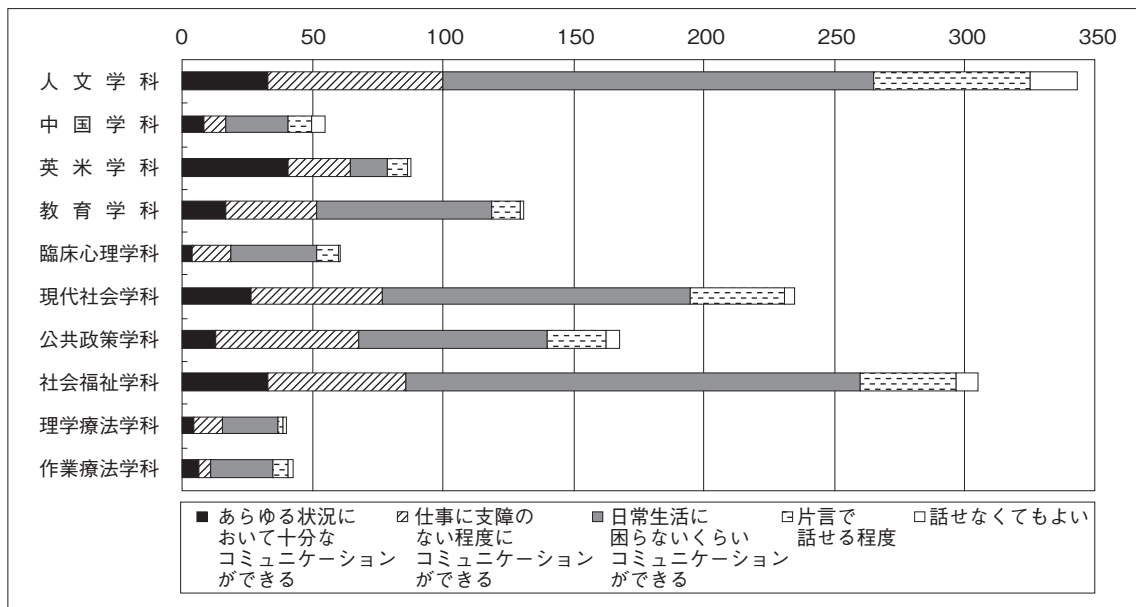
Ⅲあなたは英語力を伸ばしたいですか

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたいとも思わない	合計
人文学科	88	71	155	9	20	343
中国学科	10	10	29	3	3	55
英米学科	62	20	6	0	0	88
教育学科	42	40	48	1	0	131
臨床心理学科	22	19	20	0	0	61
現代社会学科	69	61	92	6	7	235
公共政策学科	46	47	67	2	7	169
社会福祉学科	57	90	142	10	6	305
理学療法学科	15	10	14	1	0	40
作業療法学科	9	10	21	1	2	43
合計	420	378	594	33	45	1470



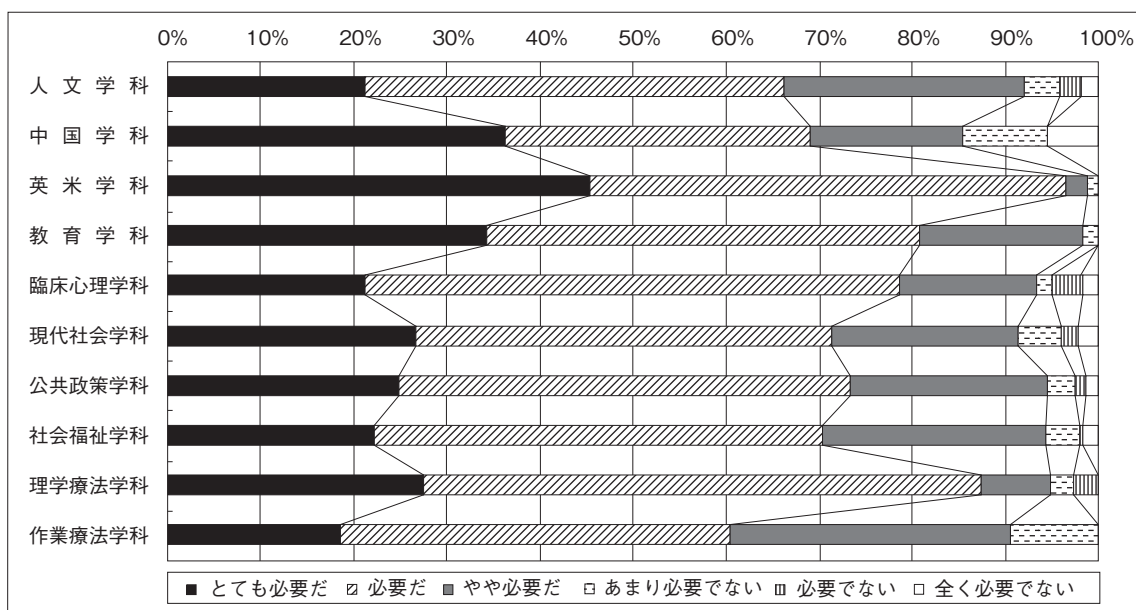
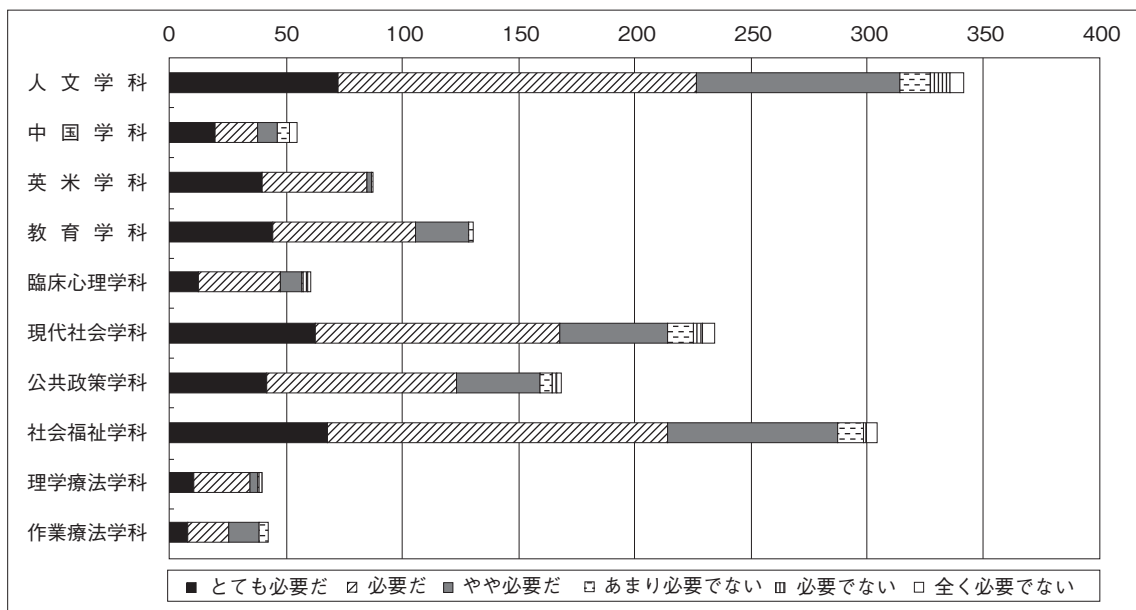
Ⅳ自分が目標とする英語コミュニケーション能力はどの程度ですか

	あらゆる状況において十分なコミュニケーションができる	仕事に支障のない程度にコミュニケーションができる	日常生活に困らないくらいコミュニケーションができる	片言で話せる程度	話せなくてもよい	合計
人文学科	33	67	165	60	18	343
中国学科	9	8	24	9	5	55
英米学科	41	24	14	8	1	88
教育学科	17	35	67	11	1	131
臨床心理学科	4	15	33	8	1	61
現代社会学科	27	50	118	36	4	235
公共政策学科	13	55	72	23	5	168
社会福祉学科	33	53	174	37	8	305
理学療法学科	5	11	21	2	1	40
作業療法学科	7	4	24	6	2	43
合計	189	322	712	200	46	1469



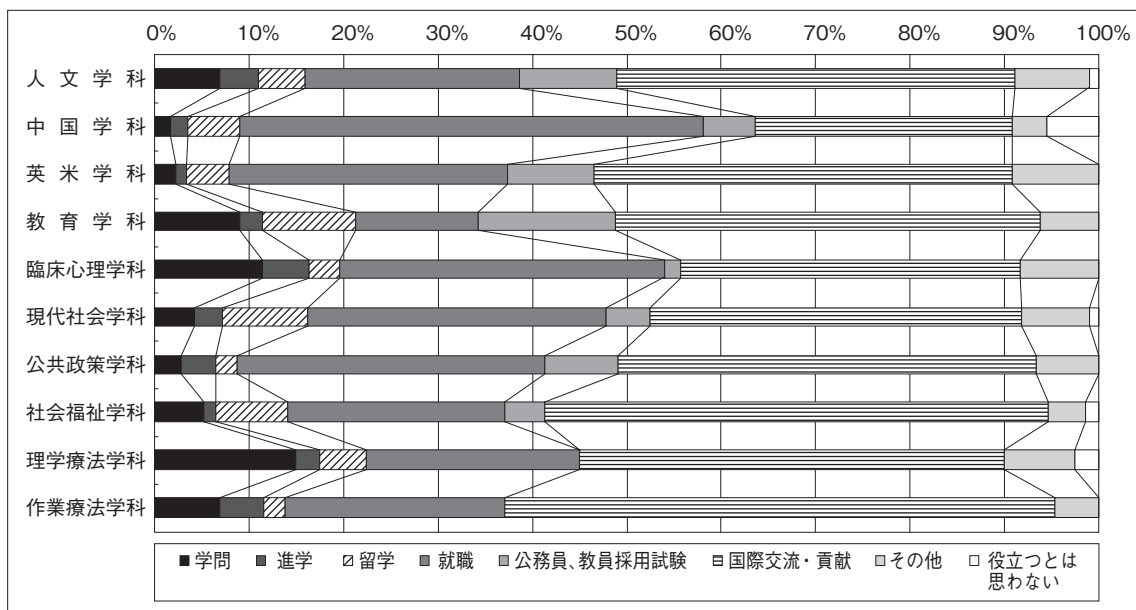
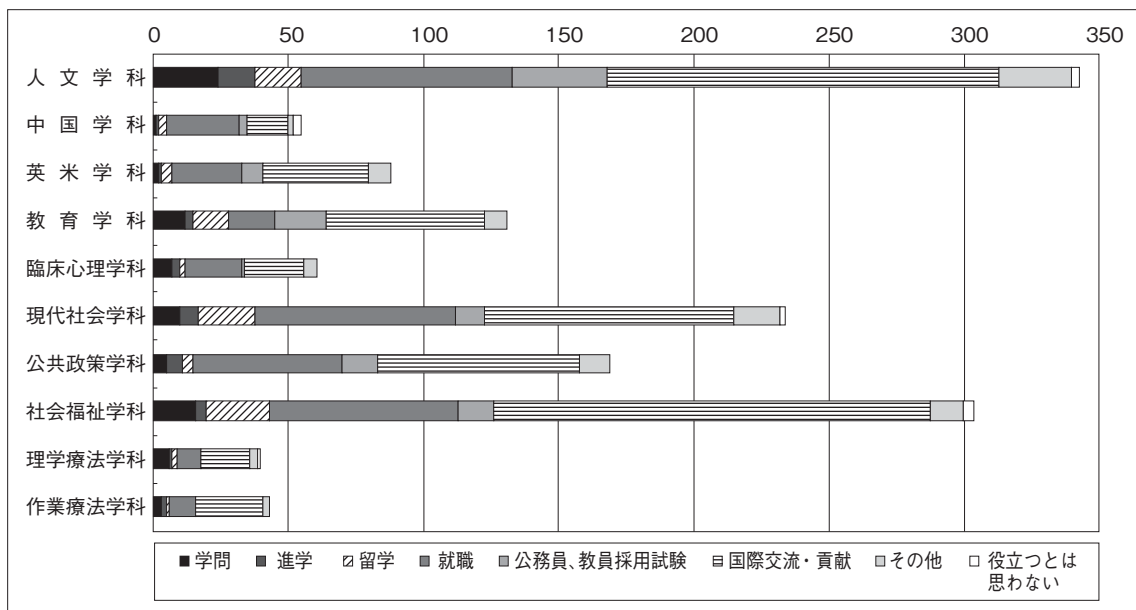
V英語は必要だと思いますか

	とても必要だ	必要だ	やや必要だ	あまり必要でない	必要でない	全く必要でない	合計
人文学科	73	154	88	13	8	6	342
中国学科	20	18	9	5	0	3	55
英米学科	40	45	2	1	0	0	88
教育学科	45	61	23	2	0	0	131
臨床心理学科	13	35	9	1	2	1	61
現代社会学科	63	105	47	11	4	5	235
公共政策学科	42	82	36	5	2	2	169
社会福祉学科	68	147	73	11	1	5	305
理学療法学科	11	24	3	1	1	0	40
作業療法学科	8	18	13	4	0	0	43
合計	383	689	303	54	18	22	1469



Ⅵ 英語は何に役立つと思いますか。次のうちから1つだけ選択してください

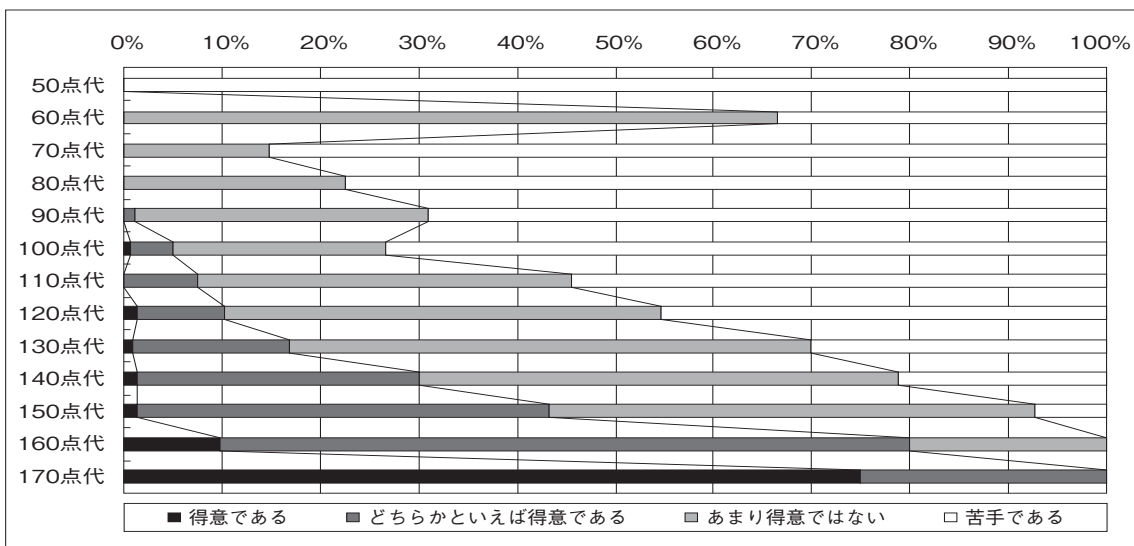
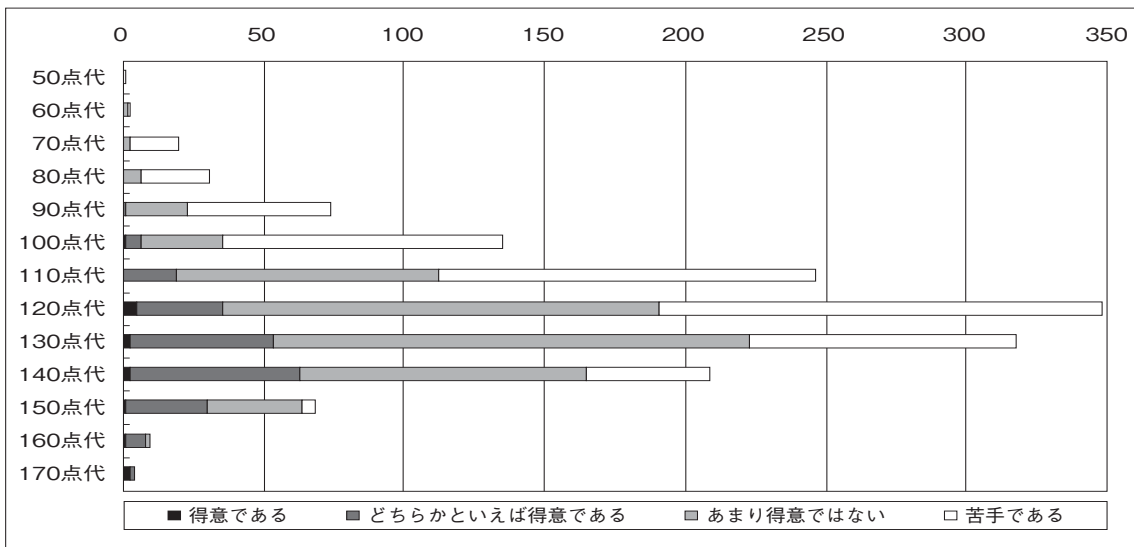
	学問	進学	留学	就職	公務員、教員採用試験	国際交流・貢献	その他	役立つとは思わない	合計
人文学科	24	14	17	78	35	145	27	3	343
中国学科	1	1	3	27	3	15	2	3	55
英米学科	2	1	4	26	8	39	8	0	88
教育学科	12	3	13	17	19	59	8	0	131
臨床心理学科	7	3	2	21	1	22	5	0	61
現代社会学科	10	7	21	74	11	92	17	2	234
公共政策学科	5	6	4	55	13	75	11	0	169
社会福祉学科	16	4	23	70	13	162	12	4	304
理学療法学科	6	1	2	9	0	18	3	1	40
作業療法学科	3	2	1	10	0	25	2	0	43
合計	86	42	90	387	103	652	95	13	1468



2008 年度春学期 英語基礎力調査アンケート集計結果（得点別）

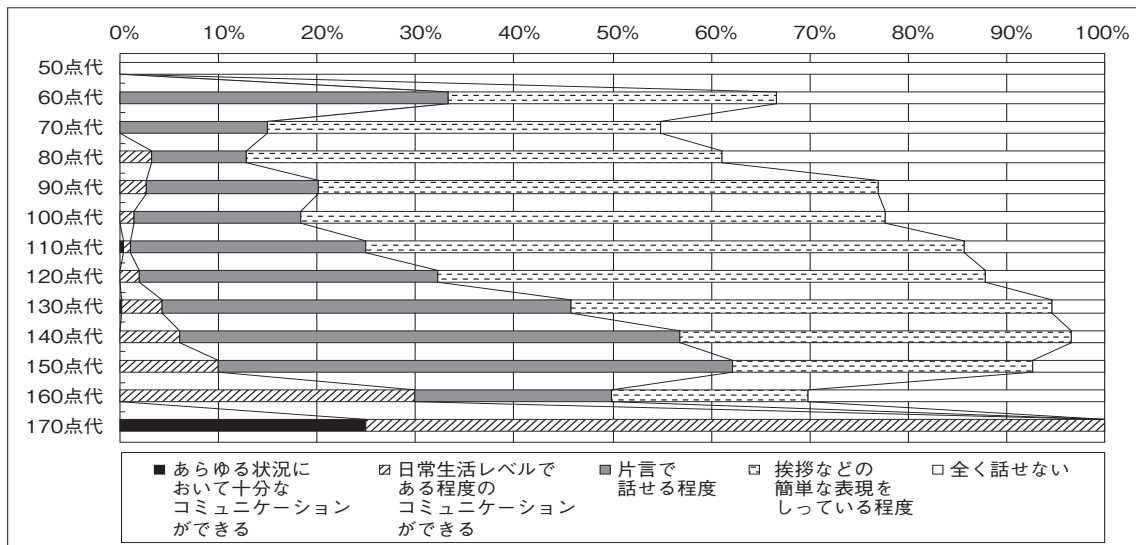
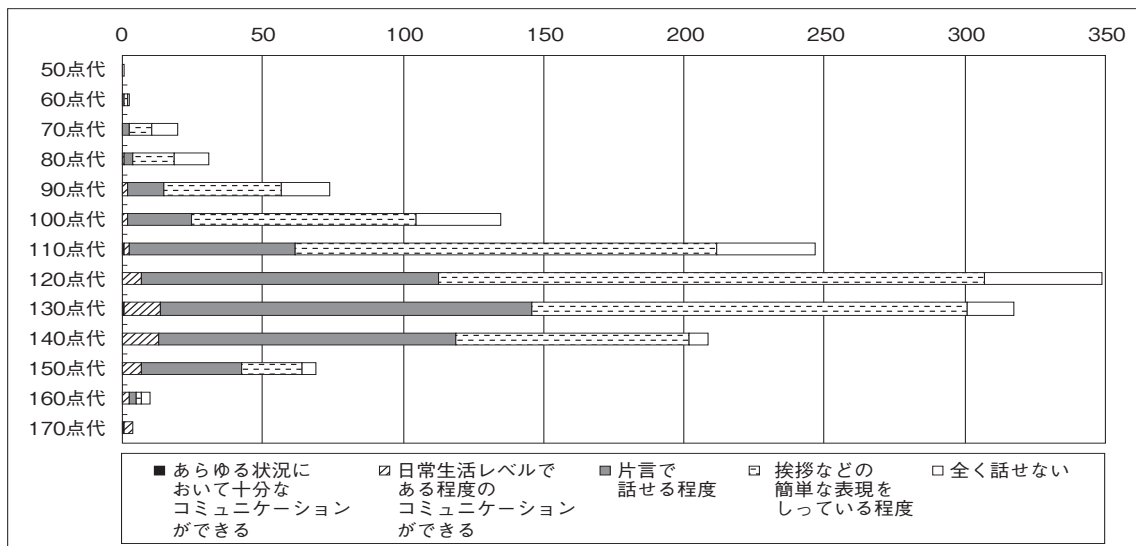
I あなたは英語が得意ですか

	得意である	どちらかといえば得意である	あまり得意ではない	苦手である	合計
50点代	0	0	0	1	1
60点代	0	0	2	1	3
70点代	0	0	3	17	20
80点代	0	0	7	24	31
90点代	0	1	22	51	74
100点代	1	6	29	99	135
110点代	0	19	94	134	247
120点代	5	31	155	158	349
130点代	3	51	169	95	318
140点代	3	60	102	44	209
150点代	1	29	34	5	69
160点代	1	7	2	0	10
170点代	3	1	0	0	4
合計	17	205	619	629	1470



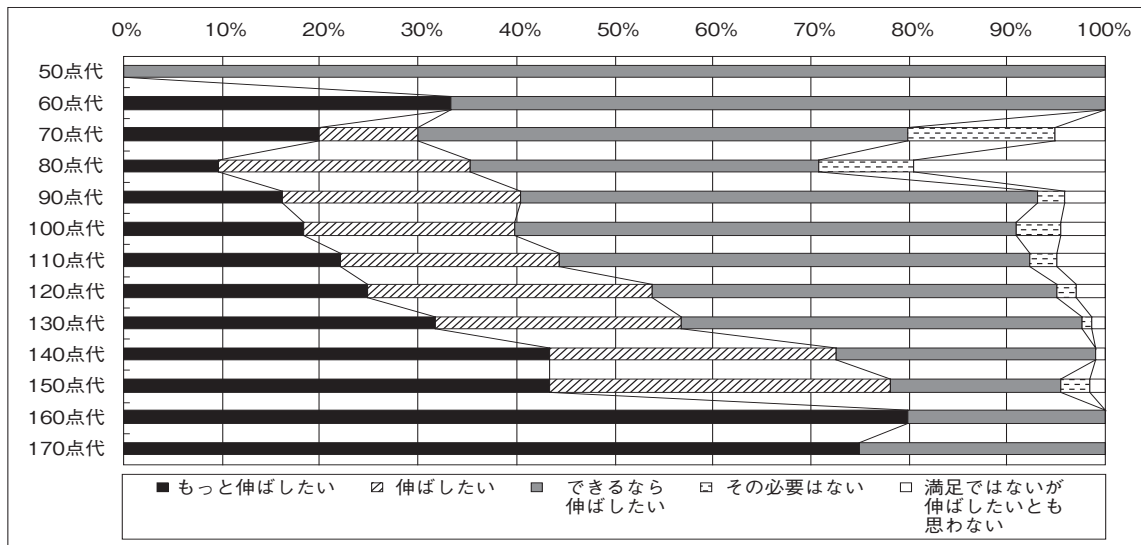
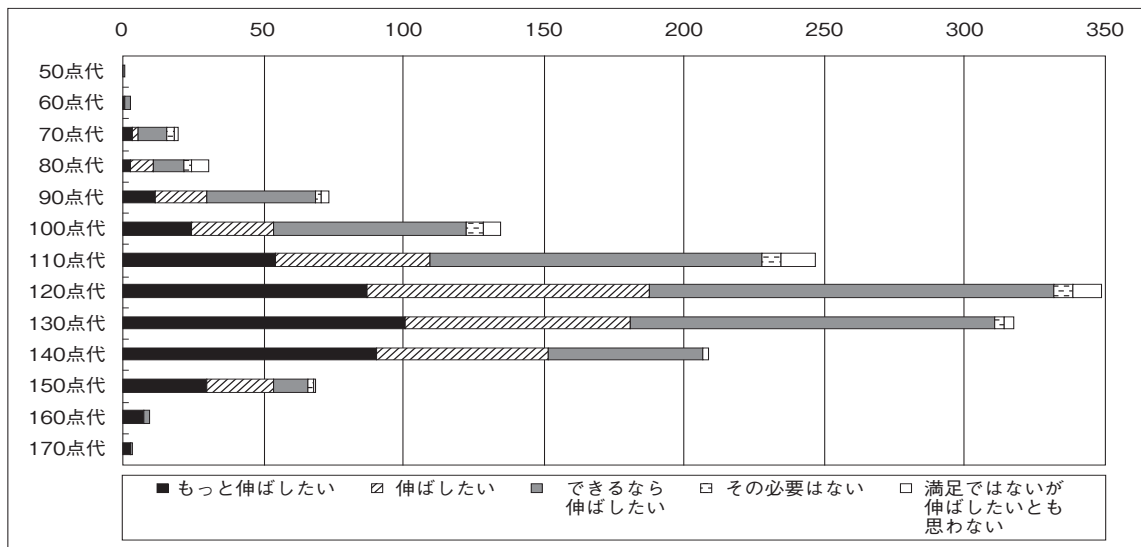
Ⅱ あなたは英語でコミュニケーションできますか

	あらゆる状況において十分なコミュニケーションができる	日常生活レベルである程度のコミュニケーションができる	片言で話せる程度	挨拶などの簡単な表現をしている程度	全く話せない	合計
50点代	0	0	0	0	1	1
60点代	0	0	1	1	1	3
70点代	0	0	3	8	9	20
80点代	0	1	3	15	12	31
90点代	0	2	13	42	17	74
100点代	0	2	23	80	30	135
110点代	1	2	59	150	35	247
120点代	0	7	106	194	42	349
130点代	1	13	132	155	17	318
140点代	0	13	106	83	7	209
150点代	0	7	36	21	5	69
160点代	0	3	2	2	3	10
170点代	1	3	0	0	0	4
合計	3	53	484	751	179	1470



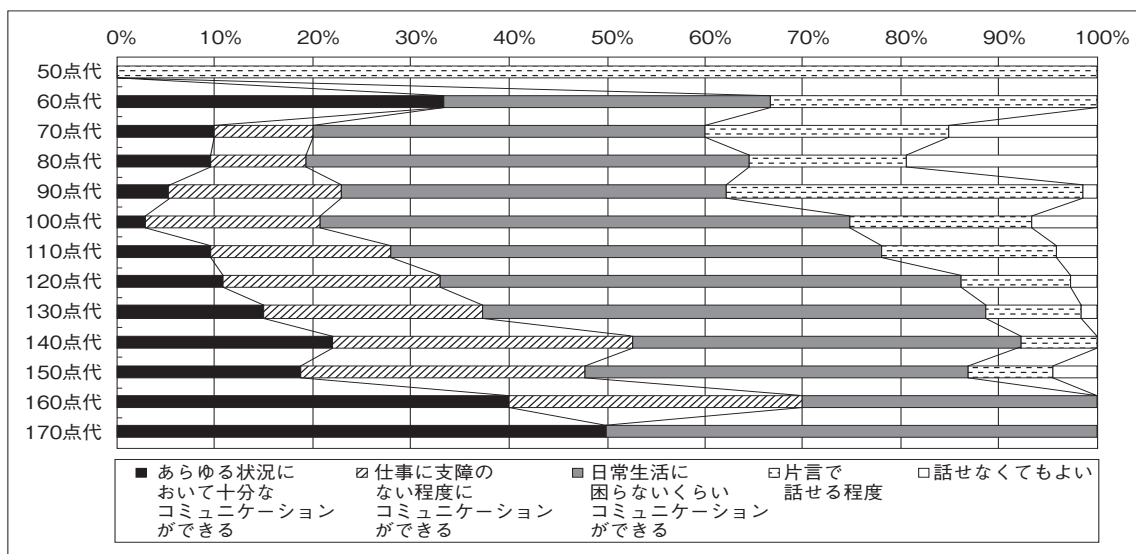
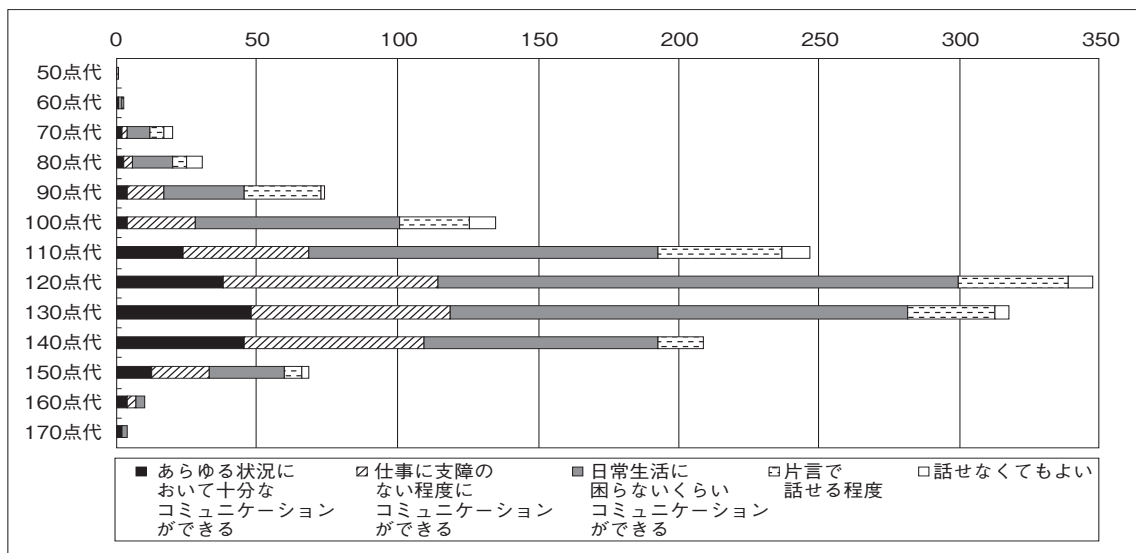
Ⅲあなたは英語力を伸ばしたいですか

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたいとも思わない	合計
50点代	0	0	1	0	0	1
60点代	1	0	2	0	0	3
70点代	4	2	10	3	1	20
80点代	3	8	11	3	6	31
90点代	12	18	39	2	3	74
100点代	25	29	69	6	6	135
110点代	55	55	118	7	12	247
120点代	87	101	144	7	10	349
130点代	101	80	130	3	4	318
140点代	91	61	55	0	2	209
150点代	30	24	12	2	1	69
160点代	8	0	2	0	0	10
170点代	3	0	1	0	0	4
合計	420	378	594	33	45	1470



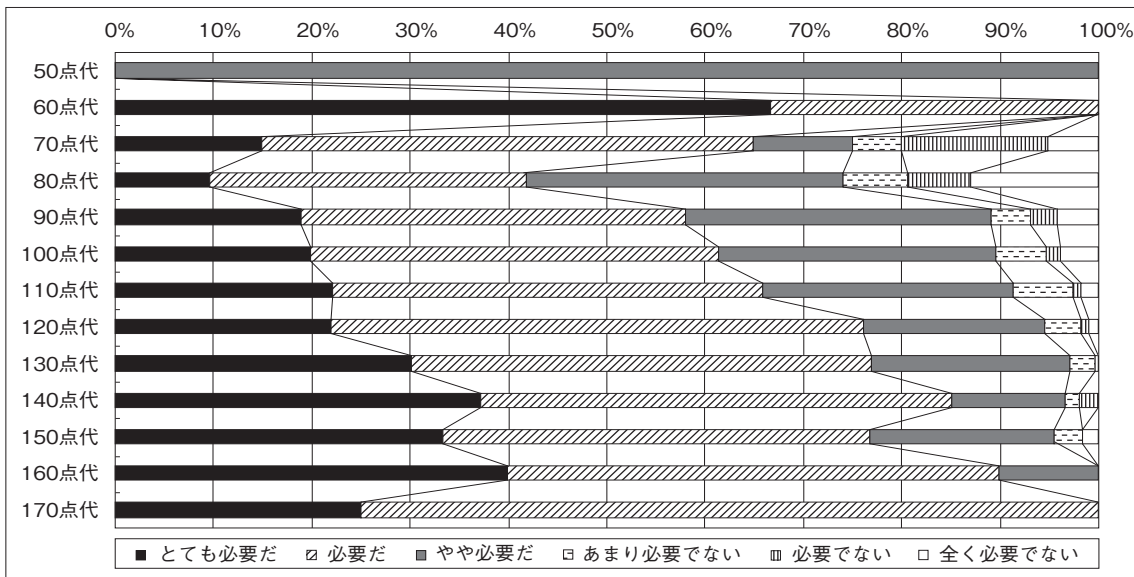
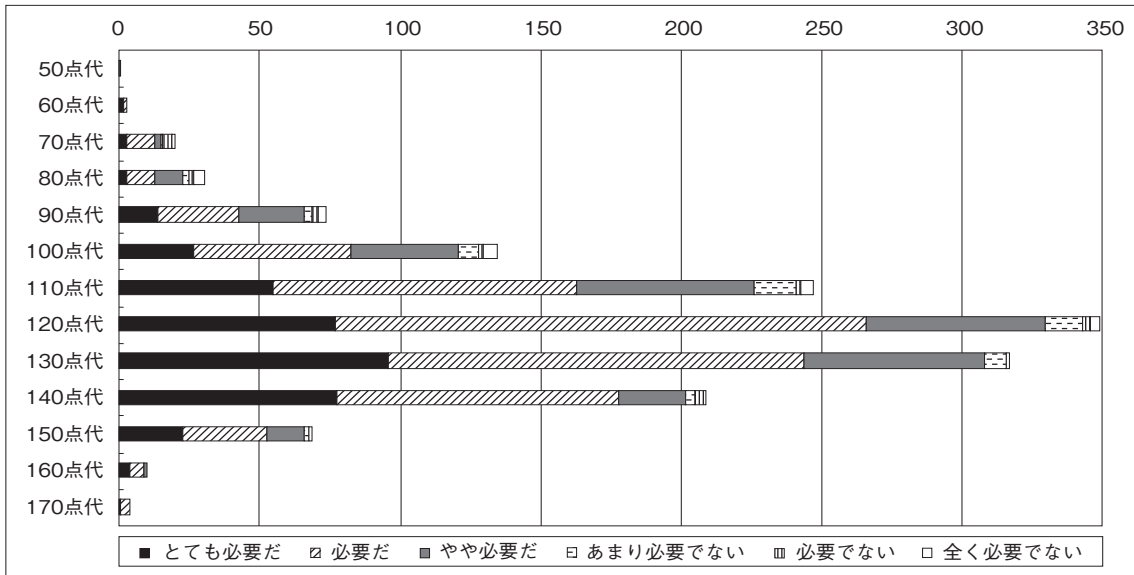
Ⅳ自分が目標とする英語コミュニケーション能力はどの程度ですか

	あらゆる状況において十分なコミュニケーションができる	仕事に支障のない程度にコミュニケーションができる	日常生活に困らないくらいコミュニケーションができる	片言で話せる程度	話せなくてもよい	合計
50点代	0	0	0	1	0	1
60点代	1	0	1	1	0	3
70点代	2	2	8	5	3	20
80点代	3	3	14	5	6	31
90点代	4	13	29	27	1	74
100点代	4	24	73	25	9	135
110点代	24	45	124	44	10	247
120点代	38	77	185	39	9	348
130点代	48	71	163	31	5	318
140点代	46	64	83	16	0	209
150点代	13	20	27	6	3	69
160点代	4	3	3	0	0	10
170点代	2	0	2	0	0	4
合計	189	322	712	200	46	1469



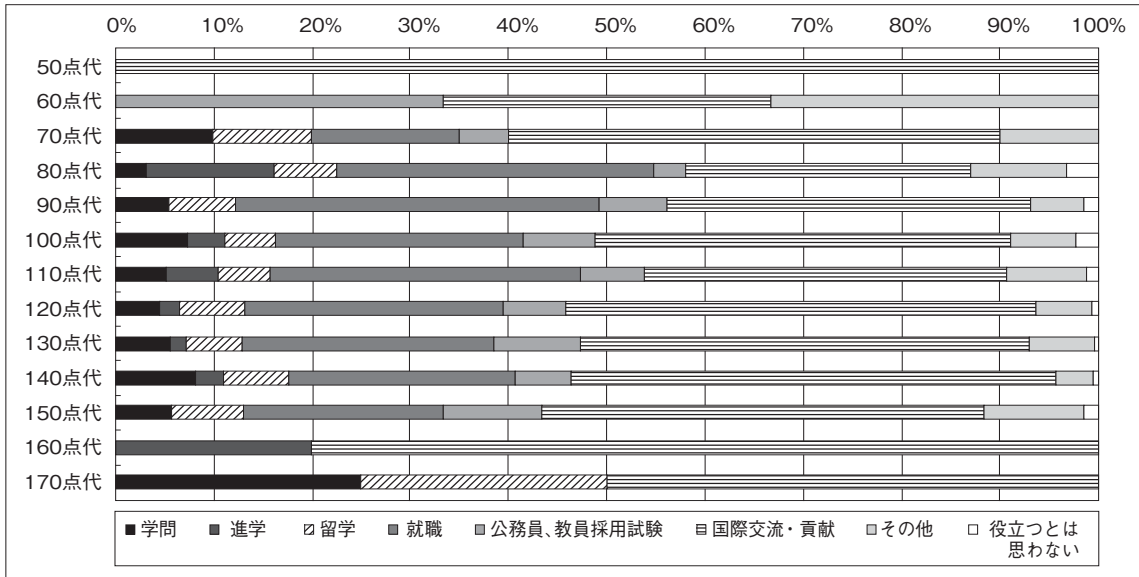
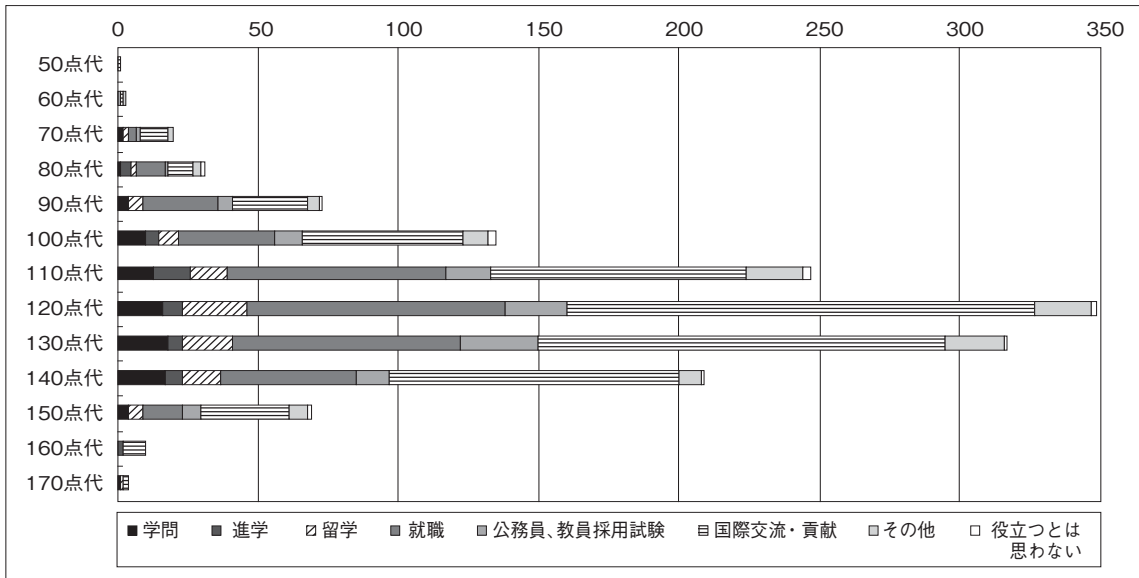
V英語は必要だと思いますか

	とても必要だ	必要だ	やや必要だ	あまり必要でない	必要でない	全く必要でない	合計
50点代	0	0	1	0	0	0	1
60点代	2	1	0	0	0	0	3
70点代	3	10	2	1	3	1	20
80点代	3	10	10	2	2	4	31
90点代	14	29	23	3	2	3	74
100点代	27	56	38	7	2	5	135
110点代	55	108	63	15	2	4	247
120点代	77	189	64	13	3	3	349
130点代	96	148	64	8	0	1	317
140点代	78	100	24	3	4	0	209
150点代	23	30	13	2	0	1	69
160点代	4	5	1	0	0	0	10
170点代	1	3	0	0	0	0	4
合計	383	689	303	54	18	22	1469



Ⅵ英語は何に役立つと思いますか。次のうちから1つだけ選択してください

	学問	進学	留学	就職	公務員、教員採用試験	国際交流・貢献	その他	役立つとは思わない	合計
50点代	0	0	0	0	0	1	0	0	1
60点代	0	0	0	0	1	1	1	0	3
70点代	2	0	2	3	1	10	2	0	20
80点代	1	4	2	10	1	9	3	1	31
90点代	4	0	5	27	5	27	4	1	73
100点代	10	5	7	34	10	57	9	3	135
110点代	13	13	13	78	16	91	20	3	247
120点代	16	7	23	92	22	167	20	2	349
130点代	18	5	18	81	28	145	21	1	317
140点代	17	6	14	48	12	103	8	1	209
150点代	4	0	5	14	7	31	7	1	69
160点代	0	2	0	0	0	8	0	0	10
170点代	1	0	1	0	0	2	0	0	4
合計	86	42	90	387	103	652	95	13	1468



英語基礎力調査アンケート（秋学期分）

入学時に英語基礎力調査を受検していただきましたが、約1年を経て再度受検するにあたり、この1年間の意識の変化についてお答えください。

*回答は最もあてはまるものを1つ選び、解答用紙A面の「属性欄」にマークしてください。

【Ⅰ】あなたは英語が得意になりましたか

0. 一年前から得意だった
1. 非常に得意になった
2. 得意になった
3. 少し得意になった
4. 得意にならなかったし、苦手にもならなかった

【Ⅱ】あなたは英語でコミュニケーションができるようになりましたか

0. 以前から、あらゆる状況において十分なコミュニケーションができた
1. あらゆる状況において、十分なコミュニケーションができるようになった
2. 日常生活レベルで、ある程度のコミュニケーションができるようになった
3. 片言で話せる程度になった
4. 挨拶などの簡単な表現を話せるようになった
5. 全く話せないままである

【Ⅲ】あなたは英語力を伸ばしたいですか

0. もっと伸ばしたい
1. 伸ばしたい
2. できるなら伸ばしたい
3. その必要はない
4. 満足ではないが伸ばしたいとも思わない

【Ⅳ】自分が目標とする英語コミュニケーション能力はどの程度ですか

0. あらゆる状況において十分なコミュニケーションができる
1. 仕事に支障のない程度にコミュニケーションができる
2. 日常生活に困らないくらいコミュニケーションができる
3. 片言で話せる程度
4. 話せなくてもよい

【Ⅴ】あなたにとって、英語は最も何に役立つと思いますか

0. 学問
1. 進学
2. 留学
3. 就職
4. 公務員・教員採用試験
5. 国際交流・貢献
6. その他
7. 役立つとは思わない

【Ⅵ】○「英語」履修者にお聞きします

・あなたが受講した英語の授業で、最も満足したものはどれですか

1. Basic Reading
2. Basic Listening
3. Basic Communication

○英語以外の外国語履修者にお聞きします

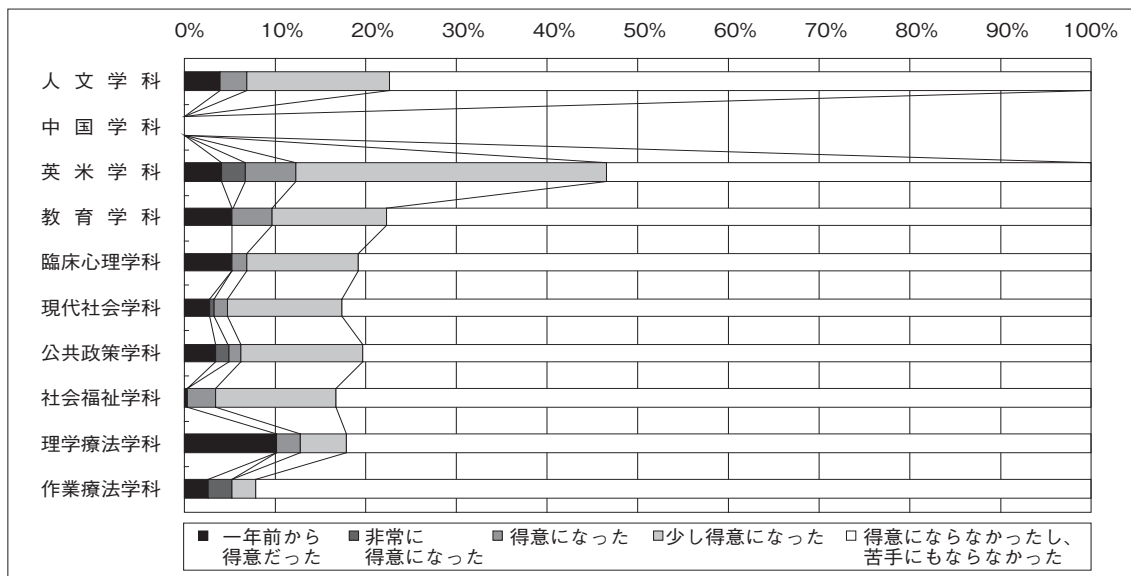
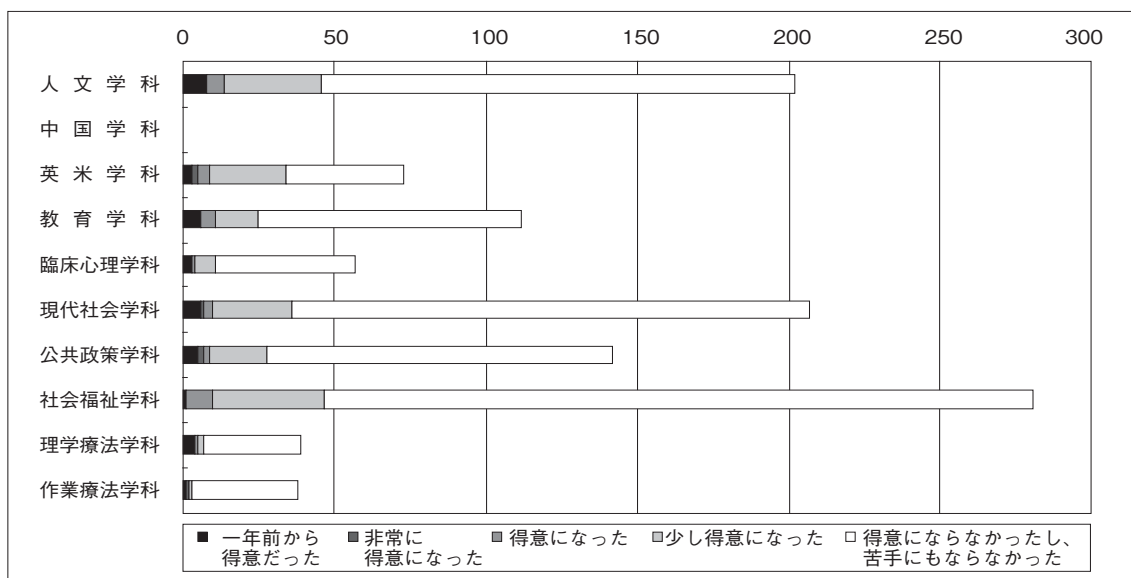
・英語を勉強するなら、どの分野を一番勉強したいですか

1. 文法
2. リスニング
3. リーディング
4. コミュニケーション
5. その他
6. したくない

2008 年度秋学期 英語基礎力調査アンケート集計結果（学科別）

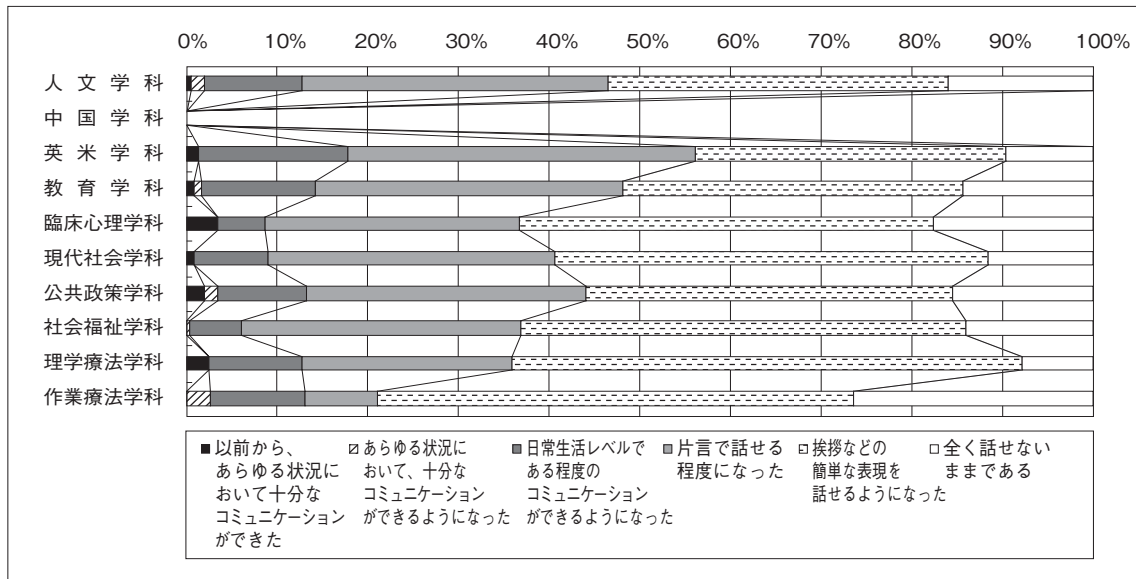
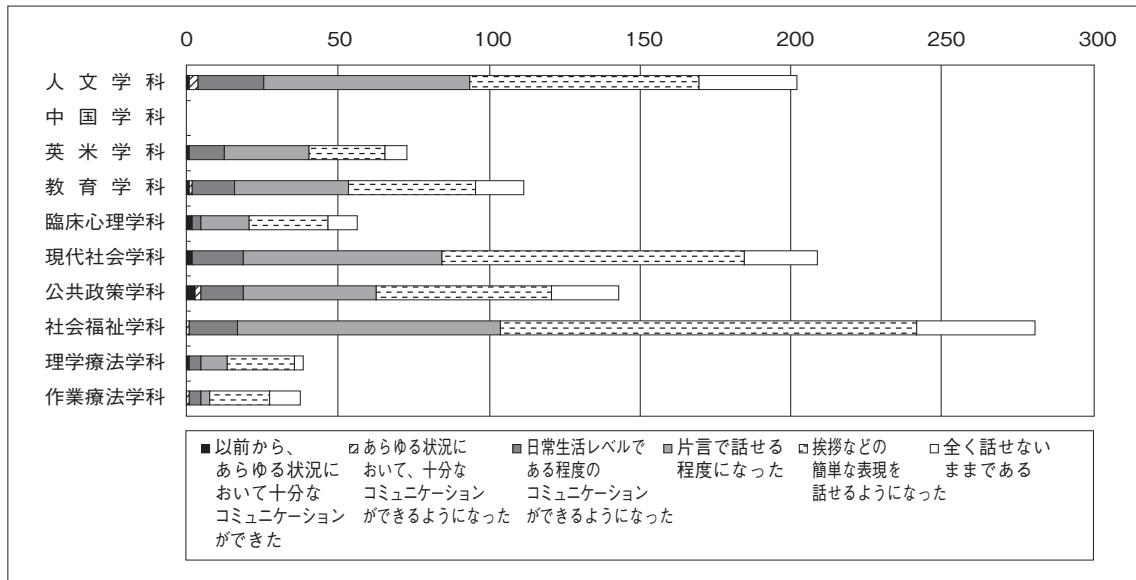
I あなたは英語が得意になりましたか

	一年前から得意だった	非常に得意になった	得意になった	少し得意になった	得意にならなかったし、苦手にもならなかった	合計
人文学科	8	0	6	32	156	202
中国学科	0	0	0	0	0	0
英米学科	3	2	4	25	39	73
教育学科	6	0	5	14	87	112
臨床心理学科	3	0	1	7	46	57
現代社会学科	6	1	3	26	171	207
公共政策学科	5	2	2	19	114	142
社会福祉学科	1	0	9	37	234	281
理学療法学科	4	0	1	2	32	39
作業療法学科	1	1	0	1	35	38
合計	37	6	31	163	914	1151



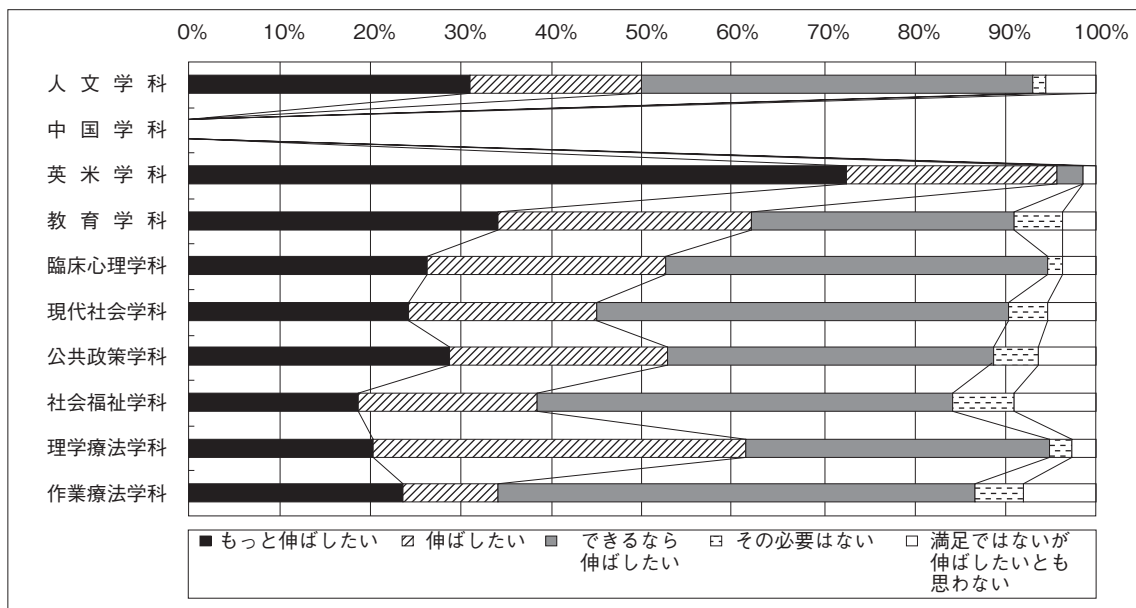
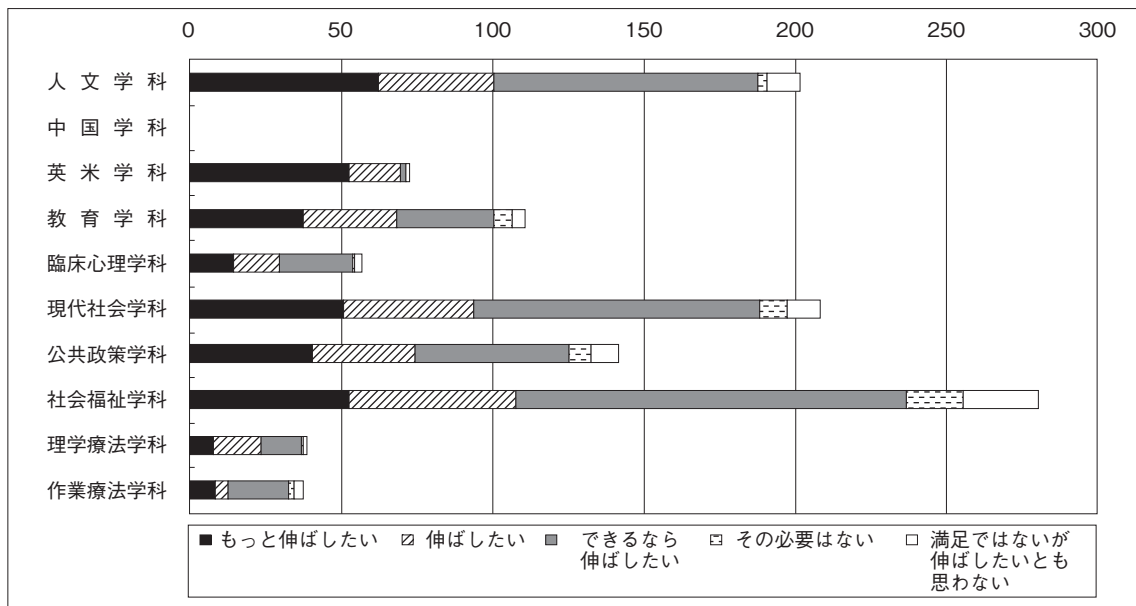
II あなたは英語でコミュニケーションができるようになりましたか

	以前から、あらゆる状況において十分なコミュニケーションができた	あらゆる状況において、十分なコミュニケーションができるようになった	日常生活レベルである程度のコミュニケーションができるようになった	片言で話せる程度になった	挨拶などの簡単な表現を話せるようになった	全く話せないままである	合計
人文学科	1	3	22	68	76	32	202
中国学科	0	0	0	0	0	0	0
英米学科	1	0	12	28	25	7	73
教育学科	1	1	14	38	42	16	112
臨床心理学科	2	0	3	16	26	10	57
現代社会学科	2	0	17	66	100	24	209
公共政策学科	3	2	14	44	58	22	143
社会福祉学科	0	1	16	87	138	39	281
理学療法学科	1	0	4	9	22	3	39
作業療法学科	0	1	4	3	20	10	38
合計	11	8	106	359	507	163	1154



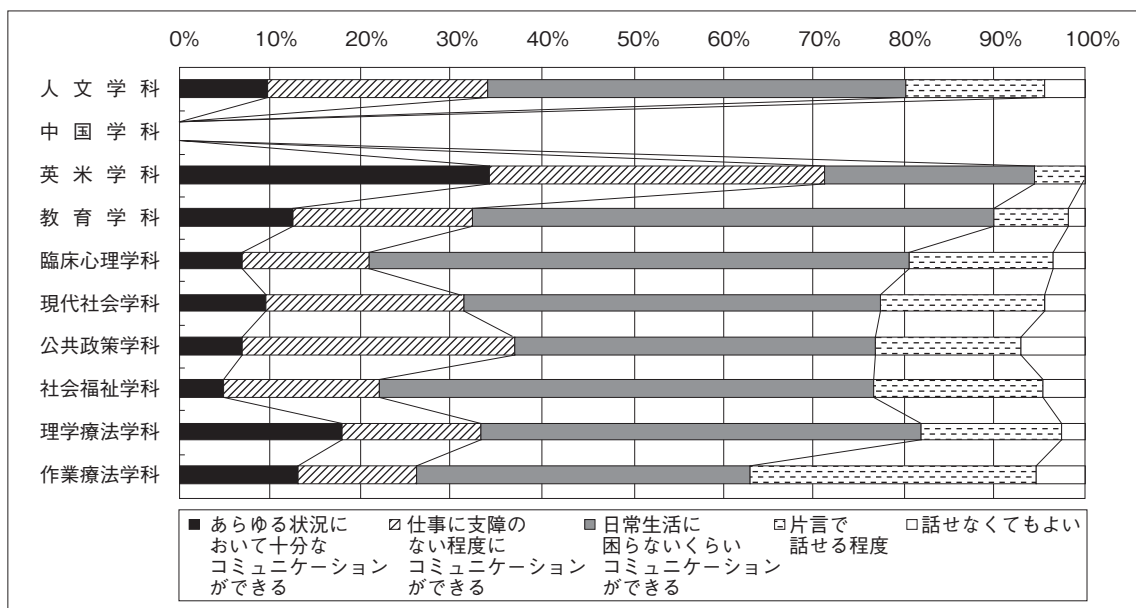
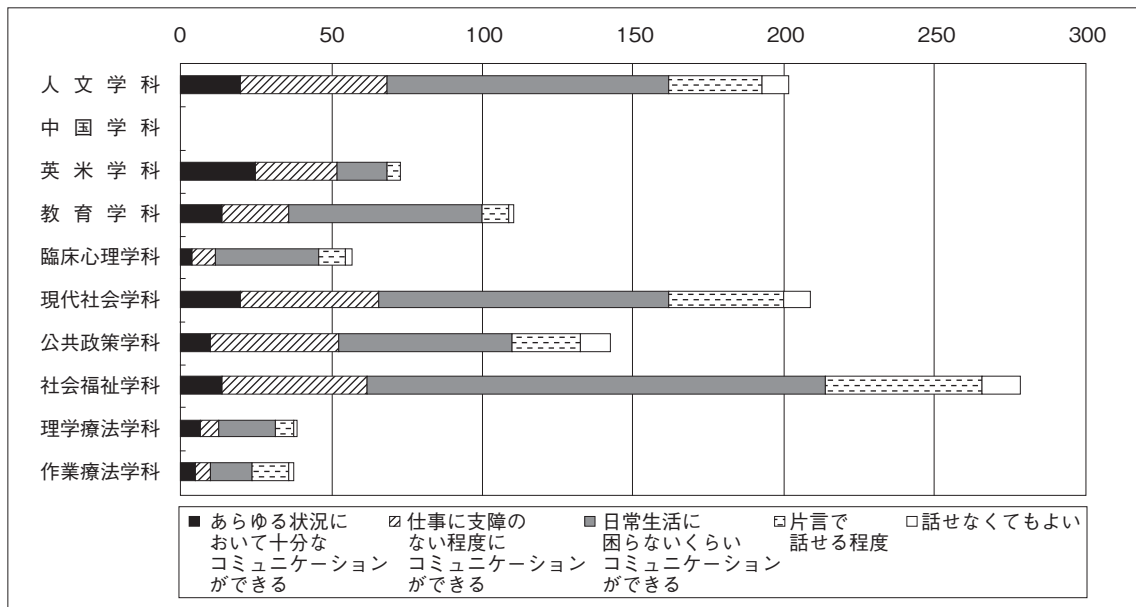
Ⅲ あなたは英語力を伸ばしたいですか

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたいと思わない	合計
人文学科	63	38	87	3	11	202
中国学科	0	0	0	0	0	0
英米学科	53	17	2	0	1	73
教育学科	38	31	32	6	4	111
臨床心理学科	15	15	24	1	2	57
現代社会学科	51	43	95	9	11	209
公共政策学科	41	34	51	7	9	142
社会福祉学科	53	55	129	19	25	281
理学療法学科	8	16	13	1	1	39
作業療法学科	9	4	20	2	3	38
合計	331	253	453	48	67	1152



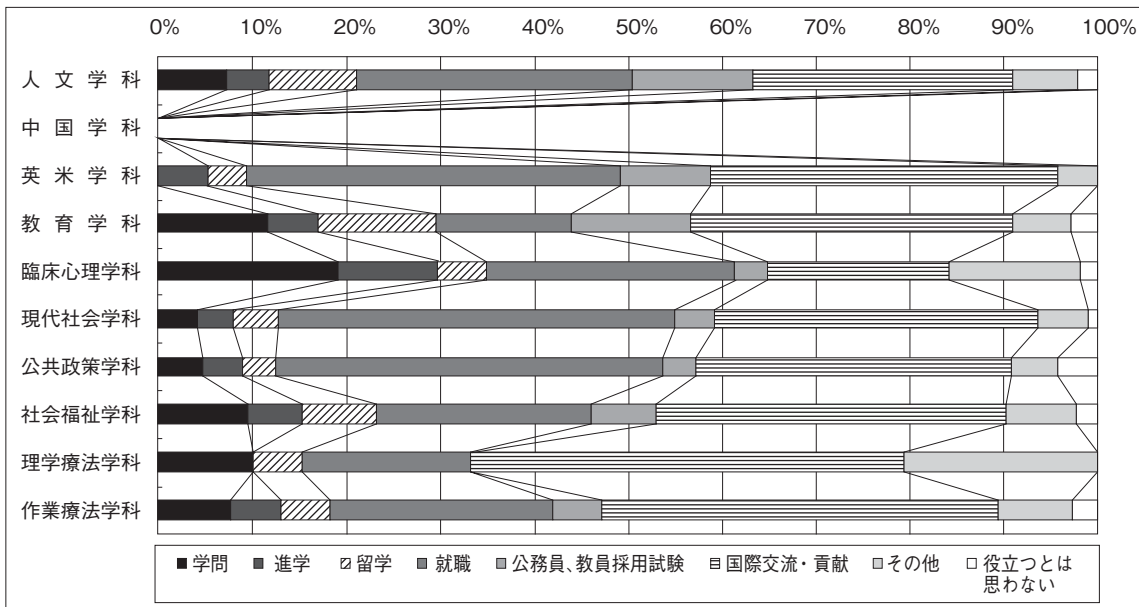
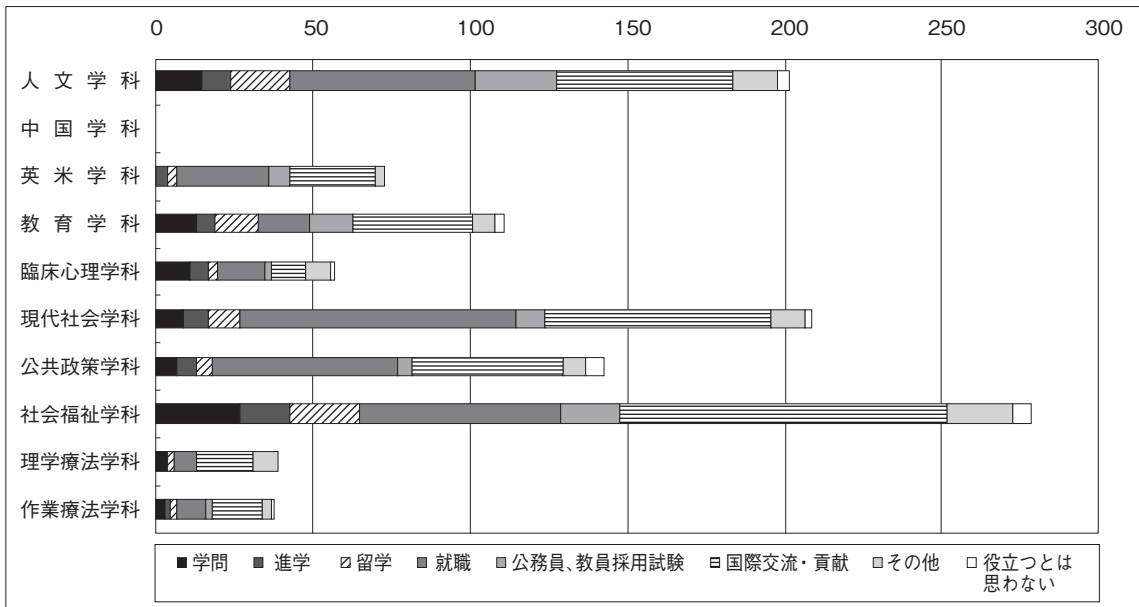
Ⅳ自分が目標とする英語コミュニケーション能力はどの程度ですか

	あらゆる状況において十分なコミュニケーションができる	仕事に支障のない程度にコミュニケーションができる	日常生活に困らないくらいコミュニケーションができる	片言で話せる程度	話せなくてもよい	合計
人文学科	20	49	93	31	9	202
中国学科	0	0	0	0	0	0
英米学科	25	27	17	4	0	73
教育学科	14	22	64	9	2	111
臨床心理学科	4	8	34	9	2	57
現代社会学科	20	46	96	38	9	209
公共政策学科	10	43	57	23	10	143
社会福祉学科	14	48	152	52	13	279
理学療法学科	7	6	19	6	1	39
作業療法学科	5	5	14	12	2	38
合計	119	254	546	184	48	1151



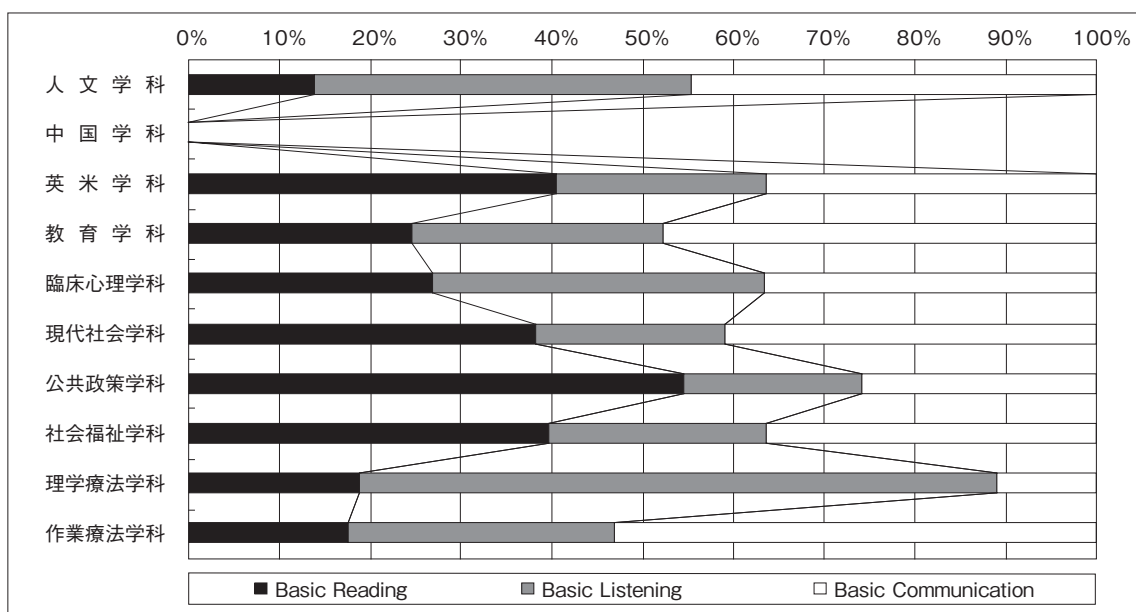
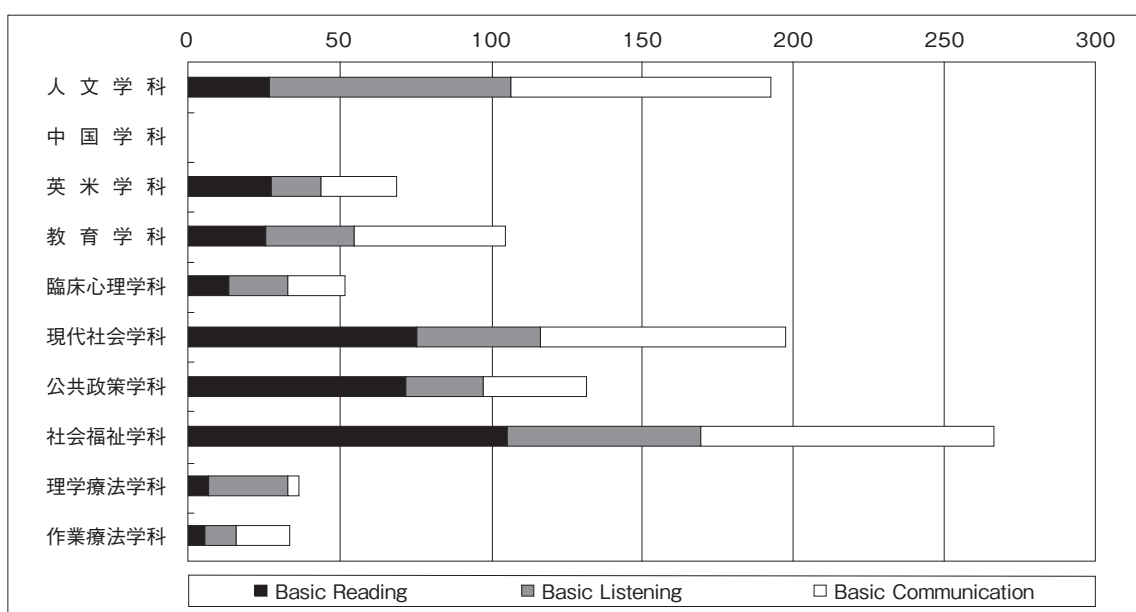
▼あなたにとって、英語は最も何に役立つと思いますか

	学問	進学	留学	就職	公務員、教員採用試験	国際交流・貢献	その他	役立つとは思わない	合計
人文学科	15	9	19	59	26	56	14	4	202
中国学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
英米学科	0	4	3	29	7	27	3	0	73
教育学科	13	6	14	16	14	38	7	3	111
臨床心理学科	11	6	3	15	2	11	8	1	57
現代社会学科	9	8	10	88	9	72	11	2	209
公共政策学科	7	6	5	59	5	48	7	6	143
社会福祉学科	27	16	22	64	19	104	21	6	279
理学療法学科	4	0	2	7	0	18	8	0	39
作業療法学科	3	2	2	9	2	16	3	1	38
合計	89	57	80	346	84	390	82	23	1151



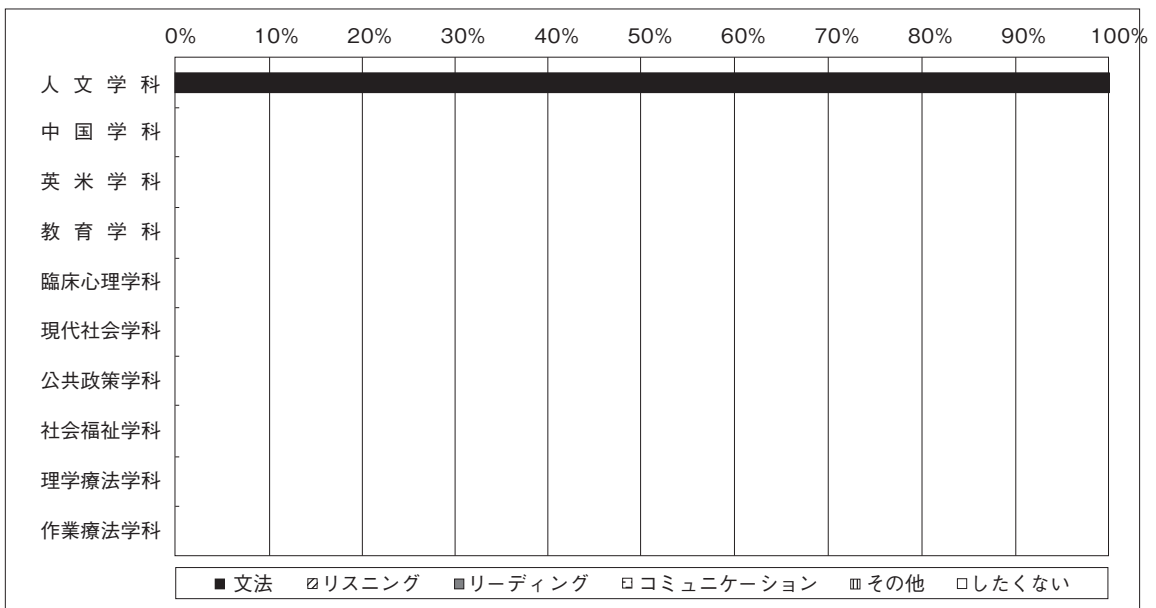
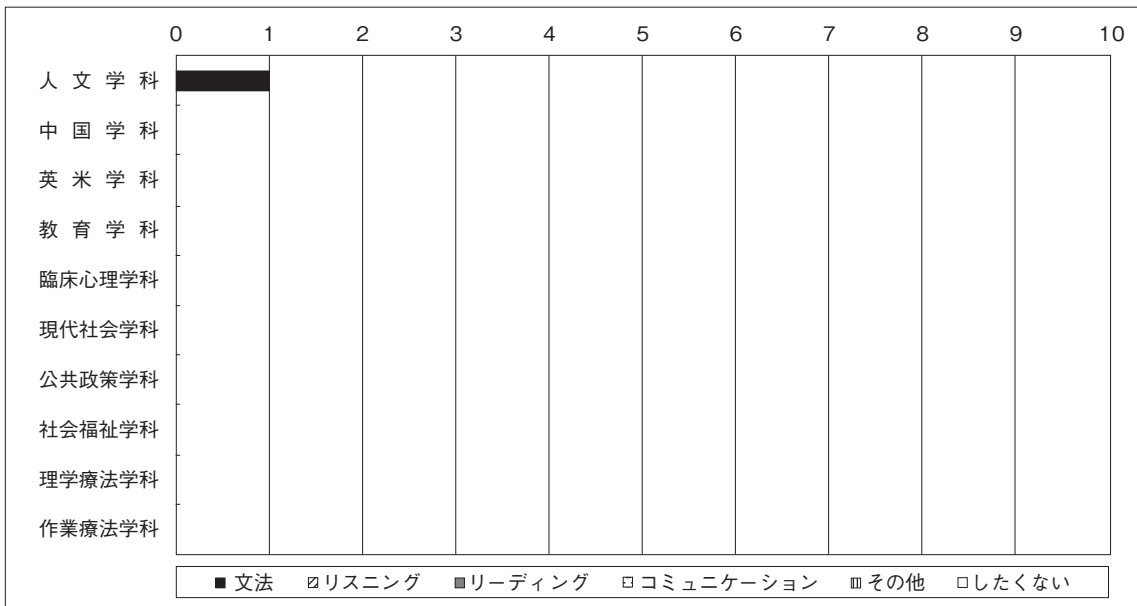
Ⅵあなたが受講した英語の授業で、最も満足したものはどれですか（英語履修者専用）

	Basic Reading	Basic Listening	Basic Communication	合計
人文学科	27	80	86	193
中国学科	0	0	0	0
英米学科	28	16	25	69
教育学科	26	29	50	105
臨床心理学科	14	19	19	52
現代社会学科	76	41	81	198
公共政策学科	72	26	34	132
社会福祉学科	106	64	97	267
理学療法学科	7	26	4	37
作業療法学科	6	10	18	34
合計	362	311	414	1087



Ⅵ英語を勉強するなら、どの分野を一番勉強したいですか（英語以外の外国語履修者専用）

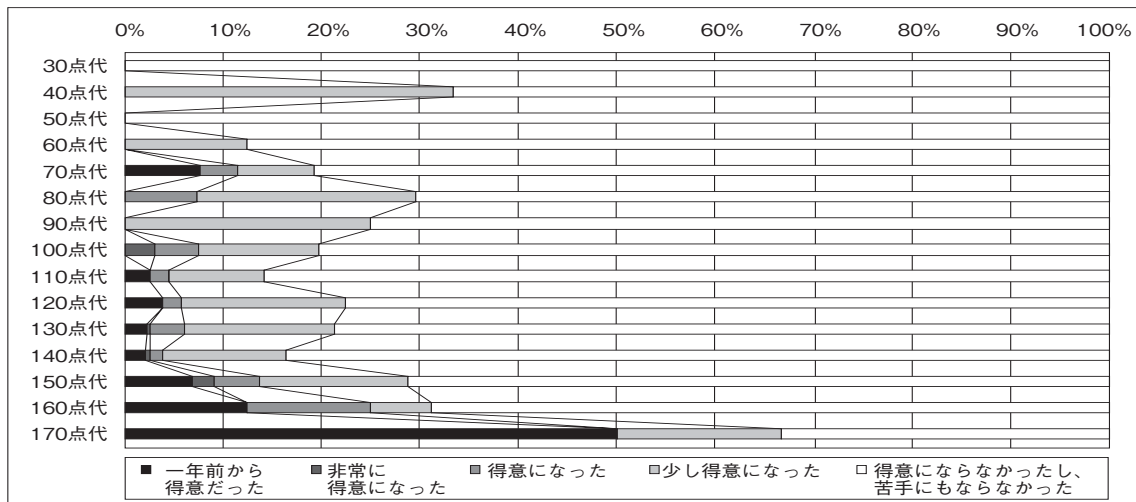
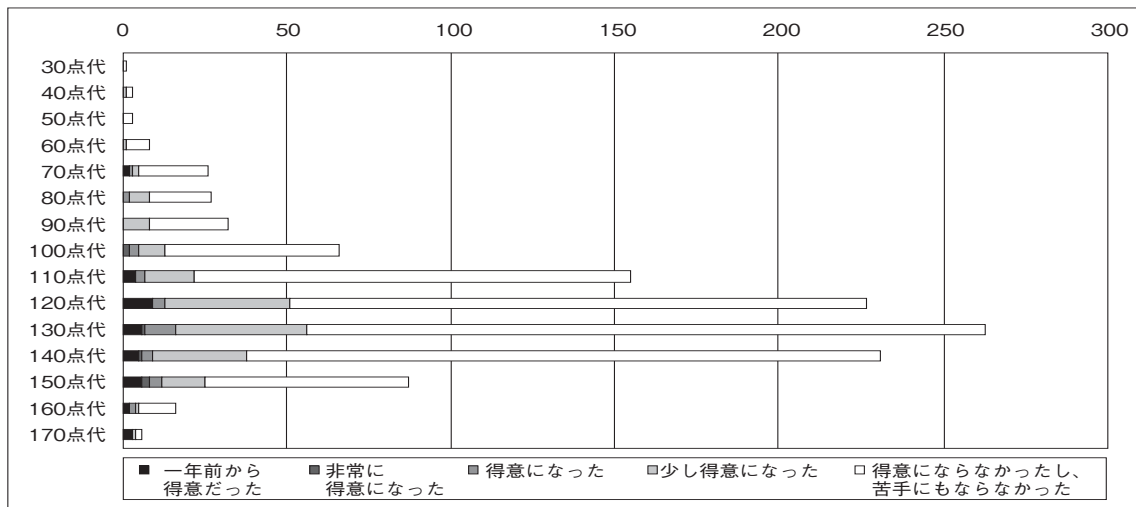
	文法	リスニング	リーディング	コミュニケーション	その他	したくない	合計
人文学科	1	0	0	0	0	0	1
中国学科	0	0	0	0	0	0	0
英米学科	0	0	0	0	0	0	0
教育学科	0	0	0	0	0	0	0
臨床心理学科	0	0	0	0	0	0	0
現代社会学科	0	0	0	0	0	0	0
公共政策学科	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉学科	0	0	0	0	0	0	0
理学療法学科	0	0	0	0	0	0	0
作業療法学科	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	0	0	0	1



2008 年度秋学期 英語基礎力調査アンケート集計結果（得点別）

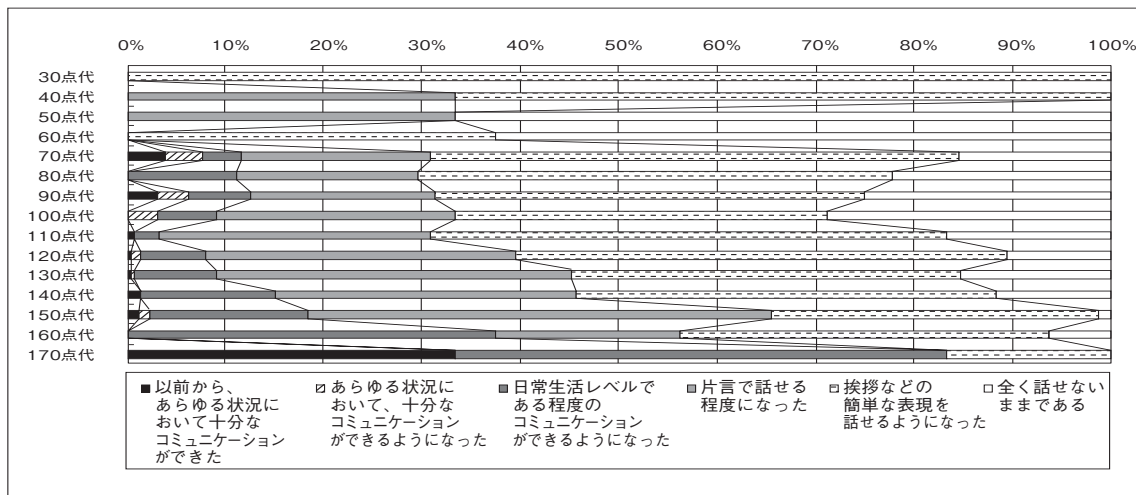
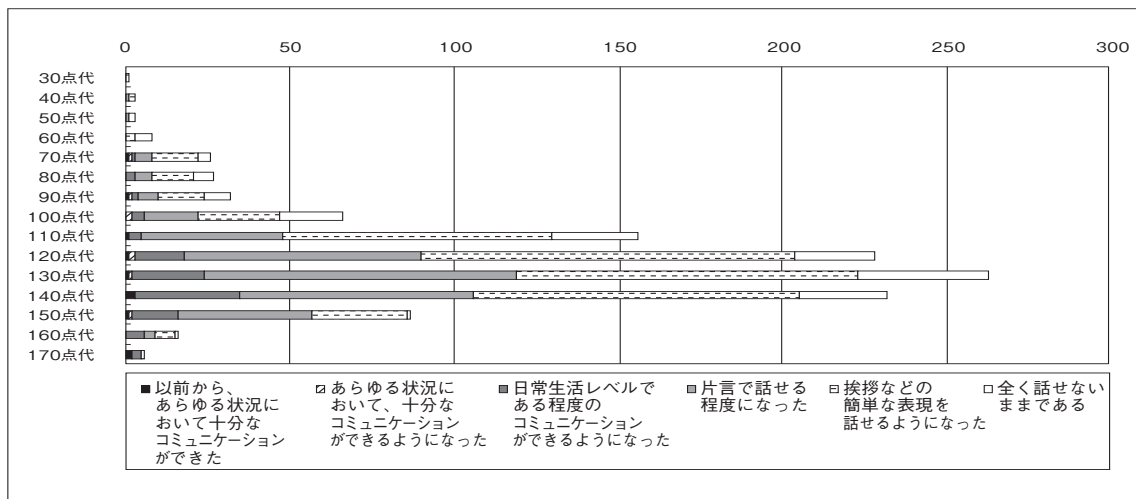
I あなたは英語が得意になりましたか

	一年前から得意だった	非常に得意になった	得意になった	少し得意になった	得意にならなかったし、苦手にもならなかった	合計
30点代	0	0	0	0	1	1
40点代	0	0	0	1	2	3
50点代	0	0	0	0	3	3
60点代	0	0	0	1	7	8
70点代	2	0	1	2	21	26
80点代	0	0	2	6	19	27
90点代	0	0	0	8	24	32
100点代	0	2	3	8	53	66
110点代	4	0	3	15	133	155
120点代	9	0	4	38	176	227
130点代	6	1	9	40	207	263
140点代	5	1	3	29	193	231
150点代	6	2	4	13	62	87
160点代	2	0	2	1	11	16
170点代	3	0	0	1	2	6
合計	37	6	31	163	914	1151



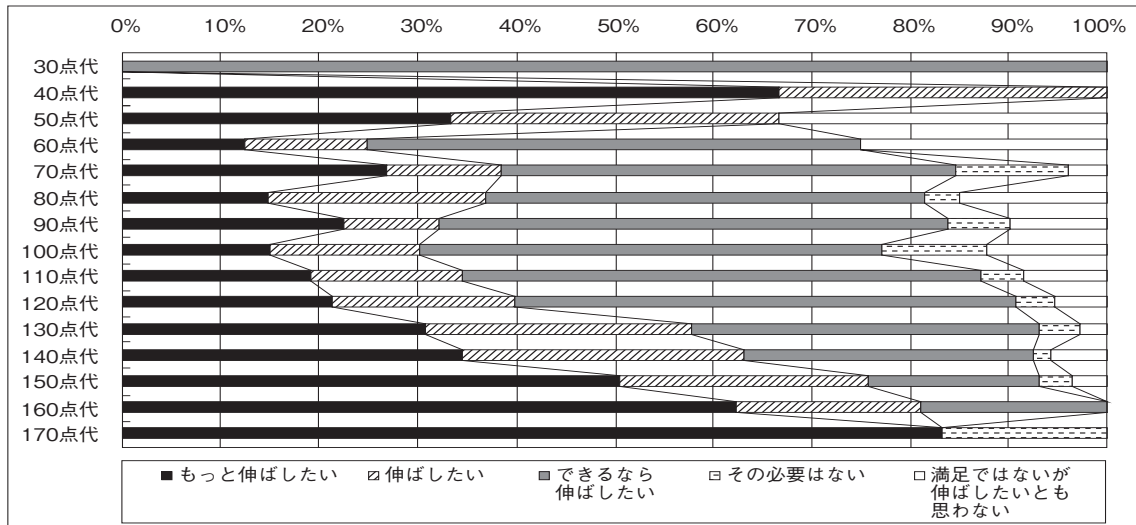
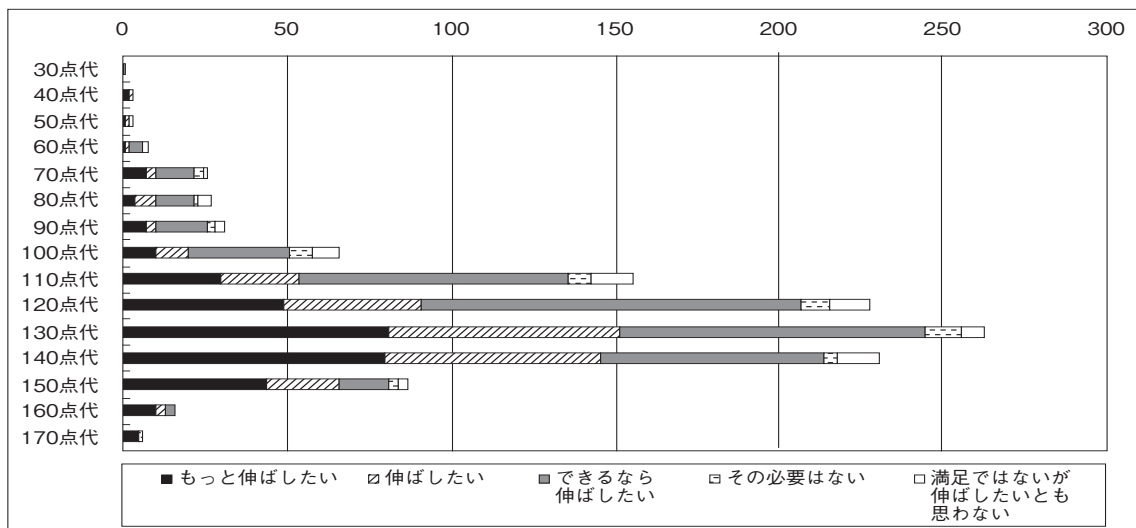
Ⅱ あなたは英語でコミュニケーションができるようになりましたか

	以前から、あらゆる状況において十分なコミュニケーションができた	あらゆる状況において、十分なコミュニケーションができるようになった	日常生活レベルである程度のコミュニケーションができるようになった	片言で話せる程度になった	挨拶などの簡単な表現を話せるようになった	全く話せないままである	合計
30点代	0	0	0	0	1	0	1
40点代	0	0	0	1	2	0	3
50点代	0	0	0	1	0	2	3
60点代	0	0	0	0	3	5	8
70点代	1	1	1	5	14	4	26
80点代	0	0	3	5	13	6	27
90点代	1	1	2	6	14	8	32
100点代	0	2	4	16	25	19	66
110点代	1	0	4	43	82	26	156
120点代	1	2	15	72	114	24	228
130点代	1	1	22	95	104	40	263
140点代	3	0	32	71	99	27	232
150点代	1	1	14	41	29	1	87
160点代	0	0	6	3	6	1	16
170点代	2	0	3	0	1	0	6
合計	11	8	106	359	507	163	1154



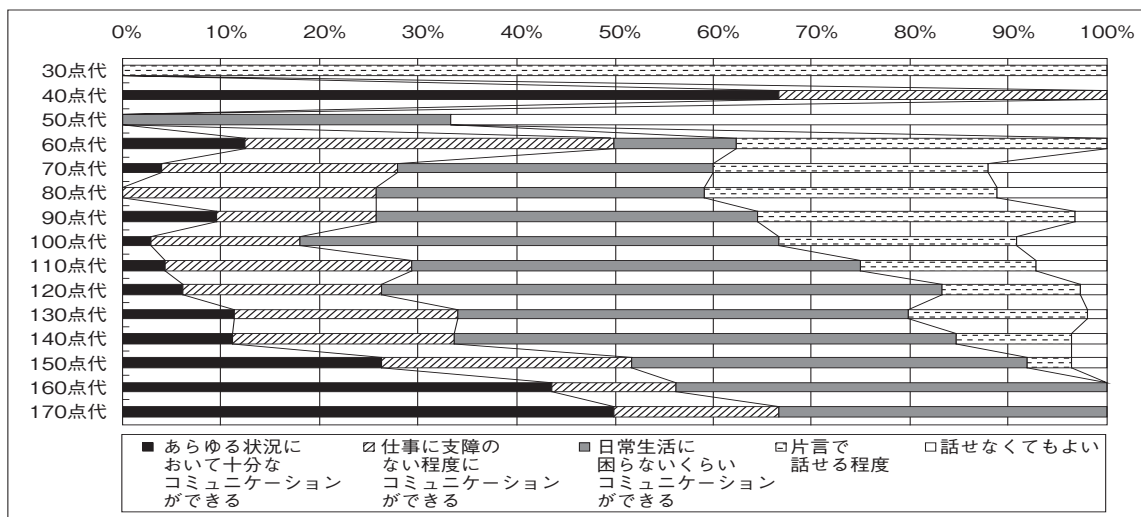
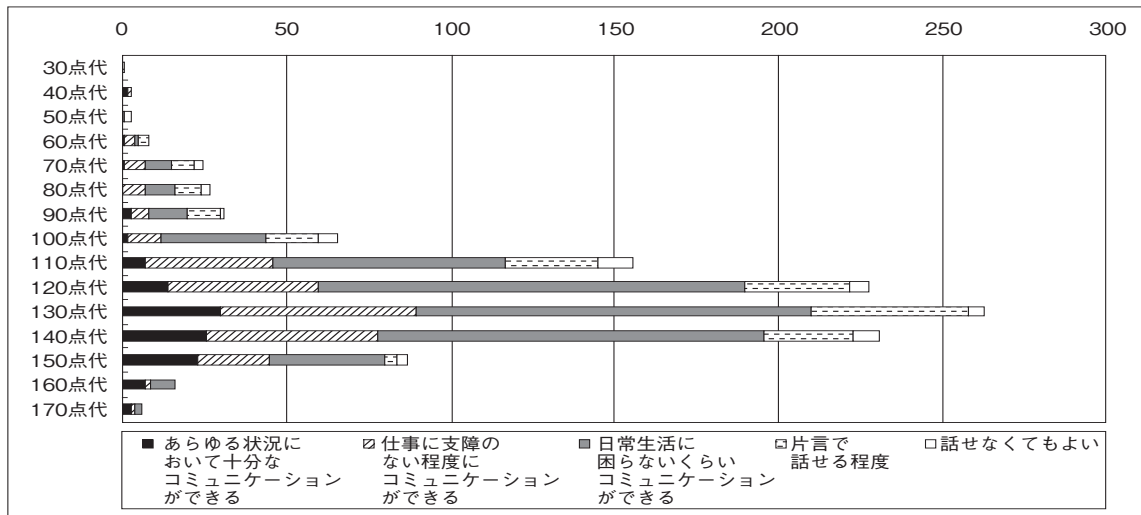
Ⅲあなたは英語力を伸ばしたいですか

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたいと思わない	合計
30点代	0	0	1	0	0	1
40点代	2	1	0	0	0	3
50点代	1	1	0	0	1	3
60点代	1	1	4	0	2	8
70点代	7	3	12	3	1	26
80点代	4	6	12	1	4	27
90点代	7	3	16	2	3	31
100点代	10	10	31	7	8	66
110点代	30	24	82	7	13	156
120点代	49	42	116	9	12	228
130点代	81	71	93	11	7	263
140点代	80	66	68	4	13	231
150点代	44	22	15	3	3	87
160点代	10	3	3	0	0	16
170点代	5	0	0	1	0	6
合計	331	253	453	48	67	1152



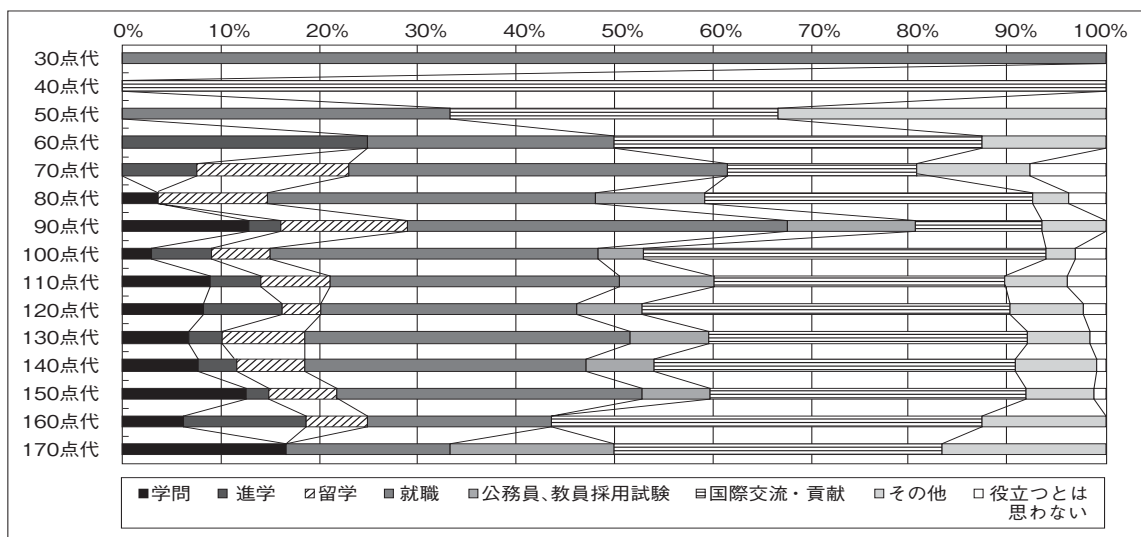
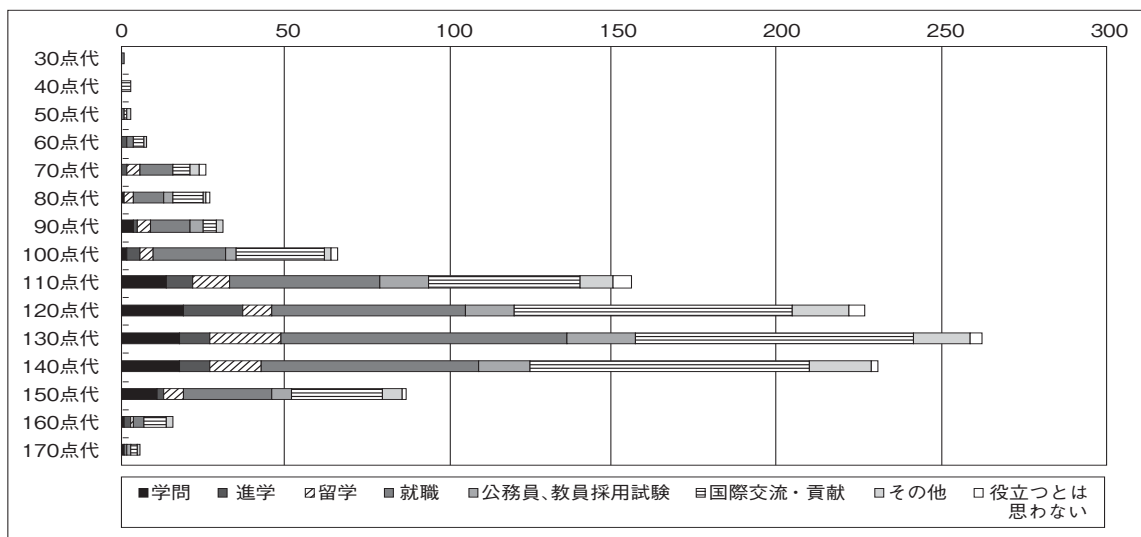
Ⅳ自分が目標とする英語コミュニケーション能力はどの程度ですか

	あらゆる状況において十分なコミュニケーションができる	仕事に支障のない程度にコミュニケーションができる	日常生活に困らないくらいコミュニケーションができる	片言で話せる程度	話せなくてもよい	合計
30点代	0	0	0	1	0	1
40点代	2	1	0	0	0	3
50点代	0	0	1	0	2	3
60点代	1	3	1	3	0	8
70点代	1	6	8	7	3	25
80点代	0	7	9	8	3	27
90点代	3	5	12	10	1	31
100点代	2	10	32	16	6	66
110点代	7	39	71	28	11	156
120点代	14	46	130	32	6	228
130点代	30	60	120	48	5	263
140点代	26	52	118	27	8	231
150点代	23	22	35	4	3	87
160点代	7	2	7	0	0	16
170点代	3	1	2	0	0	6
合計	119	254	546	184	48	1151



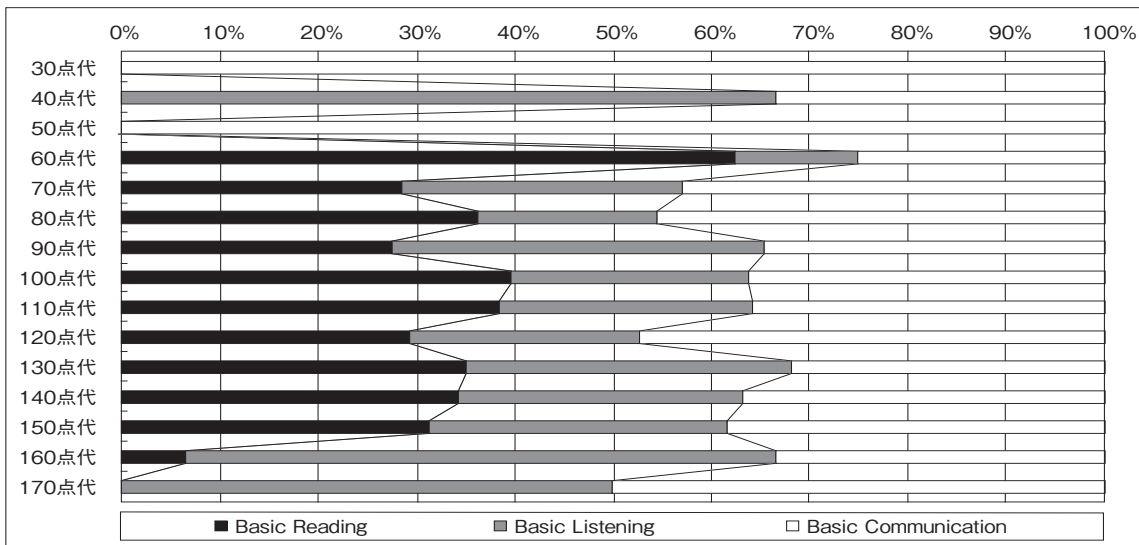
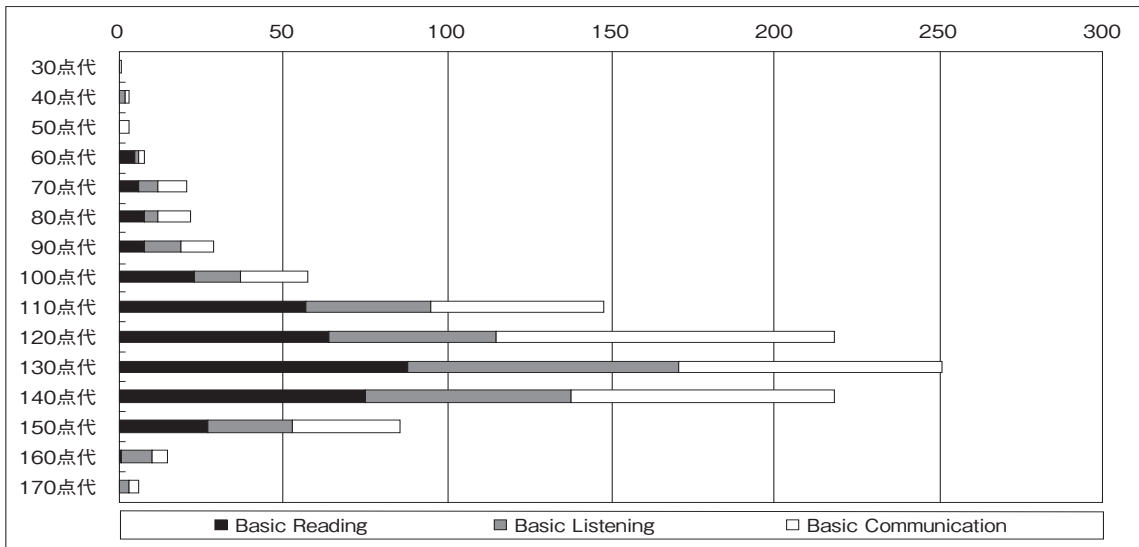
▼あなたにとって、英語は最も何に役立つと思いますか

	学問	進学	留学	就職	公務員、教員採用試験	国際交流・貢献	その他	役立つとは思わない	合計
30点代	0	0	0	1	0	0	0	0	1
40点代	0	0	0	0	0	3	0	0	3
50点代	0	0	0	1	0	1	1	0	3
60点代	0	2	0	2	0	3	1	0	8
70点代	0	2	4	10	0	5	3	2	26
80点代	1	0	3	9	3	9	1	1	27
90点代	4	1	4	12	4	4	2	0	31
100点代	2	4	4	22	3	27	2	2	66
110点代	14	8	11	46	15	46	10	6	156
120点代	19	18	9	59	15	85	17	5	227
130点代	18	9	22	87	21	85	17	4	263
140点代	18	9	16	66	16	85	19	2	231
150点代	11	2	6	27	6	28	6	1	87
160点代	1	2	1	3	0	7	2	0	16
170点代	1	0	0	1	1	2	1	0	6
合計	89	57	80	346	84	390	82	23	1151



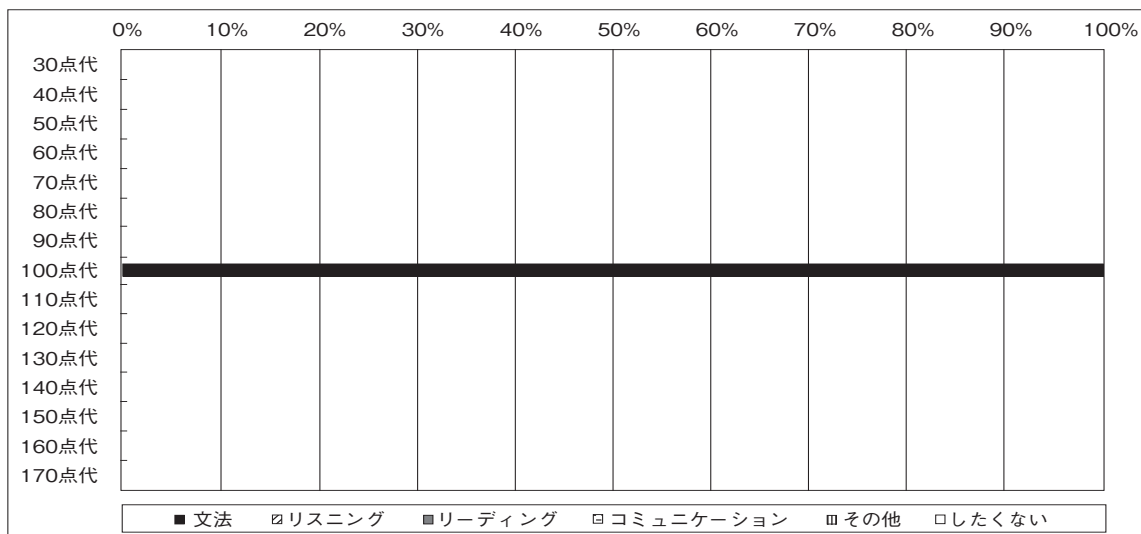
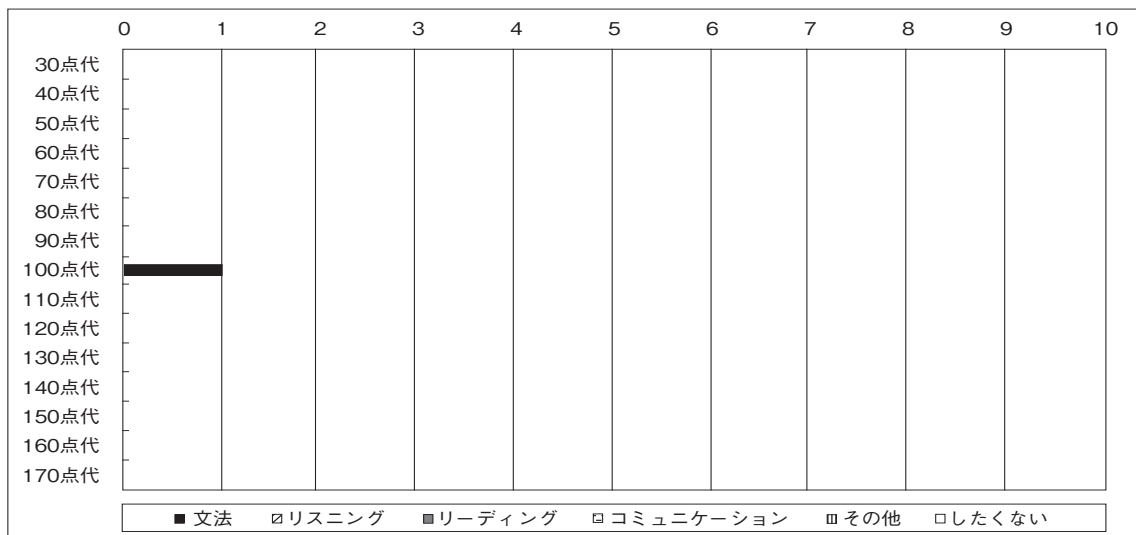
Ⅵあなたが受講した英語の授業で、最も満足したものはどれですか（英語履修者専用）

	Basic Reading	Basic Listening	Basic Communication	合計
30点代	0	0	1	1
40点代	0	2	1	3
50点代	0	0	3	3
60点代	5	1	2	8
70点代	6	6	9	21
80点代	8	4	10	22
90点代	8	11	10	29
100点代	23	14	21	58
110点代	57	38	53	148
120点代	64	51	103	218
130点代	88	83	80	251
140点代	75	63	80	218
150点代	27	26	33	86
160点代	1	9	5	15
170点代	0	3	3	6
合計	362	311	414	1087



Ⅵ英語を勉強するなら、どの分野を一番勉強したいですか (英語以外の外国語履修者専用)

	文法	リスニング	リーディング	コミュニケーション	その他	したくない	合計
30点代	0	0	0	0	0	0	0
40点代	0	0	0	0	0	0	0
50点代	0	0	0	0	0	0	0
60点代	0	0	0	0	0	0	0
70点代	0	0	0	0	0	0	0
80点代	0	0	0	0	0	0	0
90点代	0	0	0	0	0	0	0
100点代	1	0	0	0	0	0	1
110点代	0	0	0	0	0	0	0
120点代	0	0	0	0	0	0	0
130点代	0	0	0	0	0	0	0
140点代	0	0	0	0	0	0	0
150点代	0	0	0	0	0	0	0
160点代	0	0	0	0	0	0	0
170点代	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	0	0	0	1



(集計：山本 理絵)

FD Review

基礎學力調查

基礎学力調査の結果と今後の指針

教授法開発室員 近 藤 敏 夫

1. 調査の概要

教授法開発室では本学学生の総合的な基礎学力を把握することを目的として、2000年度より基礎学力調査を実施してきた。2008年度はその9回目にあたる。試験問題には全国規模の就職対策試験を使用している。試験は1回生と3回生を対象にして実施し、両者の違いをみてきた。

学生には試験結果の個人別データが送付され、全国レベルで学力の相対的位置を確認すること、また、卒業後の志望分野に応じて学習上のアドバイスを得ることができるようになっている。

試験は春学期オリエンテーション時に実施してきた。受験率は1回生が9割5分前後と高く、3回生が6割前後である(表1)。2000年度と2001年度はA社の就職総合テストを使用し、2002年度以降はB社の一般常識試験対策テスト(従来から就職課が3回生を対象に実施してきた)を使用している。B社の試験には「01版」と「02版」の2種類があり、それぞれの版はほぼ同一の設問からできている。なお、調査の目的とこれまでの経緯については『FD Review』No.3を参照されたい。

表1 基礎学力調査実施概要

	実施日	対象者	受験者数(受験率)	使用試験問題
1回目 (予備調査)	2000年12月	1回生	779人	A社(70分)
	2000年12月	上回生	104人	A社(70分)
2回目	2001年4月9日	1回生	1,369人	A社(70分)
	—	—	—	—
3回目	2002年4月8日	1回生	1,498人(93.6%)	B社01版(40分)
	2002年4月9日	3回生	990人(59.8%)	B社01版(40分)
4回目	2003年4月7日	1回生	1,436人(93.4%)	B社01版(40分)
	2003年4月9日	3回生	936人(61.4%)	B社01版(40分)
5回目	2004年4月6日	1回生	1,470人(98.3%)	B社02版(40分)
	2004年4月5日	3回生	1,021人(65.0%)	B社02版(40分)
6回目	2005年4月4日	1回生	1,427人(93.1%)	B社01版(40分)
	2005年4月6日	3回生	946人(60.9%)	B社01版(40分)
7回目	2006年4月4日	1回生	1,528人(98.1%)	B社01版(40分)
	2006年4月5日	3回生	936人(62.5%)	B社01版(40分)
8回目	2007年4月3日	1回生	1,468人(98.5%)	B社01版(40分)
	2007年4月4日	3回生	885人(61.0%)	B社01版(40分)
9回目	2008年4月3日	1回生	1,476人(98.1%)	B社02版(40分)
	2008年4月4日	3回生	905人(56.7%)	B社02版(40分)

2. 試験内容

A社試験の制限時間は70分で、設問は100題の小問から構成されている。B社試験の制限時間は40分で、設問は120題の小問から構成されている。両社試験とも設問の内容は「基礎常識」と「社会常識」に分けることができる(表2)。基礎常識は高校の5教科に対応する「国語」「数理」「英語」「社会」の4科目、社会常識は社会人として心得ておくべき「日常生活」と「時事問題」の2科目である。

なお、B社の「01版」および「02版」の設問例については『FD Review』No.2とNo.3を参照されたい。

表2 設問の分類

領域	質問項目の特徴	科目群
基礎常識	高校で学習してきた科目	A社：「英語」、「国語」、「数学・理科」、「地理・歴史」、「社会・思想」、「政治・経済」(各科目とも10問)
	(A社60問、B社80問)	B社：「英語」「国語」「数理」「社会」(各科目とも20問)
社会常識	社会人としての知識と教養	A社：「文学・芸術」(10問)、「マナー総合」(10問)、「時事問題」(20問)
	(A社40問、B社40問)	B社：「日常生活」(20問)、「時事問題」(20問)

3. 本学学生の全国レベルにおける学力

B社試験(2002年度～2008年度使用)は通年にわたって全国の大学で実施されており、その実施時期によって問題が多少異なっている(とくに「時事問題」の設問が異なる)。そのため、全国と本学を素点で比較することが難しいこともあり、便宜上、T得点を用いて本学学生の学力をみることにする(表3)。T得点とは、B社作成の偏差値に準ずる標準化得点のことで、複数大学の受験生を基準として算出されたものである。ただし、「01」版試験と「02」版試験では基準となる大学が異なるため、本学学生のT得点にも違いがみられる。

「総合得点」で経年比較してみると、「01版」試験では2005年度の1回生(47.4)と2006年度の3回生(48.2)が高得点となり、「02版」試験では2004年度の1回生(52.1)と同3回生(51.6)が高得点である。回生にかかわらず、2004年度から2006年度にB社試験を受けた本学学生の学力が高くなっている。

本学入学後の学生の基礎学力の伸びをみるために、1回生時と3回生時に同じ「01版」試験を受験した学年の得点を比較してみよう。「総合得点」は、2003年度1回生(41.7)と2005年度3回生(48.0)の差がプラス6.3ポイントなり、入学後に学生の基礎学力が大幅に伸びたことになる(素点で比較してみても、2003年度1回生(46.2)と2005年度3回生(52.5)の差はプラス6.3ポイントであった)。ところが、2005年度1回生(47.4)と2007年度3回生(45.0)の差は、マイナス2.4ポイントであり、入学後に学生の基礎学力が落ちたことになる(素点比較では、2005年度1回生(51.8)と2007年度3回生(47.0)の差はマイナス2.8ポイントであった)。その他の入学年度の学生をみても、1回生時と3

回生時で基礎学力の伸びに特定の傾向はみられない。むしろ、1回生であれ3回生であれ、B社試験を受験した年度がT得点の高低に反映されている。

つぎに科目別の基礎学力をみてみよう。「01版」試験では、本学学生は回生にかかわらず、基礎常識、社会常識とも全国レベルに達していない。基礎常識では「英語」と「社会」のT得点が低く、社会常識では「時事問題」が全国レベルをかなり下回っている。「02版」試験では、本学学生は全国レベルよりやや成績がよくなり、とくに基礎常識の「英語」と「国語」のT得点が高い。しかし、「02版」試験でも社会常識の「時事問題」は全国レベルをかなり下回っている。本学学生は3回生になっても、社会常識が全国的なレベルに達していない。ちなみに2000年度、2001年度のA社試験でも同様の結果が得られている。すなわち、本学学生は社会常識が全国レベルに達しておらず、とくに「時事問題」が弱い傾向にある。

その他の分析については、過年度の『FD Review』と「教授法開発室だより」を参照されたい。

表3 基礎学力調査のT得点（年度別・回生別）

科目 年度別 回生 (受験者数)	総合得点	基礎常識				社会常識		使用試験
		英語	国語	数理	社会	日常生活	時事問題	
2002年度 1回生 (1,496人) 平均値	40.7	44.5	47.7	47.6	45.0	41.2	37.1	「01」版
標準偏差	9.2	8.5	10.5	9.8	8.2	10.0	7.7	
3回生 (990人) 平均値	40.5	42.7	48.0	46.1	44.4	42.2	38.8	
標準偏差	9.4	7.5	10.4	9.5	8.3	10.5	8.4	
2003年度 1回生 (1,436人) 平均値	41.7	45.3	48.1	48.0	45.2	41.7	38.6	「01」版
標準偏差	9.7	8.4	10.6	10.2	8.2	10.4	7.7	
3回生 (936人) 平均値	41.7	44.0	47.8	47.6	44.4	42.7	40.7	
標準偏差	9.5	7.8	10.4	9.5	8.4	10.5	7.8	
2004年度 1回生 (1,470人) 平均値	52.1	56.0	54.7	52.8	52.1	49.7	43.0	「02」版
標準偏差	9.3	9.5	9.9	9.9	9.8	10.0	8.0	
3回生 (1,021人) 平均値	51.6	52.9	55.1	52.0	51.5	52.0	42.3	
標準偏差	9.1	9.0	9.7	9.7	9.7	10.8	8.5	
2005年度 1回生 (1,427人) 平均値	47.4	49.8	51.3	50.5	47.1	47.3	43.1	「01」版
標準偏差	9.8	9.2	9.9	9.9	8.5	10.7	8.2	
3回生 (946人) 平均値	48.0	47.7	51.6	51.4	47.2	49.5	44.9	
標準偏差	10.4	9.2	9.7	10.4	9.0	11.4	8.5	
2006年度 1回生 (1,528人) 平均値	45.7	47.9	50.2	50.3	45.8	44.0	44.6	「01」版
標準偏差	9.1	8.2	9.2	9.6	7.7	10.2	8.6	
3回生 (936人) 平均値	48.2	48.1	50.7	51.4	46.3	48.3	48.0	
標準偏差	10.5	9.2	9.8	10.4	8.4	11.2	9.8	
2007年度 1回生 (1,468人) 平均値	45.8	48.0	50.7	49.9	45.8	43.6	44.8	「01」版
標準偏差	9.0	8.3	9.5	9.9	8.0	9.9	8.3	
3回生 (885人) 平均値	45.0	46.8	50.2	49.9	45.2	43.9	44.0	
標準偏差	9.6	7.9	9.5	9.7	8.2	10.6	7.7	
2008年度 1回生 (1,476人) 平均値	51.4	55.9	54.7	52.5	50.8	45.9	45.8	「02」版
標準偏差	8.4	9.3	9.6	9.4	9.4	9.0	8.5	
3回生 (905人) 平均値	51.3	54.9	55.3	52.8	51.0	46.2	44.9	
標準偏差	8.8	8.7	9.4	9.3	8.8	9.8	8.8	

(注1) 2004年度と2008年度はB社「02版」の試験問題を使用し、それ以外はB社「01版」の試験問題を使用。

(注2) 各年度の回生毎にT得点が上位2番目までの科目を強調文字で示してある。

4. 入試種別の傾向

本学には10種類以上の入試種別があるが、入試種別に学生をグループ分けして基礎学力をみてみよう(表4-1)。2008年度の1回生では、「総合得点」の平均値の高い順から、「センター試験利用」(56.7)、「一般入試A日程」(53.5)、「公募制推薦」(52.0)となり、「センター試験利用」(56.7)と「指定校推薦」(46.2)の間に10.5ポイントの差がある。

科目別にみると、全科目で「センター試験利用」の平均値が一番高い。続いて「一般入試A日程」の平均値が「国語」を除いたすべての科目で2番目に高い。「公募制推薦」は「国語」(57.2)の平均値が2番目に高い。

「公募制推薦」では、2005年度以降、面接試験の代わりに英語と国語の2教科で試験を課しており、実質的に「一般入試B日程」と同様の入学試験になっている。このことが「公募制推薦」の学生の基礎学力の向上に結び付いていると考えられる。詳細については『FD Review』No.2を参照されたい。

表4-1 2008年度1回生のT得点平均値(入試種別) (B社「02」版試験)

入試種別	科目 総合得点	基礎常識				社会常識	
		英語	国語	数理	社会	日常生活	時事問題
全 体 (1476人)	51.4	55.9	54.7	52.5	50.8	45.9	45.8
一般入試A日程(463人)	53.5	57.5	56.3	53.7	53.2	47.1	46.9
一般入試B日程(305人)	51.7	57.2	53.9	53.6	51.0	45.9	45.7
センター試験利用(45人)	56.7	59.6	60.1	57.4	55.1	47.4	48.3
公募制推薦(364人)	52.0	56.1	57.2	52.3	50.8	46.0	45.5
指定校推薦(156人)	46.2	51.4	49.6	49.1	45.9	44.0	44.0
その他種別(141人)	46.3	51.7	49.1	49.5	46.8	43.3	44.3

(注1) 強調文字は上位2番目までの入試種別を示している。

(注2) センター試験利用は前期と後期を含む

(注3) その他種別はAO選抜、同窓入試、宗門後継者入試、特別推薦入試(スポーツ強化枠、課外活動)

なお、帰国生徒、留学生等、人数が数名の入試種別は省略した。

3回生を入試種別にグループ分けしてみても(表4-2)、基礎学力に大きな差があることが分かる。「総合得点」の平均値は、「センター試験利用」(58.2)、「一般入試A日程」(52.6)、「一般入試B日程」(52.3)の順で高く、「センター試験利用」(58.2)と「その他種別」(46.7)との差は11.5ポイントと大きい。過去の基礎学力調査でも、科目試験を受験した学生と面接試験を受験した学生の間には基礎学力に大きな差がある。詳細は各年度の「教授法開発室だより」を参照されたい。

科目別の得点でみると、2008年度3回生では、「時事問題」(45.4)を除くすべての科目で「センター試験利用」の平均値が一番高い。「一般入試A日程」の学生は、「時事問題」(45.7)で平均値が一番高く、「社会」(52.0)と「日常生活」(46.8)で平均値が二番目に高い。「一般入試B日程」の学生は「英語」(56.7)、「数理」(54.4)、「時事問題」(45.5)で平均値が二番目に高い。「公募制推薦」の学生は「国語」(56.4)で平均値が二番目に高い。

表4-2 2008年度3回生のT得点平均値(入試種別)

(B社「02」版試験)

入試種別	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			英語	国語	数理	社会	日常生活	時事問題
全	体 (905人)	51.3	54.9	55.3	52.8	51	46.2	44.9
一般入試 A 日程	(291人)	52.6	55.6	56.3	54.3	52.0	46.8	45.7
一般入試 B 日程	(184人)	52.3	56.7	55.4	54.4	51.7	45.9	45.5
センター試験利用	(26人)	58.2	57.5	61.4	60.9	56.4	51.9	45.4
公募制推薦	(232人)	50.6	54.9	56.4	50.7	50.5	46.2	43.6
指定校推薦	(108人)	48.4	51.7	52.4	50.4	49.3	45.0	44.4
その他種別	(56人)	46.7	50.9	48.7	50.5	47.4	43.6	45.2

(注1) 強調文字は上位2番目までの入試種別を示している。

(注2) センター試験利用は前期と後期を含む

(注3) その他種別はAO選抜、同窓入試、宗門後継者入試、特別推薦入試(スポーツ強化枠、課外活動)

なお、編入学者等、人数が数名の入試種別は省略した。

本学入学後に学生の基礎学力がどのように変化したかをみてみよう。表4-3は2008年度3回生が本学に入学した時点(2006年度1回生)での入試種別の基礎学力である。「総合得点」の平均値は、「センター試験利用」(50.8)、「一般入試A日程」(47.9)、「一般入試B日程」(46.9)、「公募制推薦」(45.3)の順に高く、「センター入試」(50.8)と「その他種別」(40.8)との差は10.0ポイントと高い。この1回生時での基礎学力の差は、3回生時では11.5ポイントとなり、本学入学後に学生の基礎学力の差が広がったことになる。過去の基礎学力調査でも、入試種別でみると、本学学生は入学後2年間で基礎学力の差があまり縮小しないか、むしろ広がる傾向にある。詳細については『FD Review』No.2を参照されたい。

表4-3 2006年度1回生のT得点平均値(入試種別)

(B社「01」版試験)

入試種別	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			英語	国語	数理	社会	日常生活	時事問題
全	体 (1528人)	45.7	47.9	50.2	50.3	45.8	44.0	44.6
一般入試 A 日程	(490人)	47.9	49.5	51.9	52.0	46.9	45.2	45.9
一般入試 B 日程	(295人)	46.9	49.9	50.8	51.1	46.2	44.2	44.9
センター試験利用	(44人)	50.8	50.4	53.7	55.2	47.9	47.9	48.6
公募制推薦	(391人)	45.3	47.5	51.0	49.0	45.4	44.0	44.0
指定校推薦	(185人)	41.7	44.4	46.6	48.2	43.8	41.3	42.4
その他種別	(116人)	40.8	42.6	45.1	46.8	44.2	41.6	42.6

(注1) 強調文字は上位2番目までの入試種別を示している。

(注2) センター試験利用は前期と後期を含む

(注3) その他種別はAO選抜、同窓入試、宗門後継者入試、特別推薦入試(スポーツ強化枠、課外活動)

なお、留学生等、人数が数名の入試種別は省略した。

5. 学科別の傾向

表5-1は2008年度1回生の学科別T得点平均値である。「総合得点」は「理学療法」(56.8)、「教育」(55.1)、「社会福祉」(52.6)の順に高く、「理学療法」(56.8)と「中国」(46.2)との差は10.6ポイントである。

科目別にみると、「理学療法」は「社会」を除くすべての科目で平均値が1番高い。以下同様に、「教育」は「社会」(53.2)が1番目、「英語」(58.6)と「国語」(57.7)が2番目、「数理」(56.9)と「日常生活」(47.8)と「時事問題」(46.7)が3番目に高い。「社会福祉」は「日常生活」(48.0)が1番高く、「英語」(58.0)が3番目に高い。「人文」は「社会」(51.8)が2番目、「国語」(56.2)が3番目に高い。「現代社会」は「社会」(51.8)と「時事問題」(47.1)が2番目に高い。「作業療法」は「数理」(57.8)が2番目に高い。

各科目で学科間の差をみると、「英語」では「理学療法」(61.8)と「中国」(52.4)との差が9.4ポイント、以下同様に、「国語」8.9ポイント、「数理」11.6ポイント、「社会」6.1ポイント、「日常生活」6.4ポイント、「時事問題」6.2ポイントの差があった。

表5-1 2008年度1回生のT得点平均値(学科別)

(B社「02版」試験)

学 科	科 目	総合得点	基 礎 常 識				社会常識	
			英語	国語	数理	社会	日常生活	時事問題
全 体 (1476人)		51.4	55.9	54.7	52.5	50.8	45.9	45.8
人 文 (351人)		51.5	54.4	56.2	51.0	51.8	46.7	45.9
中 国 (54人)		46.2	52.4	50.3	50.3	47.1	41.9	42.1
英 米 (84人)		47.7	56.2	49.9	49.7	48.2	42.6	44.3
教 育 (129人)		55.1	58.6	57.7	56.9	53.2	47.8	46.7
臨床心理 (62人)		49.4	54.9	55.4	52.4	48.6	41.6	44.6
現代社会 (237人)		51.6	55.3	55.0	52.3	51.8	45.5	47.1
公共政策 (170人)		48.3	54.0	50.1	51.5	49.4	43.3	45.0
社会福祉 (306人)		52.6	58.0	55.6	52.6	50.7	48.0	46.0
理学療法 (40人)		56.8	61.8	58.8	61.3	50.0	48.0	48.3
作業療法 (43人)		52.0	57.0	54.2	57.8	50.3	45.7	43.1

(注) 強調文字は各科目とも上位3学科を示している。

表5-2は2008年度3回生の学科別T得点の平均値である。「総合得点」は「臨床心理」(55.0)、「教育」(54.3)、「人文」(53.0)の順に高く、「臨床心理」(55.0)と「英米」(46.1)の差は8.9ポイントである。

科目別にみると、「臨床心理」が「国語」(59.0)と「日常生活」(50.8)で平均値が一番高く、「英語」(57.9)で平均値が2番目、「社会」(51.8)と「時事問題」(45.6)で平均値が3番目に高い。以下同様に、「教育」は「社会」(53.7)が1番目、「国語」(58.1)と「数理」(56.1)が2番目、「英語」(57.4)と「日常生活」(47.6)が3番目に高い。「人文」は「時事問題」(46.0)が1番目、「社会」(52.6)と「日常生活」(47.7)が2番目、「国語」(57.8)が3番目に高い。

各科目で学科間の差をみると、「英語」では「臨床心理」(57.9)と「中国」(51.2)との差が6.7ポイント、以下同様に、「国語」9.1ポイント、「数理」8.1ポイント、「社会」8.2ポイント、「日常生活」9.8ポイント、「時事問題」2.8ポイントの差があった。

表5-2 2008年度3回生のT得点平均値(学科別)

(B社「02版」試験)

学 科	科 目	総合得点	基 礎 常 識				社会常識	
			英語	国語	数理	社会	日常生活	時事問題
	全 体 (905人)	51.3	54.9	55.3	52.8	51.0	46.2	44.9
	人 文 (224人)	53.0	54.5	57.8	53.5	52.6	47.7	46.0
	中 国 (17人)	48.3	51.2	54.2	50.2	49.6	43.7	43.5
	英 米 (54人)	46.1	56.5	49.9	48.1	45.5	41.0	43.2
	教 育 (106人)	54.3	57.4	58.1	56.1	53.7	47.6	44.8
	臨床心理 (49人)	55.0	57.9	59.0	55.4	51.8	50.8	45.6
	現代社会 (120人)	50.9	54.3	54.6	52.3	51.5	46.6	44.4
	公共政策 (81人)	49.3	52.2	52.6	49.9	50.2	46.2	45.9
	社会福祉 (192人)	49.2	53.9	53.8	51.6	49.1	43.7	44.2
	理学療法 (25人)	52.0	56.9	53.9	56.2	50.6	47.2	43.4
	作業療法 (37人)	52.1	58.1	53.0	56.0	51.1	46.5	44.1

(注) 強調文字は各科目とも上位3学科を示している。

本学入学後の学生の基礎学力の伸びを学科別にみてみよう。表5-3は2008年度3回生が本学に入学した時点(2006年度1回生)での学科別の基礎学力である。「総合得点」の平均値は、「理学療法」(53.0)、「作業療法」(49.3)、「社会福祉」(47.1)の順に高く、「理学療法」(53.0)と「中国」(43.3)との差は9.7ポイントである。この1回生時での基礎学力の差は、3回生時には8.9ポイントと縮小している。「01版」試験と「02版」試験との違いがあるので、T得点のポイント差が縮小したことをもって基礎学力の差が縮小したかどうかを判断することはできない。そこで、過去のデータで確認すると(1回生時と3回生時で同じ「01版」試験を受験した学年で比較)、学科別でみた場合、1回生時の基礎学力の差は3回生時に縮小していることがわかる。つまり、学生の基礎学力は本学入学後に学科間での差が縮小していると推測できる。詳細については『FD Review』No.2を参照されたい。

また、過去のデータを科目別に確認すると、本学入学後に学科の特徴にみあった科目のT得点が上昇している。例えば、「英米」では「英語」のT得点の上昇が大きいなどである。このことが入学時点の学科間での学生の基礎学力の差が3回生になると縮小することに関連している。詳細については、「教授法開発室だより」vol.12およびvol.13を参照されたい。(なお、表3にあるように、2006年度のB社「01版」試験と2008年度のB社「02版」試験で科目別のT得点の平均値に違う傾向があるため、2006年度1回生と2008年度3回生を比較することができないことを付言しておく)。

表5-3 2006年度1回生のT得点平均値(学科別)

(B社「01版」試験)

学 科	科 目	総合得点	基 礎 常 識				社会常識	
			英語	国語	数理	社会	日常生活	時事問題
全 体 (1528人)		45.7	47.9	50.2	50.3	45.8	44.0	44.6
人 文 (373人)		44.2	45.4	50.2	49.0	45.7	43.4	43.4
中 国 (58人)		43.3	45.6	48.6	47.7	44.7	41.0	45.2
英 米 (86人)		45.0	51.0	49.1	48.5	44.4	41.6	43.7
教 育 (154人)		46.3	49.5	50.3	51.7	45.5	43.7	44.1
臨床心理 (63人)		47.0	49.5	52.0	51.7	45.9	44.8	43.9
現代社会 (244人)		45.6	46.9	49.7	49.5	46.6	44.4	45.1
公共政策 (148人)		44.2	45.8	48.6	49.4	46.3	42.6	44.1
社会福祉 (321人)		47.1	49.6	51.2	50.9	45.9	45.2	45.5
理学療法 (39人)		53.0	55.8	53.0	58.6	46.1	49.6	48.5
作業療法 (42人)		49.3	50.7	51.3	56.4	46.2	45.3	47.5

(注) 強調文字は各科目とも上位3学科を示している。同点の場合は小数点第2位で順位を決めてある。

6. 基礎学力調査の今後の方針

2002年度から2008年度までのデータを細部にわたって経年比較してみたところ、入手データに不備な点があることが推測されるため、これまでの分析には信頼性が欠けることが判明した。そのため、教授法開発室で検討した結果、2009年度からはB社試験を使用しないこととなった。その主な理由として以下の4点があげられる。(1) B社試験を受験する大学数が減少し、全国との比較に信頼性が置けなくなった。(2) 制限時間40分で設問数120題ということもあり、学生が時間内に解答不可能であると考えられる。(3) B社からエクセル形式に変換されたデータを入手しているが、入手データの矛盾個所について問い合わせても不明である。(4) 基礎学力調査の当初の目的として、「カリキュラム構想や学習指導への資料として活用する」ことが掲げられたが、この目的にもB社試験は活用されてこなかった。

以上のような経緯から2009年度は基礎学力調査の結果を初年次教育・導入教育等のカリキュラムに生かすことを念頭におき、新たな形式で調査を実施することになった。具体的には、対象者は新入生のみとし、C社の「国語」の学力調査と「学習実態調査」を合わせて実施し、1回生の「日本語文章表現」等のカリキュラムに反映することを検討している。

FD Review

ト
一
一
八
了
業
授

授業アンケート

教授法開発室員 小林 隆

1. はじめに（授業アンケート実施者数・実施率の推移）

本学の授業アンケートは2001年度から始まり、2008年度で8年目を迎えた。実施当初はとにかくアンケートをとるという風潮があった。また、教員評価であるとの誤解を受けた時期もあるようだが、ここ3年間は「授業アンケートは教員の評価にあるのではなく、学生の学習状況を把握しそれを授業改善に役立てること」を目的としている。次ページには実施当初からの授業アンケート実施者数・実施率の推移データを掲載している。2005年度までは5割に満たなかった専任教員のアンケート実施率が、ここ3年間は8割を超えている。さらに今年度の顕著な現れは、非常勤講師の実施率がこれまでの5割前後から8割弱にまで急伸したことである。今後も実施率100パーセントを目指して取り組んでいきたい。なお、実施率が飛躍的に上昇した2006年度は、次のことを教授法開発員会議において確認をしている。

（FD Review vol.2 より）

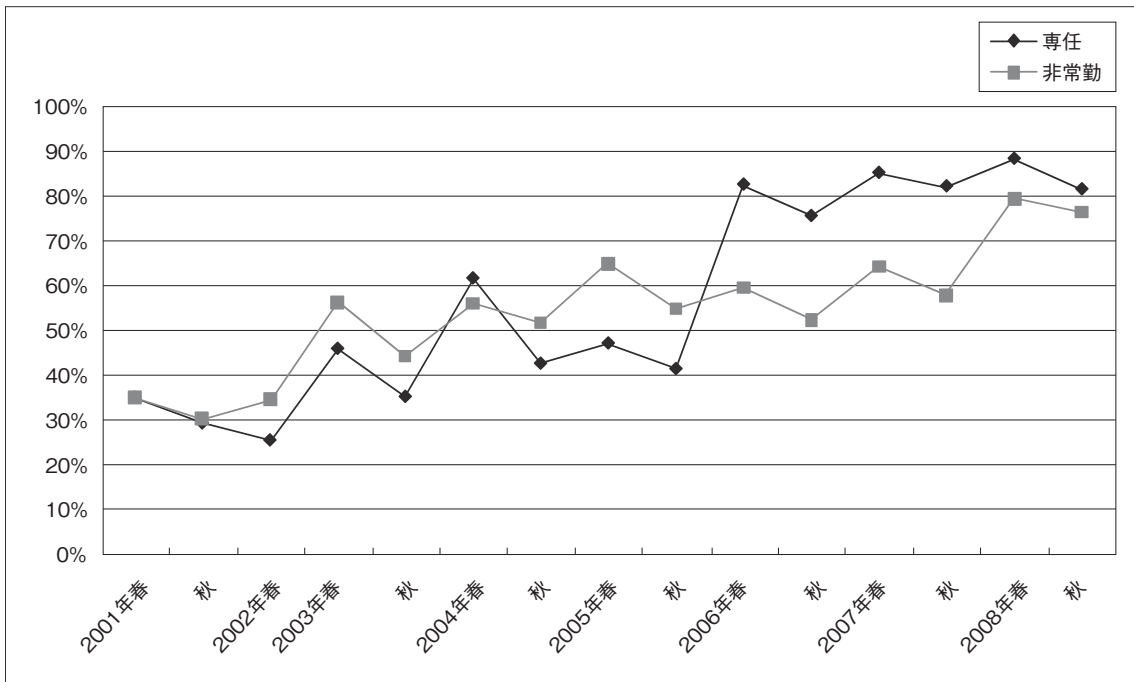
- ① アンケート調査の対象は、教員の担当科目1科目以上（最低1科目）とする。
- ② アンケート調査の目的が、教員の評価にあるのではなく、学生の理解力・能力を高める（ひいては大学のさらなる質的向上）のための授業の改善に役立てることにあることをピーアールする。
- ③ 専任教員に対しアンケート調査の意義および実施の理解を深める働きかけを教授会を通じて積極的に行うとともに、実施期間中には専任・非常勤を含めて教員に積極的な協力を働きかける。
- ④ 学長・副学長・学部長に対し大学運営会議を通じてアンケート調査の重要性を訴え、その実施に向けて陣頭に立つことを要請する。
- ⑤ アンケートの調査結果が授業改善に生かせるよう実施時期・調査項目を工夫する。
- ⑥ アンケート調査を含めて授業の改善問題が教授会の議題として取り上げられ、教員相互の教育に対する研鑽をつめるようにする。

今年度も基本的にはこれら6項目は踏襲している。また2007年度からは、より組織的にFD活動を行っていくために教育開発委員会が設置され、各学部や関係各部署との連携を図ることとなった。しかし、学部内では授業改善が個々の教員に任されている現状であり、⑥は依然として課題となっている。その解決のためにも学部毎に授業改善にかかわる「学部内FD」を推進していくことは重要である。また、そのような「学部内FD」はシラバス間の連携を生んだり新しいプロジェクトを立ち上げたりする副次的な効果もあると考える。

授業アンケート実施者数・実施率の推移

		2001年春	秋	2002年春	2003年春	秋	2004年春	秋
専任	実施者数	59	49	44	77	59	107	74
	総数	169	168	173	168	168	174	174
	実施率	34.9%	29.2%	25.4%	45.8%	35.1%	61.5%	42.5%
非常勤	実施者数	151	130	181	308	242	300	277
	総数	434	434	527	550	550	538	538
	実施率	34.8%	30.0%	34.3%	56.0%	44.0%	55.8%	51.5%

2005年春	秋	2006年春	秋	2007年春	秋	2008年春	秋
87	76	140	129	153	146	171	157
185	184	170	171	180	178	194	193
47.0%	41.3%	82.4%	75.4%	85.0%	82.0%	88.1%	81.3%
321	294	352	309	311	277	382	346
496	538	593	593	485	481	482	454
64.7%	54.6%	59.4%	52.1%	64.1%	57.6%	79.3%	76.2%



2. 授業アンケートの実施状況（2008年度）

2008年度の全学における専任教員の実施率は、春学期が88.1パーセント、秋学期が81.3パーセントであった。学部・学科間において実施率に差が見られるが、作業療法学科は春・秋ともに実施率100パーセントであった。また、春学期に対して秋学期の実施率が低下しているが、これは同じ名称で春・秋と開講している科目にアンケート調査の必要性が感じられていないのも一因ではないかと考えられる。しかし、本来的には全ての開講科目で学生の学習状況を把握することが大切であり、その点、先述のように非常勤講師の実施率が飛躍的に上昇したことや、今年度より通信課程で授業アンケートが試行的に導入されたことは特筆される。

2008年度授業アンケート学部・学科別実施率（専任教員）

	春学期			秋学期		
	教員数	実施者数	実施率	教員数	実施者数	実施率
人文学科	49	41	83.7%	49	37	75.5%
中国学科	7	6	85.7%	7	7	100.0%
英米学科	9	7	77.8%	9	9	100.0%
文学部	65	54	83.1%	65	53	81.5%
教育学科	29	25	86.2%	29	23	79.3%
臨床心理学科	10	7	70.0%	9	6	66.7%
教育学部	39	32	82.1%	38	29	76.3%
現代社会学科	18	16	88.9%	18	16	88.9%
公共政策学科	14	13	92.9%	14	11	78.6%
社会学部	32	29	90.6%	32	27	84.4%
社会福祉学科	27	26	96.3%	27	23	85.2%
社会福祉学部	27	26	96.3%	27	23	85.2%
理学療法学科	10	10	100.0%	10	7	70.0%
作業療法学科	8	8	100.0%	8	8	100.0%
保健医療技術学部	18	18	100.0%	18	15	83.3%
外国人契約教員	4	3	75.0%	4	3	75.0%
実習指導講師	9	9	100.0%	9	7	77.8%
計	194	171	88.1%	193	157	81.3%

※専任総数 213 名のうち、以下の人数を除く
 研修期間 9 名
 未開講教員 10 名
 計 19 名
 実施率は総数に対する実施者数の割合で算出
 同科目名で分担講義がある場合、
 講義をする教員の頭数で計算

※専任総数 213 名のうち、以下の人数を除く
 研修期間 9 名
 未開講教員 11 名
 計 20 名
 実施率は総数に対する実施者数の割合で算出
 同科目名で分担講義がある場合、
 講義をする教員の頭数で計算

3. 授業アンケートの結果から

授業アンケートは、下記のように分類して集計した。以下では(1)～(5)のデータを読み取り、分析と考察を進める。なお、アンケートの大項目は「①あなた自身の取り組みについて」「②授業について」である。分析と考察はこの大項目にまとめて行っていく。データは最後にまとめて掲載している。

- (1) 全体集計
- (2) 学部別集計
- (3) 開講科目種別集計
- (4) 回生別集計
- (5) クラス規模別集計

(1) 全体集計からの分析・考察

①あなた自身の取り組みについて

- 履修モデルの確立と学生の主体性の間にジレンマがある。
- 学生の学習状況から明らかになったカリキュラムの構造的な問題がある。
- 説明型・理解型の授業から思考型・創造型への授業運営の転換が求められる。

以下に細かい分析と考察を加える。

履修理由は「必修科目」が54.2パーセントと半数を超え、「講義概要（シラバス）を見て関心があった」（22.3パーセント）「卒業後の進路・就職に役立つ」（16.1パーセント）が続く。これに対して「先輩や友人の薦めがあった」（2.8パーセント）と回答している学生は少ない。この結果から、学生は自身の興味・関心や将来の進路・就職の希望に基づいて主体的に科目を履修していると考えられる。ただ、「講義概要（シラバス）を見て関心があった」けれども「必修科目」と回答したケースやその逆のケースが考えられる。「必修科目」や「卒業後の進路・就職に役立つ」けれども、講義概要（シラバス）は非常に魅力的であったという回答が多くなっていくよう教員が魅力ある授業づくりに努めることと、講義概要を読む習慣づけを学生の側に促していくことが大切である。このように「必修科目」との回答を学生の積極性の側面から読み取るのか消極的な側面から読み取るのかで解釈が分かれるが、ここには履修モデルと学生の主体性のジレンマという問題も見えてくるように思う。

次に、欠席回数を見ると0回と1～2回で全回答の86.7パーセントを占め、授業を妨げる行為は約7割の学生が「しなかった」と答えている。また、84.4パーセントの学生が熱心に授業に「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」と回答し、80.2パーセントの学生が授業内容を理解することが「できた」「どちらかといえばできた」と回答している。これらの結果からは毎回の授業には真面目にかつ熱心に取り組む内容も理解できたと自己評価している学生の姿が見て取れる。しかしながら、事前・事後の学習については66.7パーセントの学生が「あまりしなかった」「ほとんどしなかった」と答えている。つまり、授

業アンケートから学生の学習状況を読み取ると、真面目に授業に出席するが事前・事後の学習はあまりしていないことが読み取れる。しかし、授業内容は理解できたと回答している学生が多い。解釈によるが、「理解できた」の意味合いが浅いのではないかと考えられる。文部科学省の基準で言えば1単位45時間の学習時間が設定され授業時間はその中の一部とされる。つまり、厳密に言うと単位当たりの学習時間が確保されていないのが実態である。事前・事後の学習をあまりしていないのに熱心に授業に取り組み内容も理解できました。このようなことはあり得るのか。現在、半期32単位、年間64単位が単位の上限である。しかし、これら単位数分の学習時間を確保することは現実的に不可能な状況となっている。先述のように、履修モデルを再検討したり、単位当たりの学習時間を確保するための構造的な問題を解決する必要がある。また、単位時間内で完結する授業運営からオープンエンド型の授業運営へ、つまり説明型・理解型の授業運営から思考型・創造型の授業運営に転換していくことも重要であろう。さらに、学生の評価も知識量をペーパーで問う従来型の評価から学生の思考や創造力を見る多様な評価方法へ転換していく必要もあろう。

②授業について

- 学生は授業を少し難しいと感じ、授業の進度はちょうど良いと感じている。また、学生に教員の熱意が伝わっている。
- 地道かつ誠実な授業改善に対する取り組みと学生の学習をより有機的に促進する取り組みが求められる。

以下に細かい分析と考察を加える。

今年度より「授業（内容）の難易度はどうでしたか」「授業の進度はどうでしたか」の項目を入れた。これは、教員が学生に求めるものと学生の実態が乖離しているのではないかという問題意識からのものである。

「授業（内容）の難易度はどうでしたか」の設問には「少し難しかった」に44.4パーセント、「自分に合っていた」に42.6パーセントの学生が回答している。また、64.6パーセントの学生が授業の進捗に対して「自分に合っていた」と回答している。このような結果は教員が学生に求めるものと学生の実態は必ずしも大きくは乖離していないと解釈することができる。さらに、「教員の熱意が伝わりましたか」の問いには9割以上の学生が「非常に伝わった」「伝わった」と回答し、「総合的にこの授業に満足していますか」の問いには約85パーセントの学生が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答している。このような結果は、学生と教員のコミュニケーションが少なからずとれており、人間関係が構築されている側面もあると読み取ることができよう。なお、昨年度行ったアンケート結果のクロス集計では教員の熱意が伝わっている授業ほど学生の満足度も高いという結果が出ている。

次に、授業アンケートから読み取れる授業の工夫は、「話し方」(32.4パーセント)「授業の内容構成」(32.1パーセント)「レジュメ」(25.2パーセント)が高い割合を占め、「板書」(16.0パーセント)がそれに続く。また、「視聴覚教材」(14.9パーセント)「教員や学

生同士のコミュニケーション」(13.4パーセント)「授業の動機付け」(10.4パーセント)「学習形態」(10.5パーセント)も高い割合を占めており、学生の学習状況の向上に有効であることが読み取れる。つまり、学生の学習を質的に向上させるためには伝統的な授業に対する誠実な取り組みと学生の学習活動をより有機的に促進する取り組みの両方が求められるものと考えられる。FD Review vol.2の「はじめに」には、授業アンケートの自由記述欄における学生の意見が掲載されている。ここでは改めて述べないが、読み返してみると上記の結果を具体的に考える材料となり、授業改善の際に大きな示唆を与えてくれる。

(2) 学部別集計からの分析・考察

①あなた自身の取り組みについて

- 文学部・社会学部は「講義概要(シラバス)を見て関心があった」を理由として科目履修をしているが学習状況は比較的低調であり、学習内容の理解度も比較的高くない。
- 教育学部・社会福祉学部は「必修科目」を理由として科目履修をしているが学習状況は比較的良好く、学習内容の理解度も比較的高い。
- 保健医療技術学部は「必修科目」を理由として科目履修し学習状況も良い。しかし、学習内容を理解できたと回答した学生は比較的少ない。

以下に細かい分析と考察を加える。

受講理由は、保健医療技術学部(94.4パーセント)はほとんどが「必修科目」であるのに対し、文学部(35.7パーセント)・社会学部(36.1パーセント)は「シラバスを読んで関心があった」であった。教育学部(64.0パーセント)・社会福祉学部(66.0パーセント)も「必修科目」の割合が多かった。欠席や受講態度、学習時間は「教育学部」「社会福祉学部」「保健医療技術学部」で意識が高い状況であった。これは、将来への見通しや免許・資格等との関係で「教育学部」「社会福祉学部」「保健医療技術学部」は比較的明確に目標を持ちやすいからではないか。授業などを通して学問の真の面白さを伝えたり、キャリア教育を推進し早い段階で将来に対する目標を持たせ職業意識を高める必要がある。また、講義概要(シラバス)を読み、興味・関心や将来に対する必要性をもとに自身で主体的に学習計画を立てるための支援をしていくことも大切である。一方、授業内容が抽象的になりすぎると学生が学習内容を具体的にイメージできない場合が多いようである。「教育学部」「社会福祉学部」「保健医療技術学部」で比較的学習状況が良い理由は、具体的な場面における学習が多く、内容をイメージし易いという特性も関係しているものと思われる。実学と教養のバランスという視点もあろう。

昨年度はクロス集計で予習・復習などの学習時間が長いほど授業に対する満足度も高く、短いほど満足度が低かった。これは、学生が必ずしも「楽勝科目」に流れているわけではなく、真に知的欲求を満たし技能の向上を図りたいと考えているものと読み取れる。

②授業について

- 文学部・社会学部は学習形態と教員や学生同士のコミュニケーションに工夫を加えたい。
- 教育学部・社会福祉学部・保健医療技術学部は特にシラバスの記述に工夫を加えたい。

以下に細かい分析と考察を加える。

授業において学生が工夫を感じた点を割合の多い順に書き出した。下記の通りである。

- ・文学部 話し方 (33.3%) 授業の内容構成 (30.7%) レジюме (29.6%)
- ・教育学部 授業の内容構成 (35.7%) 話し方 (34.5%) レジюме (26.0%)
学習形態 (21.6%)
- ・社会学部 レジюме (30.1%) 話し方 (27.9%) 授業の内容構成 (26.0%)
- ・社会福祉学部 レジюме (35.1%) 授業の内容構成 (29.7%) 話し方 (29.7%)
- ・保健医療技術学部 授業の内容構成 (32.8%) 話し方 (30.2%) パワーポイント (27.5%)
学習形態 (26.3%)

授業において学生が工夫を感じた点を割合の少ない順に書き出した。下記の通りである。

- ・文学部 学習形態 (5.2%) シラバスの記述 (5.4%) パワーポイント (6.7%)
- ・教育学部 シラバスの記述 (3.2%) マイクの使い方 (8.4%) パワーポイント
(11.7%)
- ・社会学部 学習形態 (5.2%) シラバスの記述 (5.6%)
教員や学生同士のコミュニケーション (6.5%)
- ・社会福祉学部 シラバスの記述 (2.3%) パワーポイント (3.2%)
- ・保健医療技術学部 シラバスの記述 (1.2%) マイクの使い方 (2.0%) 視聴覚教材
(7.8%)

学部によって授業の特性があると考えられるが、文学部・社会学部は学習形態と教員や学生同士のコミュニケーションに、教育学部・社会福祉学部・保健医療技術学部は特にシラバスの記述に工夫を加える必要があるとも読み取ることができる。

(3) 開講科目種別集計からの分析・考察

①あなた自身の取り組みについて

- 共通科目や外国語科目と比べて専門基礎科目の学習状況が芳しくない。原因を明らかにし、カリキュラム編成・授業改善・学生指導等の面で総合的に考えていくべき課題である。

以下に細かい分析と考察を加える。

履修理由は、共通科目 (57.5 パーセント) と外国語科目 (88.7 パーセント) で「必修科目」が多く、専門基礎科目 (38.9 パーセント) は「講義概要 (シラバス) を見て関心があっ

た」が多かった。また、「これまでこの授業での欠席をどれくらいしましたか」の問いには、共通科目は0回に52.6パーセント、1～2回に38.3パーセントの学生が回答した。外国語科目は同46.3パーセントと39.3パーセント、専門基礎科目は同42.7パーセントと43.7パーセントであった。予想では、専門基礎科目の学習状況が良いものと考えていたが、正反対の結果であった。非常に憂慮する結果ではなかろうか。さらに専門基礎科目は、「1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか？」の問いに対し、「十分学習した」5.1パーセント、「ある程度学習した」が14.3パーセントであった。つまり、8割以上の学生が専門基礎科目に対して事前・事後の学習を「あまりしなかった」「ほとんどしなかった」と回答している。また、授業に「熱心に取り組んだ」の割合が24.0パーセント、授業を「理解できた」が19.1パーセントとなっていた。共通科目や外国語科目と比べ、学生の学習状況が大変芳しくない状況である。これらの開講科目群の傾向は次に述べる回生別の傾向とも大きく関係している。つまり、カリキュラム編成・授業改善・学生指導の点で総合的に考えていかななくてはならない課題といえる。

②授業について

- 専門基礎科目は共通科目や外国語科目と比較して満足度が芳しくない。
- 共通科目と専門基礎科目は学習形態と教員や学生同士のコミュニケーションに、外国語科目は特にパワーポイントやマイクの使用に工夫を加えたい。

以下に細かい分析と考察を加える。

「授業（内容）の難易度はどうでしたか」の設問に対して「かなり難しかった」「少し難しかった」と回答した学生は、共通科目で51.3パーセント、外国語科目で45.6パーセント、専門基礎科目で63.3パーセントであった。①とも関連させて述べると、専門基礎科目は難しいととらえている学生が比較的多いにもかかわらず事前・事後の学習時間は最も少ない。また、「教員の熱意は伝わりましたか」の設問に対して「非常に伝わった」「伝わった」と回答した学生は、共通科目で92.1パーセント、外国語科目で92.5パーセント、専門基礎科目で89.5パーセントであった。さらに、専門基礎科目は授業の満足度が低調（共通科目が「満足している」41.8パーセントに対して30.0パーセント）なのも気に掛かることである。先述のように、学生の学習状況とも関連させながら、今後考えていかななくてはならない課題である。

授業において学生が工夫を感じた点を割合の多い順に書き出した。下記の通りである。

- ・共通科目 話し方（36.7%）授業の内容構成（33.6%）
- ・外国語科目 授業の内容構成（42.0%）話し方（36.9%）
教員や学生同士のコミュニケーション（22.3%）
- ・専門基礎科目 レジユメ（28.6%）話し方（27.9%）授業の内容構成（24.6%）

授業において学生が工夫を感じた点を割合の少ない順に書き出した。下記の通りである。

- ・共通科目 学習形態（4.4%）シラバスの記述（4.5%）視聴覚教材（4.9%）

- | | |
|---------|---|
| ・外国語科目 | パワーポイント(0.3%) シラバスの記述(3.1%) マイクの使い方(4.0%) |
| ・専門基礎科目 | 学習形態(3.5%) シラバスの記述(5.2%) |
| | 教員や学生同士のコミュニケーション(5.4%) |

開講科目の種別によって授業の特性があると考えられるが、共通科目と専門基礎科目は学習形態と教員や学生同士のコミュニケーションに、外国語科目は特にパワーポイントやマイクの使用に工夫を加える必要があるとも読み取ることができる。また(2)でも明らかになっていたことだが、授業の根幹となる「授業の内容構成」は、学生から比較的良好な評価を得ていると考えられる。

(4) 回生別集計からの分析と考察

①あなた自身の取り組みについて

- 学年が上がるにしたがって主体的に科目選択をしているが、それが良好な学習状況に結びついていない。
- 5回生以上の学生は「卒業後の進路・就職に役立つ」理由で科目を履修している割合が低い。目標を失っている可能性があるため相談や指導をする必要がある。

以下に細かい分析と考察を加える。

「履修理由について」は、「講義概要(シラバス)を見て関心があった」「卒業後の進路・就職に役立つ」「先輩や友人の薦めがあった」「必修科目」「時間割や開講日の都合」の全ての項目で、1回生から4回生の間きれいな比例・反比例の関係があった。例えば「講義概要(シラバス)を見て関心があった」は1回生が19.4パーセント、2回生が20.0パーセント、3回生が27.0パーセント、4回生34.6パーセントであった。学年が上がるに従って必修科目が少なくなるため科目選択の自由度が必然的に高まることが原因であろうが、これに対して学生の学習状況は、各回生の間にあまり大きな差が認められない。例えば「熱心に授業に取り組みましたか」の設問に対して「取り組んだ」と回答した学生は1回生が33.1パーセント、2回生が30.6パーセント、3回生が32.6パーセント、4回生が37.4パーセントであった。また、気に掛かることは5回生以上の学生は「卒業後の進路・就職に役立つ」理由で科目を履修している割合が低い(12.2パーセント)。目標を失っている可能性があるため相談や指導の機会を増やす必要がある。

②授業について

- 学年が上がるにしたがって、教員の熱意が伝わり授業の満足度も高くなっている。学生の学習を促進する要素には授業の内容構成や工夫、テクニックもさることながら暖かい人間関係づくりが不可欠なことは言うまでもない。

以下に細かい分析と考察を加える。

1 回生から 5 回生以上のすべての学年において、「授業（内容）の難度はどうでしたか」「授業の進捗はどうでしたか」で顕著な差は認められなかった。例えば、「授業（内容）の難度はどうでしたか」の設問に対して「少し難しかった」と回答した学生は、1 回生が 44.3 パーセント、2 回生が 44.0 パーセント、3 回生が 46.3 パーセント、4 回生が 42.3 パーセント、5 回生以上が 36.2 パーセントであった。しかし、「教員の熱意が伝わりましたか」「総合的にこの授業に満足していますか」の設問では学年が上がるにしたがって肯定的な回答が増えている。例えば、「教員の熱意は伝わりましたか」の問いに「非常に伝わった」と回答した学生は、1 回生が 30.4 パーセントなのに対して 4 回生は 35.1 パーセント、5 回生以上は 43.0 パーセントである。また、「総合的にこの授業に満足していますか」の問いに「満足している」と回答した学生は、1 回生が 37.7 パーセントなのに対して 4 回生は 47.0 パーセント、5 回生以上は 51.7 パーセントとなっている。これは、ゼミや普段の学生生活での関わりなどによって教員とのコミュニケーションをとる機会が多くなり、関係が構築されてきていることもその一因としてあげられよう。昨年度のアンケートではクロス集計の結果、教員と学生の関係が良好な科目は学生の理解度も満足度も高いという傾向が見られた。やはり、学生の学習を促進する要素には授業の内容構成や工夫、テクニックもさることながら暖かい人間関係づくりが不可欠なことは言うまでもない。

(5) クラス規模別集計からの分析と考察

①あなた自身の取り組みについて

○大規模での授業になるにしたがって学生の学習状況は芳しくない。全体的な授業運営の点で仕方がないのではあるが、大規模クラスへの環境的な支援や授業の工夫のあり方も検討していく必要がある。

以下に細かい分析と考察を加える。

かねてから懸案となっている授業の適正規模の問題である。一言で言うと、大規模での授業になるにしたがって学生の学習状況は芳しくなくなっている。例えば、「熱心に授業に取り組みましたか」の設問に対して「取り組んだ」と回答した学生は、30 人未満で 44.6 パーセント、30 人以上 50 人未満で 35.6 パーセント、50 人以上 100 人未満で 26.4 パーセント、100 人以上 150 人未満で 23.8 パーセント、150 人以上で 27.9 パーセントである。また、「授業を理解することができましたか」の問いに対して、30 人未満では 38.7 パーセントが「できた」、49.0 パーセントが「どちらかといえばできた」と回答しているのに対して、150 人以上のクラスでは「できた」が 23.3 パーセント、54.3 パーセントが「どちらかといえばできた」と回答している。

②授業について

- 少人数のクラスほど「授業の内容構成」に対する関心が高い。大規模クラスでは、「話し方」に加え「学習形態」やコミュニケーションにも工夫を加え、学生の学習をより活性化させていきたい。
- 大規模クラスになるにしたがって、学生の授業に対する満足度は低下している。

授業運営の工夫により学生の学習の質を改善することは可能であろう。以下では、クラス規模別に学生が授業に対して感じている工夫をまとめてみた。

授業において学生が工夫を感じた点を割合の多い順に書き出した。下記の通りである。

- ・30人未満 授業の内容構成 (39.8%) 話し方 (35.8%)
教員や学生同士のコミュニケーション (24.0%)
- ・30人以上 50人未満 授業の内容構成 (35.9%) 話し方 (30.9%)
- ・50人以上 100人未満 レジюме (32.2%) 話し方 (30.6%)
- ・100人以上 150人未満 話し方 (31.9%) 授業の内容構成 (26.3%)
- ・150人以上 話し方 (36.7%) レジюме (29.1%)

授業において学生が工夫を感じた点を割合の少ない順に書き出した。下記の通りである。

- ・30人未満 マイクの使い方 (2.1%) シラバスの記述 (3.6%)
パワーポイント (4.6%)
- ・30人以上 50人未満 シラバスの記述 (3.5%) マイクの使い方 (5.6%)
パワーポイント (8.6%)
- ・50人以上 100人未満 シラバスの記述 (4.5%) 学習形態 (7.3%)
パワーポイント (8.0%)
教員や学生同士のコミュニケーション (9.1%)
- ・100人以上 150人未満 シラバスの記述 (4.2%) 学習形態 (5.9%)
教員や学生同士のコミュニケーション (7.1%)
- ・150人以上 シラバスの記述 (4.4%) パワーポイント (7.8%)
学習形態 (8.6%) 教員や学生同士のコミュニケーション (9.6%)

50人までの少人数のクラスでは、「授業の内容構成」に工夫を感じている学生が最も多かった。これは、必然的に教員や学生同士との距離を近く感じているため、授業の根幹である「授業の内容構成」に目がいきやすくなっているものとも解釈できる。つまり、少人数のクラスほど純粋に学習内容に興味・関心を持ちやすくなっているのではないか。次に大規模クラスを見ていく。大規模のクラスでは「話し方」に工夫を感じている学生が最も多かった。これに対して、「学習形態」や「教員や学生同士のコミュニケーション」に工夫を感じている割合が少ない。これは、講義形式の授業が多いことを示している。大規模クラスでも「話し方」に加えて学習形態やコミュニケーションにも工夫を加え、学生の学習をより活性化させていきたい。ただ、教員単独ではかなりの負担となる。この点につい

ては、TA を有効に利用していくなどの方法が考えられる。最後に、「総合的にこの授業に満足していますか」の問いでは、30 人未満のクラスでは 52.8 パーセントが「満足している」、38.9 パーセントが「どちらかといえば満足している」と回答し、150 人以上のクラスでは 38.0 パーセントが「満足している」、44.6 パーセントが「どちらかといえば満足している」と回答している。つまり、大規模での授業になるに従って学生の「満足度」は低下している。施設面を含めて考えていきたい課題である。

4. 総括

昨年度も「授業アンケート」を担当したが、ここで改めてアンケートから明らかになった課題をまとめておきたい。

- ① 授業には熱心に参加するが、事前・事後の学習を深くしていない学生が多い。原因は 2 点あると考察する。1 点目は前述のようにカリキュラム編成上の問題である。カリキュラムをスリム化して学生の学習時間を確保することが求められる。2 点目は授業構成の問題である。時間内で説明してわからせる理解型の授業ばかりでなく、知的刺激や課題を与えるなどの工夫から思考型・創造型の授業へ転換していくことである。つまり、知識や技能をわかりやすく伝達する伝統的な授業観から様々な考えを交流する授業観への転換が求められよう。この点では、e-learning を活用することも考えられる。さらに、学生の評価も知識の量をペーパーで問う従来型の評価から学生の思考や創造力を見る多様な評価方法へ転換していく必要もあろう。
- ② 授業において、教員や学生同士の交流を望む学生が多い。また、このような授業は学生の「理解度」「満足度」が高い。①と同様に、e-learning を活用することも考えられる。また、「授業の内容構成」に関心が高い学生が多い。授業の難易度が「少し難しかった」方が学生の満足度は高い。知的刺激を望んでいると考えられる。
- ③ とは言うものの、「声が明瞭で話がわかりやすい」「板書の量や構成が適当」「資料やパワーポイントの量や構成が適当」という授業の基本的なところが学生の学習を促進していることも読み取れる。学生の目線にたった授業運営が望まれる。今回も、例えば「丁寧に読める字で書いてもらいたい。」「たくさん、しかも速いスピードで書いていくので、ノートをとることで精一杯。」「板書が思いつきの板書としか思えない。構成を考えてもらいたい。」「パワーポイントの画面が変わるスピードが速くついていけない。」「パワーポイントが文字ばかりで理解しにくい。」など、学生から学び手として現実的な指摘があった。板書・パワーポイント・資料配付の長所や短所を理解し意図的・計画的に使い分けていきたいものである。
- ④ 学生の「理解度」「満足度」が高い授業は以下のような授業であると考えられる。

- ・わかったという実感が持てたとき
- ・様々な考え方に触れたとき（教員や学生同士の交流）
- ・更にわからないことが出てきたとき
- ・今までの概念を覆されたとき
- ・本質を追究する面白さに気づいたとき
- ・自身の生き方に影響を与えると実感できたとき

昨年度も述べたが、先生方の授業運営に対する熱意と工夫の結果、学生の学習の質を高める授業にはこれらの要素が含まれていたものと考えます。いずれにしても、学生の授業の「理解度」や授業に対する「満足度」は年々上昇している。全学的なFD活動が根付いてきた証左である。来年度も学生の学習状況を把握すると共に、学習を促進し深めていくための手がかりとなる「授業アンケート」としていきたい。また、今回の分析・考察は見当違いの点や足りない点が多々あると思う。教職員の方々からのご批評を賜りたい。

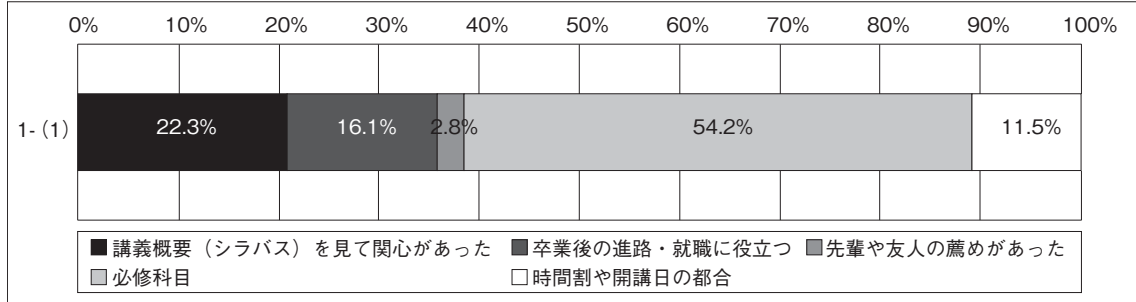
2008年度 授業アンケート 全体集計

1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：人（延べ）]

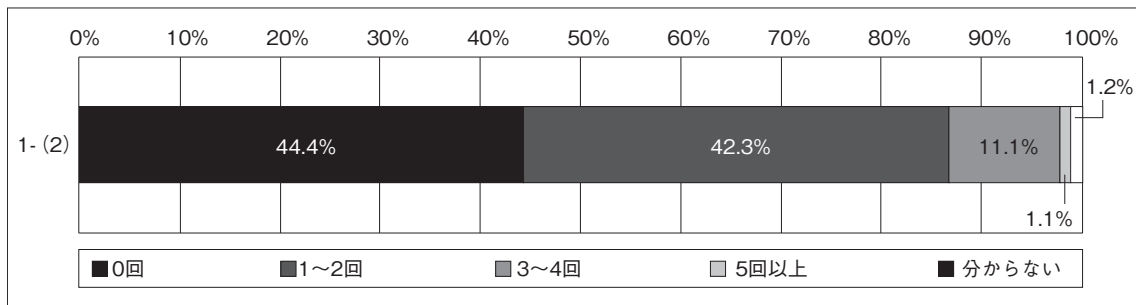
講義概要（シラバス） を見て関心があった	卒業後の進路・就職 に役立つ	先輩や友人の 薦めがあった	必修科目	時間割や 開講日の都合	合計
11898	8563	1511	28903	6132	53325



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

[単位：人（延べ）]

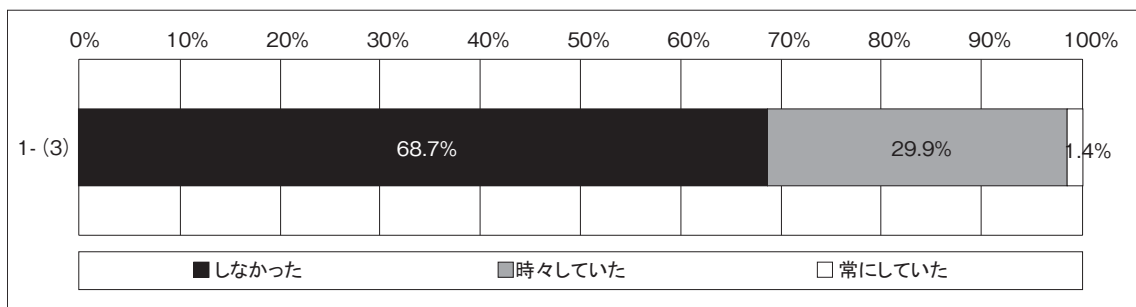
0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
23701	22598	5904	570	618	53391



(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯・遅刻・途中退室等）はしませんでしたか。

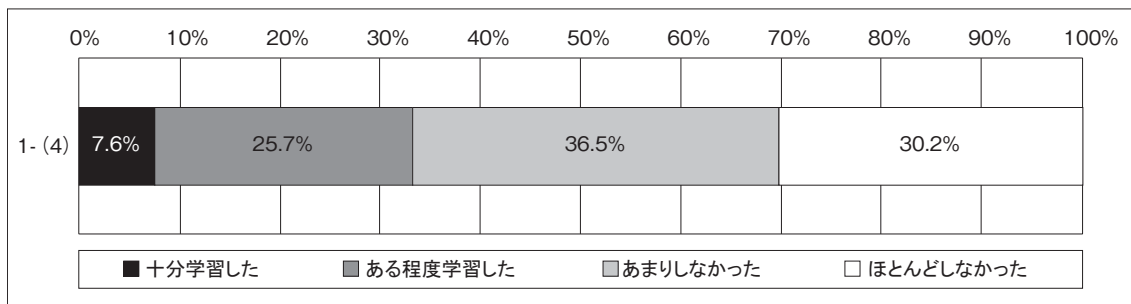
[単位：人（延べ）]

しなかった	時々していた	常にしていた	合計
36564	15908	725	53197



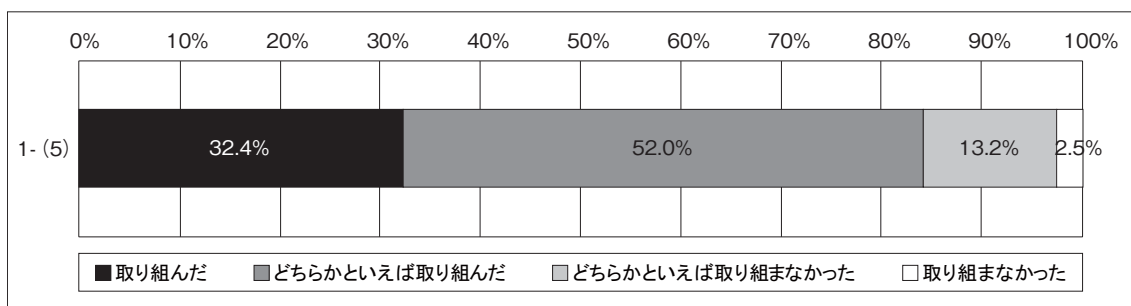
(4) 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか。 [単位：人（延べ）]

十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
4032	13676	19404	16078	53190



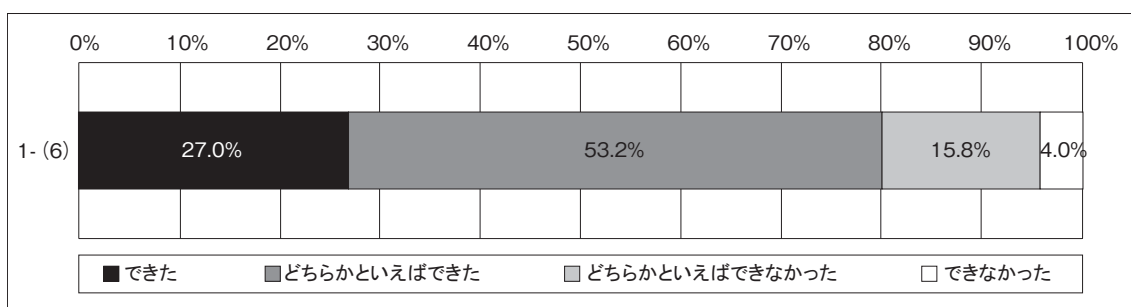
(5) 熱心に授業に取り組みましたか。 [単位：人（延べ）]

取り組んだ	どちらかといえば取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった	合計
17198	27616	7013	1315	53142



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。 [単位：人（延べ）]

できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった	合計
14315	28231	8361	2128	53035

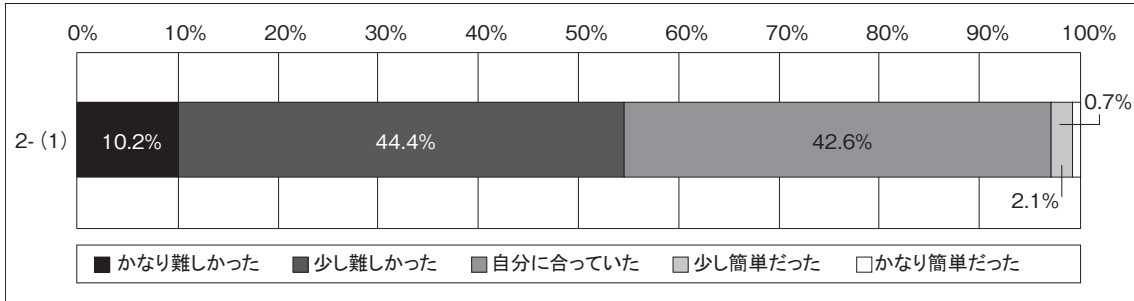


2. 授業について

(1) 授業（内容）の難易度はどうでしたか。

[単位：人（延べ）]

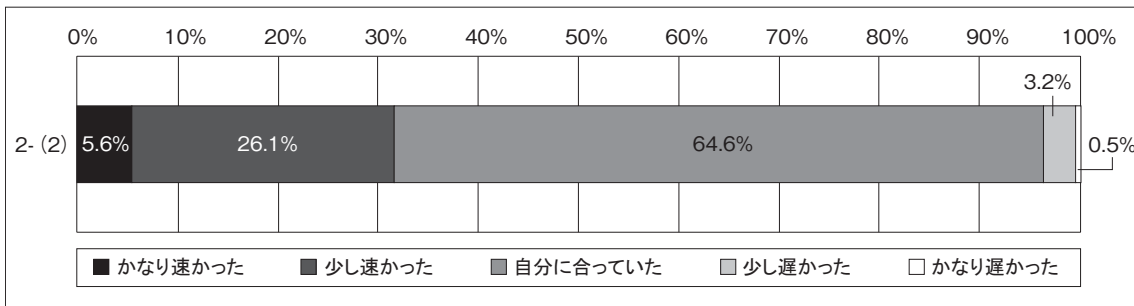
かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
5434	23720	22734	1128	362	53378



(2) 授業の進度はどうでしたか。

[単位：人（延べ）]

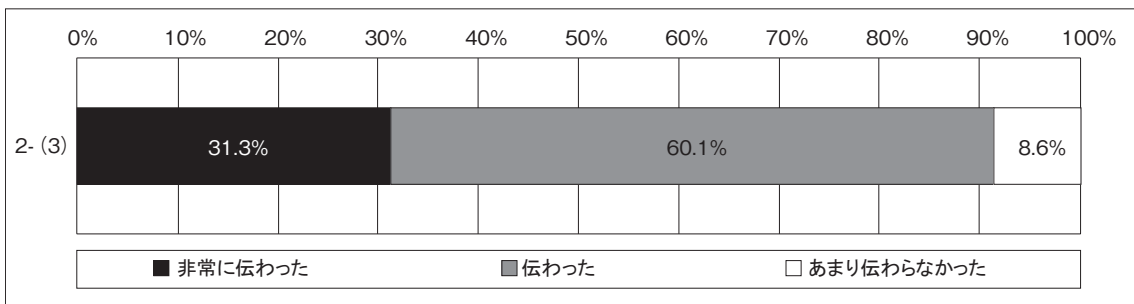
かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
2973	13862	34356	1699	264	53154



(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

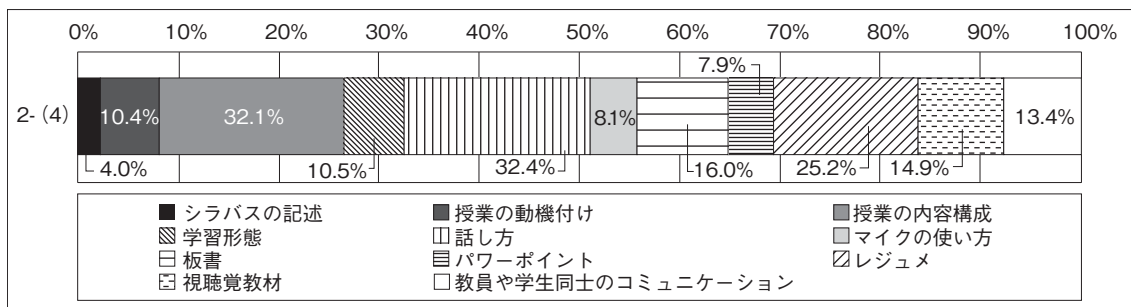
[単位：人（延べ）]

非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
16441	31550	4537	52528



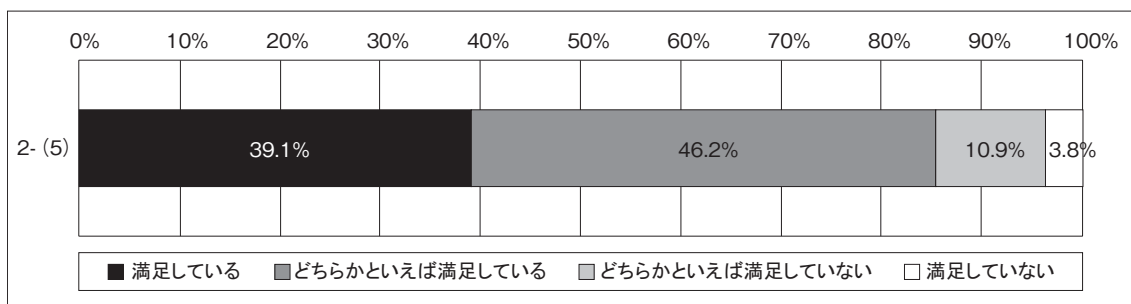
(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。 [単位：人 (延べ)]

シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方
1919	5028	15506	5072	15635	3896
板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learningを含む)	合計
7732	3812	12166	7197	6493	48292



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。 [単位：人 (延べ)]

満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
17973	21238	4986	1724	45921



2008年度 授業アンケート 学部別集計

※学部の割り当ては以下のように行なっています。

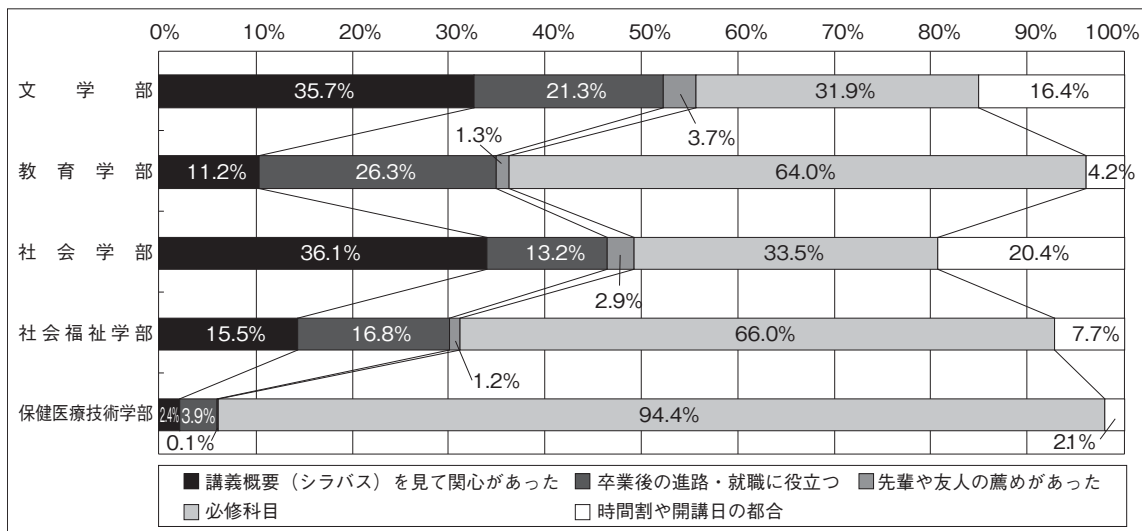
文学部：人文学科・中国学科・英米学科
 教育学部：教育学科・臨床心理学科
 社会学部：現代社会学科・公共政策学科
 社会福祉学部：社会福祉学科
 保健医療技術学部：理学療法学科・作業療法学科
 ※全学共通科目・専門基礎科目は科目種別集計で集計しています

1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：人(延べ)]

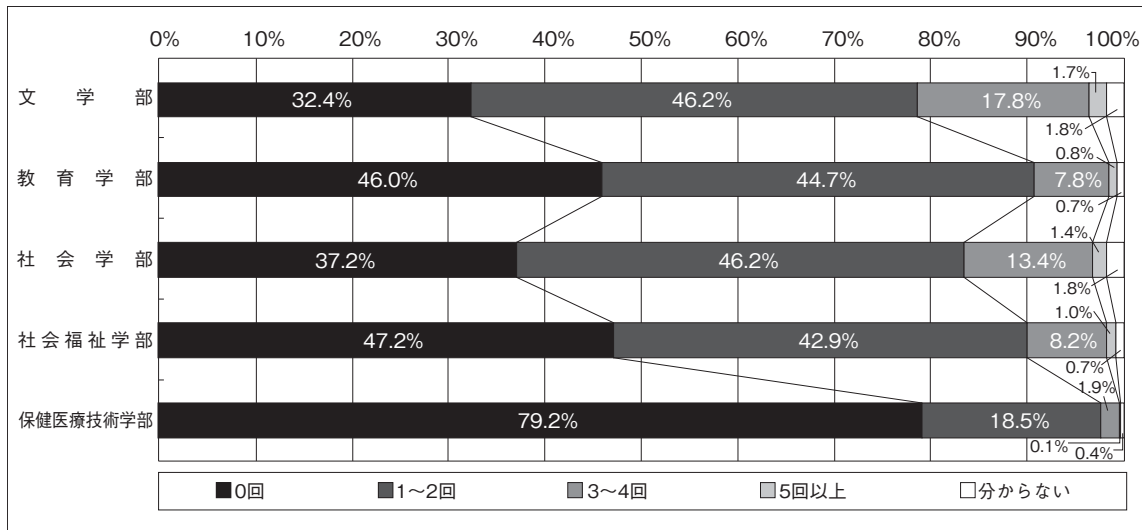
	講義概要(シラバス)を見て関心があった	卒業後の進路・就職に役立つ	先輩や友人の薦めがあった	必修科目	時間割や開講日の都合	合計
文学部	3323	1982	347	2973	1526	9314
教育学部	995	2336	118	5682	369	8881
社会学部	2368	868	188	2194	1337	6555
社会福祉学部	1260	1373	99	5384	626	8153
保健医療技術学部	54	89	3	2160	47	2288



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

[単位：人（延べ）]

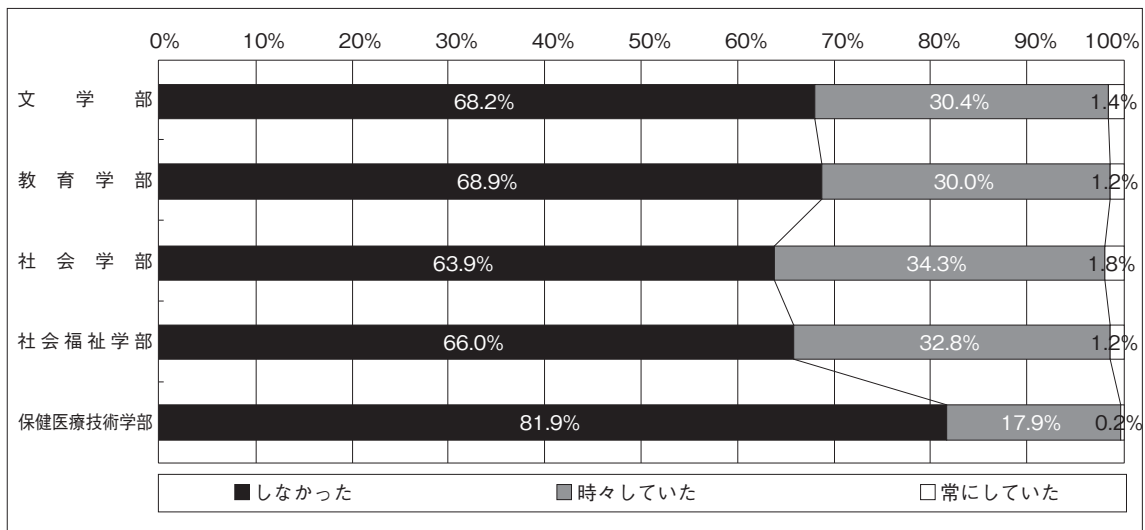
	0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
文 学 部	3023	4308	1662	160	167	9320
教 育 学 部	4089	3975	690	72	58	8884
社 会 学 部	2449	3041	880	91	116	6577
社会福祉学部	3854	3501	671	79	60	8165
保健医療技術学部	1808	423	43	2	8	2284



(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯・遅刻・途中退室等）はしませんでしたか

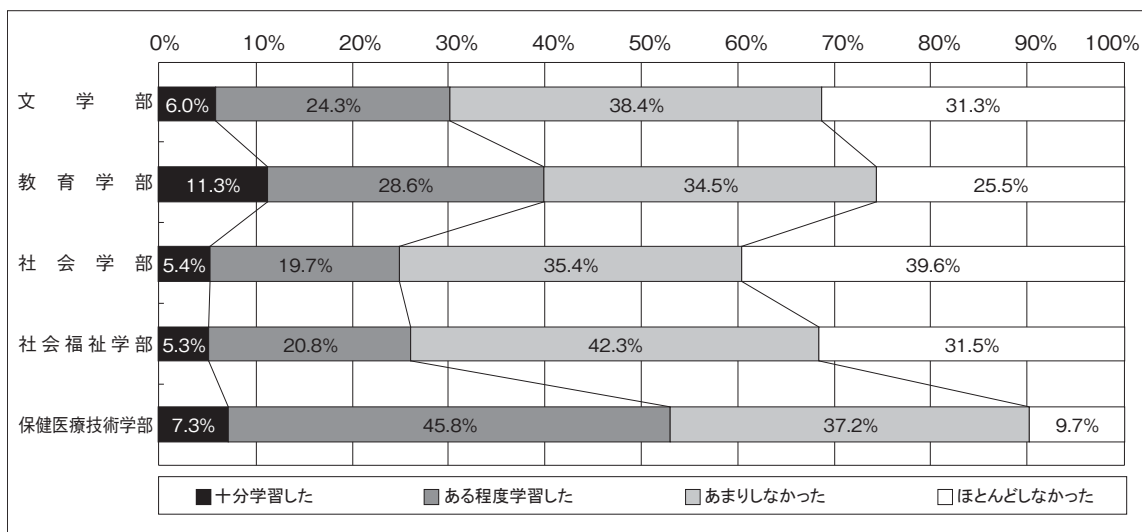
[単位：人（延べ）]

	しなかった	時々していた	常にしていた	合計
文 学 部	6326	2825	127	9278
教 育 学 部	6093	2652	102	8847
社 会 学 部	4176	2244	118	6538
社会福祉学部	5372	2665	100	8137
保健医療技術学部	1872	410	5	2287



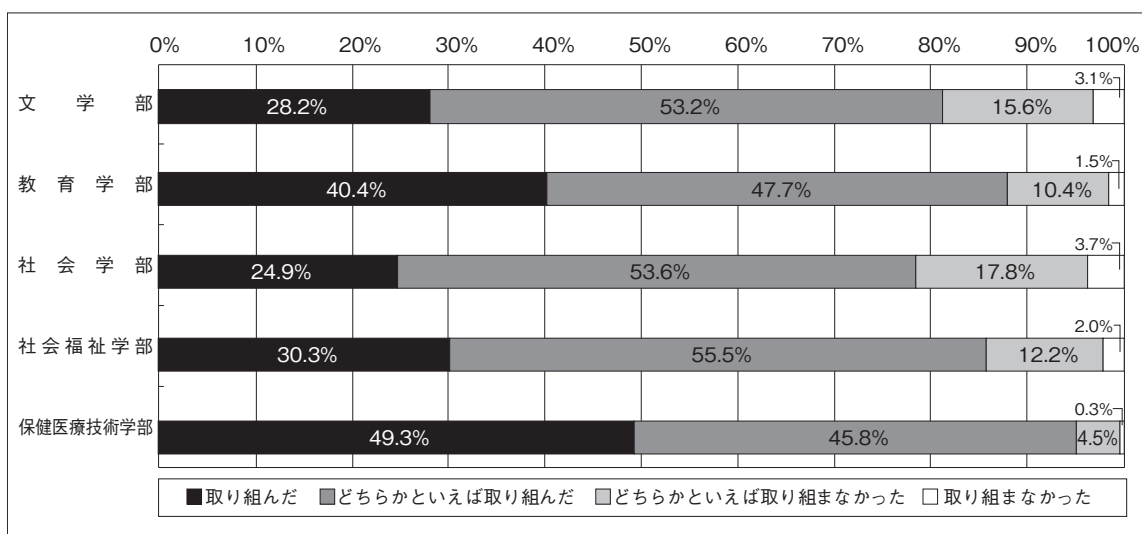
(4) 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか？ [単位：人（延べ）]

	十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
文学部	559	2257	3566	2908	9290
教育学部	1003	2529	3052	2258	8842
社会学部	352	1287	2316	2591	6546
社会福祉学部	434	1694	3435	2564	8127
保健医療技術学部	167	1047	851	222	2287



(5) 熱心に授業に取り組みましたか。 [単位：人（延べ）]

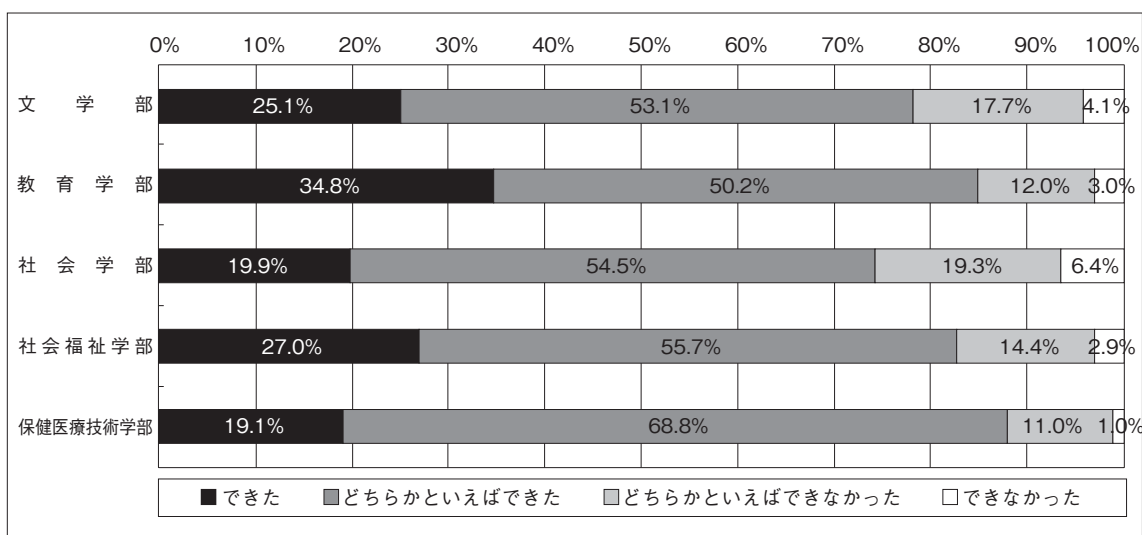
	取り組んだ	どちらかといえば取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった	合計
文学部	2613	4936	1445	285	9279
教育学部	3572	4218	924	130	8844
社会学部	1625	3506	1165	242	6538
社会福祉学部	2463	4513	989	165	8130
保健医療技術学部	1121	1042	103	7	2273



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。

[単位：人(延べ)]

	できた	どちらかといえば できた	どちらかといえば できなかった	できなかった	合計
文 学 部	2326	4915	1641	380	9262
教 育 学 部	3062	4419	1059	261	8801
社 会 学 部	1296	3557	1259	416	6528
社会福祉学部	2192	4528	1170	233	8123
保健医療技術学部	436	1569	251	23	2279

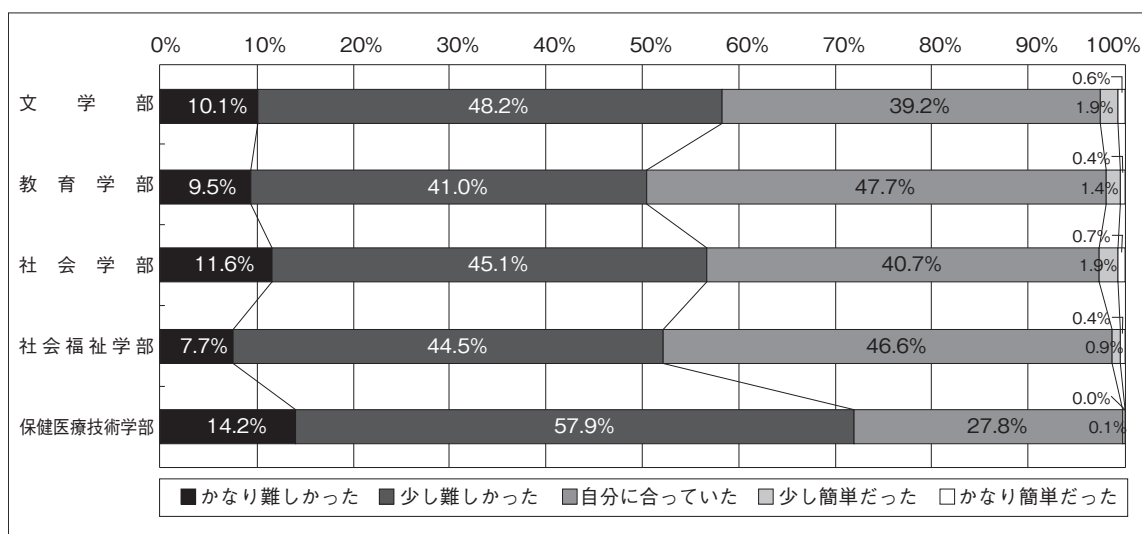


2. 授業について

(1) 授業(内容)の難易度はどうでしたか。

[単位：人(延べ)]

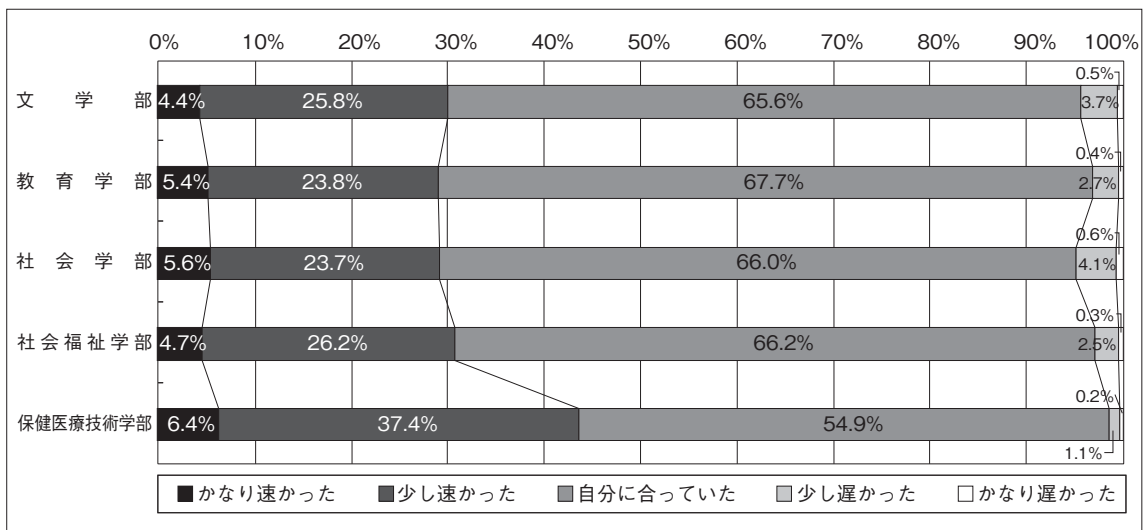
	かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
文 学 部	945	4485	3654	174	56	9314
教 育 学 部	844	3638	4232	128	36	8878
社 会 学 部	763	2967	2673	127	43	6573
社会福祉学部	628	3632	3800	70	30	8160
保健医療技術学部	325	1329	638	3	0	2295



(2) 授業の進度はどうでしたか。

[単位：人（延べ）]

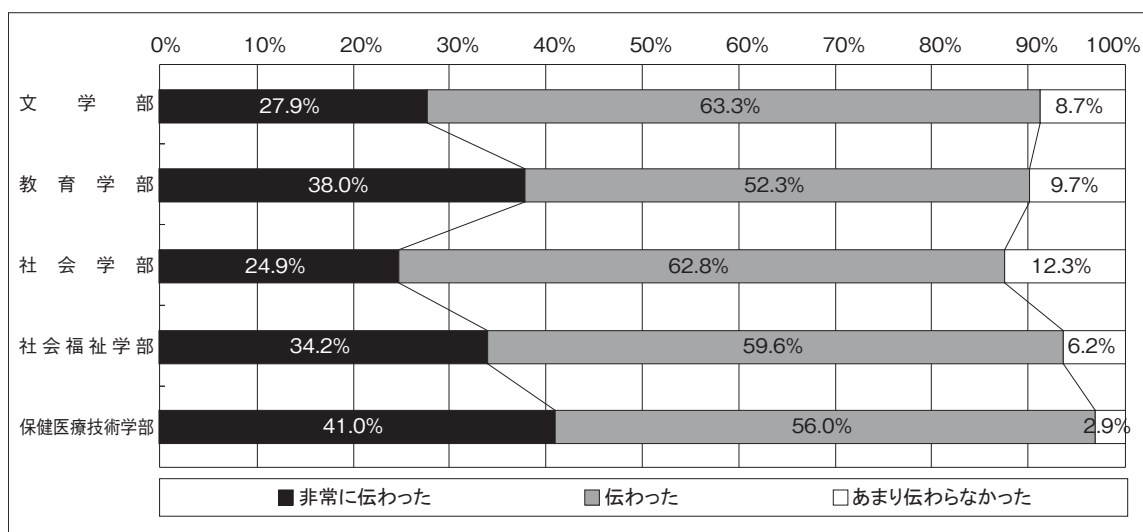
	かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
文 学 部	410	2388	6079	344	49	9270
教 育 学 部	474	2105	5990	238	35	8842
社 会 学 部	368	1549	4320	267	42	6546
社会福祉学部	383	2134	5385	204	28	8134
保健医療技術学部	146	852	1252	25	5	2280



(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

[単位：人（延べ）]

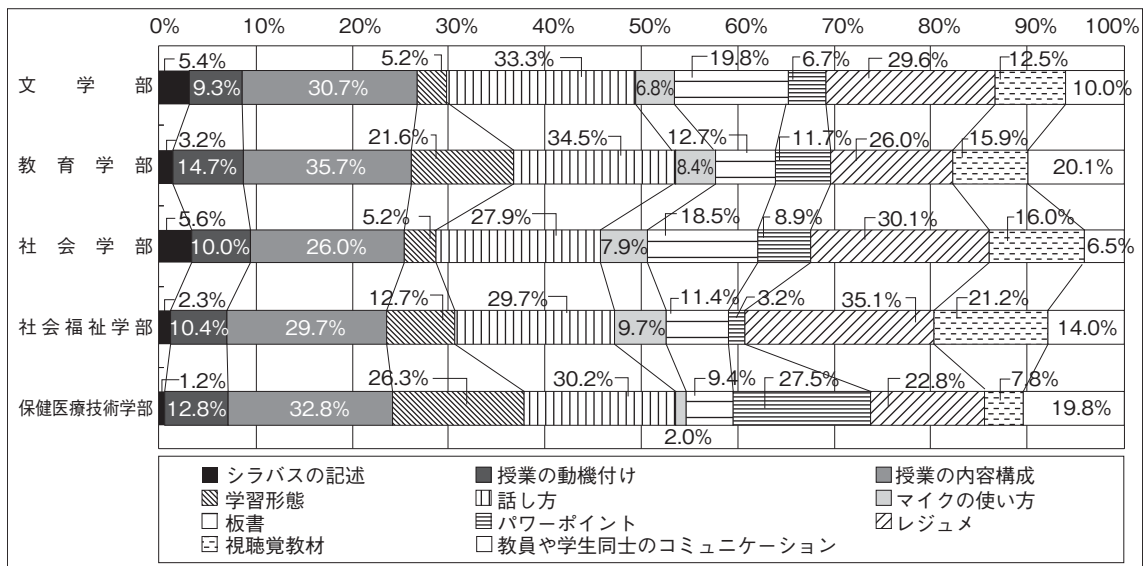
	非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
文 学 部	2562	5809	802	9173
教 育 学 部	3315	4561	847	8723
社 会 学 部	1609	4050	794	6453
社会福祉学部	2750	4796	498	8044
保健医療技術学部	925	1263	66	2254



(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。

[単位：人（延べ）]

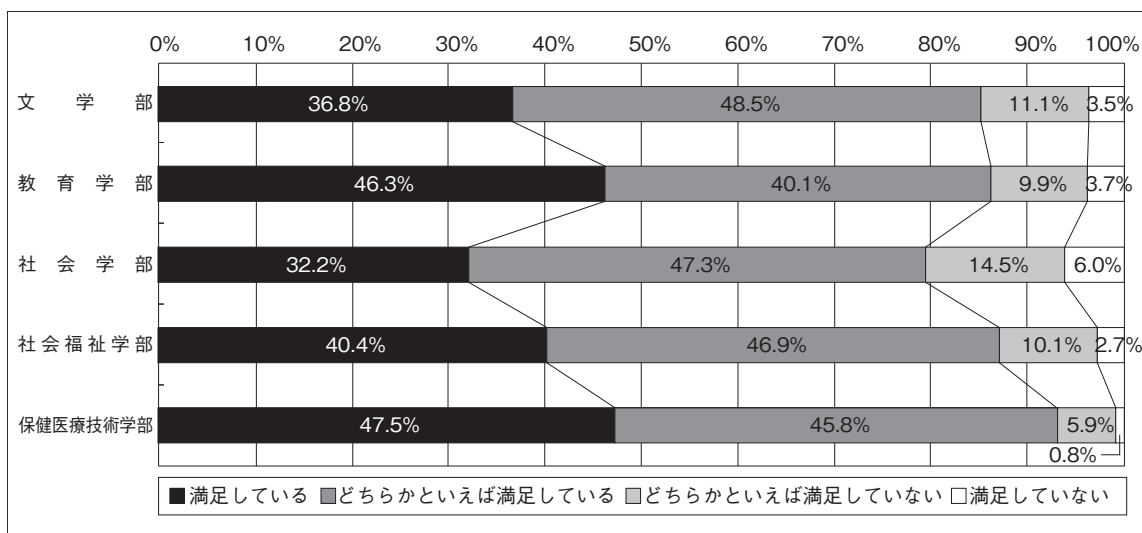
	シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方
文学部	454	779	2567	439	2783	573
教育学部	258	1176	2853	1724	2755	667
社会学部	327	580	1512	302	1621	459
社会福祉学部	175	781	2225	952	2224	724
保健医療技術学部	26	275	705	565	649	43
	板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learningを含む)	合計
文学部	1660	564	2478	1046	838	8368
教育学部	1016	933	2080	1268	1607	7986
社会学部	1078	520	1753	930	381	5818
社会福祉学部	856	243	2629	1587	1045	7482
保健医療技術学部	201	590	490	167	426	2147



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。

[単位：人（延べ）]

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
文学部	2954	3892	894	282	8022
教育学部	3526	3051	757	283	7617
社会学部	1796	2636	806	334	5572
社会福祉学部	2796	3246	698	185	6925
保健医療技術学部	931	899	116	16	1962



2008 年度 授業アンケート 開講科目種別集計

科目種別は以下の3分割で分類しています。

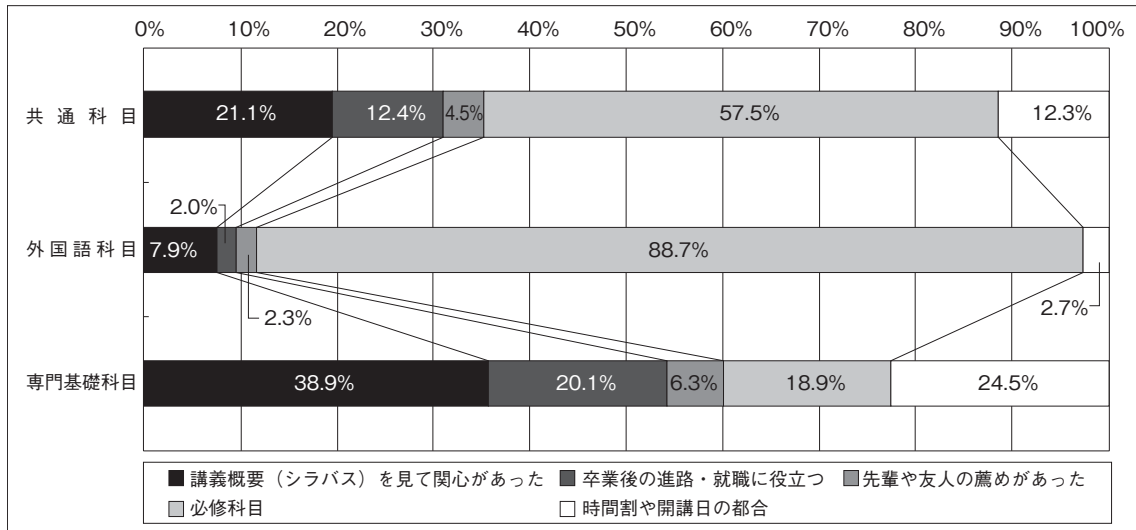
共通科目：全学共通科目の仏教・リテラシー・キャリア・スポーツ
 外国語科目：全学共通科目の外国語科目
 専門基礎科目：専門基礎科目
 ※学部基幹科目・学科基礎科目・コース科目・発展科目は学部集計で集計しています。

1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：人(延べ)]

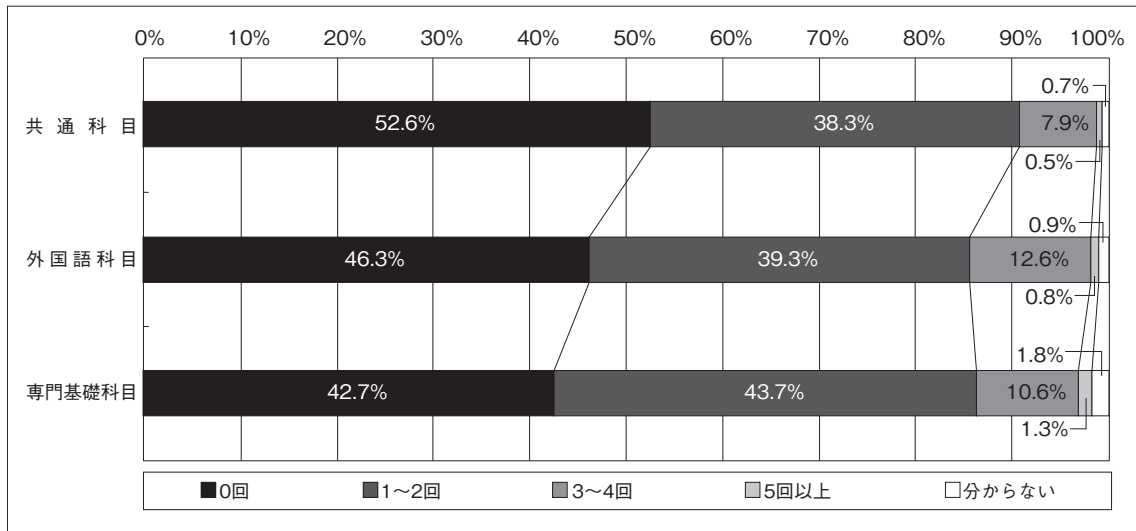
	講義概要(シラバス)を見て関心があった	卒業後の進路・就職に役立つ	先輩や友人の薦めがあった	必修科目	時間割や開講日の都合	合計
共通科目	980	574	211	2667	572	4642
外国語科目	601	155	171	6714	208	7566
専門基礎科目	2276	1176	369	1104	1435	5851



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

[単位：人（延べ）]

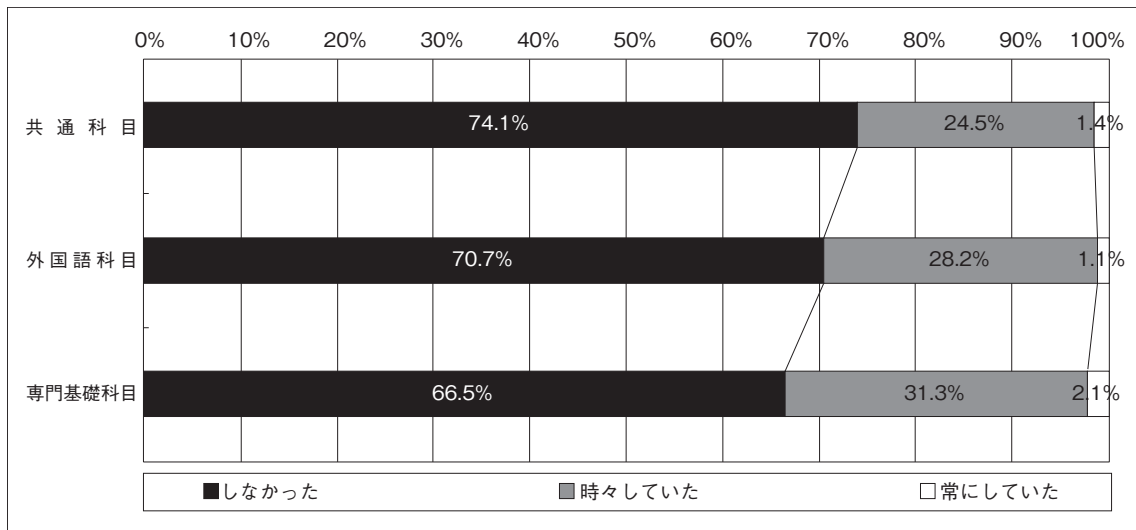
	0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
共通科目	2443	1779	368	25	32	4647
外国語科目	3498	2972	956	63	71	7560
専門基礎科目	2508	2568	622	77	103	5878



(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯・遅刻・途中退室等）はしませんでしたか

[単位：人（延べ）]

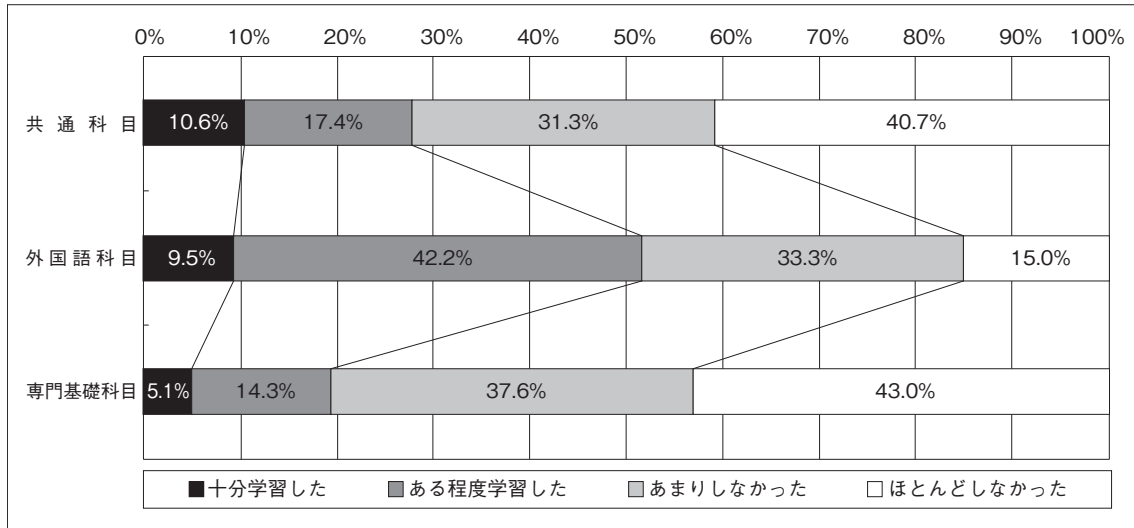
	しなかった	時々していた	常にしていた	合計
共通科目	3434	1138	64	4636
外国語科目	5336	2132	82	7550
専門基礎科目	3890	1833	125	5848



(4) 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか？

[単位：人（延べ）]

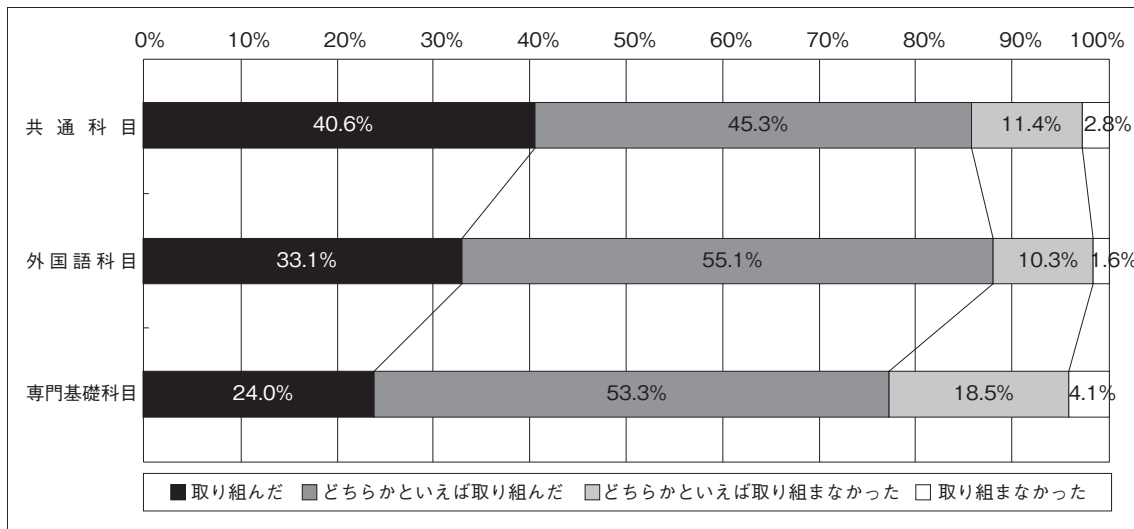
	十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
共通科目	489	802	1447	1882	4620
外国語科目	717	3186	2517	1129	7549
専門基礎科目	300	839	2199	2516	5854



(5) 熱心に授業に取り組みましたか。

[単位：人（延べ）]

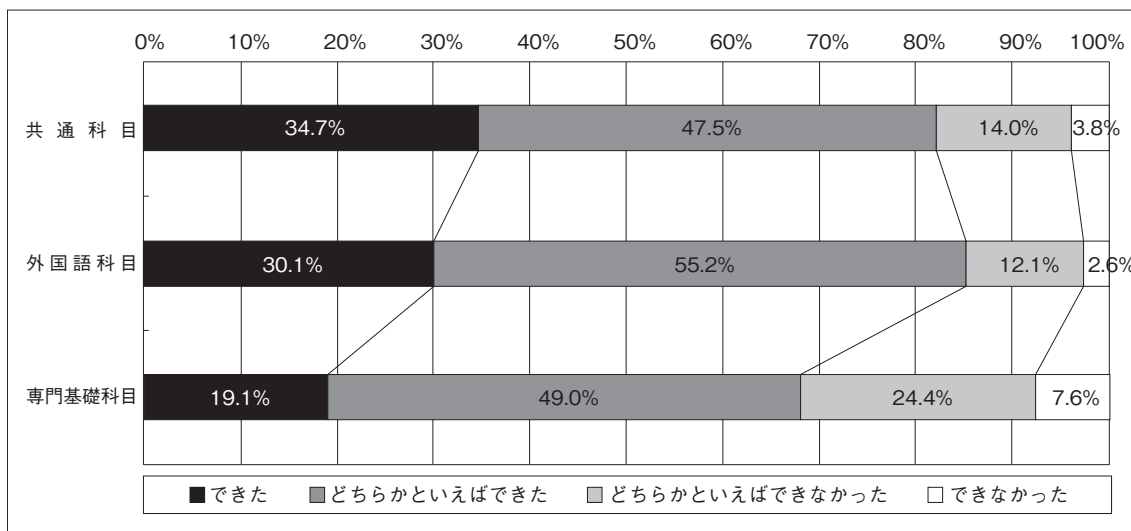
	取り組んだ	どちらかといえば取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった	合計
共通科目	1875	2091	525	127	4618
外国語科目	2493	4154	777	118	7542
専門基礎科目	1403	3117	1083	240	5843



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。

[単位：人(延べ)]

	できた	どちらかといえば できた	どちらかといえば できなかった	できなかった	合計
共通科目	1598	2186	643	176	4603
外国語科目	2263	4152	908	195	7518
専門基礎科目	1115	2866	1425	443	5849

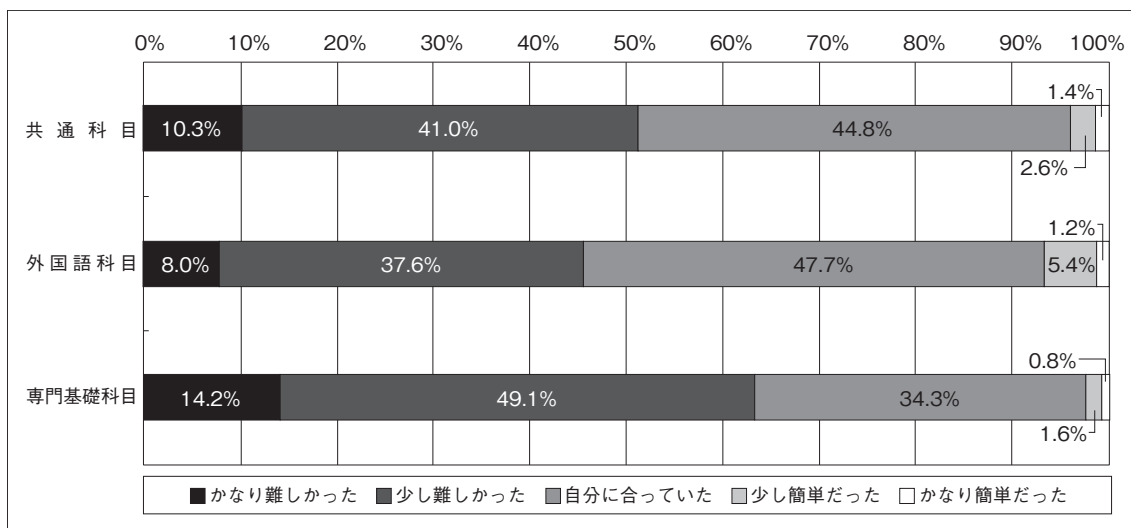


2. 授業について

(1) 授業(内容)の難易度はどうでしたか。

[単位：人(延べ)]

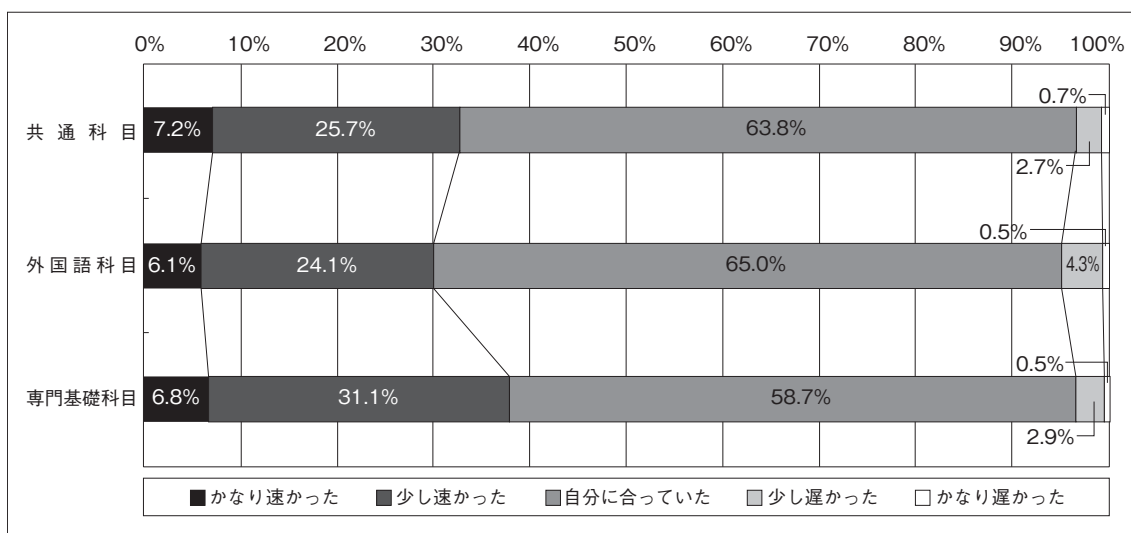
	かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
共通科目	478	1903	2076	119	63	4639
外国語科目	606	2851	3617	412	89	7575
専門基礎科目	832	2884	2016	92	45	5869



(2) 授業の進度はどうでしたか。

[単位：人（延べ）]

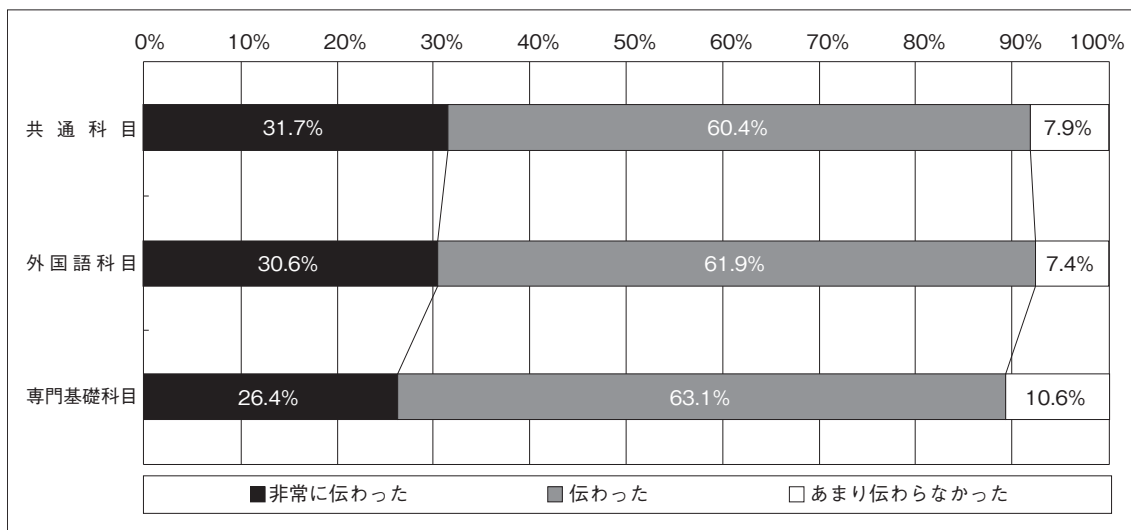
	かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
共通科目	333	1185	2944	123	32	4617
外国語科目	459	1817	4900	327	41	7544
専門基礎科目	397	1820	3429	169	31	5846



(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

[単位：人（延べ）]

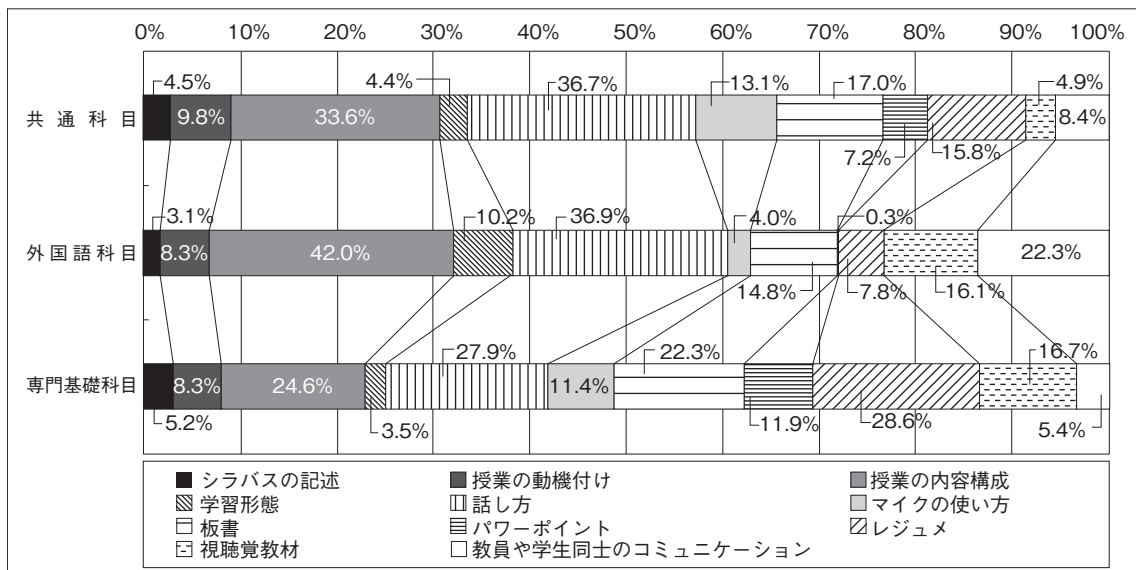
	非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
共通科目	1449	2764	361	4574
外国語科目	2281	4615	555	7451
専門基礎科目	1524	3648	611	5783



(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。

[単位：人（延べ）]

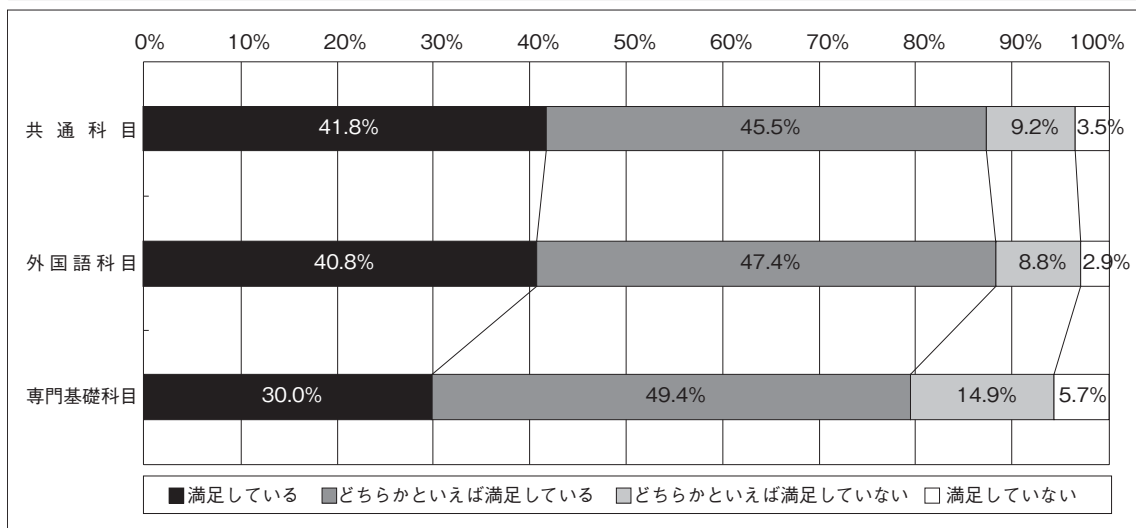
	シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方
共通科目	192	417	1432	186	1568	557
外国語科目	211	571	2884	704	2538	273
専門基礎科目	272	439	1296	185	1470	600
	板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learningを含む)	合計
共通科目	724	307	674	208	358	4267
外国語科目	1016	22	536	1105	1536	6874
専門基礎科目	1177	628	1507	881	286	5276



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。

[単位：人（延べ）]

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
共通科目	1666	1812	367	140	3985
外国語科目	2735	3175	591	196	6697
専門基礎科目	1519	2506	757	288	5070



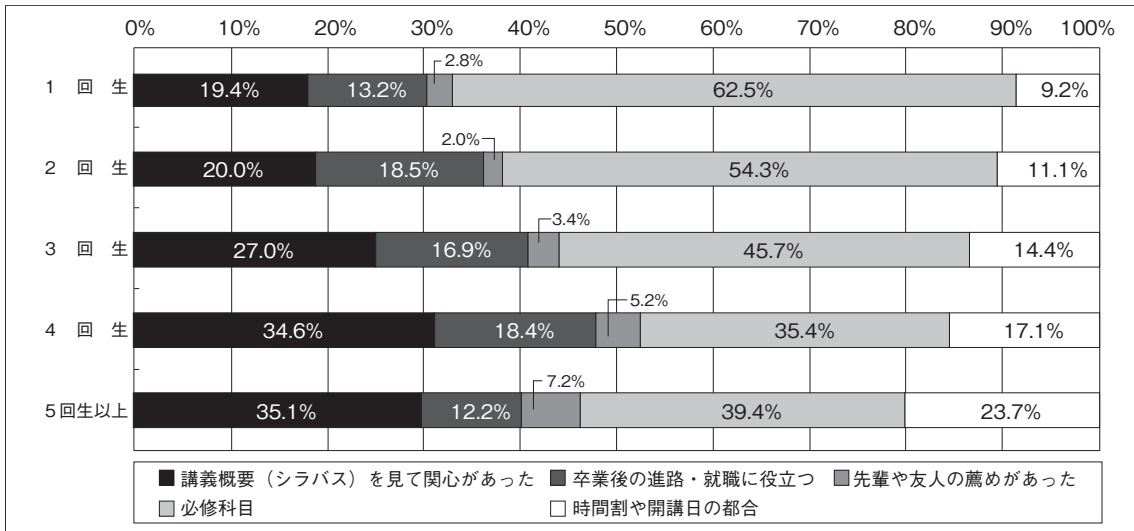
2008年度 授業アンケート 回生別集計

1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：人（延べ）]

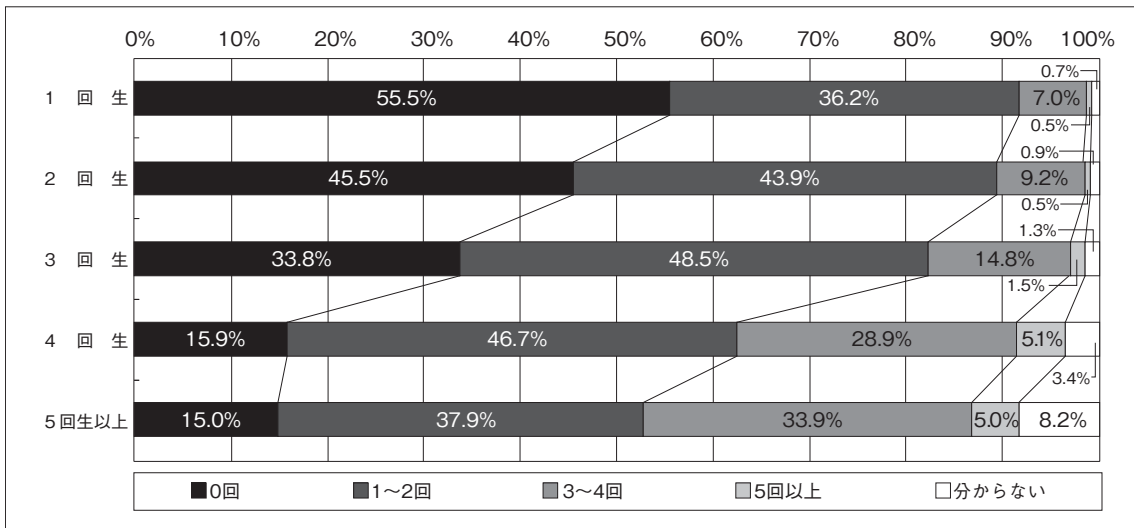
	講義概要（シラバス）を見て関心があった	卒業後の進路・就職に役立つ	先輩や友人の薦めがあった	必修科目	時間割や開講日の都合	合計
1 回 生	3502	2390	501	11293	1658	18083
2 回 生	3517	3245	350	9546	1952	17571
3 回 生	2854	1783	357	4821	1516	10559
4 回 生	1125	599	168	1151	555	3249
5 回生以上	98	34	20	110	66	279



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

[単位：人（延べ）]

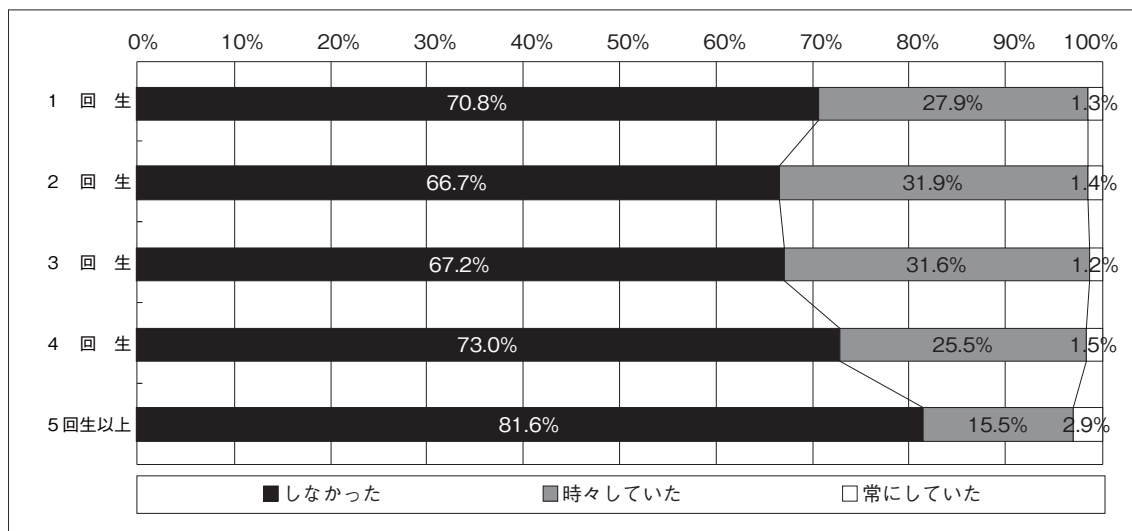
	0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
1 回 生	10035	6552	1265	97	134	18083
2 回 生	8019	7728	1616	95	156	17614
3 回 生	3570	5127	1569	158	142	10566
4 回 生	517	1523	942	167	111	3260
5 回生以上	42	106	95	14	23	280



(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯・遅刻・途中退室等）はしませんでしたか

[単位：人（延べ）]

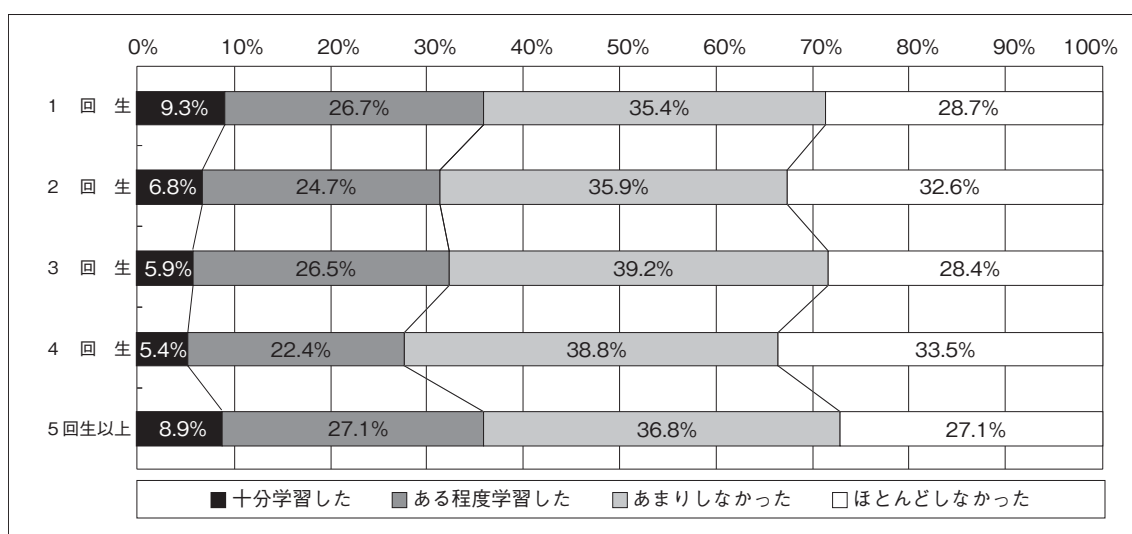
	しなかった	時々していた	常にしていた	合計
1 回 生	12768	5025	238	18031
2 回 生	11694	5602	248	17544
3 回 生	7063	3325	124	10512
4 回 生	2370	829	49	3248
5 回生以上	226	43	8	277



(4) 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか？

[単位：人（延べ）]

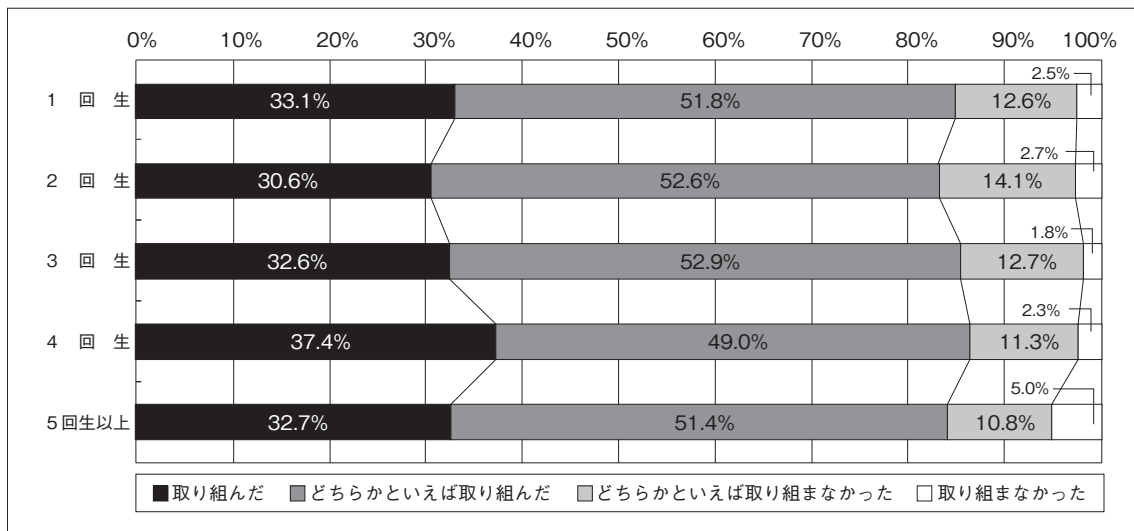
	十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
1 回 生	1673	4807	6377	5164	18021
2 回 生	1199	4331	6295	5718	17543
3 回 生	621	2791	4126	2987	10525
4 回 生	175	726	1257	1085	3243
5 回生以上	25	76	103	76	280



(5) 熱心に授業に取り組みましたか。

[単位：人（延べ）]

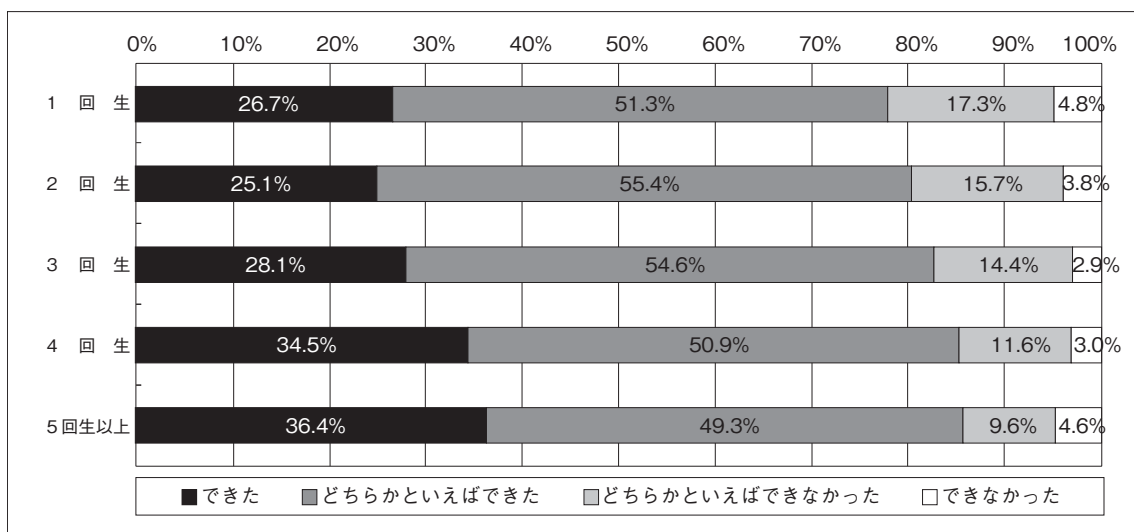
	取り組んだ	どちらかといえば 取り組んだ	どちらかといえば 取り組まなかった	取り組まなかった	合計
1 回 生	5961	9329	2261	449	18000
2 回 生	5371	9227	2472	467	17537
3 回 生	3426	5558	1335	194	10513
4 回 生	1212	1587	366	75	3240
5回生以上	91	143	30	14	278



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。

[単位：人（延べ）]

	できた	どちらかといえば できた	どちらかといえば できなかった	できなかった	合計
1 回 生	4787	9208	3105	854	17954
2 回 生	4397	9702	2748	674	17521
3 回 生	2945	5727	1508	301	10481
4 回 生	1115	1642	375	96	3228
5回生以上	102	138	27	13	280

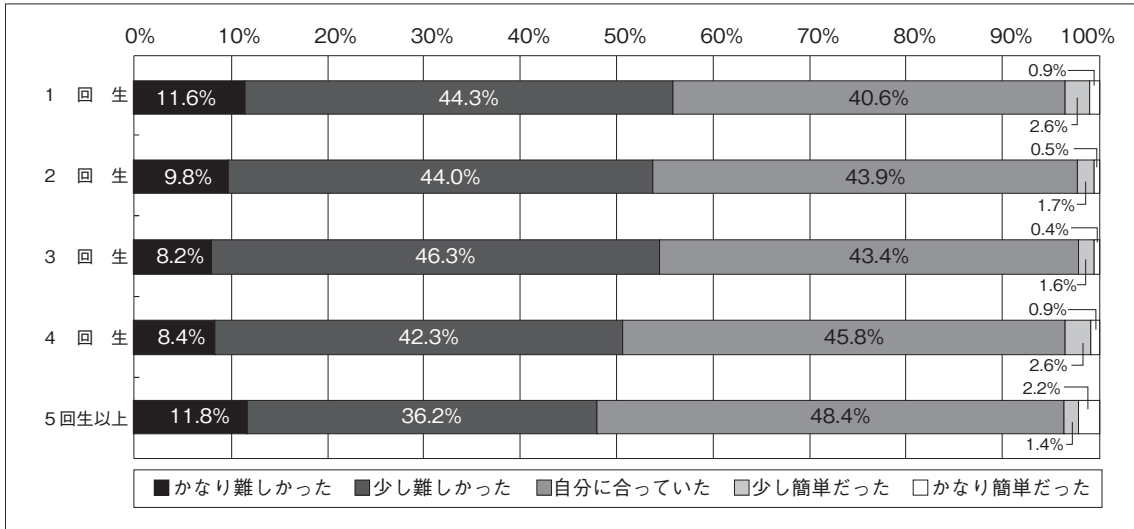


2. 授業について

(1) 授業（内容）の難易度はどうでしたか。

[単位：人（延べ）]

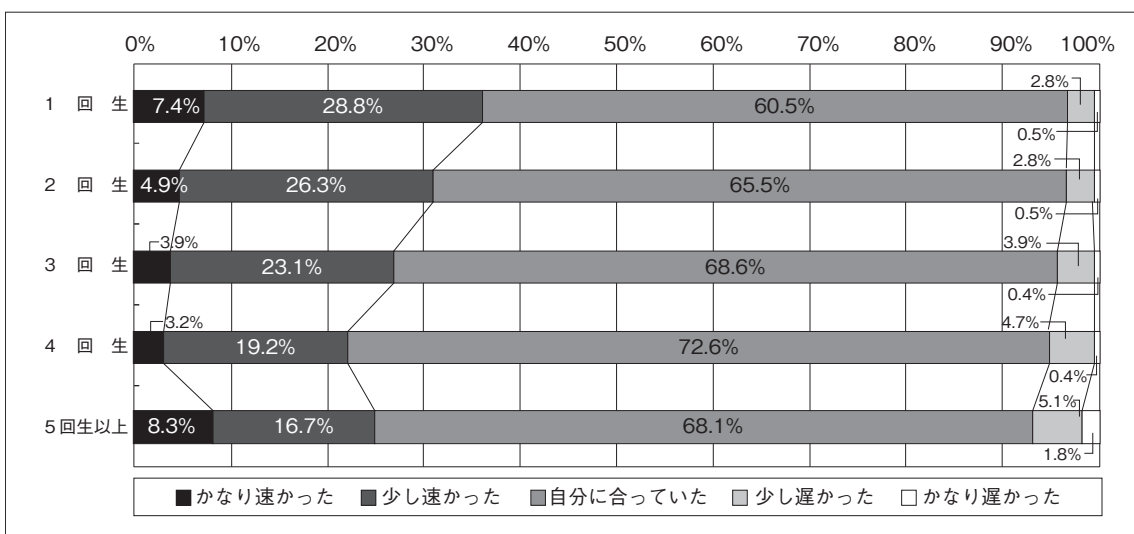
	かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
1 回 生	2095	8015	7343	467	167	18087
2 回 生	1732	7753	7732	301	86	17604
3 回 生	863	4891	4586	171	46	10557
4 回 生	275	1378	1490	85	28	3256
5 回生以上	33	101	135	4	6	279



(2) 授業の進捗はどうでしたか。

[単位：人（延べ）]

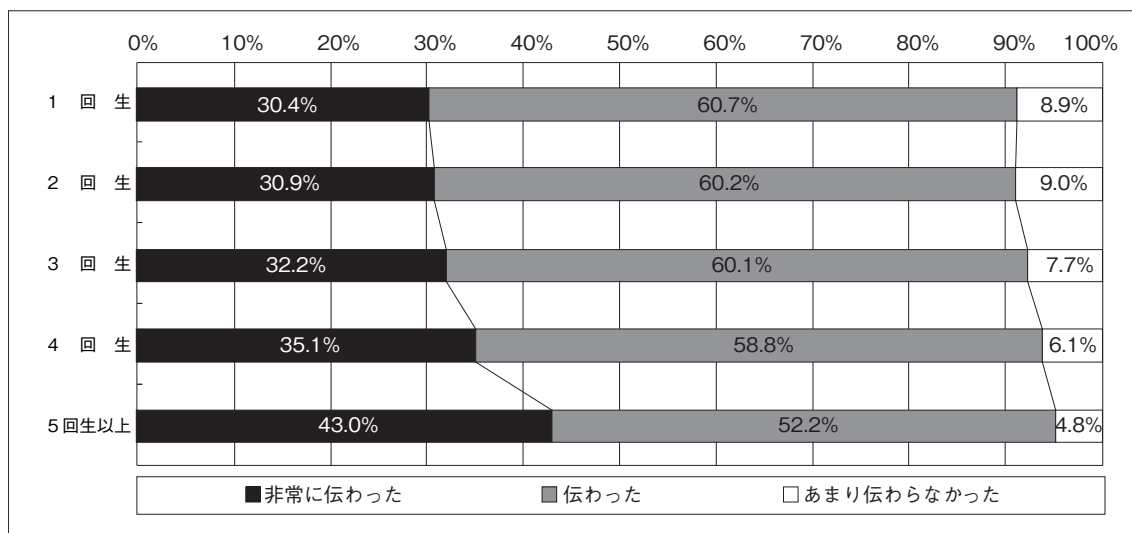
	かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
1 回 生	1325	5196	10900	506	89	18016
2 回 生	853	4604	11492	497	87	17533
3 回 生	413	2431	7214	411	46	10515
4 回 生	102	620	2349	152	14	3237
5 回生以上	23	46	188	14	5	276



(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

[単位：人（延べ）]

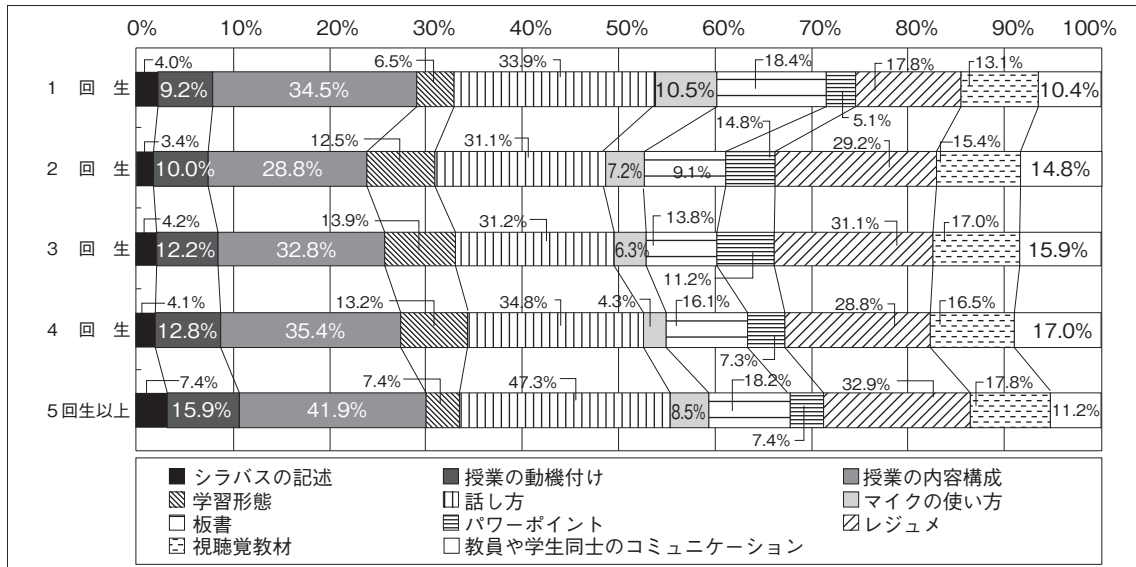
	非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
1 回 生	5411	10810	1580	17801
2 回 生	5355	10438	1554	17347
3 回 生	3345	6242	802	10389
4 回 生	1124	1880	196	3200
5 回生以上	117	142	13	272



(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。

[単位：人（延べ）]

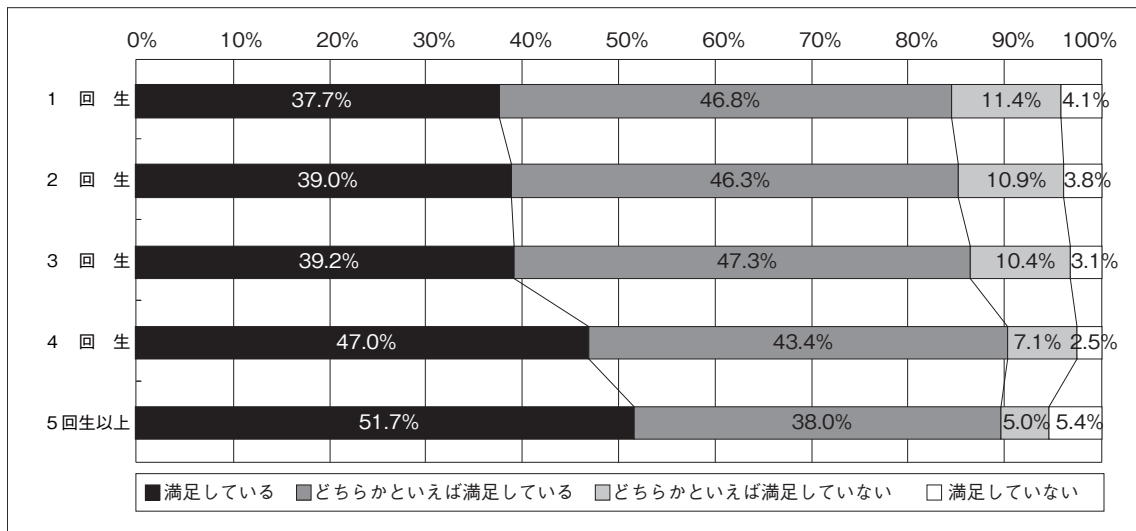
	シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方
1 回 生	654	1526	5704	1080	5615	1736
2 回 生	534	1579	4555	1974	4908	1139
3 回 生	401	1160	3126	1326	2973	599
4 回 生	122	380	1051	391	1033	128
5 回生以上	19	41	108	19	122	22
	板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD 等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learning を含む)	合計
1 回 生	3039	842	2954	2175	1727	16551
2 回 生	2335	1433	4618	2431	2343	15803
3 回 生	1321	1071	2966	1623	1513	9544
4 回 生	477	217	854	490	503	2965
5 回生以上	47	19	85	46	29	258



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。

[単位：人 (延べ)]

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
1 回 生	5957	7394	1792	643	15786
2 回 生	5931	7049	1658	573	15211
3 回 生	3509	4230	926	278	8943
4 回 生	1321	1221	201	69	2812
5 回 生以上	125	92	12	13	242



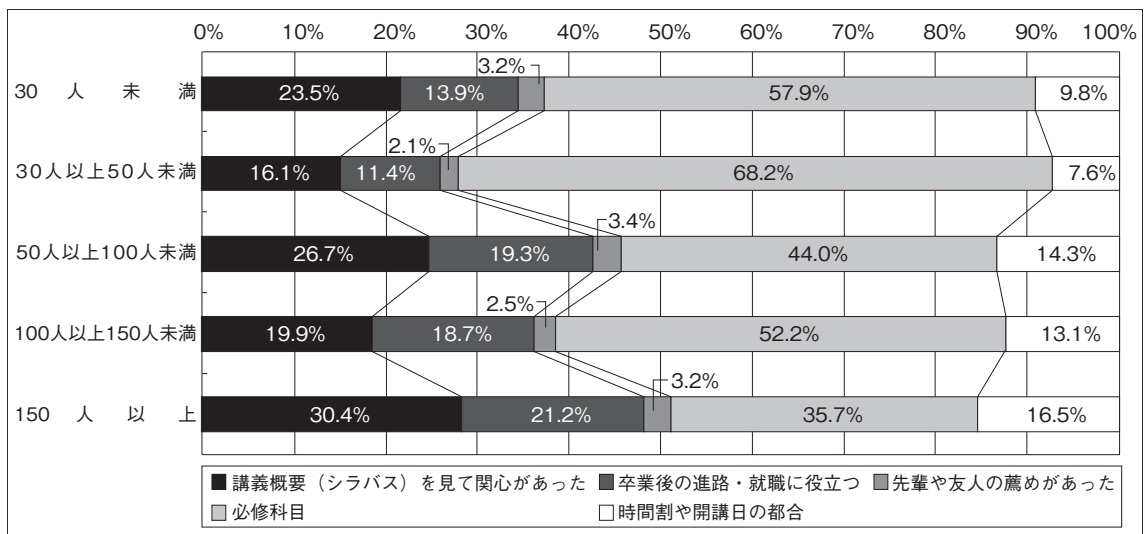
2008 年度 授業アンケート クラス規模別集計

1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：人(延べ)]

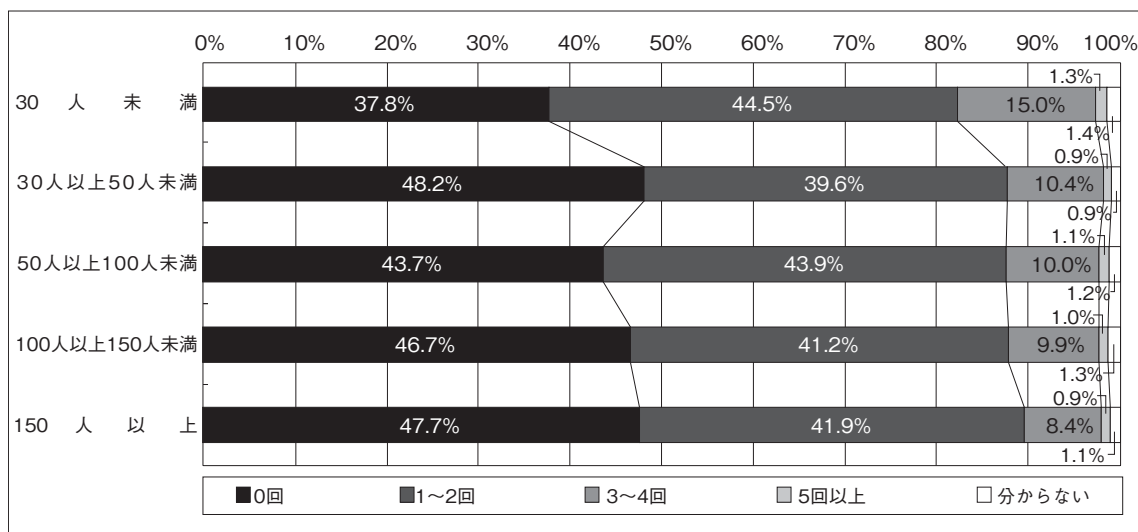
	講義概要(シラバス)を見て関心があった	卒業後の進路・就職に役立つ	先輩や友人の薦めがあった	必修科目	時間割や開講日の都合	合計
30人未満	2623	1549	355	6463	1091	11166
30人以上 50人未満	2298	1632	297	9763	1094	14315
50人以上 100人未満	4310	3107	544	7093	2306	16131
100人以上 150人未満	1691	1593	213	4437	1112	8498
150人以上	976	682	102	1147	529	3215



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

[単位：人（延べ）]

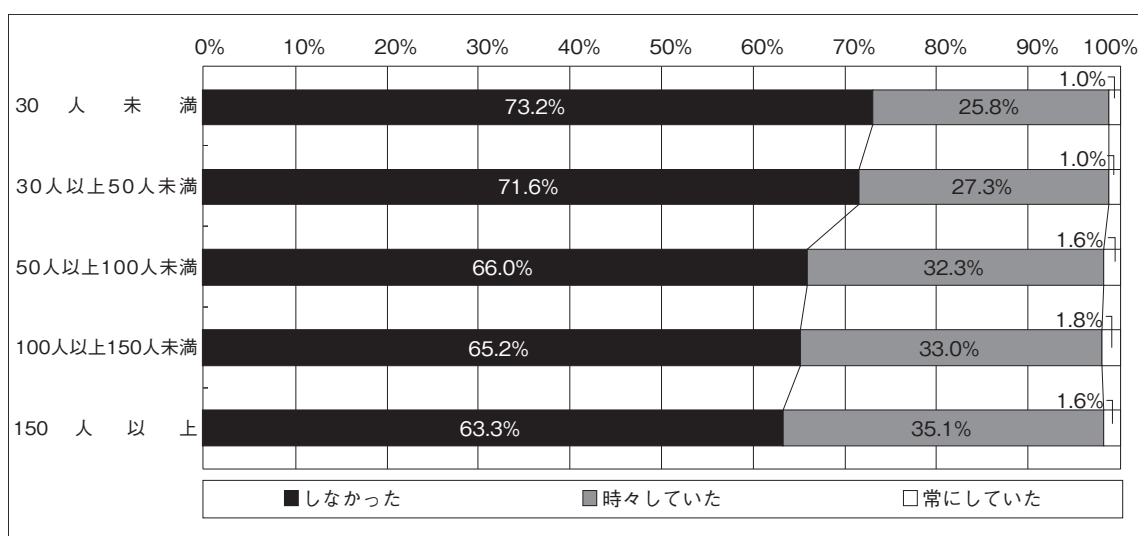
	0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
30人未満	4224	4972	1679	142	154	11171
30人以上 50人未満	6897	5669	1496	130	131	14323
50人以上 100人未満	7069	7096	1619	184	192	16160
100人以上 150人未満	3973	3508	839	84	107	8511
150人以上	1538	1353	271	30	34	3226



(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯・遅刻・途中退室等）はしませんでしたか

[単位：人（延べ）]

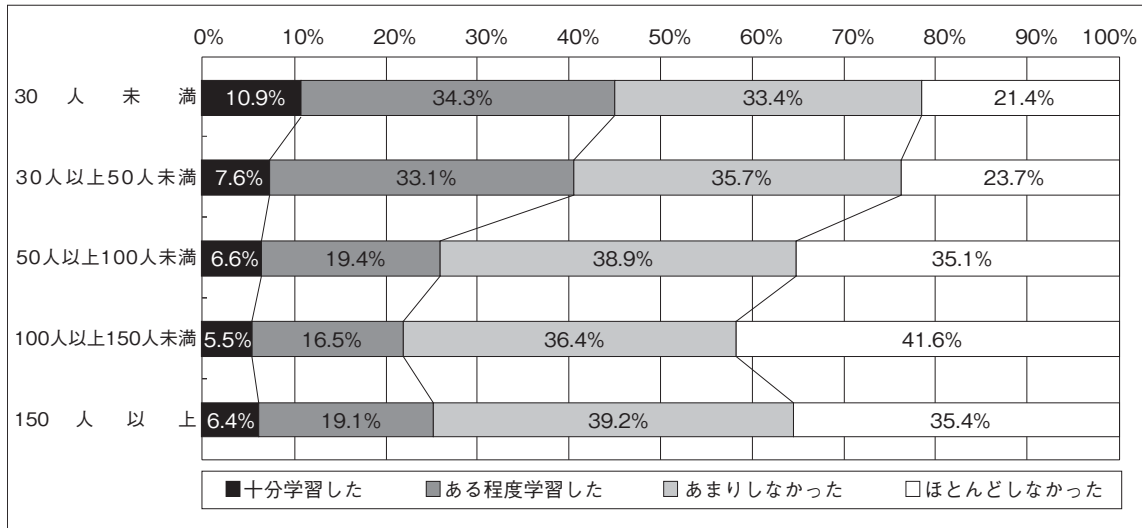
	しなかった	時々していた	常にしていた	合計
30人未満	8144	2873	116	11133
30人以上 50人未満	10225	3903	145	14273
50人以上 100人未満	10626	5200	264	16090
100人以上 150人未満	5533	2804	149	8486
150人以上	2036	1128	51	3215



(4) 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか？

[単位：人（延べ）]

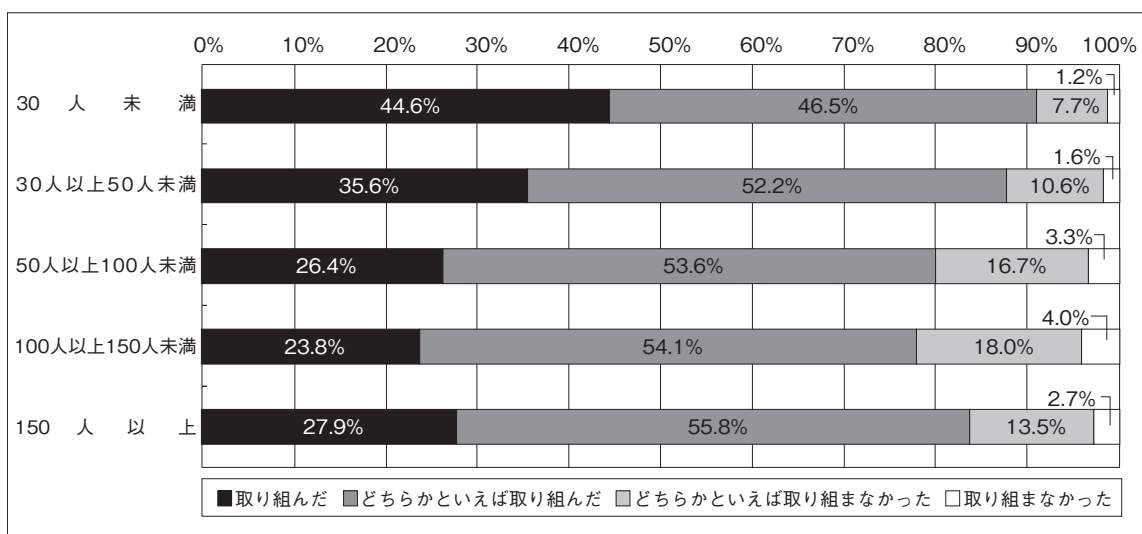
	十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
30人未満	1214	3814	3717	2388	11133
30人以上 50人未満	1079	4722	5092	3388	14281
50人以上 100人未満	1069	3131	6257	5645	16102
100人以上 150人未満	466	1398	3081	3522	8467
150人以上	204	611	1257	1135	3207



(5) 熱心に授業に取り組みましたか。

[単位：人（延べ）]

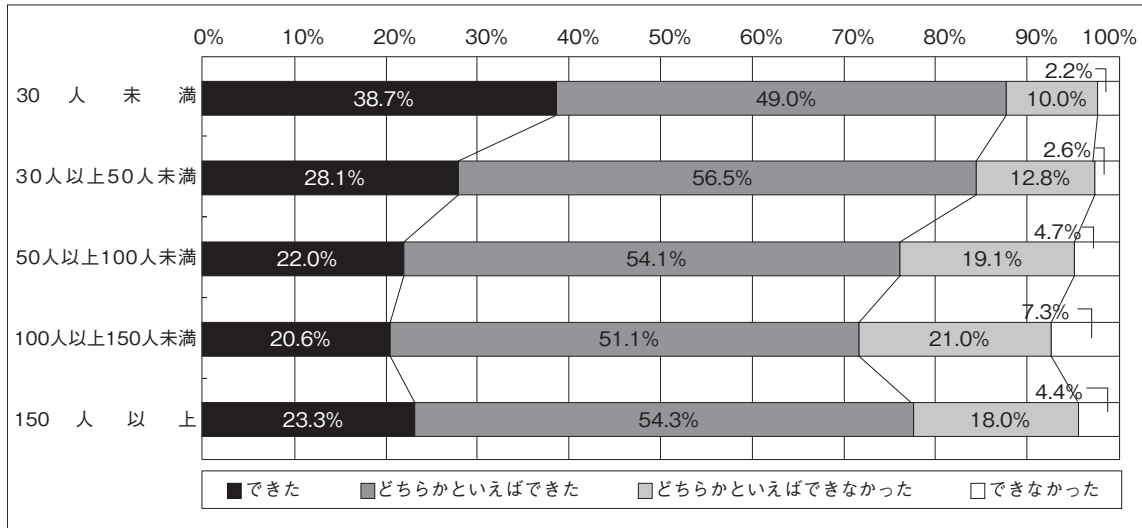
	取り組んだ	どちらかといえば 取り組んだ	どちらかといえば 取り組まなかった	取り組まなかった	合計
30人未満	4961	5174	858	130	11123
30人以上 50人未満	5079	7432	1506	230	14247
50人以上 100人未満	4242	8630	2692	526	16090
100人以上 150人未満	2020	4588	1523	342	8473
150人以上	896	1792	434	87	3209



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。

[単位：人（延べ）]

	できた	どちらかといえば できた	どちらかといえば できなかった	できなかった	合計
30人未満	4293	5436	1110	245	11084
30人以上 50人未満	3994	8042	1829	369	14234
50人以上 100人未満	3539	8691	3071	755	16056
100人以上 150人未満	1741	4319	1774	618	8452
150人以上	748	1743	577	141	3209

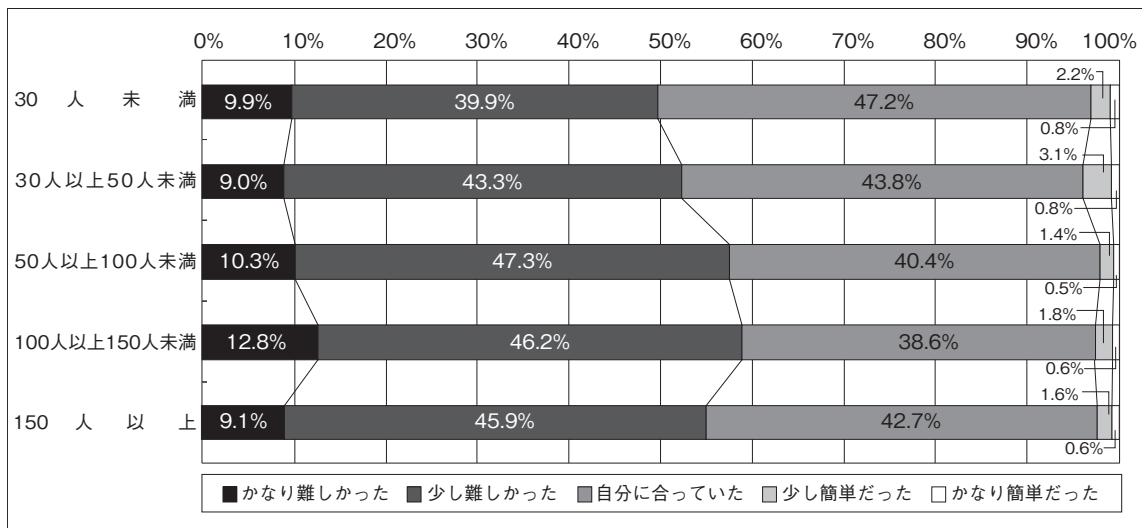


2. 授業について

(1) 授業（内容）の難易度はどうでしたか。

[単位：人（延べ）]

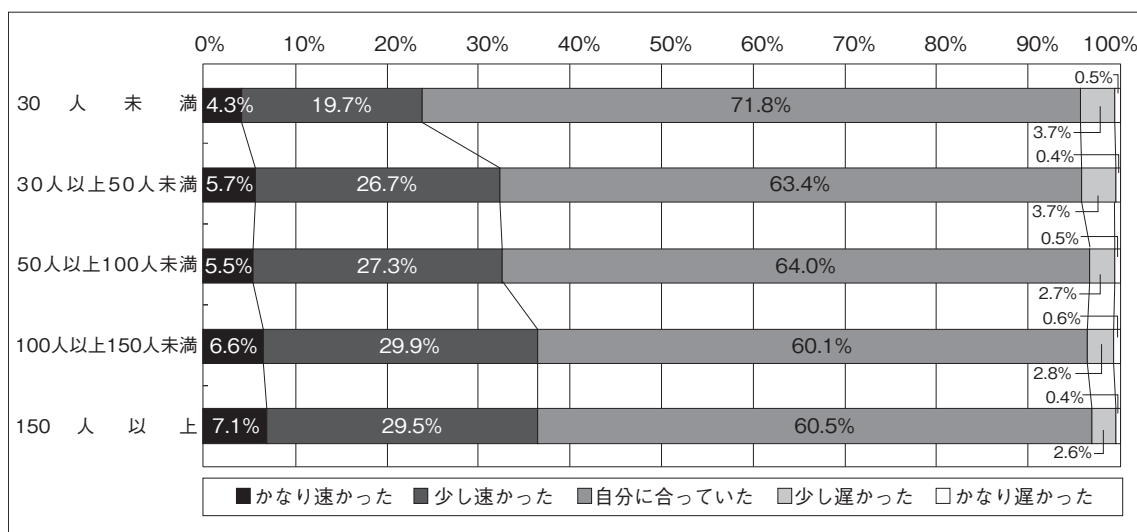
	かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
30人未満	1104	4462	5275	244	94	11179
30人以上 50人未満	1291	6206	6274	443	110	14324
50人以上 100人未満	1660	7644	6530	234	86	16154
100人以上 150人未満	1085	3929	3280	155	52	8501
150人以上	294	1479	1375	52	20	3220



(2) 授業の進度はどうでしたか。

[単位：人（延べ）]

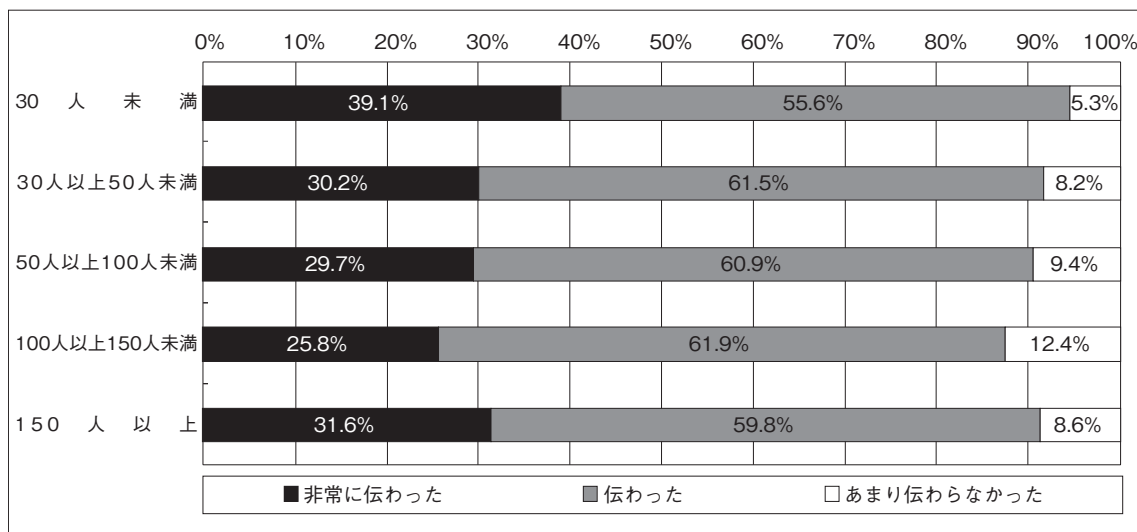
	かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
30人未満	482	2189	7994	413	55	11133
30人以上 50人未満	819	3807	9043	530	59	14258
50人以上 100人未満	884	4383	10286	437	85	16075
100人以上 150人未満	560	2536	5090	237	53	8476
150人以上	228	947	1943	82	12	3212



(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

[単位：人（延べ）]

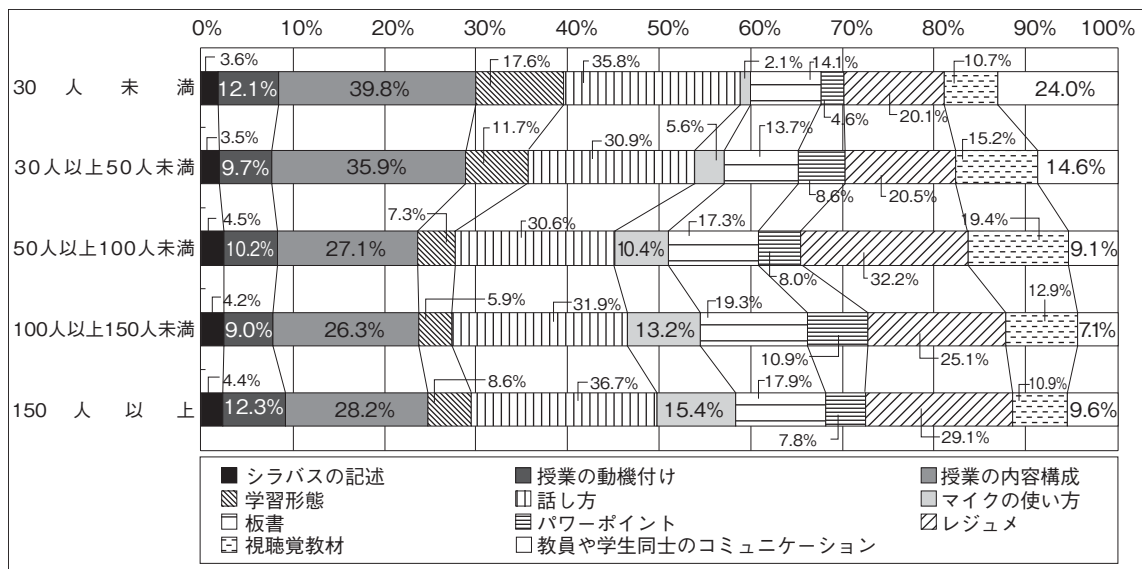
	非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
30人未満	4300	6118	579	10997
30人以上 50人未満	4260	8669	1162	14091
50人以上 100人未満	4731	9710	1491	15932
100人以上 150人未満	2149	5162	1033	8344
150人以上	1001	1891	272	3164



(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。

[単位：人（延べ）]

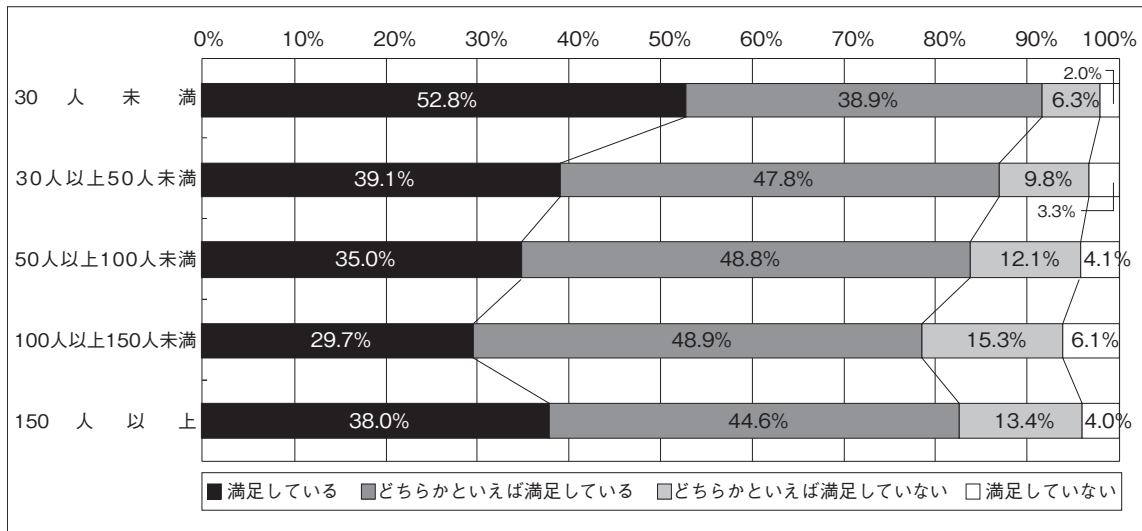
	シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方
30人未満	369	1237	4071	1796	3660	214
30人以上 50人未満	452	1264	4682	1521	4033	726
50人以上 100人未満	650	1495	3951	1058	4469	1511
100人以上 150人未満	319	675	1983	448	2407	997
150人以上	129	357	819	249	1066	448
	板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learningを含む)	合計
30人未満	1445	473	2060	1098	2452	10224
30人以上 50人未満	1790	1124	2669	1986	1897	13037
50人以上 100人未満	2522	1170	4703	2823	1331	14588
100人以上 150人未満	1454	820	1889	973	534	7540
150人以上	521	225	845	317	279	2903



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。

[単位：人（延べ）]

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
30人未満	5064	3733	603	193	9593
30人以上 50人未満	4859	5945	1218	406	12428
50人以上 100人未満	4848	6771	1681	568	13868
100人以上 150人未満	2177	3587	1122	449	7335
150人以上	1025	1202	362	108	2697



(集計：山本 理絵)

〔佛教大学授業アンケート〕 * 通学・通信課程共通

教授法開発室

科目名： _____ 曜日： _____ 講時： _____ 種別： _____
 (通信教育課程の場合はスクーリング種別を記入してください)

【マーク記入例】 良い例： ● 悪い例： ○ ✓ ✗

●あなたの所属について下記から選んでください。

- | | | | | | | | |
|----|-------------|----------|----------------|--------|-----------|------|------|
| 課程 | ① 通学課程 | ② 通信教育課程 | | | | | |
| 学科 | ① 人文 | ② 中国 | ③ 英米 | ④ 教育 | ⑤ 臨床 | ⑥ 現社 | ⑦ 公共 |
| | ⑧ 社福 | ⑨ 理学 | ⑩ 作業 | ⑪ 別科 | ⑫ 大学院修士課程 | | |
| | ⑬ 大学院博士後期課程 | ⑭ 課程本科生 | ⑮ 科目履修コース | ⑯ 教養講座 | | | |
| | ⑰ 本科入学資格コース | ⑱ 併修生 | ⑲ その他 (科目履修生含) | | | | |
| 回生 | ① 1回生 | ② 2回生 | ③ 3回生 | ④ 4回生 | ⑤ 5回生以上 | | |

●本アンケートは、学生の皆さんの「学習の状況」を測るアンケートです。以下の設問について、あてはまるものを選んでください。記入は鉛筆（HB・B）を使用してください。

- あなた自身の取り組みについて。
 - 履修理由について、あてはまるものを全て選んでください。

① 講義概要（シラバス）を読んで関心があった	② 卒業後の進路・就職に役立つ
③ 先輩や友人の薦めがあった	④ 必修科目
⑤ 時間割や開講日の都合	
 - これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。（通信教育課程は除く）

① 0回	② 1～2回	③ 3～4回	④ 5回以上	⑤ 分からない
------	--------	--------	--------	---------
 - 授業を妨げる行為（私語・携帯・遅刻・途中退室等）はしませんでしたか。

① しなかった	② 時々していた	③ 常にしていた
---------	----------	----------
 - 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか。

① 十分学習した	② ある程度学習した	③ あまりしなかった	④ ほとんどしなかった
----------	------------	------------	-------------
 - 熱心に授業に取り組みましたか。

① 取り組んだ	② どちらかといえば取り組んだ	③ どちらかといえば取り組まなかった	④ 取り組まなかった
---------	-----------------	--------------------	------------
 - 授業内容を理解することはできましたか。

① できた	② どちらかといえばできた	③ どちらかといえばできなかった	④ できなかった
-------	---------------	------------------	----------
- 授業について
 - 授業（内容）の難易度はどうでしたか。

① かなり難しかった	② 少し難しかった	③ 自分に合っていた	④ 少し簡単だった	⑤ かなり簡単だった
------------	-----------	------------	-----------	------------
 - 授業の進度はどうでしたか。

① かなり遅かった	② 少し遅かった	③ 自分に合っていた	④ 少し遅かった	⑤ かなり遅かった
-----------	----------	------------	----------	-----------
 - 教員の熱意は伝わりましたか。

① 非常に伝わった	② 伝わった	③ あまり伝わらなかった
-----------	--------	--------------
 - 授業のどのような点に工夫を感じましたが、あてはまるものをすべて選んでください。

① シラバスの記述	② 授業の動機付け	③ 授業内容構成	④ 学習形態（グループ学習・フィールドワーク等）
⑤ 話し方	⑥ マイクの使い方	⑦ 板書	⑧ パワーポイント
⑨ 視聴覚教材（ビデオ・DVD等）	⑩ 教員や学生同士とのコミュニケーション（e-Learningを含む）	⑪ レジュメ	
 - 総合的にこの授業に満足していますか。

① 満足している	② どちらかといえば満足している	③ どちらかといえば満足していない	④ 満足していない
----------	------------------	-------------------	-----------

- 自由記述欄
 - 上記の2-（4）で答えた以外にも、授業で感じた工夫があれば具体的に記述してください。
 - 授業を通して理解が深まったことや興味が増したことがあれば、記述してください。
 - 担当教員からの設問「 _____ 」
 - 担当教員へのメッセージ等を自由に記述してください。

FD Review

開業公衆

FD Review

授業公開

教授法開発室員 藤 松 素 子

1. 授業公開にあたっての議論経過

2008年度の授業公開は、春学期は実施を見送り、秋学期のみ開催するというやや変則的なものとなった。その背景には、積み残された課題が横たわっている。もっとも大きな課題は、各学部から授業公開していただく先生方を選出していただき、全学的に実施のアナウンスを行い、教育開発課職員の協力をえながら実施にこぎつけたとしても、参加教職員はいずれの授業においても若干名にすぎないという現実にある。

この現状を打開すべく、教授法開発室において、周知方法や実施方法等について種々検討を重ねてきたわけであるが、打開策は見出すことができないままに2008年度を迎えるにいたった。そのため、春学期においては、授業公開の実施そのものをひとまず留保した上で、より効果的な授業公開の実施にむけての議論の時間とした。

多くのエネルギーを割いて授業公開を行っても、多くの参加者を得られない要因は大別して二つあると筆者は考えている。

ひとつは、佛教大学教職員のFD活動そのものへの関心が必ずしも高くないことである。それは、教授法開発室が発足し10年近く経とうとしているが、未だにFD活動が全学的に取り組まれていない現状にあらわれているといえるであろう。これは個々人が授業改善に向けて努力をしているか否かを問題にしているのではなく、組織的に取り組む仕組みが未だ確立していないことを意味する。歴代の室長は、全学をあげた授業改善への取り組みの必要性を繰り返し説かれてきたわけであるが、その声は未だ全スタッフに届いていないということであろうか。

もうひとつは、佛教大学教職員のみならず、日本の大学をとりまく教育環境の悪しき状態にある。教授法開発室員である筆者自身も、毎回の授業公開のすべてに参加することができない。それは、筆者の怠惰のみに由来するのではなく、参加しようにも物理的にそれが許されないからである。講義・ゼミ・実習等の担当や学生指導は当然であるが、大小の学内委員会への参加、学部における様々なレベルの会議・打ち合わせとその事前事後の準備、様々なイベントの企画・準備・実施等々に関わる膨大な作業に加え、社会的要請にも対応していると余裕がないだけでなく、私的な時間をもつことも許されないのが現状である。授業研究そのものが充分できないような環境の下では、せっかく提供いただいた授業に参加することはほぼ不可能だといっても過言ではない。

そこで、授業公開と同様な効果を得られる取り組みとして「模擬授業」の実施を提案した。すぐれた教授法を参加者が学ぶひとつの機会として「模擬授業」を位置づけ、教職員向けの研修として実施し、学部学生・院生の参加も可能とした上で実施する。実施後はアンケートや研究会の形式により、受講学生・院生からも評価を受け、参加者と提供者が何らかの形で意見交換できることをねらったものである。これについては、その有効性は認められ

たものの、年度途中からの実施を具体的に検討することは困難であるということで、引き続き検討することとなった。

他方で、従来型の授業公開にも実施の意義はあるという意見もあった。学生に提供している授業は本来公共性を有するものであり、授業の透明性を担保することは当然で、それが授業の最低限の質の保障にもつながるという主張であった。そのため、従来のように室員を中心としてFD活動に関心が強い一部の教員だけが授業を提供するのではなく、誰もが必ず数年に1度は公開することを前提として継続すべきであるという。

こうして、秋学期は過年度に実施していない教員に依頼して、これまで同様の授業公開を実施することとなったのである。

2. 2008年度の取り組みをふりかえって

さて、2008年度は秋学期のみの開催となったが、これまで同様、事前にメールボックスに開催案内を配布した上で、各学部教授会において参加の呼びかけを行った上で実施日を迎えた。参加状況は下記のとおりである。平均参加者数は2.4名であった。

ちなみに2007年度の秋学期には、開催日時を分散させれば参加状況がよくなるのではないかとということで、12の授業で公開を実施したが、平均参加者数は2.3名であった。通常の授業講時において、どれだけ多くの授業を公開しても、それだけでは参加者数の増にはつながらないといえるであろう。

2008年度秋学期 授業公開実施科目・参加者数一覧

No.	担当教員	実施日	実施科目	受講者数	参加者数
1	白星 伸一	12月2日・5講時	臨床運動療法学演習 A	39	2
2	林 隆紀	12月4日・1講時	社会学入門ゼミ 2Am	30	2
3	堀家由紀代	12月4日・4講時	知的障害教育 II A	96	2
4	曾和 義宏	12月9日・1講時	法然の生涯と思想 A8	145	3
5	坂本 勉	12月11日・5講時	老人福祉論 2Ab	150	3

すべての公開が終了した12月17日に、昨年度に引き続き研究会を開催した。授業を提供いただいた先生方と教授法開発室員合同の研究会である。その具体的内容に関しては別稿に譲るが、提供者、参加者相互の意見交換は極めて有意義であった。提供者からは、教授法上の工夫や現状における課題について話題提供いただくことができ、また、受講者以外の第三者が参加することにより授業により緊張感が生まれること、自己の授業を再点検する機会となることなどの利点が述べられた。参加者からは、教授法上の学ぶべき具体的内容と、その展開の可能性、自己の授業と重ね合わせ検討することの必要性等が提起されることとなった。

提供者がいずれも若手教員であったことも影響しているが、提供者・参加者が相互に学びあう関係が築けることは、大学全体の授業改善に大きな意義をもたらすといえよう。これに何らかの形で学生・院生の意見・提案等が取り入れられれば、より一層、学生本位の授業改善に近づけるのではないかと考える。

3. 今後の課題

今年度、授業公開を担当した筆者の個人的見解としては、やはり、従来型の授業公開の方法は検討を有すると考えている。日々、自己の授業改善にたゆまぬ努力をしている教員の授業を参観し、そこから多くを学び、他方で提供した教員もまたその中から課題を発見し、さらなる努力へとつなげていける。そのことは、とても大切な営みである。しかしながら、先に述べたとおり、現状の環境においてはこうした相互のやり取りは、正規の授業時間内に自然に行える交流であるとはいえないのが現状である。むしろ、教員の研修プログラムとして組み込み、だれもが参加できる条件を整え、全学的に取り組むことを可能とする運営に切り替えていくことが必要な時期なのではないだろうか。また、一足飛びに教職員が一堂に会すことを前提に考えずとも、学部・学科単位で試験的に取り組みはじめ、課題を共有する中で最も効果的な内容・方法・時期において全学的に実施するという段階を設定することも一考に値するのではないかと考えている。次年度に引き継ぐべき課題として提案したい。

FD Review

e-Learning

e-Learning システム使用状況と今後の展開

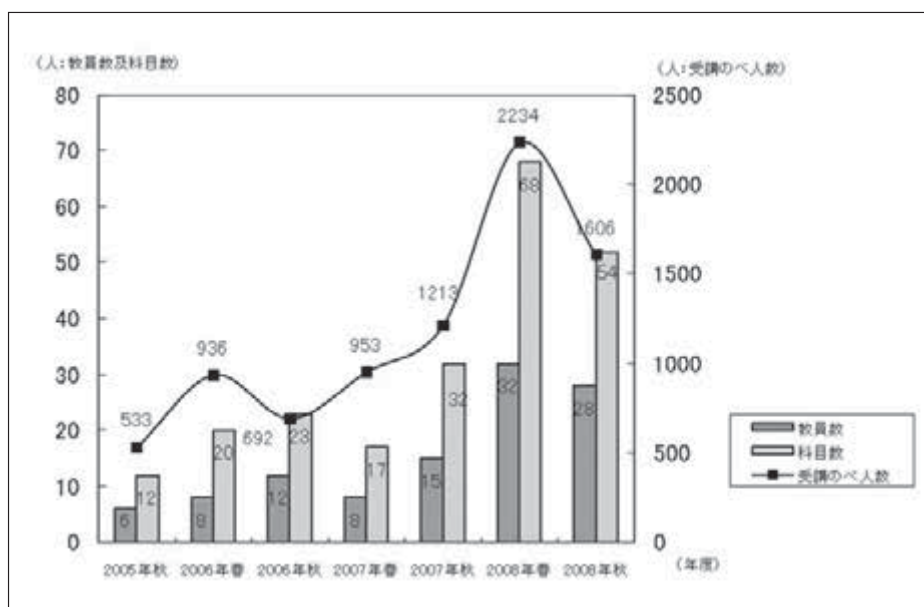
教授法開発室員 有田和臣
 メディア教材開発・知財課長 瀬澤且博
 協力：メディア教材開発・知財課

e-Learning の使用状況について、メディア開発・知財課による分析データをもとに、概況をまとめる。合わせて、今後どのような方向への展開を進めていくかを展望する。

1. 現在までの使用状況

1.1 全体推移

	教員数	科目数	受講生数 (のべ)
2005 年秋季学期	6	12	533
2006 年春季学期	8	20	936
2006 年秋季学期	12	23	692
2007 年春季学期	8	17	953
2007 年秋季学期	15	32	1213
2008 年春季学期	32	68	2234
2008 年秋季学期	28	54	1606

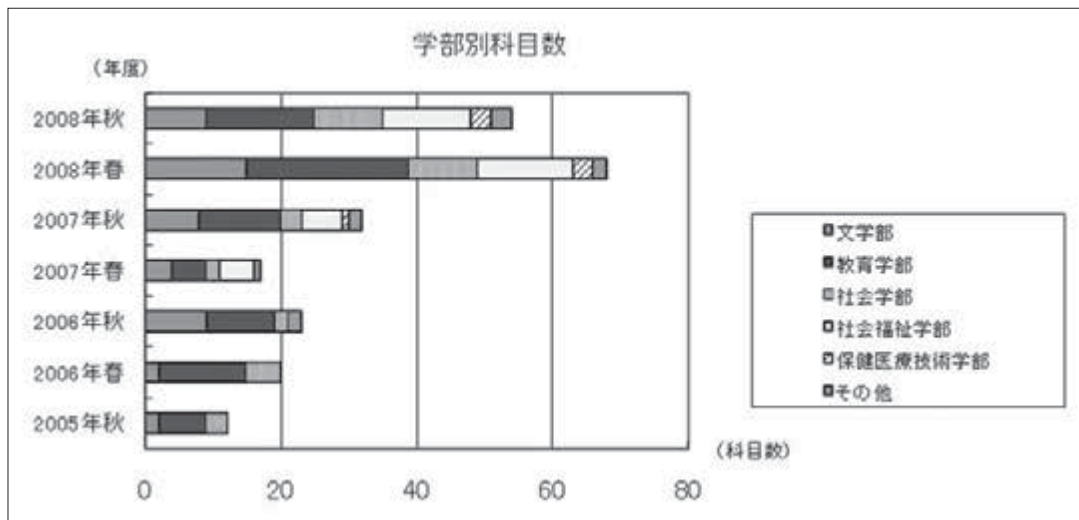


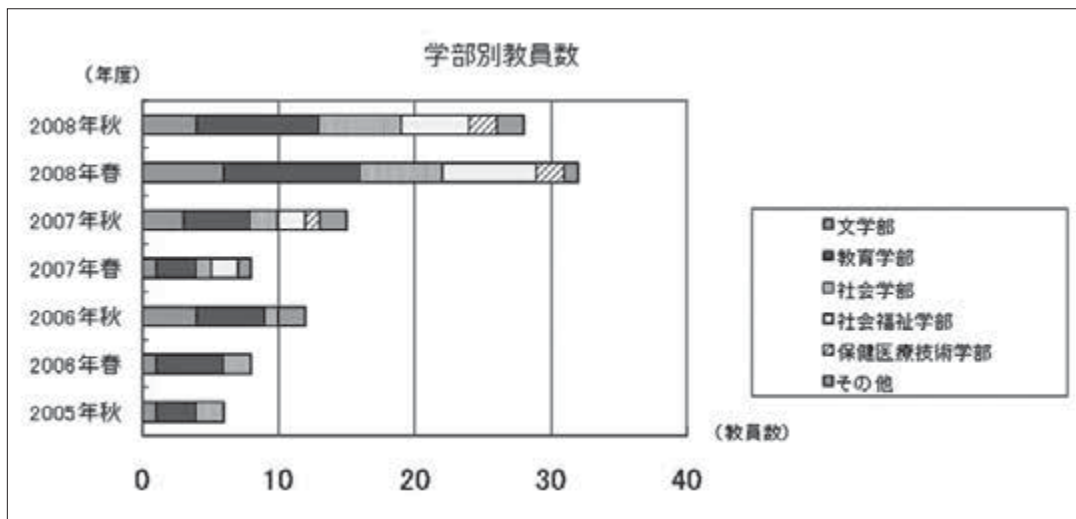
- ① 2005 年度秋学期から暫定的に運用している e -Learning システムは、利用教員数・科目数が学期を重ねるごとに増加している。
- ② 2005 年秋学期に運用開始した e -Learning システムは、2007 年秋学期には教員数が 2.5 倍、科目数約 2.7 倍、受講生約 2.3 倍になっている。
- ③ 2008 年春学期は、2005 年秋学期と比べ、教員数約 5 倍、科目数約 6 倍、受講生が約 5 倍になっている。
- ④ 2008 年秋学期は、2008 年春学期より教員数 4 名、科目数 14 科目、受講生 628 名減少。

上の表・グラフは、2005 年度秋から運用した e-Learning システムの使用状況について、2008 年の秋までの実績を一覧表にしたものである。グラフは折れ線が受講生数、棒グラフが科目数・利用した教員数を表す。

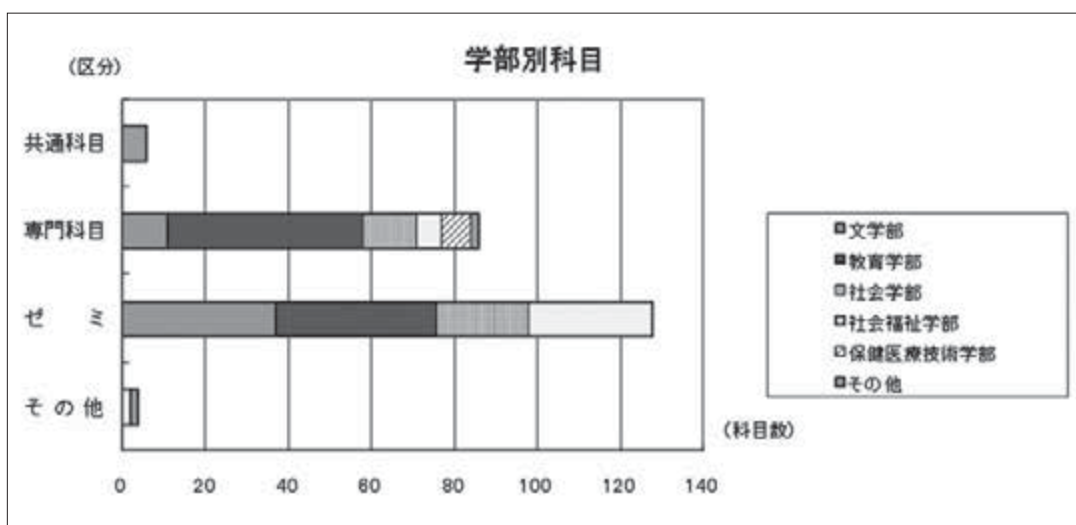
年々数字が上がっており、特に 2008 年の春には、今までで最高の数字が出ている。2008 年秋に、春に比べて学生数、科目数が極端に落ちているのは、秋には大教室での授業が多く、システムを利用するに適した科目が少なくなったためと思われる。利用実績は、確実に伸びているものと判断できる。

1.2 学部別推移





- ① 2005 年以降、年々各セメスターで科目数が増加している。
- ② 2008 年春学期には、5 学部運用し科目数が最高の数値になっている。
- ③ 運用科目数の増加と平行して、使用教員数も増加している。
- ④ 2007 年秋学期あたりから文学部、社会学部、社会福祉学部の教員の利用が増加している。
- ⑤ 2008 年秋学期は、2008 年春学期より科目数、使用教員数は減少している。



- ① 2007 年秋学期に比べ、専門科目・ゼミの利用が増加している。
- ② 2008 年春学期から保健医療技術学部の専門科目（実技実習）で利用された。
- ③ 2007 年秋学期に比べ、社会福祉学部でのゼミ利用が増加している。
- ④ 利用科目は、2006 年度以降あまり変化はない。
- ⑤ e-Learning システムのメリットを考えると、講義時間内で出来ないリメディアル教育などに効果がでる。

「学部別科目」のグラフは「共通科目」「専門」「ゼミ」「その他」の4項目に分けてある。「その他」は、キャリア関係の科目を指す。利用の多い科目は、ゼミと専門科目であり、これは本学 e-Learning システムを立ち上げたときの狙い通りと言ってよいだろう。今後より多くのゼミで利用して頂けるように努力したい。

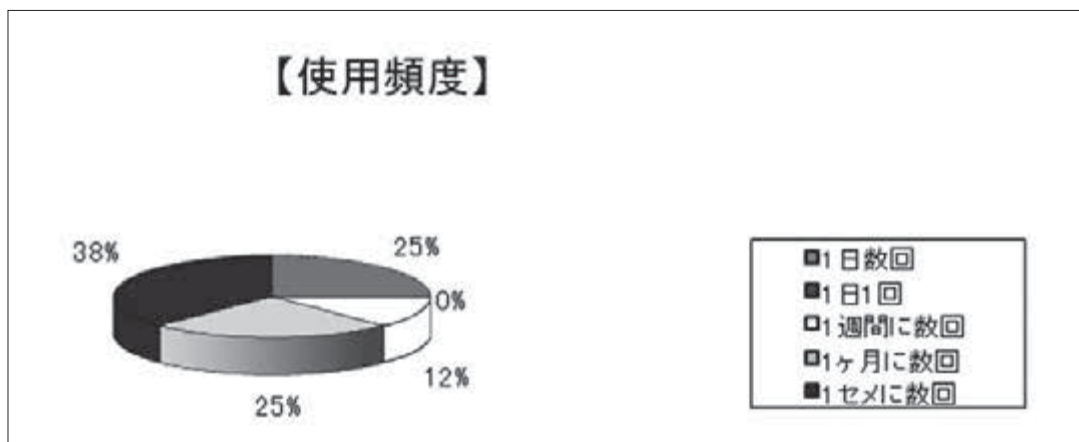
2. 2008 年秋学期 教員・学生アンケート

2.1 アンケートの実施結果

次に示すのは、2008 年の秋学期に教員・学生を対象に実施したアンケートの結果である。2006 年秋より学生対象のアンケートを実施し、2008 年度の春からは教員対象のアンケートを始めた。次に示すのは 2008 年秋学期の結果である。

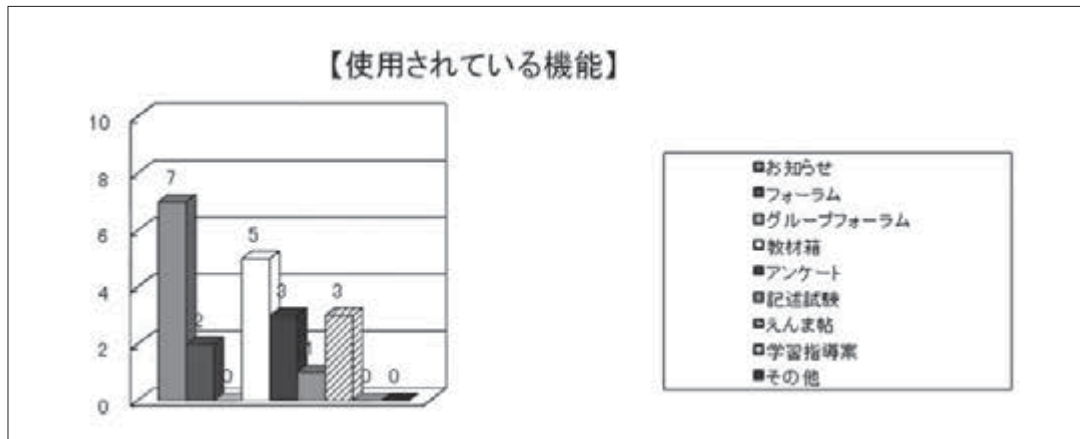
2.2 教員対象のアンケート結果

2.2.1 使用頻度



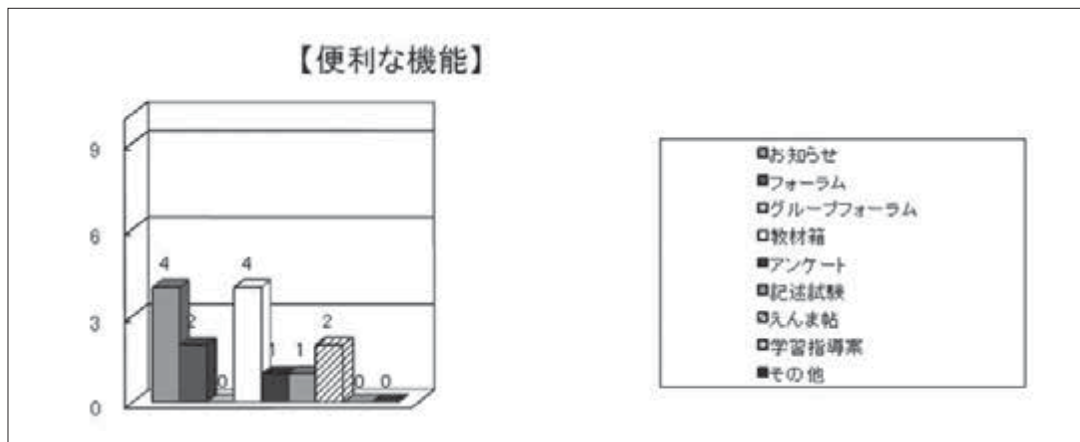
「使用頻度」については、1日に数回、1日に1回、1週間に数回、1カ月数回、1セメスターに数回という区切りでアンケートを取った。1日に数回という教員が25%、1日に1回が12%、1週間に数回が25%ということで、使い勝手はさておき、e-Learning システムの使用方法は問題なく理解が行き渡っているのではないかと考えられる。

2.2.2 使用されている機能



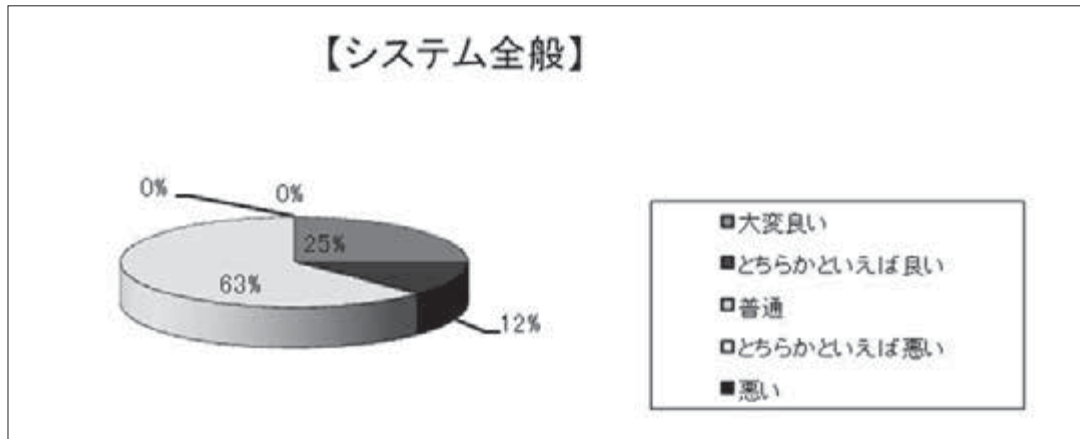
「使用されている機能」は、「お知らせ」「教材箱」が多い。これらは学生にいろいろな情報を投げかけて頂くという趣旨で設けた機能なので、中核となる機能を十分に使いこなして頂いているという手ごたえが感じられる。

2.2.3 便利な機能



「便利な機能」としても、数字的には少なくとも、「お知らせ」「教材箱」が挙げられており、これらが活用されている状況がうかがえる。

2.2.4 システム全体



「システム全体」の評価として、「大変良い」と評価した教員が25%、「どちらかといえば良い」が12%、「普通」が63%だった。全般としては、使用者の納得を得られていると思われる。

2.2.5 意見・感想

- メリット -

- ・ 学生への通知・連絡、および提出物の確認や採点、成績管理が容易になる。
- ・ 教員が学生の取り組みの様子を把握することができた。
- ・ 課題提出確認とその課題へのコメント返信の作業が簡潔に処理できた。
- ・ 教材箱に板書事項や教材をあらかじめファイル化して収めることによって、授業がスムーズに進められた。
- ・ 機能としては、十分なものを備えている。

- デメリット -

- ・ 履修登録の時期にも関連するが、第1回目の授業で使用できなかった。
- ・ 複数の授業で e-Learning システムを利用している場合、授業を切り替えても、どの授業に切り替わったか、直観的にわかりにくい。
- ・ 教材箱など操作が複雑で使いにくい。
- ・ 携帯電話からの送信・投稿機能がない。

上に、教員の先生方から頂いたコメントをメリットとデメリットということで分けて示した。代表的な4、5項目にしぼって挙げてある。

デメリットには、システムに由来するデメリット、運用に由来するデメリットの2種類がある。携帯電話からの送信・投稿機能がないという点は、システムに由来するデメリットである。現行ではXOOPS（ズープス）というフリーソフトを使ってe-Learningシステムを作っているのだが、このXOOPSが、携帯電話機能をサポートできないという弱点をもっているためである。

複数の授業で e-Learning のシステムを利用している場合、授業の切り替えをしても、

今どの授業を操作しているのかというのが現在のシステムでは分かりにくい。この弱点も XOOPS を使ったシステムに由来するものである。

運用に由来するデメリットについては、第1回目の授業で使用できなかったという点がある。授業の登録手続きとの関係上、第1回目の授業に受講生のリストを登録できないケースがほとんどである。

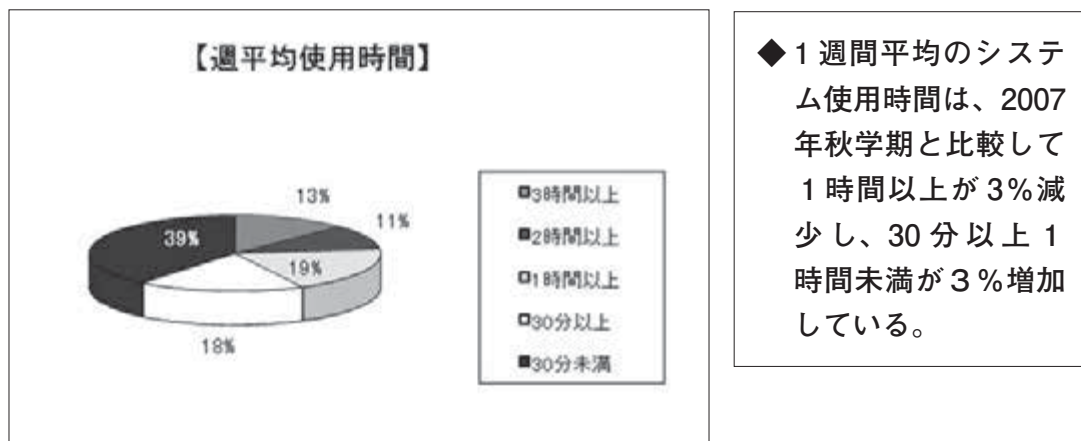
以上3つのデメリットに関しては、毎年言われていることで、これを次年度以降何とかして解決していこうと考えている。ひとつの解決方法は、XOOPS ではなく、Moodle（ムードル）というオーストラリアの教育機関で作られたフリーソフトを使うことである。日本国内の高等教育機関の多くは今、これを使って e-Learning を運用している。本学も Moodle を運用することで、携帯電話の使用が可能になる。

また、教員が使用を希望する授業を早めにリサーチし、学生の登録とともにすみやかにシステムが立ち上げられるよう、試行を重ねたい。

2.3 学生対象のアンケート結果

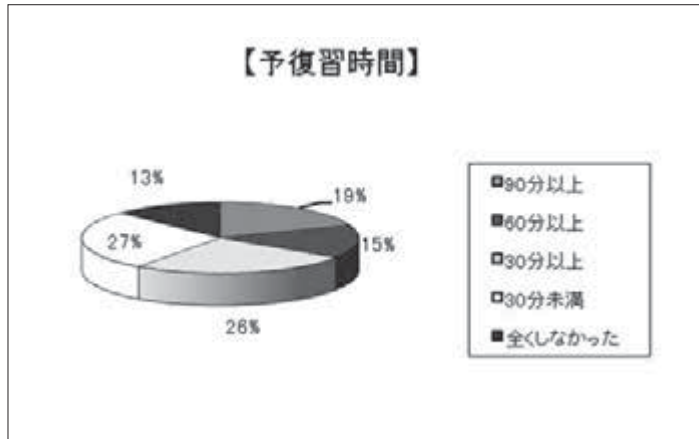
次に、学生対象のアンケートの結果を概観する。事務局としては、e-Learning をあくまで自学自習の支援ツールとして位置付けている。手とり足とり学生の学習活動の面倒をみるためのシステムとは考えていない。したがって、学生が自発的な事前学習、事後学習に、e-Learning システムをうまく活用してほしいという願いがある。そのため、学生の学習活動についても 2006 年秋学期より継続的にアンケートを取り、その状況を見ている。

2.3.1 システム平均使用時間



上は 2008 年秋に、学生が e-Learning システムを利用して学習活動をする 1 週間あたりの平均時間をアンケートした結果である。3 時間以上、2 時間以上、1 時間以上、30 分以上、30 分未満の 5 項目に分けて質問している。30 分未満～30 分以上にかけての分布が大半を占めており、学生の学習時間の少なさが、このグラフを見てもうかがえる。

2.3.2 授業予復習時間

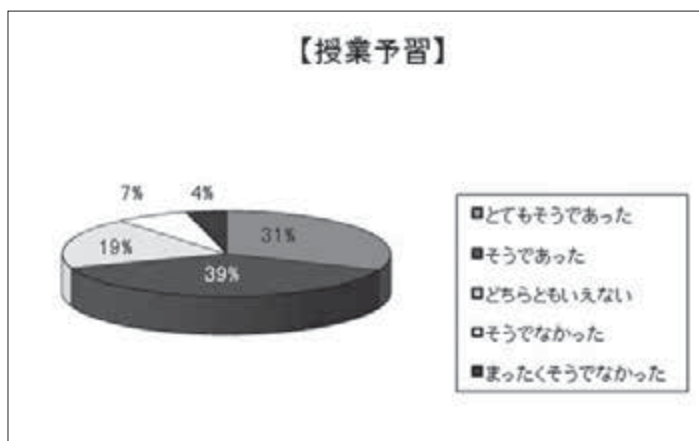


◆1回の授業についての予習復習時間は、2007年秋学期に比べ1時間以上が5%減少している。しかし、30分以上1時間未満が6%増加。また、30分未満、全くしなかったという回答は、2%減少している。

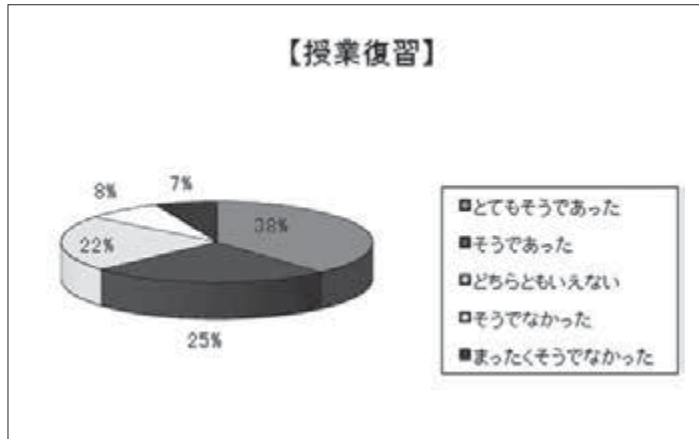
次に学生の予習復習時間の全体を見る。1回の授業についてどのくらいの時間予復習をしているか、e-Learningを使用している学生を対象にアンケートをとったものである。学生が普段どれほど勉強しているのか不安を持っていたが、予想よりも予習・復習をやっている状況が読み取れた。30分以上が半数以上あり、この状況であれば、e-Learningの中でいろいろ課題を与えれば、学生の方もいろいろそれを使って勉強しようという姿勢を持っているものと考えられる。

今回示すのは2008年秋学期分のみだが、この予習復習時間に関しては、アンケートを取り始めてから非常に高い数字をキープしている。よりいっそう、e-Learningを活用するための工夫を重ねていけば、それだけの成果は期待できる状況であると言えよう。

2.3.3 授業予復習への利用価値



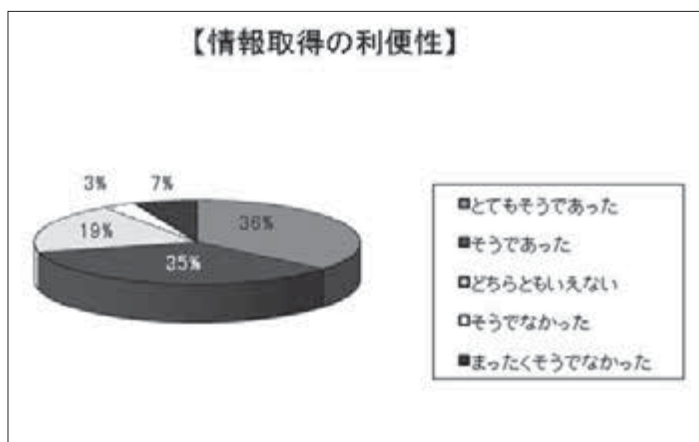
◆授業内容の予習ができたかという質問に対して、とてもそうであった・そうであったと回答した学生が、2007年秋学期と同じく70%あった。



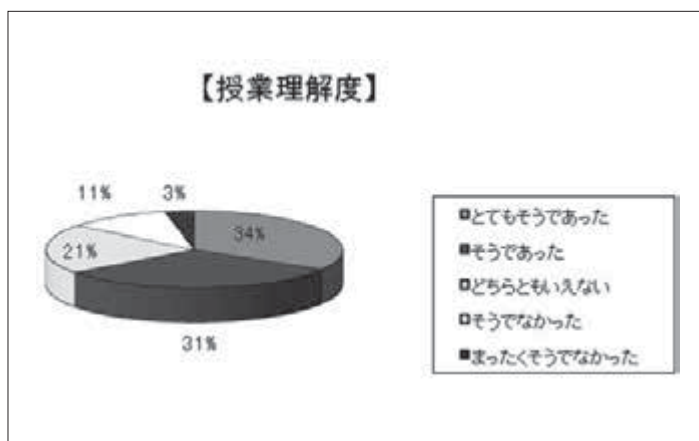
◆授業内容の復習ができたかという質問に対して、とてもそうであった・そうであったと回答した学生が、2007年秋学期と比べ8%増加した。

上は、授業の予習、授業の復習に e-Learning システムが役立ったかという問いへのアンケート結果である。予習で「そうであった」という答えが39%、「とてもそうであった」が31%であり、約70%が e-Learning を使って予習をしているという結果が出ている。あわせて復習の方も、非常に高い数字で e-Learning を使用している状況が示されており、e-Learning システムの予復習への貢献度の大きさが、この円グラフから読み取れる。

2.3.4 情報取得の利便性・授業理解度



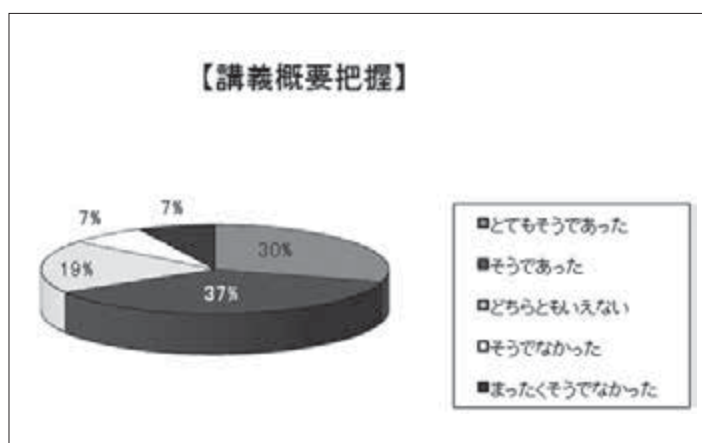
◆学習に必要な情報取得ができたかという質問に対して、とてもそうであった・そうであったと回答した学生が、2007年秋学期と比べ5%減少した。



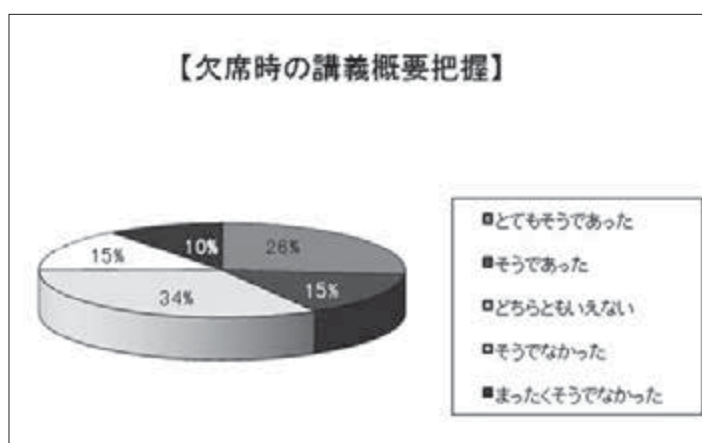
◆学習内容の理解が深まったかという質問に対して、とてもそうであった・そうであったと回答した学生が、2007年秋学期と比べ5%減少した。

「情報の取得の利便性」、「授業理解度」への貢献についてもアンケートを取っている。この結果も非常に高い数字で、e-Learning システムの貢献度の高さを示している。「情報取得」については「どちらともいえない」を含めたら、ほぼ90%の数値になる。「理解度」の方も非常に高い数値が読み取れる。

2.3.5 講義概要把握



◆講義全体の流れが把握できたかかという質問に対して、とてもそうであった・そうであったと回答した学生が、2007年秋学期と比べ、約4%増加した。



◆欠席時の講義の把握に役立ったかという質問に対して、とてもそうであった・そうであったが、2007年秋学期と比較して7%減少した。しかし、どちらでもないと回答した学生が2007年秋学期より約10%増加した。

「講義概要把握」については、出席時、欠席時の両方の項目でアンケートを取っている。先の「授業理解度」と同様、e-Learning を使いながら復習も予習もやっている学生は、非常に講義の流れについて把握しやすい状況にあることが、このグラフから読み取れる。

「欠席時の講義概要把握」は、教員の e-Learning のシステム運用状況によって若干左右される場所はあるが、さほど悪くない数字が出ている。 Semesterごとにアンケートを取ってきたが、毎回、ほぼ同じ結果が出ている。

2.3.6 意見・感想

メリット-

- ・フォーラムの機能を初めて使用している
いろいろな意見交換ができてすごくよかった
と思う。
- ・予習、復習になってとても役立っています。
たまにめんどいなあと思う時もありますが、
やっているときさまざまな情報を
得ることができるし、自主的にわからない
ことを調べようって気持ちになります。
- ・毎週、課題が出るのでちゃんとやる習慣
がついた。

-デメリット-

- ・教員が積極的に活用したら、私も活用す
ることになる。
- ・モバイルからの閲覧、書き込みができると、
より利用しやすいと思う。
- ・人が多くて課題ができないことがあるので、
もっとパソコンの台数を増やして欲しい。

上には学生が書き込んだメリット・デメリットのうち代表的なものをそれぞれ3点挙げた。フォーラムを使って同じ受講生といろいろな意見交換ができる点や、また、授業中に質問をすることの少ない学生も e-Learning を使えば比較的抵抗なく質問等ができる点などを、大きなメリットとして挙げている学生が多かった。

デメリットの項目にもあるように、e-Learning システム上で課題をきっちり出す教員がいれば、学生もやらざるを得なくなる、と言ってしまう言葉が悪いが、最初はそういうふうな気持ちでやっていた学生も、しだいに学習の習慣が付いて面白くなっていくという面があるようにうかがえる。これもメリットの1つであろう。上に挙げた以外にも、「宿題の感覚のできるので、あまり自分から進んで勉強できない私にとって e-Learning は良い復習する場となりました。パソコンで宿題を出すということも新鮮だったので楽しくもありました。」といった感想も多く見られた。

そして、教員のコメントにも挙げられていたモバイル特に携帯電話への要望は多い。さらに、環境面、すなわち大学の中で使えるパソコンの台数、設置場所を増やしてほしいという意見は、非常に多い。上には挙げていないが、もっと e-Learning を使った講義を増やしてほしいという意見もある。

半面、「学外ネットワークから授業内容が確認できるのは便利だと思いましたが、使用教材などのネット配布が可能になると授業に出る意義も薄れたような気がします。」といった意見もある。多くの利点がある一方で、e-Learning と対面授業との住み分けについても、さらに明確に意識化していく必要があるだろう。

2.4 今後の展望

学生の自主学習を支援するツールとして、e-Learning システムは発展を続けている。上にまとめてきた、本学における使用状況とその分析をふまえ、以下3点を今後への展望として挙げておきたい。

1. 新たに Moodle によるシステム開発を行い、携帯電話対応などの従来サポートされなかった機能をカバーしていくよう努力する。従来の XOOPS によるシステムと、現在開発試行している Moodle によるシステムが平行することになると、システムの一元化がはかれないという点で、学生の使い勝手にはデメリットとなる可能性もある。将来的には Moodle に一本化していく必要はあろうかとも思われるが、この1～2年については並行運用していきたいというのが、事務局の考えである。携帯電話のサポートをはじめ、実現したい機能のほとんどは Moodle でカバーできるのだが、一部 XOOPS でしか実現できない機能もある。授業および教員のニーズに応じて、XOOPS か Moodle かを用いるという運用を考えている。
2. 教室で、一定の制約内で市販本の一部をコピーして配布することは今までどおりの方法で可能だが、インターネットに載せて配信してしまうことには問題がある。これは部分であっても不可となる。著作権者に逐一了承を取り、場合によっては課金が発生するとすれば、それに伴う一連の手続きは非常に煩雑になる。こうした著作権の問題にもまだ明快な道筋は示されておらず、これをどうクリアするかが今後の課題として残される。当面、ペーパーベースで手で配る部分と、ネットに載せて配信してもよい部分との住み分けをはかるしかないだろう。
3. 将来的な課題として、学生ポータルサイトの構築が挙げられる。例えばポータルサイト上にその学生が登録・受講している授業一覧があり、シラバスをクリックすると、すぐにその授業で使う資料が出せる、そういうシラバスとの連携が実現できれば、学生にとっての学習環境には大きなプラスとなるだろう。

また、各学生の学習履歴をポータルサイトできちんと記録すれば、それを学習指導に生ずることができる。例えばテスト成績が学習履歴に残れば、指導に利用できる。文科省は1単位当たりの学習時間をきちんと確保しなさいという方向性を打ち出している。e-Learning を使用している時間は、予習・復習を含めて学習時間に当てられる。それならばポータルサイト上で、e-Learning を使って学習している時間を記録に残せばよいわけで、これは学生の学習状況の把握にもつながるだろう。

FD Review

育
教
前
学
入

入学前教育

教授法開発室員 榎本福寿

1. はじめに

本学の入学前教育は、レポート作成と授業体験の2コース制で実施している。授業体験コースは昨年度新しくスタートさせたものだが、2コース制での実施二年目となる本年度は、特別推薦に教育連携校枠が新設された。推薦枠の増加とは逆に、対象者の総数としては、昨年度より20名余り減少をみている。

実施内容は、昨年度にも増して受講者に好評であった。その一方、昨年度実績と比較が可能となり、受講率や受講者アンケート等により、実施に伴う問題あるいは課題も浮かび上がってきている。とりわけ授業体験コース受講者の大幅な落ち込みなど、看過できない事象もある。入学前教育じたいを見直す時期にさしかかってもいるが、近年取り組みが盛んな初年次教育とどのように関連付け、あるいは接続させるかといった課題も一方にある。

こうした点を視野に入れ、さらに数値のあらわれをただ提示するだけにとどめず、可能な限り分析を加えながら報告することに努める。そして最後にアンケート調査結果等を踏まえ、今後の入学前教育のあるべき方向について若干の提言を試みる。

2. 入学前教育の実施概要

2-1 〈入学前教育の目的〉

「入学後の学部・学科（コース）における専門教育への導入」を主目的とし、これに即して以下の5項目を柱とする。

- ・ 本学に対する理解の向上（自校教育）
- ・ 学部（学科）教育に対する理解の向上
- ・ 学習意欲（モチベーション）の向上
- ・ 学習に対する意識付け
- ・ 学習への不安緩和

2-2 〈入学前教育の対象者〉

12月中に最終入学手続者データが揃う入試の各入学手続完了者を対象とするが、特別推薦には本年度新たに教育連携校からの推薦入学者が加わった。各入試種別ごとの対象者数の内訳は以下の通り。

- ・ AO 選抜—————23 名
- ・ 特別推薦
教育連携校—————3 名

指定校	143名
課外活動枠	35名
スポーツ強化枠	20名
・宗門後継者	27名
・同窓	27名
・帰国生徒	4名
合計	282名

2-3 〈入学前教育の形態・内容〉

レポート作成コースと授業体験コースの2種別とする。いずれか一方を任意に選択、受講することを基本とし、両コース共に受講することも認める。各コースの実施内容は以下の通り。

ーレポート作成コースー

〔AO 選抜〕

英米学科

- ① 英文読解、英文聴解
- ② 英作文
- ③ 電話インタビュー（ネイティブである本学専任教員1名・外国人契約教員1名の計2名との電話での会話。15分程度）

教育学科

課題について調べたものをまとめ、感想を書く。参考にしたものを明記。

公共政策学科

3つのテーマの内1つを選択し、テーマに関する図書（1冊）の内容をまとめ、その図書に対する意見を書く。図書名等を明記。

社会福祉学科

- ① 指定図書を読み、全体の要約と感想を書く。
- ② 指定図書を読み、レポート作成。また、関連する新聞記事・図書を読んでまとめる。新聞記事はコピーを添付、図書は書名等を明記。

理学療法学科

課題についてまとめる。

作業療法学科

図書（参考として2冊提示）などを参考のうえ課題に答える。参考にする図書は別のものでも許可。

※ 上記学科以外はAO入試を実施していない。

※ 英米学科の③を除き、他は全て提出レポートに添削を加えて返却。

[特推 (教育連携校・指定校・課外活動・スポーツ強化枠)、同窓、帰国生徒、宗門後継者]
人文学科

コース別 (浄土・仏教、仏教芸術、日本史、アジア史、地域文化、日本語日本文学) の
課題についてレポート作成。

中国学科

課題についてレポート作成。

英米学科

課題について、英作文作成。

教育学科

課題について調べたものをまとめ、感想を書く。参考にしたものを明記。

臨床心理学科

指定したレジメ (事前学習) を学習、練習問題を解く。

現代社会学科

3つのテーマの内1つを選択し、それに関わる図書を読み、内容をまとめ関連した新聞
記事の内容と関係づけてレポート作成。図書名等を明記。

公共政策学科

3つのテーマの内1つを選択し、テーマに関する図書 (1冊) の内容をまとめ、その図
書に対する意見を書く。図書名・著者名等を明記。

社会福祉学科

指定した新聞記事を読み、感想と意見を書く。

理学療法学科

課題についてまとめる。

宗門後継者

日常勤行の暗誦。僧侶となる決意について書く。

※ 上記のレポート、感想、意見等の提出物は、すべて添削のうえ返却。

一授業体験コース一

〔AO 選抜、特別推薦、同窓、帰国生徒、宗門後継者〕

実施日：平成 21 年 3 月 1 日（日）

- ① 10：30～11：00 自校教育 30分
担当：学長
* 11：00～11：15 教室移動

- ② 11：15～11：45 各学部の学びの導入（ガイダンス） 30分（5教室に分かれる）
内容は、各学部の教育目的等について
文学部担当：原田敬一
教育学部担当：橋本憲尚
社会学部担当：的場信樹
社会福祉学部担当：伊部恭子
保健医療技術学部担当：赤松智子

- ③ 11：45～12：30 各学部の体験授業 45分
知的好奇心を喚起するテーマ、わかりやすい内容
文学部
 テーマ：近代中国の画報の“画”を読む
 担当：若杉邦子（所属：中国学科）
教育学部
 テーマ：臨床心理学入門
 担当：荒井真太郎（所属：臨床心理学科）
社会学部
 テーマ：メディアの世界
 担当：村瀬敬子（所属：現代社会学科）
社会福祉学部
 テーマ：社会福祉の援助とは・・・理解し合い、つながり合うこと！
 担当：黒岩晴子（所属：社会福祉学科）
保健医療技術学部
 テーマ：理学療法概論
 担当：日下隆一（所属：理学療法学科）

- ④ 12：30～13：15 休憩（昼食） 45分

- ⑤ 13：15～14：00 各学部の体験授業 45分
文学部
 テーマ：日本人と日本文学
 担当：榎本福寿（所属：人文学科）

教育学部

テーマ：「教育」とは－教員生活から考えたこと－

担当：小林隆（所属：教育学科）

社会学部

テーマ：都市のアメニティ創造

担当：萩原清子（所属：公共政策学科）

社会福祉学部

テーマ：社会福祉の援助とは・・・理解し合い、つながり合うこと！

担当：黒岩晴子（所属：社会福祉学科）

保健医療技術学部

テーマ：リハビリテーションにおける注意力とリスク管理

担当：刈山和生（所属：作業療法学科）

—対面授業—

入試種別

特別推薦（教育連携校）

実施学科

教育学科

実施内容

実施回数：4回

① 第1回 平成20年12月21日（日）

〔内容〕

- ・第1回の説明
- ・自己紹介
- ・本学への期待などの懇話（peer learning）
- ・平城高校教育コース卒業レポートの概要発表（presentation working）
- ・大学教育の概要説明
- ・在学生との懇話（peer learning）
- ・第1回の総括
- ・今後の予定

② 第2回 平成21年1月28日（水）

〔内容〕

- ・第2回の説明
- ・平城高校教育コース卒業レポートの成果と課題発表（presentation working）
- ・今日的教育問題についての懇話（peer learning）
- ・課題図書についての意見交流（peer learning）
- ・演習（日本語語用論）
- ・第2回の総括
- ・今後の予定

③ 第3回 平成21年2月25日(水)

[内容]

- ・第3回の説明
- ・平城高校教育コース卒業レポートのリライトの視点
- ・今日的教育問題についての懇話 (peer learning)
- ・課題についての意見交流 (peer learning)
- ・演習 (active learning / critical Reading, paragraph writing, presentationworking, peer learning)
- ・第3回の総括
- ・今後の予定

④ 第4回 平成21年3月4日(水)

[内容]

- ・自校教育
- ・教育学部へのいざない
- ・全4回の総括

3. 入学前教育の実施結果

3-1 全体総括——両コース受講者比率——

レポート作成コース受講者数 (表 1)

	AO	特推								宗門		同窓		帰国		学科合計			学部合計			総合計																						
		教育連携		指定校		課外活動		スポーツ								入学 手続者数	受講者数	入学 手続者数	受講者数	入学 手続者数	受講者数	受講率 (%)	入学 手続者数	受講者数	受講率 (%)	入学 手続者数	受講者数																	
		入学 手続者数	受講者数	入学 手続者数	受講者数	入学 手続者数	受講者数	入学 手続者数	受講者数	入学 手続者数	受講者数	入学 手続者数	受講者数	入学 手続者数	受講者数																													
人文	浄土／ 仏教	-	-	-	-		1		0		0				1		-																											
	仏教 芸術	-	-	-	-		0		0		0				0		-																											
	日本史	-	-	-	-	30	7	10	0	4	1	27	13	7	1	-	-	78	31	39.7 %	101	46	45.5 %	282	116																			
	アジア 史	-	-	-	-																					0		0		0				0		-								
	地域 文化	-	-	-	-																					2		1		0				1		-								
	日本文学	-	-	-	-	3		0		0				0		-																												
中国	-	-	-	-	3	2	1	1	-	-	-	-	0	0	2	1	6	4	66.7 %																									
英米	3	2	-	-	8	4	2	2	1	1	-	-	3	2	-	-	17	11	64.7 %																									
教育	1	0	3	0	17	7	2	0	2	2	-	-	3	2	-	-	28	11	39.3 %																									
臨床	-	-	-	-	2	1	3	2	-	-	-	-	2	0	-	-	7	3	42.9 %	35	14	40.0 %																						
現社	-	-	-	-	32	10	3	0	8	0	-	-	4	0	-	-	47	10	21.3 %																									
公共	6	2	-	-	14	6	4	1	3	2	-	-	3	0	-	-	30	11	36.7 %	77	21	27.3 %																						
社福	5	2	-	-	35	17	10	4	2	2	-	-	4	1	2	0	58	26	44.8 %	58	26	44.8 %																						
理学	3	3	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	5	5	100.0 %																									
作業	5	4	-	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	4	66.7 %	11	9	81.8 %																						
入試種別 合計	23	13	3	0	143	61	35	11	20	8	27	13	27	9	4	1	282	116	41.1 %	282	116	41.1 %																						
	56.5%		0.0%		42.7%		31.4%		40.0%		48.1%		33.3%		25.0%		41.1%			41.1%			41.1%																					

授業体験コース受講者数（表2）

	AO			特推								宗門			同窓			帰国			学科合計				学部合計				総合計															
	入学 手続者数	申込者 数	受講者 数	教育連携		指定校		課外活動		スポーツ		入学 手続者数	申込者 数	受講者 数	入学 手続者数	申込者 数	受講者 数	入学 手続者数	申込者 数	受講者 数	入学 手続者数	申込者 数	受講者 数	受 講 率 (%)	入学 手続者数	申込者 数	受講者 数	受 講 率 (%)	入学 手続者数	申込者 数	受講者 数	受 講 率 (%)												
				入学 手続者数	申込者 数	受講者 数	入学 手続者数	申込者 数	受講者 数	入学 手続者数	申込者 数																						受講者 数	入学 手続者数	申込者 数	受講者 数								
人文	-	-	-	-	-	30	14	14	10	2	1	4	0	0	27	4	4	7	2	2	-	-	-	78	22	21	26.9%																	
中国	-	-	-	-	-	3	1	1	1	0	0	-	-	-	-	-	0	0	0	2	2	2	6	3	3	50.0%	101	33	29	28.7%														
英米	3	1	0	-	-	8	6	5	2	0	0	1	0	0	-	-	3	1	0	-	-	-	17	8	5	29.4%																		
教育	1	1	1	3	0	17	9	9	2	2	2	2	0	0	-	-	3	3	3	-	-	-	28	15	15	53.6%																		
臨床	-	-	-	-	-	2	1	1	3	0	0	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	7	2	2	28.6%	35	17	17	48.6%														
現社	-	-	-	-	-	32	15	14	3	2	1	8	1	1	-	-	4	1	1	-	-	-	47	19	17	36.2%																		
公共	6	4	3	-	-	14	6	6	4	2	1	3	0	0	-	-	3	1	1	-	-	-	30	13	11	36.7%	77	32	28	36.4%														
社福	5	2	2	-	-	35	20	19	10	5	6	2	0	0	-	-	4	3	3	2	0	0	58	30	30	51.7%	58	30	30	51.7%														
理学	3	1	1	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0	-	-	-	5	2	2	40.0%																		
作業	5	2	2	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	3	3	50.0%	11	5	5	45.5%														
入試 種別 合計	23	11	9	3	0	143	74	71	35	13	11	20	1	1	27	4	4	27	12	11	4	2	2	282	117	109	38.7%	282	117	109	38.7%													
	39.1%			0.0%			49.7%			31.4%			5.0%			14.8%			40.7%			50.0%			38.7%				38.7%				38.7%											

受講率＝受講者数÷入学手続者数

上掲表1はレポート作成コースの受講者数を、また表2は授業体験コースの受講者数を、それぞれ入試種別、学部・学科ごとに区分して表示したものである。入学前教育の全対象者282名のうち、レポート作成コース受講者数は116名、授業体験コース受講者数は109名を数える。このなかには両コースを受講した39名を含む。それを除く186名、割合では全対象者の66%が入学前教育を受講したことになる。この割合は、昨年度の70%を下回る。

しかしその割合の落ち込み以上に昨年度と相違するのが、レポート作成コースの受講者の増加と、逆に授業体験コース受講者の減少である。昨年度は、レポート作成コースの受講者数（108名、35.3%）を授業体験コースの受講者数（168名、54.9%）が大きく上回っていたが、本年度はそれぞれ上記の通り116名（41.1%）と109名（38.7%）だから、完全に逆転している。授業体験コース受講者数の下落幅は15%余りにも達する。

入試種別、学部・学科ごとのその詳細な内訳は後に言及するとして、授業体験コース受講者の大幅な減少とは逆に、レポート作成コースの受講者数が昨年度のそれを5%ほど上回っている。授業体験コース受講者数の減少とレポート作成コース受講者の増加とは、恐らく相関する関係にあるはずだから、授業体験コース受講者数の減少だけを捉えて評価を下すことは当を失する。体験授業実施当日の3月1日（日）に卒業式を開催した高校が少なくなかったようだし、こうした学校行事その他の都合あるいは事情により、授業体験コースの受講を断念せざるを得ない場合がある。そのなかの一部が、レポート作成コースの受

講へ向かったことも当然ありうる。今後、経年的にこの両コース受講者数の変動・推移に注視すべきだが、相関にも十分留意する必要がある。

3-2 入試種別ごとの受講者の動向

入試種別受講者数（レポート作成コースのみ）（表 3）

入試種別	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
AO選抜	23	10	43.5	13.0
特別推薦（教育連携校）	3	0	0.0	0.0
特別推薦（指定校）	143	34	23.8	44.2
特別推薦（課外活動）	35	9	25.7	11.7
特別推薦（スポーツ強化枠）	20	8	40.0	10.4
同窓	27	6	22.2	7.8
宗門後継者	27	10	37.0	13.0
帰国生徒	4	0	0.0	0.0
合計	282	77	27.3	100

入試種別受講者数（授業体験コースのみ）（表 4）

入試種別	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
AO選抜	23	6	26.1	8.6
特別推薦（教育連携校）	3	0	0.0	0.0
特別推薦（指定校）	143	44	30.8	62.9
特別推薦（課外活動）	35	9	25.7	12.9
特別推薦（スポーツ強化枠）	20	1	5.0	1.4
同窓	27	8	29.6	11.4
宗門後継者	27	1	3.7	1.4
帰国生徒	4	1	25.0	1.4
合計	282	70	24.8	100

入試種別受講者数（両コース）（表 5）

入試種別	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
AO選抜	23	3	13.0	7.7
特別推薦（教育連携校）	3	0	0.0	0.0
特別推薦（指定校）	143	27	18.9	69.2
特別推薦（課外活動）	35	2	5.7	5.1
特別推薦（スポーツ強化枠）	20	0	0.0	0.0
同窓	27	3	11.1	7.7
宗門後継者	27	3	11.1	7.7
帰国生徒	4	1	25.0	2.6
合計	282	39	13.8	100

入試種別ごとに分けた受講者数は、多寡の差が著しい。とりわけ授業体験コースでその差が大きく、受講率（表 4）によれば、多いグループはAO選抜の26.1%、指定校の

30.8%、課外活動の25.7%、同窓の29.6%、帰国生徒の25.0%などいずれも25%を超える。これに対して、少ないグループは教育連携校の0%、スポーツ強化枠の5%、宗門後継者の3.7%など、どれも5%以内にとどまる。

本年度の特徴は、総括で述べた通り授業体験コースの受講者数の減少だが、こうした寡少グループの存在に加え、多いグループでも、昨年度と較べ軒並み5～20%減らしている。受講者数最多の指定校の受講者数の推移をみるに、昨年度は受講者数69名、受講率43.9%だったが、本年度はそれぞれ44名、30.8%にすぎない。

こうした授業体験コース受講者の減少は、両コース受講者数（表5）にも関係する。昨年度と比較してみると、AO選抜の昨年度13名、48.1%が本年度は3名、13%にまで受講者を減らしているのを始め、全体でも、昨年度の61名、19.9%に対して39名、13.8%にすぎない。この全般にわたる減少は、もう一つ、レポート作成コース受講者数との相関にもみることができる。すなわち昨年度は上記の通り両コース受講者61名、19.9%を下回って、レポート作成コースのみの受講者は47名、15.4%だったが、本年度は逆に、両コース受講者が39名、13.8%にとどまり、レポート作成コースのみの受講者77名、27.3%を大きく下回る（表3）。

授業体験コースとは逆に、レポート作成コースでは、こうして昨年度に較べ受講者数の伸びが著しい。そのなかでも、とりわけ注目すべき数値が受講率である。授業体験コースのみの受講率（表4）では、スポーツ強化枠、宗門後継者とも数%にすぎなかったが、レポート作成コースのみの受講率（表3）となると、それがそれぞれ40%、37%に達する。AO選抜も、授業体験コースのみの受講率26.1%に対して、レポート作成コースのみの受講率は43.5%にもものぼる。総括のなかで、授業体験コース受講者の減少とレポート作成コース受講者の増加という両者の相関に言及したが、ここにその典型的なあらわれをみることができる。授業体験コースの受講者減は、決して入学前教育そのものの低調あるいは後退を意味するものではない。

なお、本年度新設の教育連携校は、わずかに対象者が3名というごく限定的な枠だが、どのコースにも受講者が存在しない。前掲実施内容の「教育連携校」のなかに報告した通り、教育学科が12月21日から3月4日にわたって都合4回独自に入学前教育を実施していることによる。教育連携校という送り出し高校とこれを受け容れる教育学科との教育連携に基づく新たな取組みでもあり、入学前教育の充実また実質化をめざす今後の展開が期待される。

3-3 学部学科別の受講者の動向

学部・学科別受講者数（レポート作成コースのみ）（表6）

学部・学科	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
人文学科	78	24	30.8	31.2
中国学科	6	2	33.3	2.6
英米学科	17	9	52.9	11.7
文学部	101	35	34.7	45.5
教育学科	28	6	21.4	7.8
臨床心理学科	7	2	28.6	2.6
教育学部	35	8	22.9	10.4
現代社会学科	47	5	10.6	6.5
公共政策学科	30	9	30.0	11.7
社会学部	77	14	18.2	18.2
社会福祉学科	58	14	24.1	18.2
社会福祉学部	58	14	24.1	18.2
理学療法学科	5	3	60.0	3.9
作業療法学科	6	3	50.0	3.9
保健医療技術学部	11	6	54.5	7.8
合計	282	77	27.3	100

学部・学科別受講者数（授業体験コースのみ）（表7）

学部・学科	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
人文学科	78	14	17.9	20.0
中国学科	6	1	16.7	1.4
英米学科	17	3	17.6	4.3
文学部	101	18	17.8	25.7
教育学科	28	10	35.7	14.3
臨床心理学科	7	1	14.3	1.4
教育学部	35	11	31.4	15.7
現代社会学科	47	12	25.5	17.1
公共政策学科	30	9	30.0	12.9
社会学部	77	21	27.3	30.0
社会福祉学科	58	18	31.0	25.7
社会福祉学部	58	18	31.0	25.7
理学療法学科	5	0	0.0	0.0
作業療法学科	6	2	33.3	2.9
保健医療技術学部	11	2	18.2	2.9
合計	282	70	24.8	100

学部・学科別受講者数（両コース）（表 8）

学部・学科	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（％）	受講者数内訳（％）
人文学科	78	7	9.0	17.9
中国学科	6	2	33.3	5.1
英米学科	17	2	11.8	5.1
文学部	101	11	10.9	28.2
教育学科	28	5	17.9	12.8
臨床心理学科	7	1	14.3	2.6
教育学部	35	6	17.1	15.4
現代社会学科	47	5	10.6	12.8
公共政策学科	30	2	6.7	5.1
社会学部	77	7	9.1	17.9
社会福祉学科	58	12	20.7	30.8
社会福祉学部	58	12	20.7	30.8
理学療法学科	5	2	40.0	5.1
作業療法学科	6	1	16.7	2.6
保健医療技術学部	11	3	27.3	7.7
合計	282	39	13.8	100

この学部・学科別受講者数でも、授業体験コース（両コース受講者を含む）においては、多寡2つのグループがある。多いグループは、教育学部の17名、48.6%、社会福祉学部の30名、51.7%、保健医療技術学部の5名、45%であり、受講率は45%を上回る。これに対して、寡少グループが文学部の29名、28.7%と社会学部の28名、36.4%である。（表7、表8）。

昨年度は社会福祉学部も寡少グループ（それでも受講率は、文学部45.9%、社会福祉学部52.5%、社会学部56.4%など）に属していたが、本年度この学部だけが、上記の通り受講率トップに立っていても、昨年度とほぼ同率を維持している。昨年度に引き続いて受講率の低い学部が、文学部と社会学部である。その低率を招く構造的な問題がある。

それが、前項の入試種別受講者数に著しいあらわれをみせたスポーツ強化枠と宗門後継者の受講率の極端な低さである。受講率5%にとどまるスポーツ強化枠の入学手続者の学部ごとの数と受講者との対応は、文学部が5対0、社会学部が11対1、社会福祉学部が2対0である（表2）。この入学手続者のとび抜けて高い数が、逆に社会学部全体の受講率を押し下げている。入学手続者が次いで多い文学部では、これに宗門後継者の受入学部という特別な事情が加わる。宗門後継者の入学手続者27名だけでも、文学部全体の手続者101名の26.7%を占めるなかで、わずか4名にとどまる受講者のこの低い数が、文学部全体の低い受講率をもたらしたもう一つの要因である。ただし、こうした構造上の問題として狭く限定して捉えるだけでは十分とはいえない。臨床心理学科のばあい、授業体験コースのみの受講者と両コース受講者とも各1名（表7、8）、わずかに2名に過ぎない。昨年度は手続完了者7名のうち4名全員が両コースを受講していることから、授業体験コース受講率の全般的な低調という本年度の傾向のなかで、構造上の問題が顕在化してきたものとみるべきであろう。

一方、レポート作成コースの受講者数は、総括ですでに言及した通り大幅な伸びをみせたが、レポート作成コースのみの受講率にそれが顕著にあらわれている（表6）。昨年度の受講率が15.4%だから、本年度はそれを12%ほど上回ったことになる。この要因が、

両コース受講者を含む授業体験コース受講からレポート作成コースのみの受講へのシフトである。昨年度と較べて特に著しく増加した学科を挙げれば、中国学科（0%→33%）、英米学科（12%→52.9%）、公共政策学科（0%→30%）、理学療法学科（0%→60%）、作業療法学科（0%→50%）など、全学科の過半に及ぶ。このうち、最後の理学・作業の両学科を合わせた保健医療技術学部全体としても、入学手続者11名のうちの9名が両コース受講を含むレポート作成コースを受講している。この受講率81.8%は、レポート作成コースへのシフトという本年度入学前教育の特徴を象徴的にものがたってもいる。

なお、このレポート作成コースのみの受講者数のなかでは、現代社会学科の10.6%は極端に低い受講率だが（表6）、その背景に、入試種別のうち、課外活動に入学手続者3名、スポーツ強化枠に同8名、同窓に同4名それぞれいるにもかかわらず、受講者が皆無という実態がある。文学部も、課外活動の入学手続者10名、スポーツ強化枠の同4名のうち、受講者は各1名にとどまるものの、宗門が手続者27名のうち13名が受講して落ち込みを押しとどめていることにより、40%をわずかに下回る受講率を維持している（表6）。ここでも、またやはり入試種別との相関に注意が必要である。

3-4 出身地域別の受講者の動向

都道府県別受講者数

(レポート作成コースのみ)(表9)

住所	受講者数	%
北区	1	1.3
左京区	2	2.6
南区	3	3.9
右京区	3	3.9
伏見区	3	3.9
山科区	2	2.6
西京区	1	1.3
京都市内	15	19.5
京都市外	7	9.1
京都府	22	28.6
北海道	1	1.3
神奈川県	1	1.3
福井県	2	2.6
岐阜県	1	1.3
三重県	2	2.6
滋賀県	16	20.8
大阪府	9	11.7
兵庫県	5	6.5
奈良県	6	7.8
和歌山県	3	3.9
鳥取県	2	2.6
徳島県	1	1.3
香川県	1	1.3
高知県	1	1.3
福岡県	2	2.6
熊本県	1	1.3
大分県	1	1.3
合計	77	100

(授業体験コースのみ)(表10)

住所	受講者数	%
北区	2	2.9
上京区	5	7.1
左京区	2	2.9
中京区	4	5.7
東山区	1	1.4
南区	3	4.3
右京区	3	4.3
伏見区	4	5.7
山科区	1	1.4
西京区	2	2.9
京都市内	27	38.6
京都市外	17	24.3
京都府	44	62.9
富山県	1	1.4
福井県	1	1.4
三重県	1	1.4
滋賀県	9	12.9
大阪府	9	12.9
兵庫県	2	2.9
奈良県	1	1.4
和歌山県	2	2.9
合計	70	100

(両コース)(表11)

住所	受講者数	%
北区	3	7.7
上京区	1	2.6
東山区	1	2.6
下京区	1	2.6
右京区	4	10.3
伏見区	1	2.6
山科区	3	7.7
西京区	1	2.6
京都市内	15	38.5
京都市外	6	15.4
京都府	21	53.8
新潟県	1	2.6
愛知県	1	2.6
滋賀県	5	12.8
大阪府	7	17.9
兵庫県	1	2.6
奈良県	3	7.7
合計	39	100

% = 受講者数 ÷ 合計

出身地域別に受講者数を表示したのが上掲の表である。場所（本学）の限定を伴う授業体験コースの受講者とその制約を受けないレポート作成コースの受講者とは、本来的に受講者数に大きな違いを生むことになる。げんに、レポート作成コースのみの受講者は、京都市内の都合19%と市外の9.1%とを合わせても30%に満たない（表9）。これとは対照的に、授業体験コースのみの受講者では京都市内の38.6%と市外の24.3%と合わせると62.9%に達する（表10）。この割合は、授業体験コースの受講者が多かった昨年度の、市内42%と市外15%とを合わせた57%を上回っている。ちなみに、本年度の入学前教育の対象者282名の出身地域別の内訳では、京都出身者が127名、全体のほぼ半数を占める。この数に照らしても、6割以上という割合はやはり高すぎるものとみなければならない。

結局、受講者が少なかった分、京都出身の受講者の数がそれだけ突出したということだが、この突出とは裏腹に、レポート作成コースでは、京都出身の受講者の割合が3割にも満たない（28.6%、表9）。京都に次ぐのが滋賀県出身の受講者数である。その16名は、大阪府出身の受講者9名の倍近い。入学前教育の対象者では、大阪府出身者が42名、滋賀県出身者が38名だから、ただこの数を逆転しているだけにとどまらず、全体に占める20.8%というその割合（表9）じたい、異常といっても過言ではない。レポート作成コースのみの受講者のうち、昨年度の滋賀県出身者の占める割合はわずかに4.3%、実数は2名に過ぎない。大阪府出身者数の退潮と滋賀県出身者数の躍進とは、まさに好対照をなす。

大阪府出身の受講者数の退潮は、両コース受講者数においても著しい（表11）。昨年度24.6%を占めていた割合が、本年度は17.9%に落ちている。京都市外出身者数も、昨年度の19.7%に対して15.4%にとどまる。受講者数の実質では、滋賀県出身の受講者数を含め、京都市外12→6、大阪府15→7、滋賀県9→5というように昨年度の受講者数をほぼ半減させている。これらとは逆に、実数では16→15とほとんど変わりなく、割合では26.2%から38.5%を占めるまでに伸ばしたのが京都市内出身の受講者数である。授業体験コースのみの受講者数のなかに京都市外出身の受講者数の占める割合の増大、またレポート作成コースのみの受講者数のなかに滋賀県出身の受講者数の占める割合の著しい伸長に加え、この両コースの受講者数のなかに京都市内出身の受講者数の占める割合の伸びなど、これら京都と滋賀の出身受講者の動向が入学前教育受講者数全体の傾向を左右するといった意味合いが今後いっそう強まることが予想される。

4. 受講者に対するアンケート調査結果

4-1 全体集計、回答率

入学前教育の受講者を対象に実施したアンケートの調査結果であるが、集計は、特別推薦（教育連携校、指定校、課外活動枠、スポーツ強化枠）、同窓、帰国生徒、宗門後継者とAO選抜とに分け、前者についてはさらに学部・学科別に区分している。そこで便宜、前者を特推等、後者をAO選抜と略称する。（集計結果は、136ページ以降に一括掲載）

回答率は、入試種別や学部・学科によって大きく異なる。とりわけレポート作成コースの受講者では、特推等が61.2%、AO選抜が76.9%だが、学部・学科による違いが大きい。学科ごとに列記すれば（カッコ内の数字はパーセント。小数点以下は四捨五入）、人文(71)、

中国 (25)、英米 (67)、教育 (55)、臨床心理 (33)、現代社会 (70)、公共政策 (33)、社会福祉 (63)、理学療法 (100) となる。最後の理学療法学科を除き、回答率の低い学科は、軒並み受講者数じたいが少ない (中国 4 名、臨床心理 3 名、公共政策 9 名など)。

一方、授業体験コースの受講者を対象としたアンケートは、受講直後に実施・回収しているため、回答率が高い。特推等は 94.0%、この内訳を集計の都合上学部ごとに列記すれば (上記レポート作成コースと同じ表示)、文学 (93)、教育 (100)、社会 (92)、社会福祉 (89)、保健医療技術 (100) となる。これに対して、AO 選抜では受講者 9 名のうち 6 名が回答したに過ぎない。昨年度は 22 名のうち回答しない者がわずかに 1 名だけ、回答率は 95.5% だったが、それが本年度は 66.7% にまで下がっている。

4-2 レポート作成コースのアンケート調査結果

アンケートの質問は、実施方法、課題、添削、入学前教育の 4 項目に関して、都合 7 問ある (アンケート集計結果参照)。回答者の絶対数が極端に少ない学科、例えば中国学科、臨床心理学科の 1 名、理学療法学科の 2 名、公共政策学科の 3 名などに、果たしてどれほどデータとしての信頼性を認めうるのか、疑問なしとしない。そこで、学科ごとに設題、課題は異なるけれども、原則として学部を単位に説明を加え、学科については適宜言及する。

本年度の入学前教育を、レポート作成コースの受講者数の増加が特徴づけていたが、全般にわたって高く評価しながらも、一方では昨年度より不評の増した項目がいくつかある。まずは実施方法だが、レポート課題の出題形式 (論述・要約など) を「わかりやすかった」とする割合は、特推等が 61%、AO 選抜が 70% である。昨年度のそれぞれ 64%、70% と大差ないが、特推等の「わかりにくい」は明らかに増加している。特に「わかりやすかった」の割合が平均を下回る学部に、それが顕著である。「わかりやすかった」と「わかりにくい」とを対比して示せば、文学部 55% 対 17%、教育学部 42% 対 29%、社会学部 60% 対 20% など、過半を越える。提出期限についても、「適当であった」が特推等でも 78% ある反面、「早すぎた」とする回答も、昨年度は回答数 58 件のうちわずかに 2 件、それが本年度は特推等の全体で 63 件中の 14 件、割合にして 22% に達する。AO 選抜は、10 件の回答すべてが「適当であった」である。

この傾向は、次の「課題について、内容はどうでしたか」とも相関する。特推等では、73% が「適当であった」とする一方、「難しすぎた」が 25% ある。昨年度の 17% から大幅に増加している。その特に著しいのが、文学部の 38% と教育学部の 29% である。AO 選抜の場合、学科ごとに課題数も異なるが、共通する第一課題についての回答では、特推等の全体の平均に近く、「適当であった」が 70%、「難しすぎた」が 30% である。しかしこの割合も、昨年度は「適当であった」が 80%、「難しすぎた」にいたっては皆無だから、やはり同じ傾向にあるとみなければならない。

次の添削に関する回答も、わずかな数値ながら「満足した」とする割合は、昨年度の 85% から 81% に下がっている。AO 選抜も同様であり、昨年度の 90% に対して 80% と低い。そのなかでも、教育学部は 7 名、社会福祉学部は 15 名、保健医療技術学部は 2 名の各学部の回答のすべてが「満足した」とする点は特筆に値する。文学部人文学科でも、過半数の 13 名が「満足した」となっている。添削の返却時期については、昨年度の 84% より高

い86%が「適当であった」と回答している。

最後が、入学前教育の効果に関する2つの質問、受講したことによって「大学の授業に関心を持ってましたか」と受講したことが「大学の授業に役立つと思えましたか」である。特推等の全体では、前者については「持てた」が79%、後者にいたっては「思った」が87%を占める。しかも「持てなかった」「思わなかった」といった否定に当たる回答が全く無い。昨年度はそれぞれ71%と83%だから、あきらかに評価を上げている。

もっとも、学部のなかには、「持てた」「思った」の占める割合の減少したところもある。文学部だけだが、昨年度に比べ、それぞれ75%が67%に、90%が78%に割合を下げている。しかしそれでも、「持てなかった」「思わなかった」は皆無であり、この文学部を含めても上述の通り80%以上が効果を認めたことは重要である。それは、入学前教育そのものの意義を評価したことに通じる。質問項目のなかの、たとえば実施方法は技術的な事項だし、また課題にしても、「難しすぎた」がどれほどの割合を占めたにせよ、その教育上の効果を評価している以上、「難しすぎた」ことが却って教育効果の向上に繋がったことさえあったはずである。なおまたこうした高い評価が、レポート作成コースの受講に対する積極的な取組と無縁であるはずもない。レポート作成コースの受講者数の増加とも、それは無縁ではなかったに違いない。

4-3 授業体験コースのアンケート調査結果

体験授業は、いわゆる出前授業などとは違い、大学において、大学の教員による、大学の授業を受ける初体験となり、レポート作成コースの受講とは様態も、またそのもつ意味も大きく異なる。本学のばあい、自校教育、各学部の学びの導入（ガイダンス）、午前と午後の2回に分けた各学部の授業を内容とする。当然、レポート作成コースとは、アンケートの調査項目も違う。

まずは回答率だが、受講直後にアンケートを実施しているため、全体でも91.7%にのぼる。85.7%の社会学部以外、各学部とも90%を越える。

アンケートの質問項目の最初が「参加目的」である。全体では、④の「大学の雰囲気を知るため」が24%と最多、次いで⑦の「大学での授業内容を知るため」の19%、「友人を作るため」の11%の順となる。この各項目の順位と割合とは、昨年度のそれぞれ④の25%、⑦の20%、⑤の12%とほとんど差がない。しかし入試種別、学部別にみると、上位を占める④と⑦の比率に、以下の通り変化がある（数字は④－⑦それぞれの%を示す）。

入試種別	AO	特推	同窓
昨年度	18 - 20	27 - 21	22 - 22
本年度	37 - 13 ←	22 - 19	23 - 23

学部別	文学	教育	社会	社福	保医
昨年度	27 - 22	24 - 15	23 - 20	21 - 22	23 - 27
本年度	24 - 17	25 - 29 →	24 - 16	26 - 21 ←	27 - 6 ←

矢印の←は、④と⑦とを対比した場合に、昨年度とは逆転して本年度④が⑦を上回ったことを、逆向きの→は、反対に⑦が④を上回ったことをそれぞれ表示する。←の3つと→が1つ、これにより、全体を通して→の教育学部だけがまさに唯一例外的に⑦が④を上回るだけとなり、他は軒並み④が⑦を上回るか、同率となる。

すなわち、本年度は入試種別、学部別のいかに問わず、ほとんど「大学の雰囲気を知るため」を参加目的の第一に挙げている。授業体験がオープンキャンパス化していることを暗示する。⑤の「友人を作るため」が参加目的の3位に入り、授業体験コースの主要な内容に関連する⑧「自校教育について聞きたかった」、⑨「各学部のガイダンスが聞きたかった」、⑩「体験授業の内容に興味があったため」のいずれもそれに遠く及ばないこととあいまって、入学前教育の今後のあり方を考える上で非常に示唆に富む。

次の実施内容に関しては、自校教育、各学部の学びの導入（ガイダンス）、そして午前と午後の2回の各学部の体験授業などの感想を問うものだが、70～80%が「分かりやすかった」と回答している。学部間には、ややバラツキが目立つものの、全体としては昨年度と大差がない。保健医療技術学部の、回答者5名全員が実施内容の全てにわたって「分かりやすかった」とするアンケート結果は、入学前教育に寄せるこの学部の並々ならぬ意欲をうかがわせる。後述する入学前教育の効果を問うアンケートでも、この学部は各段に高い評価を得ている。

その教育効果をめぐるアンケートの最初の問いは、「大学生になることに不安を感じていましたか」と「大学生になる不安は少なくなりましたか」という対応から成る。前者の問いに対する回答では、入試種別間の差違のほうが学部間のそれより大きい。AO 選抜が6名全員、100%「不安を感じていた」、特推が62%、同窓は46%に過ぎない。特推の62%という割合が、全体の65%に近い。学部間にも違いはあるが、教育学部の76%が最も高く、文学部の70%、社会福祉学部の63%、保健医療技術学部の60%、社会学部の54%と続く。そしてこの割合がどんなに低くても、「感じていなかった」を上回ることはない。ところが、教育効果を問う「不安は少なくなりましたか」になると、「不安は全くなくなった」と「不安はなくならなかった」とのそれぞれの割合が、全体では同じ20%だが、入試種別、学部ごとに大きく異なる。次にその各割合を示す（%）。

入試種別	AO	特別推薦	同窓
割合	33 > 17	20 > 14	0 < 80

学部別	文学	教育	社会	社福	保医
割合	6 < 28	23 > 8	23 > 15	24 < 29	67 > 0

「全くなくなった」が「なくならなかった」を上回る（>印）入試種別・学部と、その逆（<印）とが5対3となる。これを、（<印）がわずかに社会学部と社会福祉学部だけにとどまり、他は全て（>印）であった昨年度と較べれば、明らかに効果を減じている。全般にわたる授業体験コースの受講者数の減少とも、恐らくそれは無縁ではない。

最後に、もう一つの教育効果を問う「大学の授業に関心が持てましたか」と、受講が「大学の授業に役立つと思えましたか」とであるが、効果を評価する「持てた」と「思った」が、

全体集計ではそれぞれ 82%と 80%に達するものの、昨年度の同 84%と 82%を若干下回る。またレポート作成コース受講者を対象とした同じ質問に対する回答が、上述の通りそれぞれ 79%と 87%だから、授業に役立つという点では、これにも及ばない。文学部の体験授業受講者の回答がそれぞれ 58%と 62%にとどまったことが、全体の割合を押し下げる方向に作用したことは明らかである。入試種別、学部を問わず、むしろ多くが昨年度同様か、それを上回る高い評価を得ている事実こそ、全体の傾向をみてとることができる。

5. 授業体験コース受講者の感想

本年度は、レポート作成コースの受講者数の伸びが著しく、相対的に授業体験コースの受講者数の減少が目立つ。しかし、そうした中でも授業体験コース受講者の反応は決して悪い訳ではない。上記の通り 8 割を超える受講者が、受講によって「大学の授業に関心を持てた」、また受講が「大学の授業に役立つと思った」と回答している。この受講者の受講後の感想では、入学前教育に対する率直な意見や評価ばかりでなく、大学入学後の授業や学生生活に寄せる不安や期待など、それこそ生の声を直接聞くことができる。ここでは、その全文を、手を加えることなく各学部ごとに掲載する。

<文学部>

体験授業を受けた感想

- ・少しだけ授業の雰囲気というものが分かった気がして良かったです。
- ・高校とは違った雰囲気で、勉強のしかたが違うから、少し楽しみになった。
- ・正直、大学でついていけるか不安。
- ・専門的すぎて分からなかった。
- ・初めは不安だったが体験授業を受けて内容がよかったので慣れた気がした。
- ・ねむかったけど、楽しい授業でした。
- ・ちょっとねむかったけど、ためになりました。中国の授業はたのしかった。
- ・むずかしい所を、おもしろくおしえてもらいわかりやすかった。
- ・高校の授業よりずっと内容が難しかったけど、面白かった。
- ・高校とは違った授業のやり方でした。詳しく知れて良かったです。
- ・一般論以外の講義も受けられるということなので楽しみ。
- ・眠くて難しかったけどおもしろかった。
- ・授業の様子が知れて良かった。
- ・高校とちがうから、わからん。
- ・むずかしい。
- ・一部は中国系だったので苦手だった。二部はわかりやすかった。
- ・授業をととても短く感じました。
- ・授業の雰囲気をつかめて良かった。
- ・自分が思っていた以上に大学での授業は深かった。

- ・授業のふんいきが分かってよかった。

入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

- ・食堂のメニューをもっとふやしてほしい。
- ・各学部内でも、体験授業の選択ができれば良かった。
- ・わかりやすいせつめいがほしかった。

<教育学部>

体験授業を受けた感想

- ・思っていたより楽しかった。
- ・思っていたより楽しい授業やった。
- ・凄く面白かったです！大学に通うのが楽しみになりました。
- ・大学の講義の雰囲気がつかめました。
- ・大学での授業の感じが何となくだけど、分かりました。体験授業を受けて良かったです。
- ・たのしかった。教育をちゃんと学びたいと思った。
- ・小林先生の授業はみんなを取り入れて楽しかった。
- ・授業を聴くだけでなく、一緒に考えて発信できなければならないのだと思いました。
- ・心理のこととか、バウムテストとか、不思議で楽しかった！！2限めの授業で、学んでいくこととか大体はわかっておもしろかった。
- ・大学での授業のイメージがわかって良かった。
- ・大学の雰囲気が少しだけでもわかったように思う。
- ・眠たくなったけどタメになった。自分から手を上げて発言する人はなかなかいないと思うからやめた方がいいと思う。

<社会学部>

体験授業を受けた感想

- ・高校の授業と違って、スライドショーを使って行うので全然、授業の感じが違った。大学の授業に慣れるために体験できて良かった。
- ・今後は自分のノートに書いていかないといけないから難しいと思った。
- ・早く大学で授業を受けたいです。
- ・初めての大学の授業で、自分の将来に使えるような事を学べてよかった。
- ・分かりにくいわけではないけど、普通。
- ・大学の様子がよく分かった。
- ・とてもわかりやすかった。
- ・これまで受けてきた授業とは全然違い、おどろいた。
- ・大学の授業の感じが分かりました。
- ・分かりやすく、大学の授業の雰囲気をすこしでも掴めてよかったと思う。

- ・専門的な話が多いと思った。
- ・大学の授業は、専門的なのだと感じた。
- ・とてもわかりやすく、よかったと思う。
- ・先生方もとても分かりやすく教えてくださいました。スライドだったのでビックリしました!!
- ・大学の授業がどのようなものを理解できてよかった。この体験授業を生かして4月からがんばっていきたいと思う。
- ・どんな授業をするのか不安やったけど、今回、体験授業を受けてみてすごく楽しそうやなと思えました。でも、難しかったです。
- ・授業の雰囲気を知れて良かった。

<社会福祉学部>

体験授業を受けた感想

- ・わかりやすかった。
- ・とてもわかりやすい授業だった。
- ・よかったですっ!! 絵本は考えさせられた。聴いてよかったあーっ!!!! 少し授業について知れたので来てよかった。
- ・体験授業を受けて、福祉について、今まで、わからなかったことなどがわかった。
- ・学長のおしゃか様の言葉の説明とそこからの展開したお話にとっても感銘を受けました。
通学に結構時間がかかるので体験授業を受けるかどうかすごく迷っていたけど受けてよかったです。
私も、こんな心にひびく本をつくりたいと思いました。
- ・楽しそうだった。
- ・分かりやすく、受け易かったです。
大学の授業がどんな感じなのか勉強できたので良かったです。
- ・話を聞くだけでなく楽しかった。
- ・絵本とかエコマップたのしかったです。
- ・よかったです。
- ・エコマップをつくったり、絵本を読んだりしておもしろかった。
社会福祉について興味をもっともてたと思う。
- ・大学での授業内容が分かってよかった。
- ・絵本の紹介をしてくれましたが、すごく良い絵本でした。この本をもっといろんな人によんでもらいたいと思った。
- ・参加してよかったと思います。
- ・とても楽しい体験授業でした。先生の話もとても感心のある内容やったし、友達とのコミュニケーションする時間もくれていい授業でした。
絵本も読んで、いろんなことを考えた時間でした! 黒岩晴子先生、2 講時ありがとうございました。
- ・入学後に活かせる内容だったと思う。被爆者についての話しや、ようすけ君の夢のことが知れて、本当によかったと思う。
- ・高校の授業と全然違うのでおどろきました。

入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

- ・先生のお話だけでなく現役の先輩のお話（1年生のときはどういうことをした方がいいとか）も聞きたかったです。
- ・もう少し時間を長くしてほしかったです。
- ・エコマップを時間をかけてつくりたかったです。
- ・簡単な実習（短時間で誰でもできる）があったら、おもしろいと思います。
- ・3月に読んでおくと良い本など、しておくと良いことを教えて欲しかったです。
- ・今回の授業でじゅうぶんです。

<保健医療技術学部>

体験授業を受けた感想

- ・教授の先生方の説明の仕方が明るく、とても楽しく受けることができました。
- ・分かりやすかった。あらためてこの学科、仕事に興味がもてました。
- ・わかりやすく作業療法について説明してもらえてよかったです。為になりました。
- ・楽しく理学と作業の違いを教えてください、春からの大学生活がすごく楽しみになりました。

入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事

- ・十分です。

6. 総括——今後の展開に向けた展望

本学が実施した入学前教育については、あらまし上述の通りであるが、これを踏まえ、最後に入学前教育の今後のありかたを展望してみることにする。実施後の見直しが欠かせないという以上に、入学前教育じたい、またそれを取り巻く教育環境でも、捉え直しや新たな取り組みの模索が進められているからである。その最大の要因が、初年次教育の急速な普及、進展である。

入学前教育を初年次教育と関連させる動きも、すでに一般化している。その現状について、昨年度、初年次教育学会が設立にあわせて発行した機関誌のその創刊号（初年次教育学会誌。第1巻第1号。2008年11月）に、濱名篤氏の次のような報告がある。

現在、我が国の入学前教育の内容は大きくは、「初年次教育型」と「補完（リメディアル）教育型」の2つに大別できる状況である。前述のように、前者は入学後のキャンパスライフが円滑に過ごせるための入学準備に重点がおかれ、キャンパスに入学してのものが多く、教職員や新入学予定者との対面型の交流を重視している。これらに加え、e-ラーニングやソーシャル・ネットワーク・サービスを活用するものも出てきている。目的は、入学までの意欲や動機の強化と、不安の払拭である。後者は、学力不足や入学後の学習技術教育の前倒しをしようとするもので、大学に来てもらう集合教育と、e-ラーニングや通信教育の両方の方式がある。（「日本の初年次教育の課題—学士課程教育・入学前教育との関係—」。60ページ）

この「初年次教育型」と「補完（リメディアル）教育型」との2類型のうち、入学前教育に取り組む大学の多くが、後者を内容としているという。成果を挙げる一方、逆に、アドミッション・ポリシーの不明確さが入学前教育をめぐる混乱を生じさせているといった実施に伴う問題点を指摘している。

濱名氏のこの報告には、しかし入学前教育の2類型のそれぞれの具体的な内容・中身、わけでも「初年次教育型」のそれに踏み込んだ説明がない。そこで、同じ初年次教育学会誌に、国立教育政策研究所が全国の国公立大学全学部を対象に行った調査をもとに初年次教育について分析したその結果を川島啓二氏が「初年次教育の諸領域とその広がり」と題して報告しているの、この調査において提示した初年次教育の領域に関する説明を次に引用する。

- (1) スタディ・スキル系（レポートの書き方、図書館の利用法、プレゼンテーション等）
- (2) スチューデント・スキル系（学生生活における時間管理や学習習慣、健康、社会生活等）
- (3) オリエンテーションやガイダンス（フレッシュマンセミナー、履修案内、大学での学び等）
- (4) 専門教育への導入（初歩の化学、法学入門、物理学通論、専門の基礎演習等）
- (5) 教養ゼミや総合演習など、学びへの導入を目的とするもの
- (6) 情報リテラシー（コンピューターリテラシー、情報処理等）
- (7) 自校教育（自大学の歴史や沿革、社会的役割、著名な卒業生の事績など）
- (8) キャリアデザイン（将来の職業生活や進路選択への動機づけ、自己分析等）（以上、27ページ）

ちなみに、調査時点（2007年12月）の実施率では、初年次教育の代表格の(1)が90.2%、(3)(6)はそれ以上の高率であり、(7)を除き、最低でも(2)が63.2%に達し、他はそれより高い割合を示す。また「初年次教育を通じて学生が習得するものの重要度について、5件法で学部長に回答を求めたもの」（30ページ）では、(1)(6)などの基礎的な学習スキルの修得を最重要視するといった調査結果の報告もある。

初年次教育の場合、すでに学士課程教育の基盤形成を担う重要な教育プログラムとして位置づけられている以上、大学のミッションに対応したその機能をどのように果たしていくかが課題となる。「初年次教育型」の入学前教育も、こうした課題と無縁ではない。前述の「リメディアル教育型」の入学前教育の実施に前提となると濱名氏が指摘するアドミッション・ポリシー明確化の課題も、また一方にある。これらの課題に対して、はたして本学の入学前教育が適切に対応しているであろうか。

もちろん、課題はそれだけに限らないけれども、現状を見直す場合に、少なくとも「初年次教育型」と「リメディアル教育型」との切り分けがまず必要なのではかないか。切り分けによって、本学が掲げる入学前教育の5項目の目的（前掲2-1〈入学前教育の目的〉参照）についても、それぞれ2類型のいずれかに分類の上、まさにその目的に即したきめ細かな展開が可能となるのではないか。それは、なにも一から作りあげなければならないというものでもない。現行の入学前教育の取組のなかにそのモデルがある。

たとえば、「初年次教育型」では、授業体験コースの一環として教育学科が実施した4回の「対面授業」がその一例である。また一方の「リメディアル教育型」でも、レポート

作成コースの入学前教育として作業療法学科が実施した例を挙げるができる。そのレポートの設題を次に参照してみる。

本学科の専門課程を習得するためには、高校の化学・生物の理解が必要となる。そのために、まず以下に示す図書を参考にしながら、高校での化学・生物の教科書を復習し、自身の理解できているところと、まだ十分理解できていない部分を整理する。理解できていない事項について、どこがわかりにくいのかを具体的にレポートする。

参考図書に『やりなおし高校の化学』と『やりなおし高校の生物』を示し、さらに（注）として「参考図書以外に従来使用していた参考書を使用しても構わない。」と付記している。専門課程の習得に関連する高校の教科の理解を必要とする点について、設題の限られた字数では要領を尽くし得ない。アドミッション・ポリシー（各大学・学部・学科などが、その教育理念、教育目的、教育課程の特色等に応じ、受験生に求める能力、適性等についての考え方をまとめた入学者受け入れ方針——前掲濱名氏論考。59 ページ）を提示することの意義は、こうしたレポート作成コースの入学前教育においてはとりわけ大きく、その教育効果をそれが決定的に左右するだけに、「リメディアル教育型」の入学前教育の実施に当っては、アドミッション・ポリシーの整備が前提となる。

本年度の入学前教育が、さまざまな点でレポート作成コースへシフトする顕著な傾向を示していることに鑑み、このコースの充実が急務としなければならない。そのなかの最重要課題が、アドミッション・ポリシーの整備である。また本年度の際立った特徴の一つに、授業体験のオープンキャンパス化（17 ページ）があり、こうした受講者の志向・要望・期待などに対応した入学前教育、これは「初年次教育型」にそくした授業体験コースに当たるが、従来の慣例行事的な殻をうち破るその新たな展開に向けた取組も課題である。しかしこれには、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（平成 19 年度文科省 GP）として現在進めている「緑コミュニティによる離脱者ゼロ計画」による実践が受け皿となる。その「入学前より、同級生との『ヨコ』関係、上級生との『タテ』関係、支える『立場』の教職員との関係を柔軟に組み合わせ」（趣旨・目的）た学生支援こそ、本学のミッションにまさに合致するはずである。

最後に、今後の検討や議論の叩き台として上述の要点をごく簡潔にまとめてみる。どこまでも私案でしかなく、内容に関して胸を張れるほどのものでもないが、教授法開発室員としてこの 2 年ほど入学前教育を担当してきた者の責務を果たす意味も無いではない。骨子部分だけを示せば、次の通り。

入学前教育

○ レポート作成コース

リメディアル教育型、各学科ごとのアドミッション・ポリシーに即した教育内容

○ 授業体験コース

初年次教育型、本学のミッションに即した教育内容

入学前教育 アンケート集計結果

レポート作成コース アンケート集計 AO 選抜

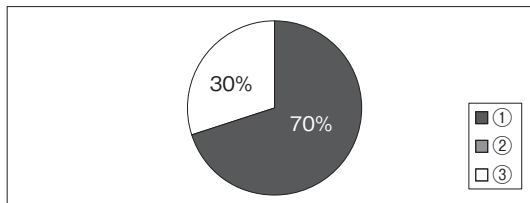
受講者数 13人 回答者数 10人 回答率 76.9%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式(論述・要約など)について、いかがでしたか?

①	わかりやすかった	7
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	3

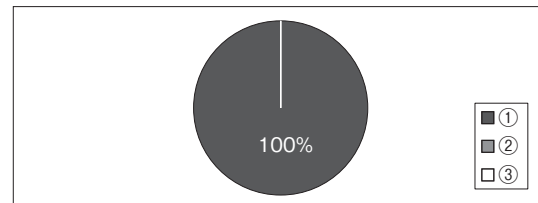
総回答者数 10



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか?

①	適当であった	10
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 10



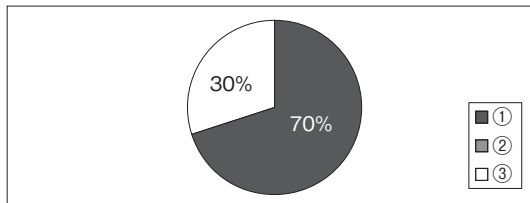
Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか?

第1 課題

①	適当であった	7
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	3

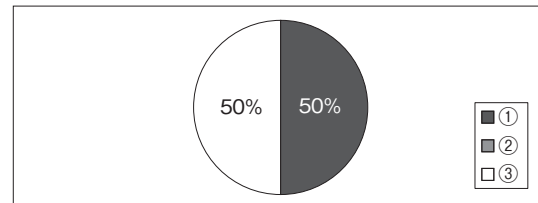
総回答者数 10



第2 課題 (英米学科・社会福祉学科のみ回答)

①	適当であった	1
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

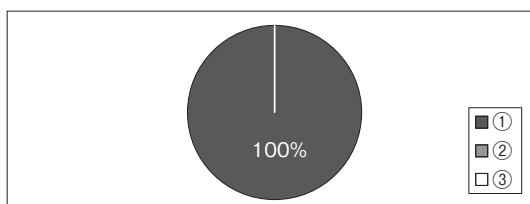
総回答者数 2



第3 課題 (英米学科の場合は電話インタビューについて回答してください)

①	適当であった	2
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 2



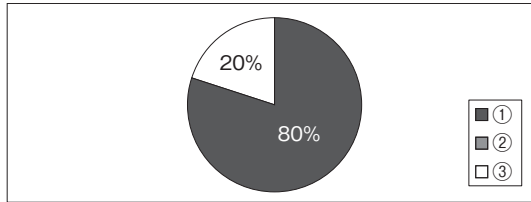
Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

第1課題

①	満足した	8
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	2

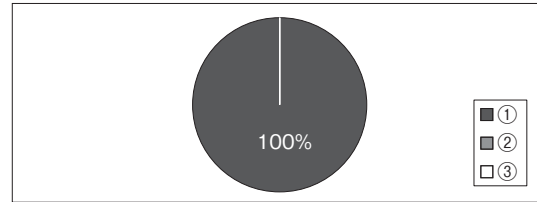
総回答者数 10



第2課題 (英米学科・社会福祉学科のみ回答)

①	満足した	2
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

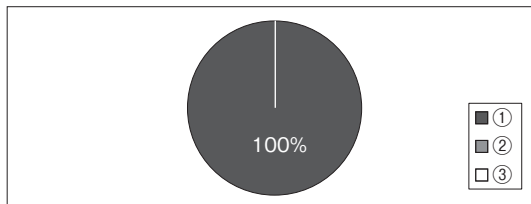
総回答者数 2



第3課題 (英米学科の場合は電話インタビューについて回答してください)

①	適当であった	2
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

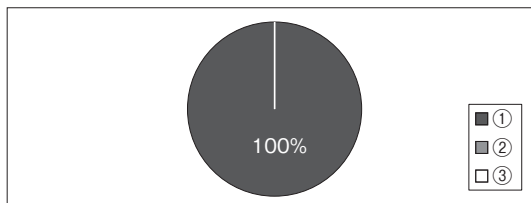
総回答者数 2



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	10
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 10

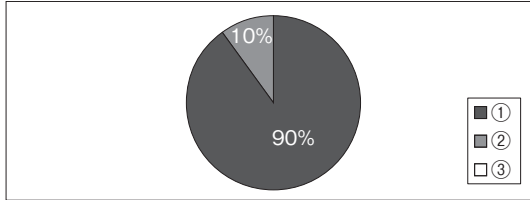


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	9
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	0

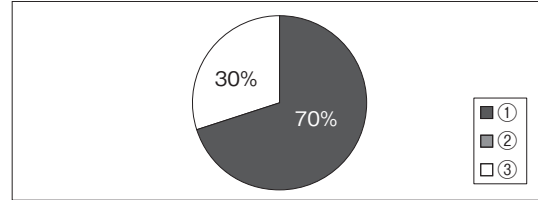
総回答者数 10



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	7
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	3

総回答者数 10



入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

【理学療法学科】

・数学や生物などの復習が出来るものを実施してほしかったです

※英米学科・教育学科・公共政策学科・社会福祉学科・作業療法学科の記述なし

レポート作成コース アンケート集計 特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者

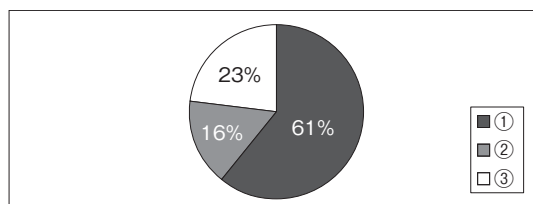
受講者数 103人 回答者数 63人 回答率 61.2%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	38
②	わかりにくかった	10
③	どちらともいえない	14

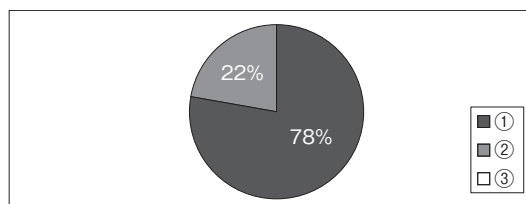
総回答者数 62



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	49
②	早すぎた	14
③	遅すぎた	0

総回答者数 63

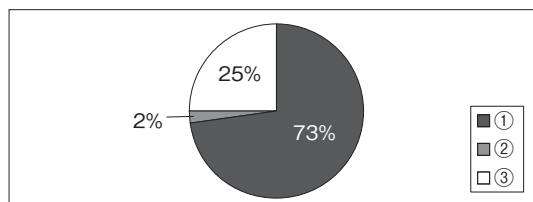


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	46
②	簡単すぎた	1
③	難しすぎた	16

総回答者数 63

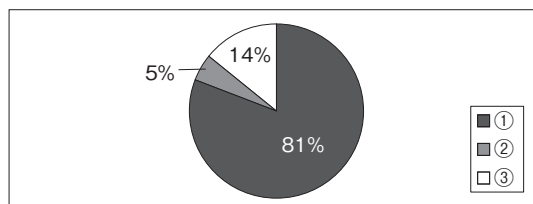


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	51
②	満足しなかった	3
③	どちらともいえない	9

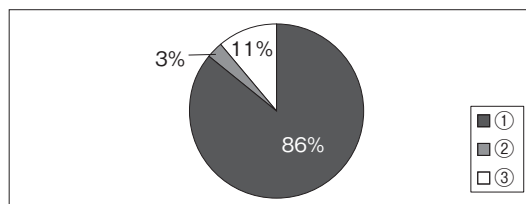
総回答者数 63



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	54
②	早すぎた	2
③	遅すぎた	7

総回答者数 63

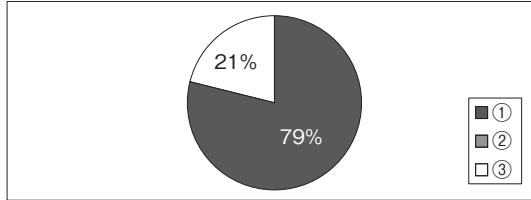


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	48
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	13

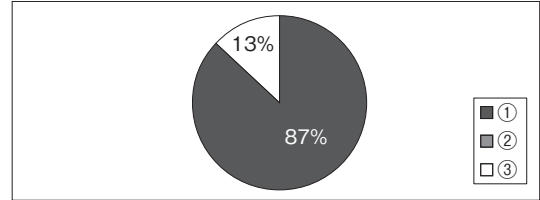
総回答者数 61



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	53
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	8

総回答者数 61



Q5 入学前教育で実施してほしい事（解答方法、課題内容など）。

【文学部】

[人文学科日本史コース]

- ・今回はレポートの課題をしたが添削の面では内容よりも「ここではもっとこの部分を述べた方がいい」などの文の構成についての指摘が欲しかった。実施してほしいことはとくにない。

[人文学科日本語日本文学コース]

- ・大学で一般で受験した人と同等についていくための対策（どの本を買って予習しておいたほうがいいのかなど）。

※人文学科仏教・浄土コース、人文学科地域文化コース、中国学科、英米学科の記述なし

[宗門後継者]

- ・仏教とは何なのかを勉強したい

【教育学部】

※教育学科、臨床心理学科の記述なし

【社会学部】

[現代社会学科]

- ・私は正式なレポートの書き方がわかりません。佛大のレポートなどのやり方があれば、具体的な例をいただけるとありがたいです。

※公共政策学科の記述なし

【社会福祉学部】

[社会福祉学科]

- ・レポートを作成して、そのレポートが良か不採点して欲しかったです。
- ・社会福祉学部なので、ボランティアなどがあっても良かったと思う。地域のことや安心・安全などについて考える機械はあまりないので良かったです。大学でのレポート等に真剣に取り組んでいこうと思います。

【保健医療技術学部】

※理学療法学科の記述なし

作業療法学科は受講者がいないため集計せず

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【文学部】

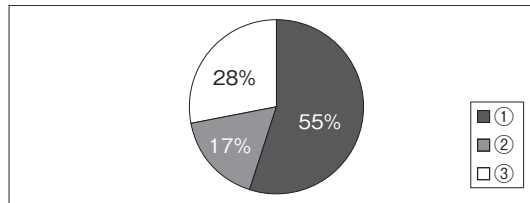
受講者数	44人	回答者数	29人	回答率	65.9%
------	-----	------	-----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	16
②	わかりにくかった	5
③	どちらともいえない	8

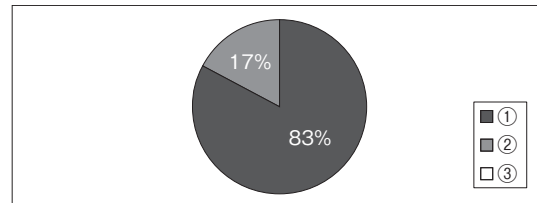
総回答者数 29



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	24
②	早すぎた	5
③	遅すぎた	0

総回答者数 29

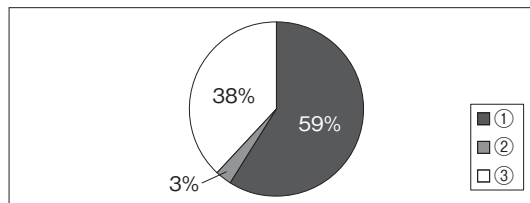


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	17
②	簡単すぎた	1
③	難しすぎた	11

総回答者数 29

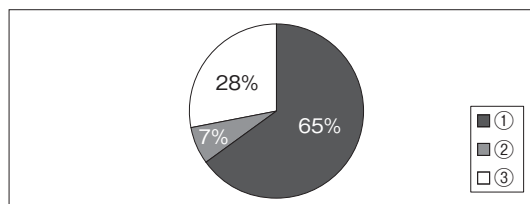


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	19
②	満足しなかった	2
③	どちらともいえない	8

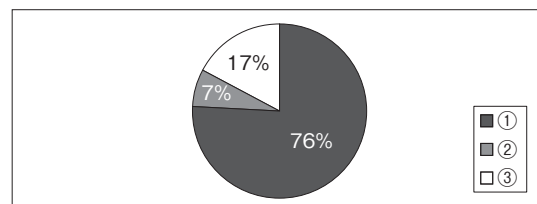
総回答者数 29



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	22
②	早すぎた	2
③	遅すぎた	5

総回答者数 29

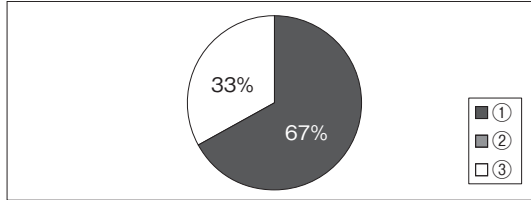


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	18
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	9

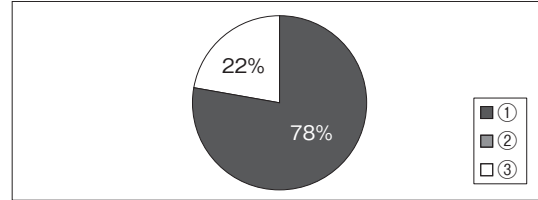
総回答者数 27



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	21
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	6

総回答者数 27



Q5 入学前教育で実施してほしい事（解答方法、課題内容など）。

【文学部】

[人文学科日本史コース]

- ・今回はレポートの課題をしたが添削の面では内容よりも「ここではもっとこの部分を述べた方がいい」などの文の構成についての指摘が欲しかった。実施してほしいことはとくにない。

[人文学科日本語日本文学コース]

- ・大学で一般で受験した人と同等についていくための対策（どの本を買って予習しておいたほうがいいかなど）。

[宗門後継者]

- ・仏教とは何なのかを勉強したい

※人文学科仏教・浄土コース、人文学科地域文化コース、中国学科、英米学科の記述なし

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【人文学科】

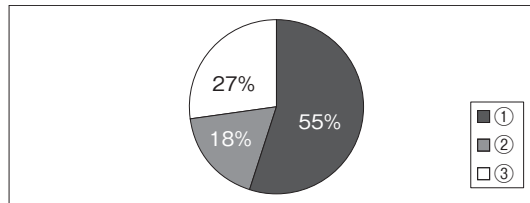
受講者数	31人	回答者数	22人	回答率	71.0%
------	-----	------	-----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	12
②	わかりにくかった	4
③	どちらともいえない	6

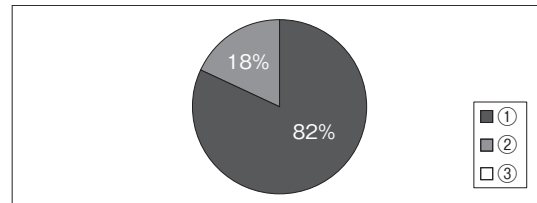
総回答者数 22



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	18
②	早すぎた	4
③	遅すぎた	0

総回答者数 22

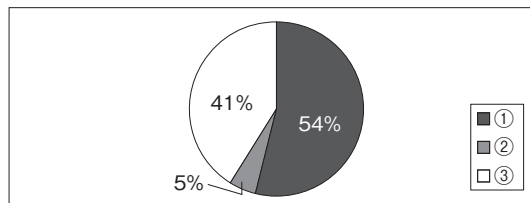


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	12
②	簡単すぎた	1
③	難しすぎた	9

総回答者数 22

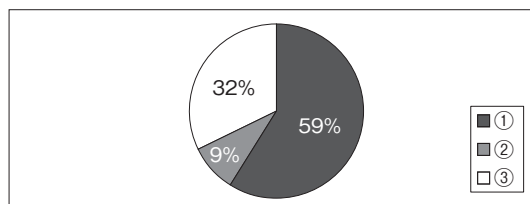


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	13
②	満足しなかった	2
③	どちらともいえない	7

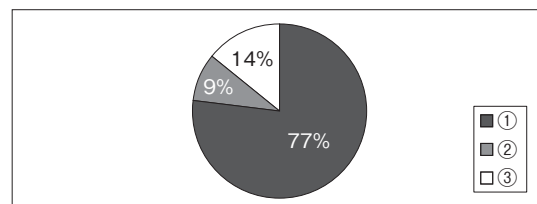
総回答者数 22



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	17
②	早すぎた	2
③	遅すぎた	3

総回答者数 22

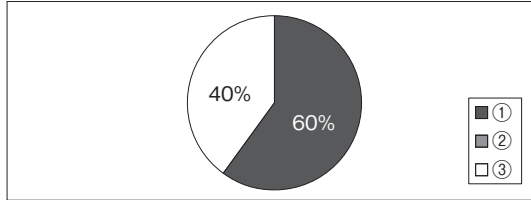


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	12
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	8

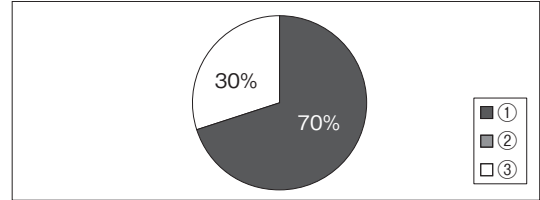
総回答者数 20



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	14
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	6

総回答者数 20



Q 5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

【日本史コース】

- ・今回はレポートの課題をしたが添削の面では内容よりも「ここではもっとこの部分を述べた方がいい」などの文の構成についての指摘が欲しかった。実施してほしかったことはとくにない

【日本語日本文学コース】

- ・大学で一般で受験した人と同等についていくための対策（どの本を買って予習しておいたほうがいいかなど）。

【宗門後継者】

- ・仏教とは何なのかを勉強したい

※仏教・浄土コース、地域文化コースの記述なし

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【中国学科】

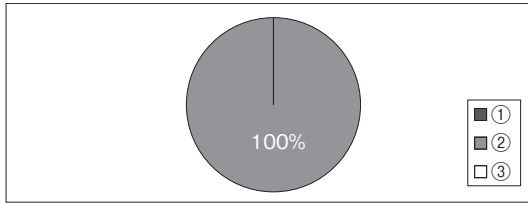
受講者数 4人 回答者数 1人 回答率 25.0%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	0
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	0

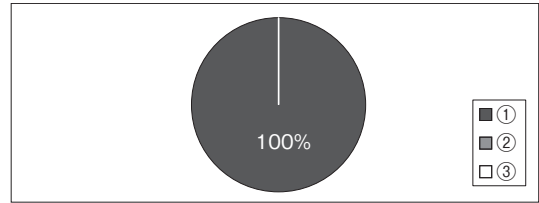
総回答者数 1



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	1
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 1

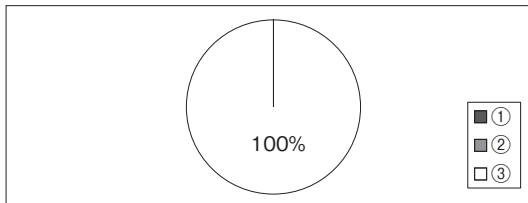


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうでしたか？

①	適当であった	0
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

総回答者数 1

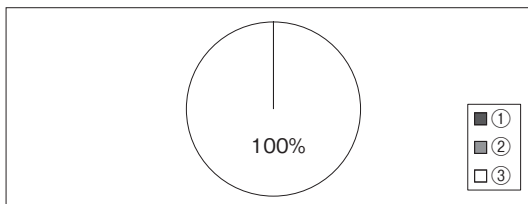


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	0
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	1

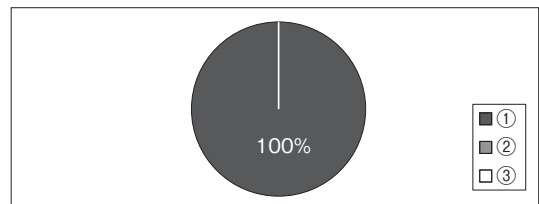
総回答者数 1



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	1
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 1

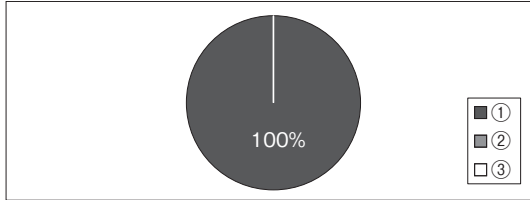


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	1
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

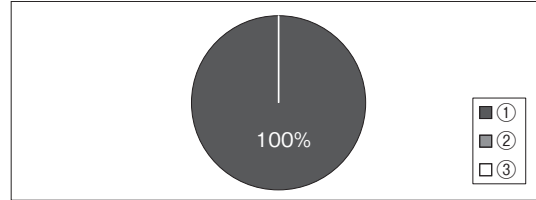
総回答者数 1



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	1
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 1



Q 5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【英米学科】

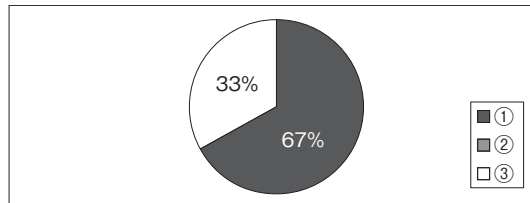
受講者数	9人	回答者数	6人	回答率	66.7%
------	----	------	----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	4
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	2

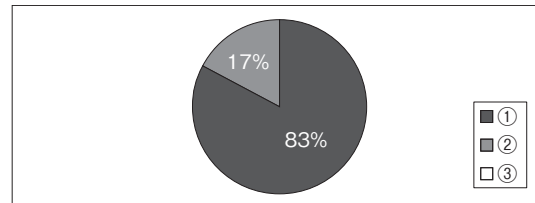
総回答者数 6



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	5
②	早すぎた	1
③	遅すぎた	0

総回答者数 6

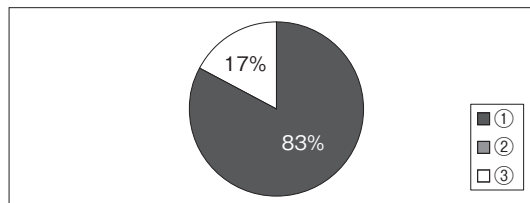


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	5
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

総回答者数 6

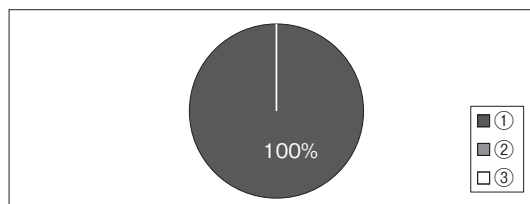


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	6
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

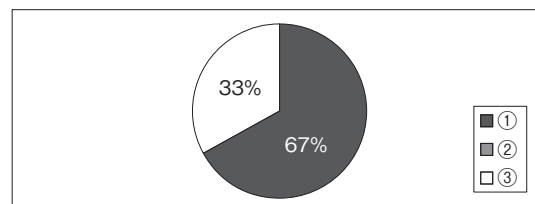
総回答者数 6



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	4
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	2

総回答者数 6

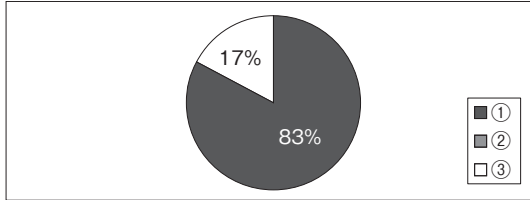


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	5
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	1

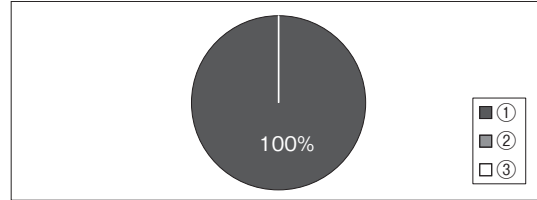
総回答者数 6



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	6
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 6



Q 5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【教育学部】

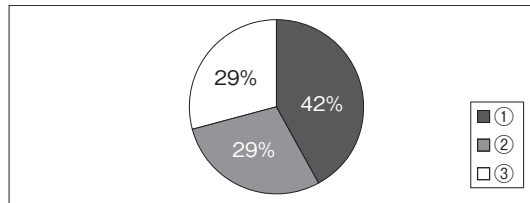
受講者数	14人	回答者数	7人	回答率	50.0%
------	-----	------	----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	3
②	わかりにくかった	2
③	どちらともいえない	2

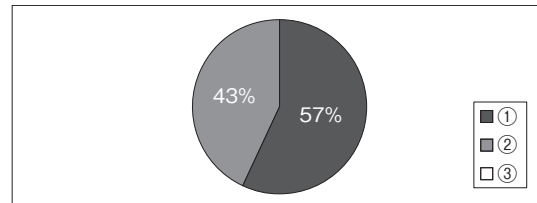
総回答者数 7



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	4
②	早すぎた	3
③	遅すぎた	0

総回答者数 7

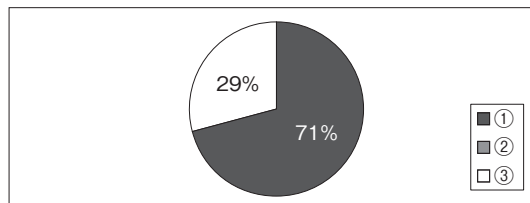


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	5
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	2

総回答者数 7

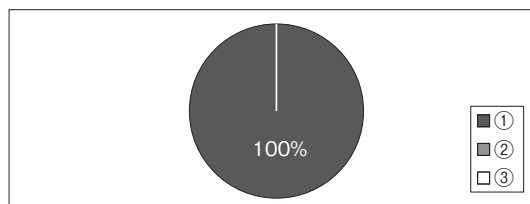


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	7
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

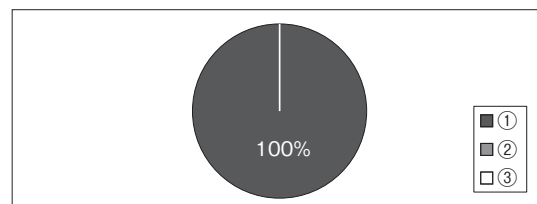
総回答者数 7



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	7
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 7

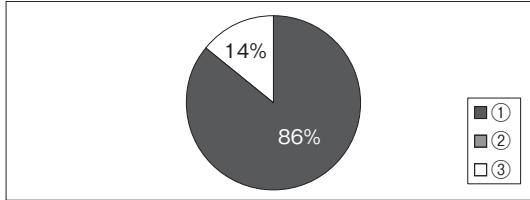


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	6
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	1

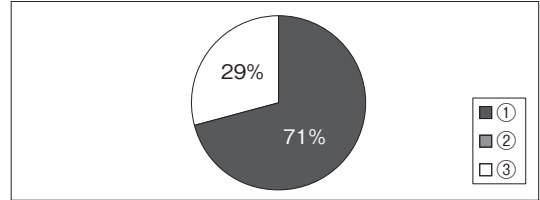
総回答者数 7



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	5
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	2

総回答者数 7



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【教育学科】

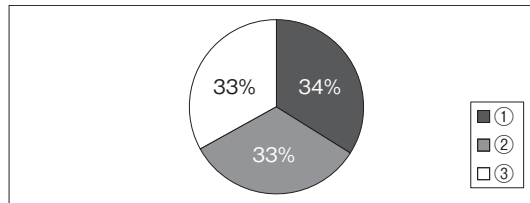
受講者数	11人	回答者数	6人	回答率	54.5%
------	-----	------	----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	2
②	わかりにくかった	2
③	どちらともいえない	2

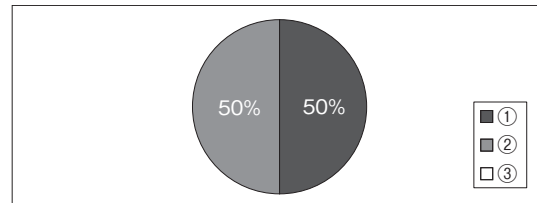
総回答者数 6



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	3
②	早すぎた	3
③	遅すぎた	0

総回答者数 6

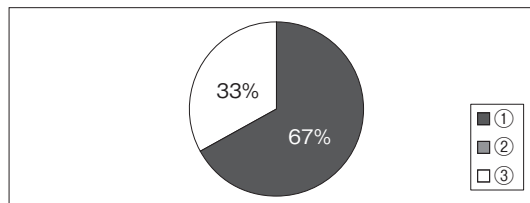


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	4
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	2

総回答者数 6

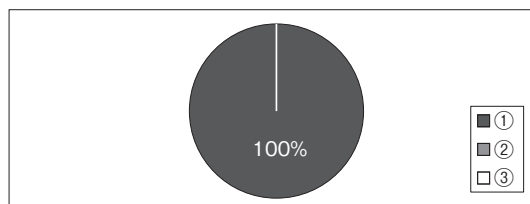


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	6
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

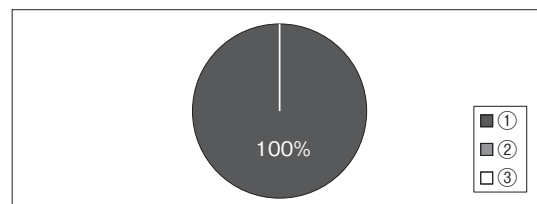
総回答者数 6



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	6
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 6

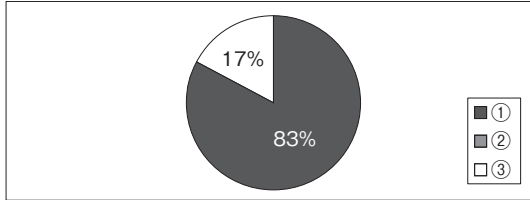


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	5
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	1

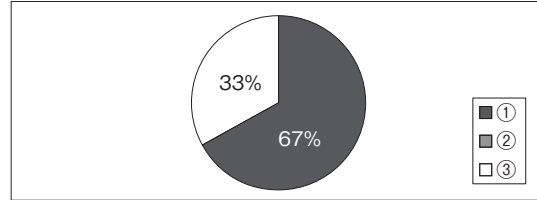
総回答者数 6



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	4
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	2

総回答者数 6



Q 5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

※記述なし。

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【臨床心理学科】

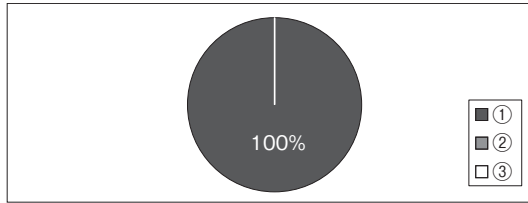
受講者数 3人 回答者数 1人 回答率 33.3%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	1
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

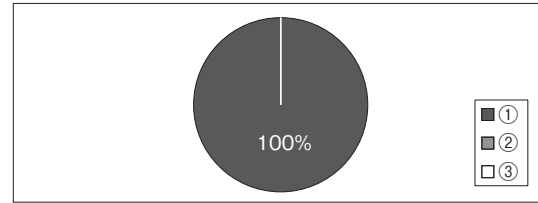
総回答者数 1



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	1
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 1

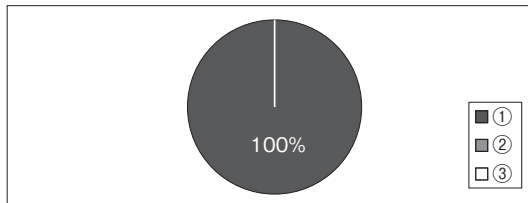


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうでしたか？

①	適当であった	1
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 1

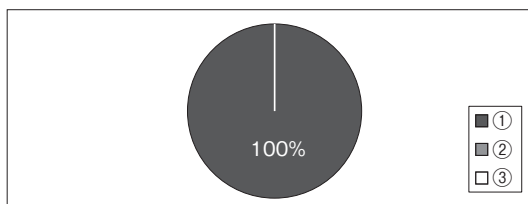


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	1
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

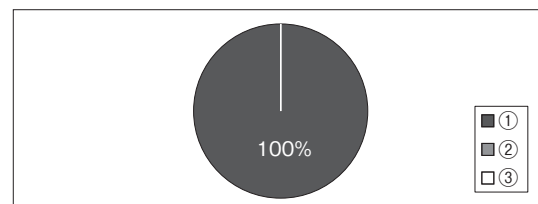
総回答者数 1



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	1
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 1

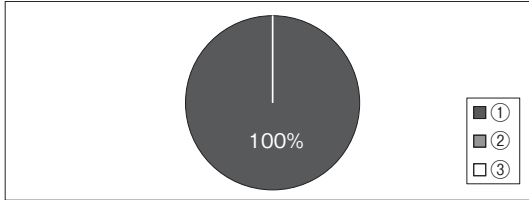


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	1
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

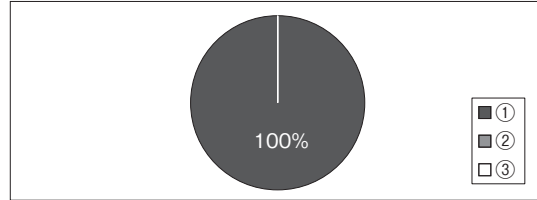
総回答者数 1



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	1
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 1



Q 5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【社会学部】

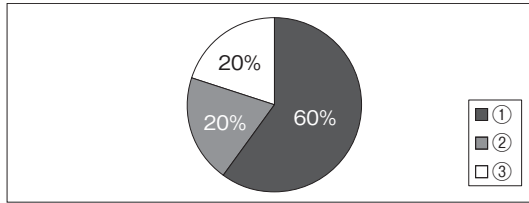
受講者数	19人	回答者数	10人	回答率	52.6%
------	-----	------	-----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	6
②	わかりにくかった	2
③	どちらともいえない	2

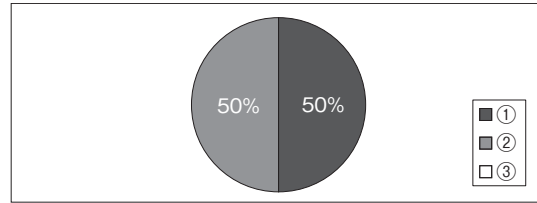
総回答者数 10



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	5
②	早すぎた	5
③	遅すぎた	0

総回答者数 10

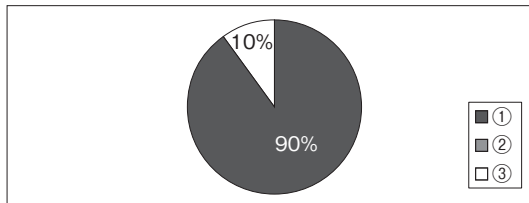


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうでしたか？

①	適当であった	9
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

総回答者数 10

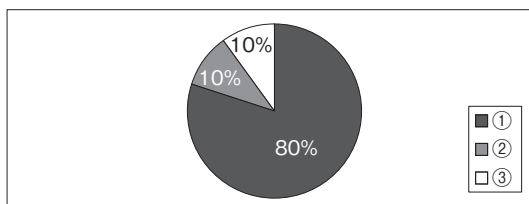


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	8
②	満足しなかった	1
③	どちらともいえない	1

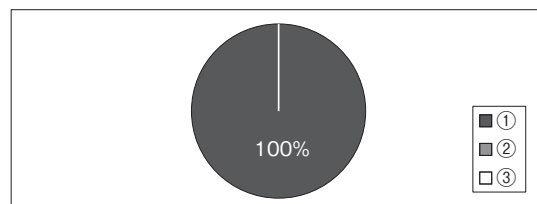
総回答者数 10



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	10
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 10

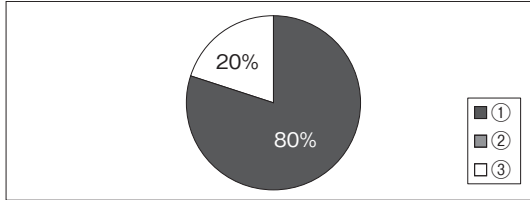


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	8
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

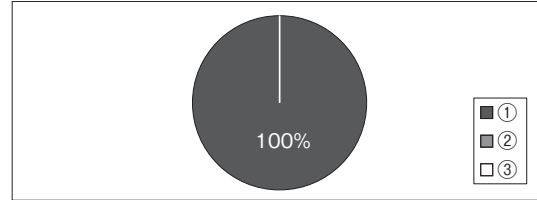
総回答者数 10



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	10
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 10



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

[現代社会学科]

・私は正式なレポートの書き方がわかりません。

佛大のレポートなどのやり方があれば、具体的な例をいただけるとありがたいです。

※公共政策学科の記述なし。

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【現代社会学科】

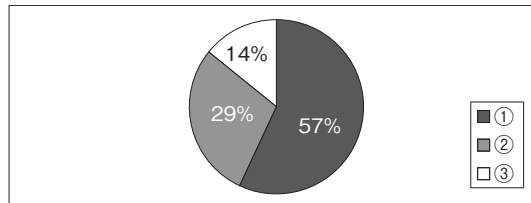
受講者数 10人 回答者数 7人 回答率 70.0%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	4
②	わかりにくかった	2
③	どちらともいえない	1

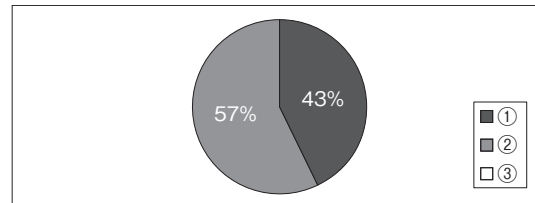
総回答者数 7



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	3
②	早すぎた	4
③	遅すぎた	0

総回答者数 7

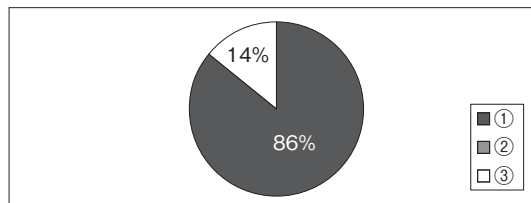


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	6
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

総回答者数 7

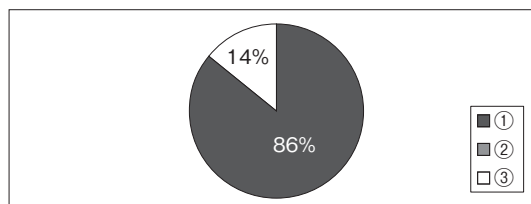


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	6
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	1

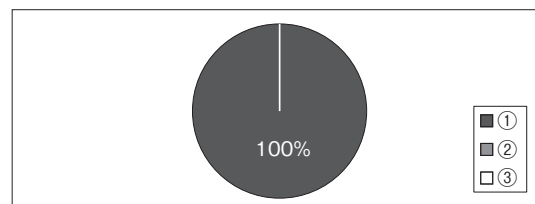
総回答者数 7



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	7
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 7

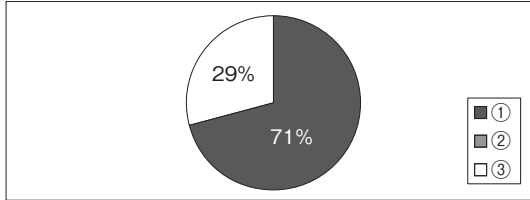


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	5
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

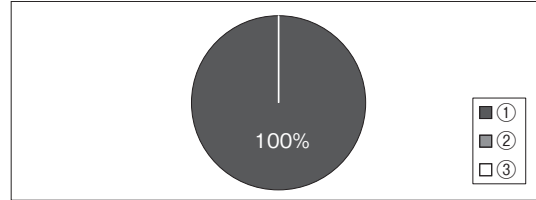
総回答者数 7



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	7
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 7



Q 5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

・私は正式なレポートの書き方がわかりません。佛大のレポートなどのやり方があれば、具体的な例をいただくとありがたいです。

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【公共政策学科】

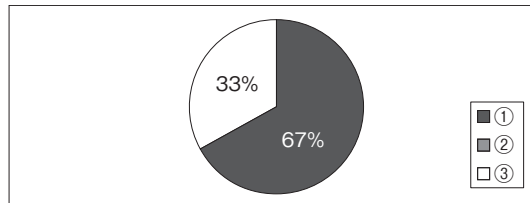
受講者数	9人	回答者数	3人
回答率	33.3%		

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	2
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

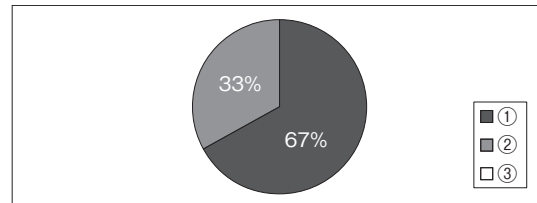
総回答者数 3



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	2
②	早すぎた	1
③	遅すぎた	0

総回答者数 3

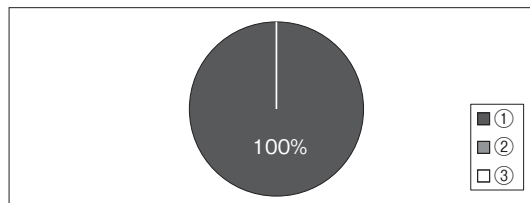


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	3
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 3

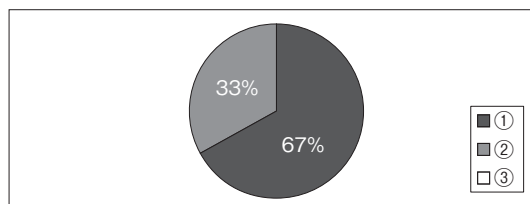


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	2
②	満足しなかった	1
③	どちらともいえない	0

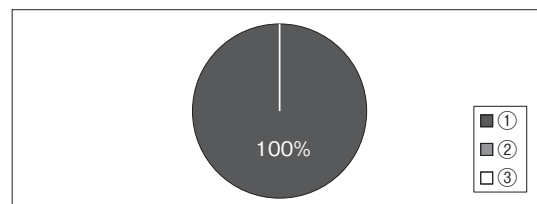
総回答者数 3



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	3
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 3

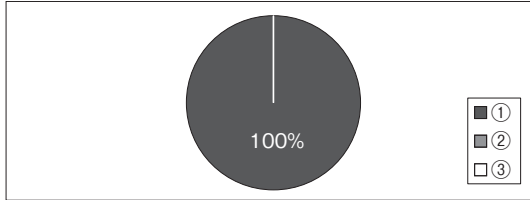


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	3
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

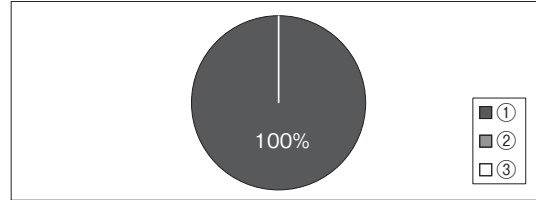
総回答者数 3



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	3
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 3



Q 5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【社会福祉学部】

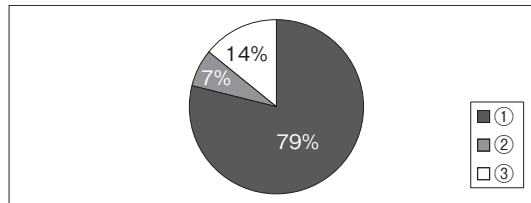
受講者数	24人	回答者数	15人	回答率	62.5%
------	-----	------	-----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	11
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	2

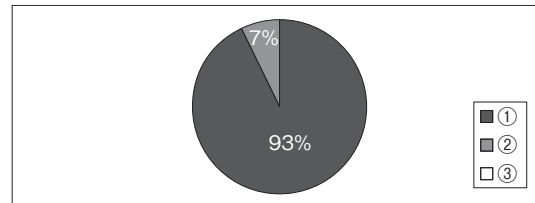
総回答者数 14



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	14
②	早すぎた	1
③	遅すぎた	0

総回答者数 15

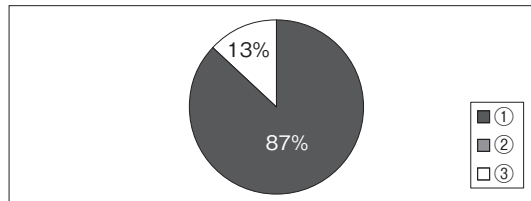


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	13
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	2

総回答者数 15

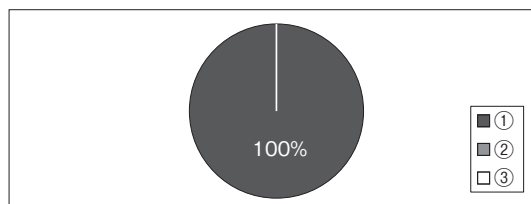


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	15
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

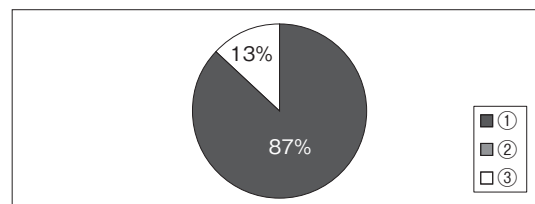
総回答者数 15



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	13
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	2

総回答者数 15

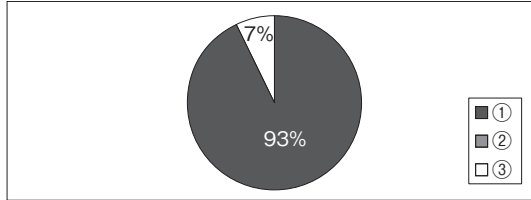


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	14
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	1

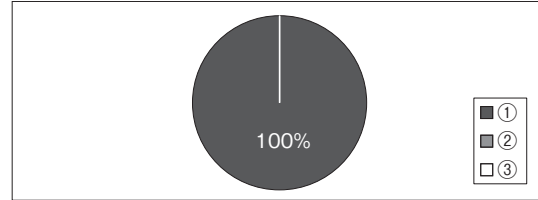
総回答者数 15



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	15
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 15



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

- ・レポートを作成して、そのレポートが良か不か採点して欲しかったです。
- ・社会福祉学部なので、ボランティアなどがあっても良かったと思う。地域のことや安心・安全などについて考える機会はありませんので良かったです。大学でのレポート等に真剣に取り組んでいこうと思います。

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【保健医療技術学部】

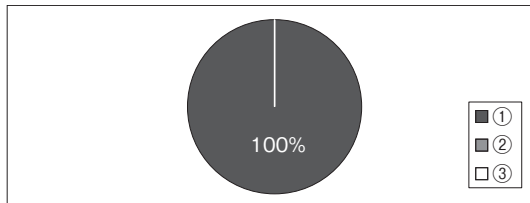
受講者数	2人	回答者数	2人	回答率	100.0%
------	----	------	----	-----	--------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	2
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

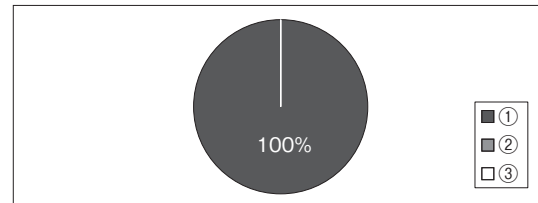
総回答者数 2



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	2
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 2

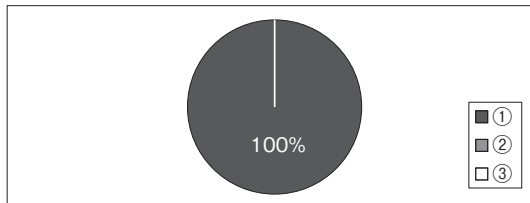


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうでしたか？

①	適当であった	2
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 2

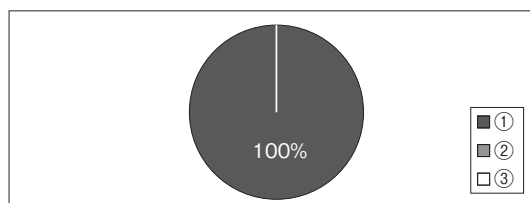


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	2
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

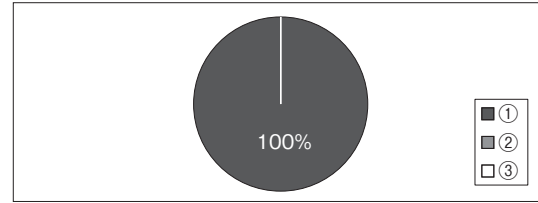
総回答者数 2



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	2
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 2

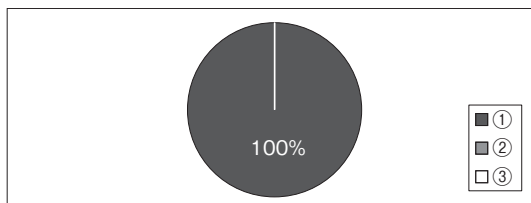


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	2
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

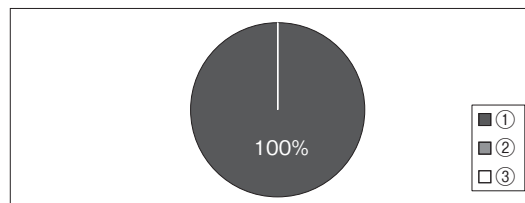
総回答者数 2



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	2
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 2



Q 5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計
特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【理学療法学科】

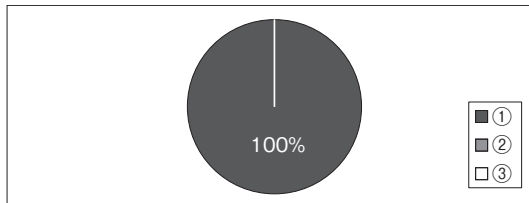
受講者数 2人 回答者数 2人 回答率 100.0%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	2
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

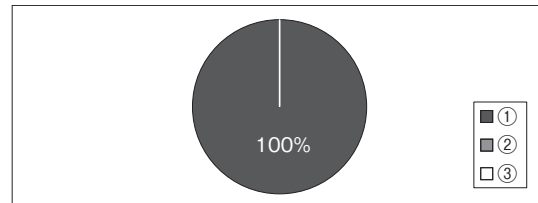
総回答者数 2



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	2
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 2

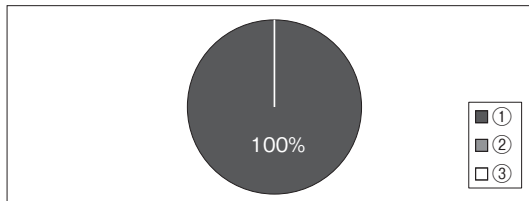


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	2
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 2

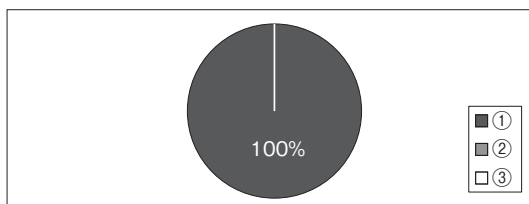


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	2
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

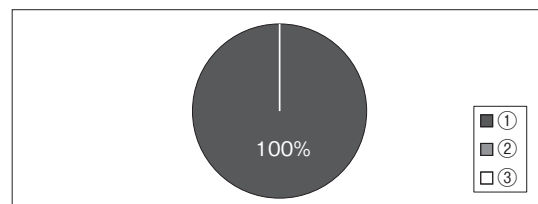
総回答者数 2



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	2
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 2

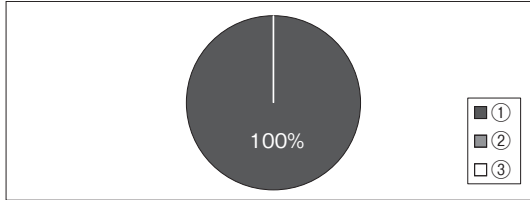


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	2
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

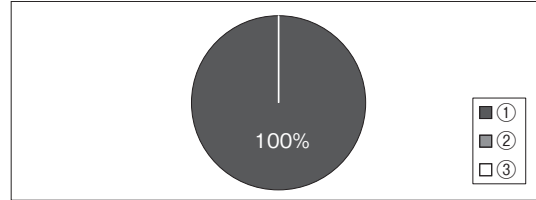
総回答者数 2



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	2
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 2



Q 5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）。

※記述なし

授業体験コース アンケート集計

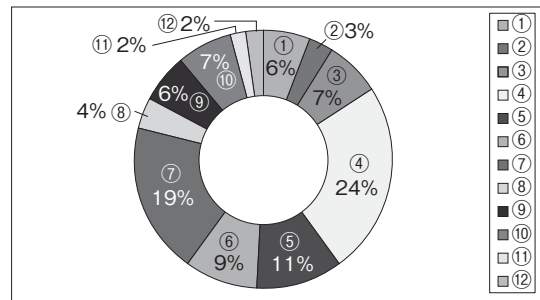
Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	18
②	自宅が大学に近かったため	9
③	通学方法などを確認するため	20
④	大学の雰囲気をを知るため	69
⑤	友人を作るため	31
⑥	大学生活に不安があったため	25
⑦	大学での授業内容を知るため	53
⑧	自校教育について聞きたかったため	10
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	17
⑩	体験授業の内容に興味があったため	19
⑪	教員のことを知るため	6
⑫	特に具体的な目的はない	5

総回答者数 282

受講者数 109人 回答者数 100人 回答率 91.7%



Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

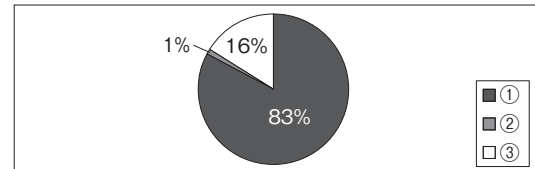
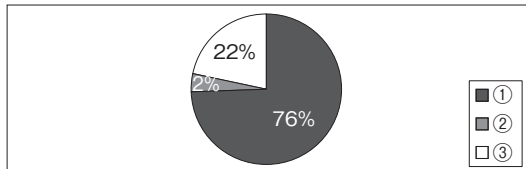
①	わかりやすかった	74
②	わかりにくかった	2
③	どちらともいえない	21

総回答者数 97

Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	80
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	15

総回答者数 96



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午前の授業)

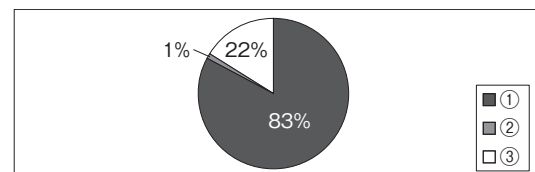
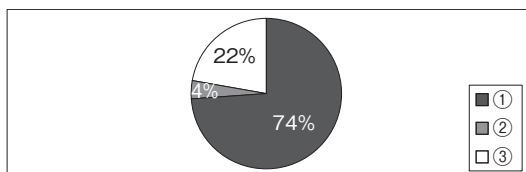
①	わかりやすかった	72
②	わかりにくかった	4
③	どちらともいえない	22

総回答者数 98

Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午後の授業)

①	わかりやすかった	74
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	14

総回答者数 89

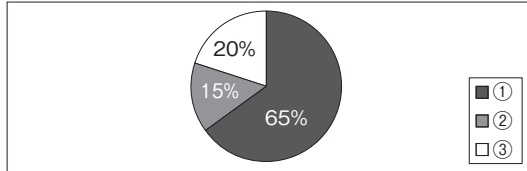


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	64
②	感じていなかった	15
③	どちらともいえない	20

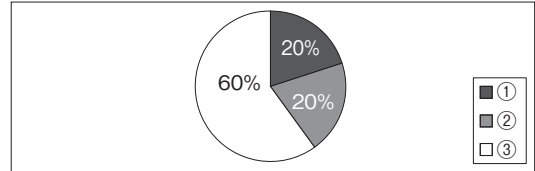
総回答者数 99



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	13
②	不安はなくならなかった	13
③	どちらともいえない	38

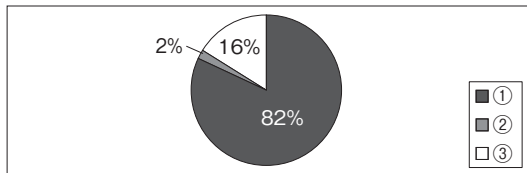
総回答者数 64



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	81
②	持てなかった	2
③	どちらともいえない	16

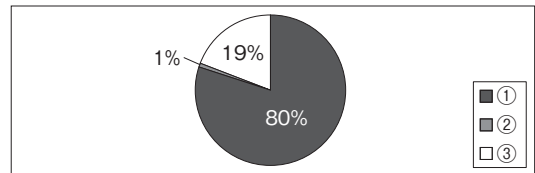
総回答者数 99



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	78
②	思わなかった	1
③	どちらともいえない	19

総回答者数 98



授業体験コース アンケート集計 AO 選抜

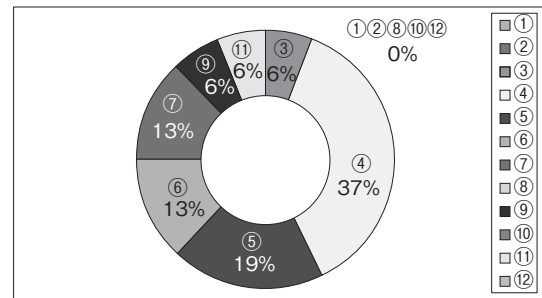
Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	0
②	自宅が大学に近かったため	0
③	通学方法などを確認するため	1
④	大学の雰囲気を知るため	6
⑤	友人を作るため	3
⑥	大学生活に不安があったため	2
⑦	大学での授業内容を知るため	2
⑧	自校教育について聞きたかったため	0
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	1
⑩	体験授業の内容に興味があったため	0
⑪	教員のことを知るため	1
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 16

受講者数 9人 回答者数 6人 回答率 66.7%



Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

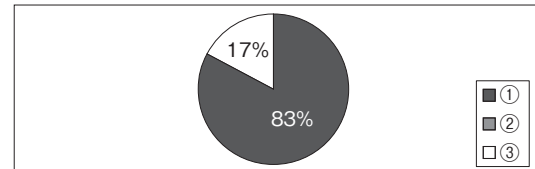
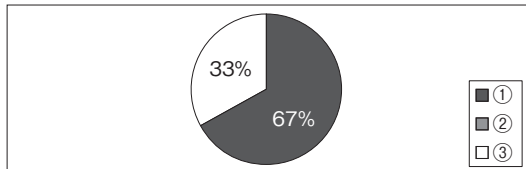
①	わかりやすかった	4
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	2

総回答者数 6

Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	5
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 6



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午前の授業)

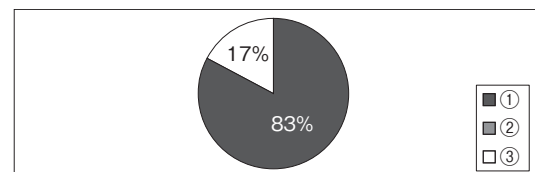
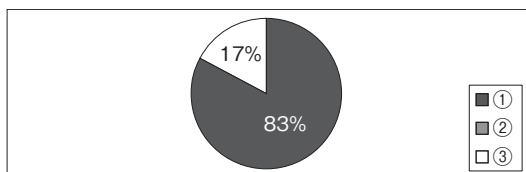
①	わかりやすかった	5
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 6

Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午後の授業)

①	わかりやすかった	5
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 6

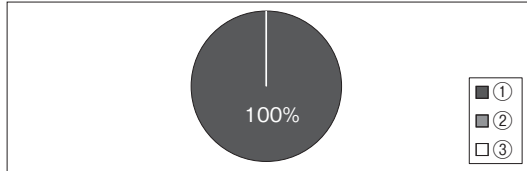


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	6
②	感じていなかった	0
③	どちらともいえない	0

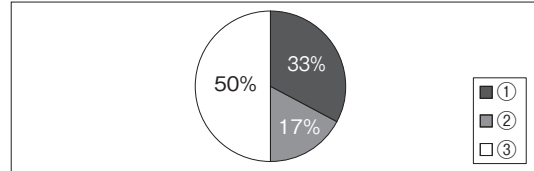
総回答者数 6



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	2
②	不安はなくならなかった	1
③	どちらともいえない	3

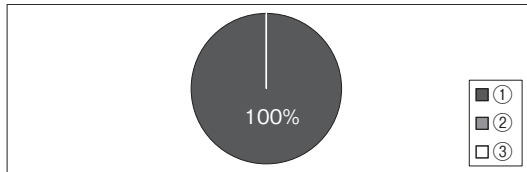
総回答者数 6



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	6
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

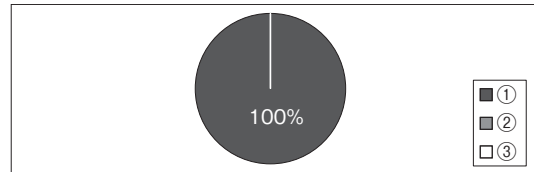
総回答者数 6



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	6
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 6



授業体験コース アンケート集計 特別推薦

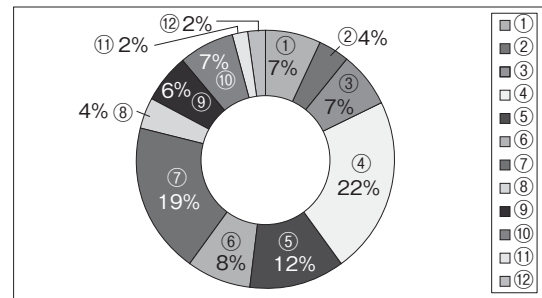
Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	14
②	自宅が大学に近かったため	9
③	通学方法などを確認するため	16
④	大学の雰囲気をを知るため	50
⑤	友人を作るため	26
⑥	大学生活に不安があったため	18
⑦	大学での授業内容を知るため	40
⑧	自校教育について聞きたかったため	8
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	12
⑩	体験授業の内容に興味があったため	14
⑪	教員のことを知るため	4
⑫	特に具体的な目的はない	4

総回答者数 215

受講者数 83人 回答者数 72人 回答率 86.7%

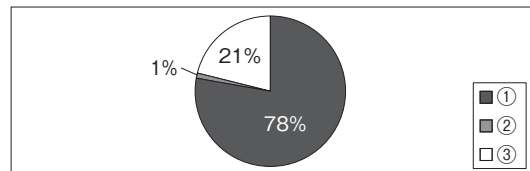


Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	54
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	15

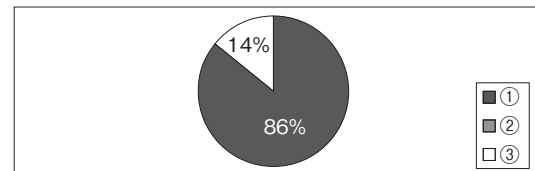
総回答者数 70



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	59
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	10

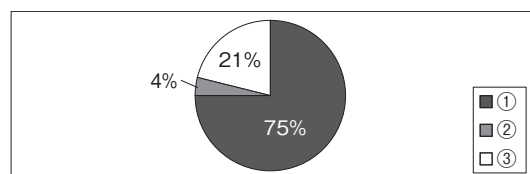
総回答者数 69



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午前の授業)

①	わかりやすかった	52
②	わかりにくかった	3
③	どちらともいえない	15

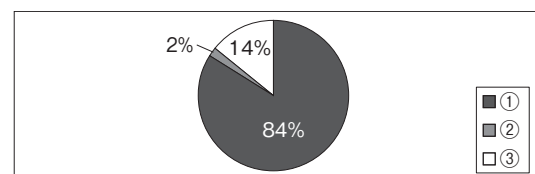
総回答者数 70



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午後の授業)

①	わかりやすかった	53
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	9

総回答者数 63

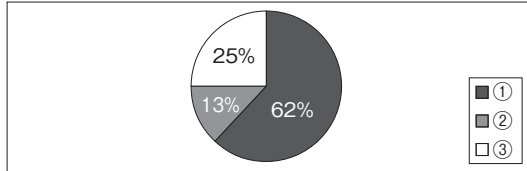


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	44
②	感じていなかった	9
③	どちらともいえない	18

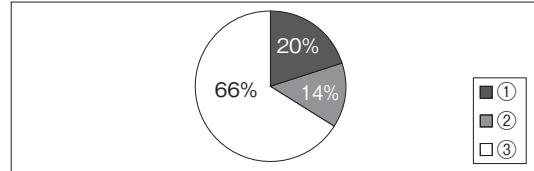
総回答者数 71



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	9
②	不安はなくならなかった	6
③	どちらともいえない	29

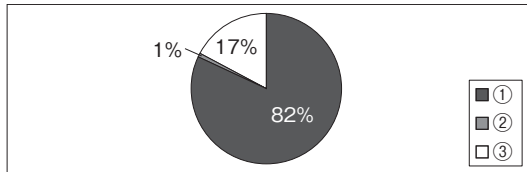
総回答者数 44



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	58
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	12

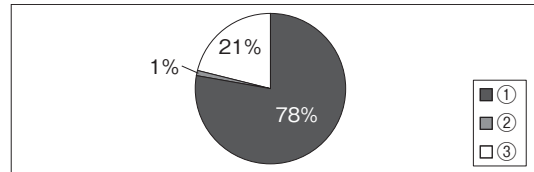
総回答者数 71



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	54
②	思わなかった	1
③	どちらともいえない	15

総回答者数 70



授業体験コース アンケート集計 同窓

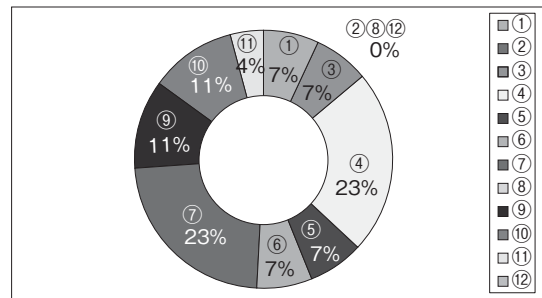
Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	2
②	自宅が大学に近かったため	0
③	通学方法などを確認するため	2
④	大学の雰囲気を知るため	6
⑤	友人を作るため	2
⑥	大学生活に不安があったため	2
⑦	大学での授業内容を知るため	6
⑧	自校教育について聞きたかったため	0
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	3
⑩	体験授業の内容に興味があったため	3
⑪	教員のことを知るため	1
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 27

受講者数 11人 回答者数 11人 回答率 100%

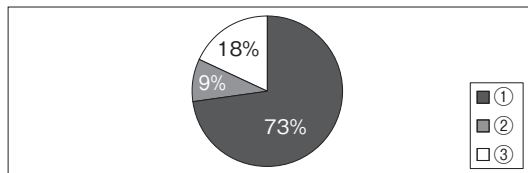


Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	8
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	2

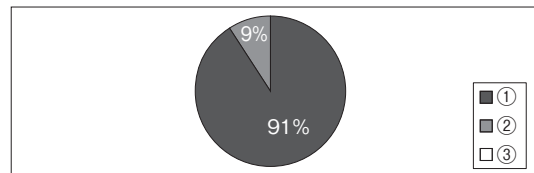
総回答者数 11



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	10
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	0

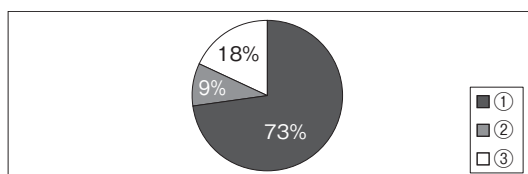
総回答者数 11



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午前の授業)

①	わかりやすかった	8
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	2

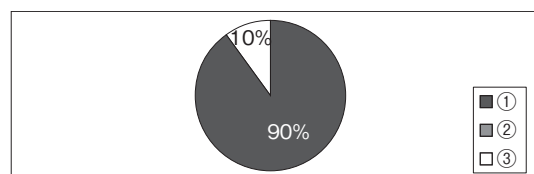
総回答者数 11



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午後の授業)

①	わかりやすかった	9
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 10

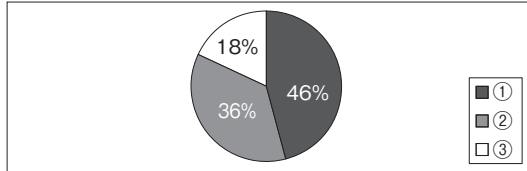


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	5
②	感じていなかった	4
③	どちらともいえない	2

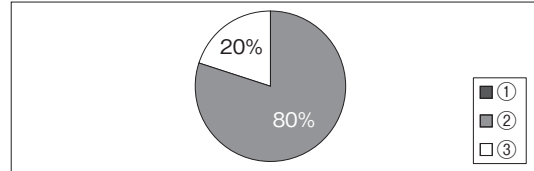
総回答者数 11



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	0
②	不安はなくならなかった	4
③	どちらともいえない	1

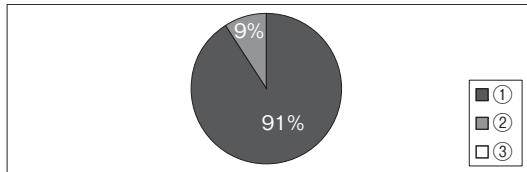
総回答者数 5



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	10
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	0

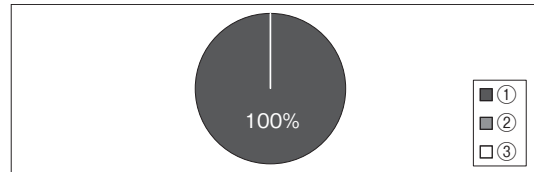
総回答者数 11



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	11
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 11



授業体験コース アンケート集計 文学部

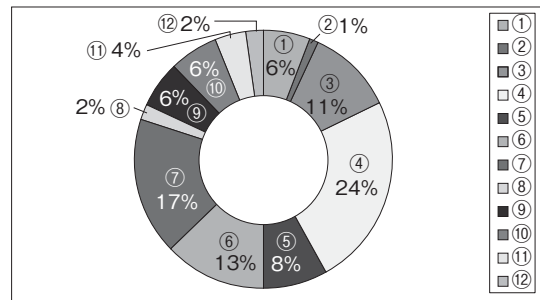
Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	5
②	自宅が大学に近かったため	1
③	通学方法などを確認するため	9
④	大学の雰囲気を知らため	20
⑤	友人を作るため	7
⑥	大学生活に不安があったため	11
⑦	大学での授業内容を知るため	14
⑧	自校教育について聞きたかったため	2
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	5
⑩	体験授業の内容に興味があったため	5
⑪	教員のことを知るため	3
⑫	特に具体的な目的はない	2

総回答者数 84

受講者数 29人 回答者数 27人 回答率 93.1%



Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

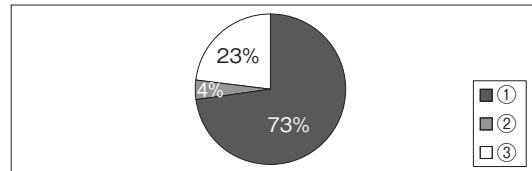
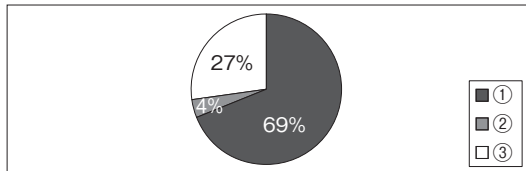
①	わかりやすかった	18
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	7

総回答者数 26

Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	19
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	6

総回答者数 26



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午前の授業)

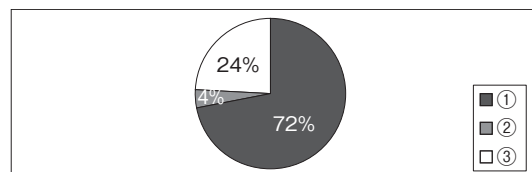
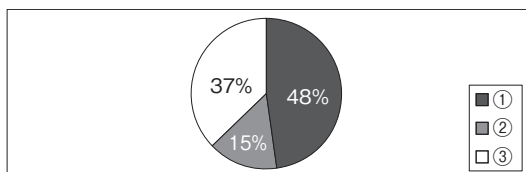
①	わかりやすかった	13
②	わかりにくかった	4
③	どちらともいえない	10

総回答者数 27

Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午後の授業)

①	わかりやすかった	18
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	6

総回答者数 25

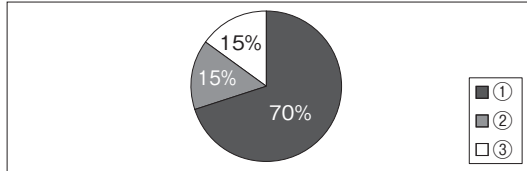


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	18
②	感じていなかった	4
③	どちらともいえない	4

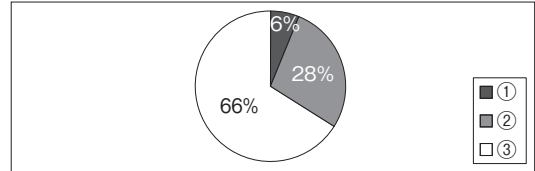
総回答者数 26



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	1
②	不安はなくならなかった	5
③	どちらともいえない	12

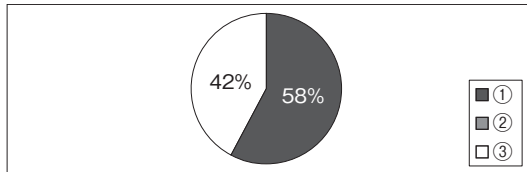
総回答者数 18



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	15
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	11

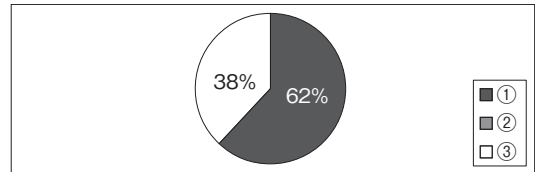
総回答者数 26



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	16
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	10

総回答者数 26



授業体験コース アンケート集計 教育学部

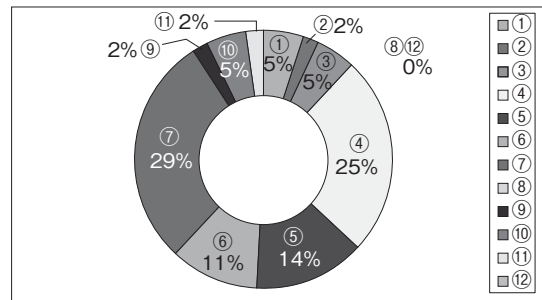
Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	2
②	自宅が大学に近かったため	1
③	通学方法などを確認するため	2
④	大学の雰囲気を知るため	11
⑤	友人を作るため	6
⑥	大学生活に不安があったため	5
⑦	大学での授業内容を知るため	13
⑧	自校教育について聞きたかったため	0
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	1
⑩	体験授業の内容に興味があったため	2
⑪	教員のことを知るため	1
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 44

受講者数 17人 回答者数 17人 回答率 100%



Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

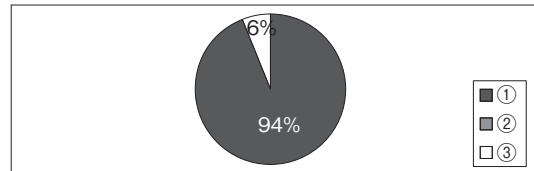
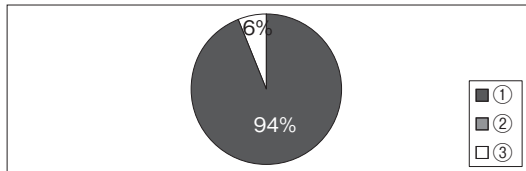
①	わかりやすかった	16
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 17

Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	16
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 17



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午前の授業)

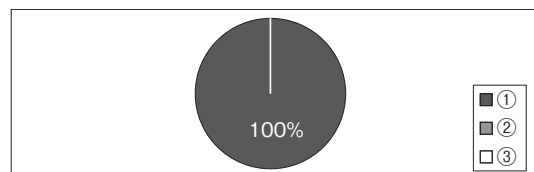
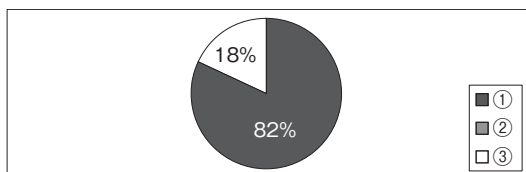
①	わかりやすかった	14
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	3

総回答者数 17

Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午後の授業)

①	わかりやすかった	16
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 16

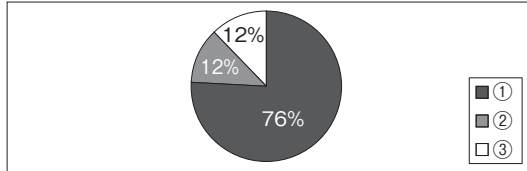


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	13
②	感じていなかった	2
③	どちらともいえない	2

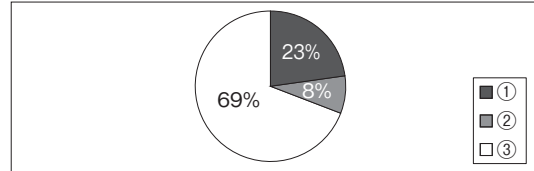
総回答者数 17



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	3
②	不安はなくならなかった	1
③	どちらともいえない	9

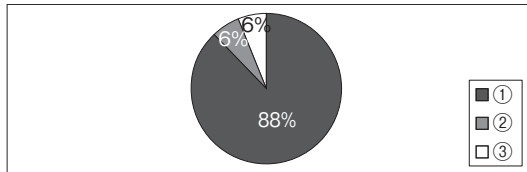
総回答者数 13



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	15
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	1

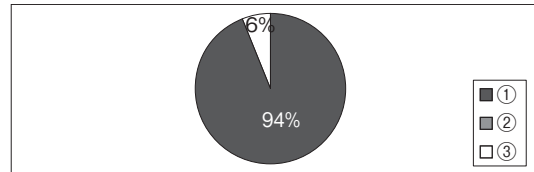
総回答者数 17



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	15
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 16



授業体験コース アンケート集計 社会学部

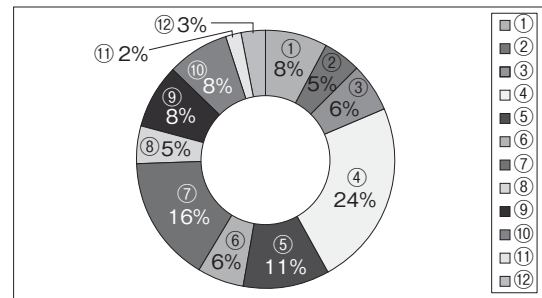
Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	5
②	自宅が大学に近かったため	3
③	通学方法などを確認するため	4
④	大学の雰囲気をを知るため	15
⑤	友人を作るため	7
⑥	大学生活に不安があったため	4
⑦	大学での授業内容を知るため	10
⑧	自校教育について聞きたかったため	3
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	5
⑩	体験授業の内容に興味があったため	4
⑪	教員のことを知るため	1
⑫	特に具体的な目的はない	2

総回答者数 63

受講者数 28人 回答者数 24人 回答率 85.7%

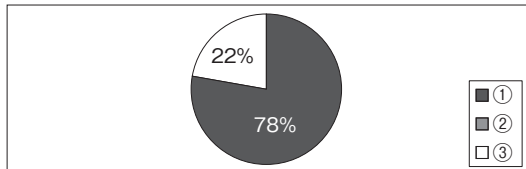


Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	18
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	5

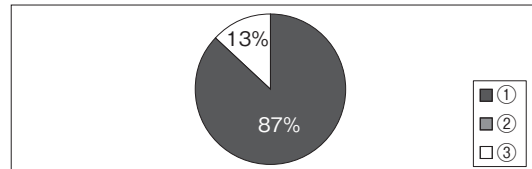
総回答者数 23



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	20
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	3

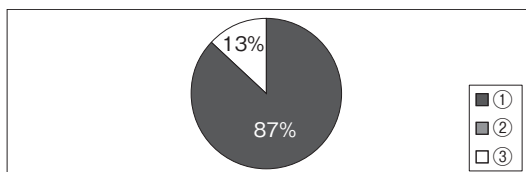
総回答者数 23



●
Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午前の授業)

①	わかりやすかった	20
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	3

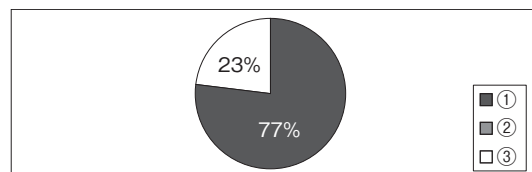
総回答者数 23



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午後の授業)

①	わかりやすかった	17
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	5

総回答者数 22

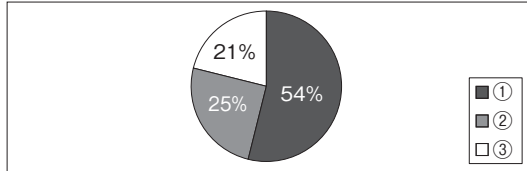


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	13
②	感じていなかった	6
③	どちらともいえない	5

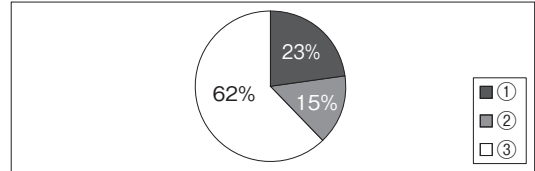
総回答者数 24



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	3
②	不安はなくならなかった	2
③	どちらともいえない	8

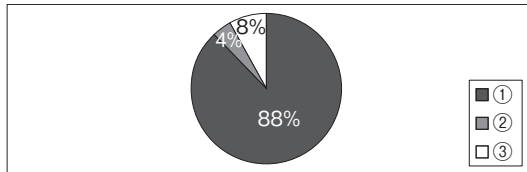
総回答者数 13



Q3-3 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	21
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	2

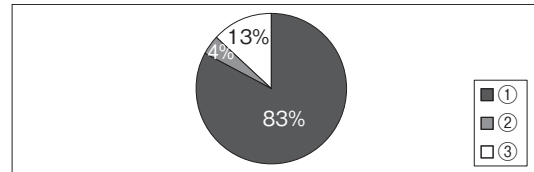
総回答者数 24



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	20
②	思わなかった	1
③	どちらともいえない	3

総回答者数 24



授業体験コース アンケート集計 社会福祉学部

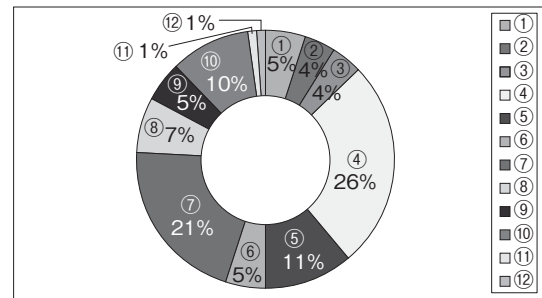
Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	4
②	自宅が大学に近かったため	3
③	通学方法などを確認するため	3
④	大学の雰囲気を知るため	18
⑤	友人を作るため	8
⑥	大学生活に不安があったため	4
⑦	大学での授業内容を知るため	15
⑧	自校教育について聞きたかったため	5
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	4
⑩	体験授業の内容に興味があったため	7
⑪	教員のことを知るため	1
⑫	特に具体的な目的はない	1

総回答者数 73

受講者数 30人 回答者数 27人 回答率 90%

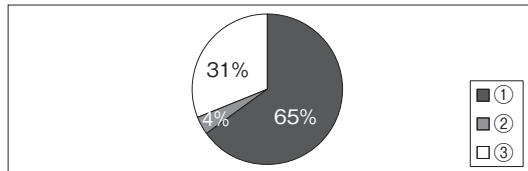


Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	17
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	8

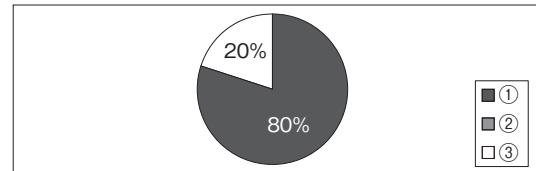
総回答者数 26



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	20
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	5

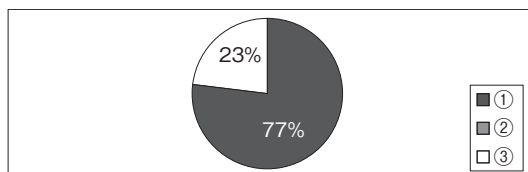
総回答者数 25



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午前の授業)

①	わかりやすかった	20
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	6

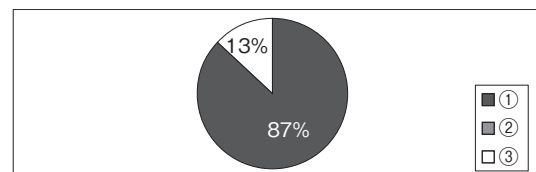
総回答者数 26



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午後の授業)

①	わかりやすかった	20
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	3

総回答者数 23

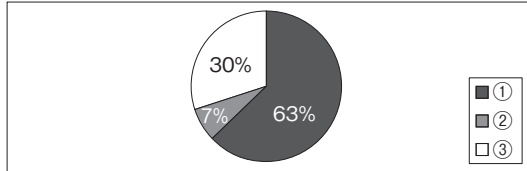


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	17
②	感じていなかった	2
③	どちらともいえない	8

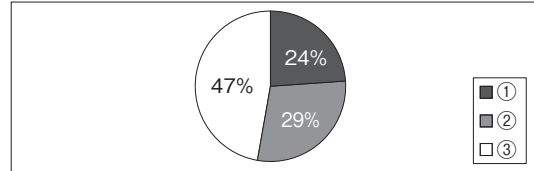
総回答者数 27



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	4
②	不安はなくならなかった	5
③	どちらともいえない	8

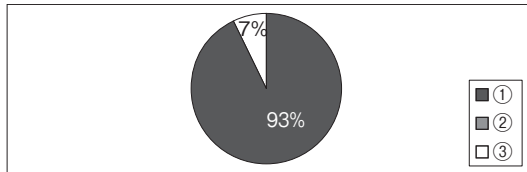
総回答者数 17



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	25
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

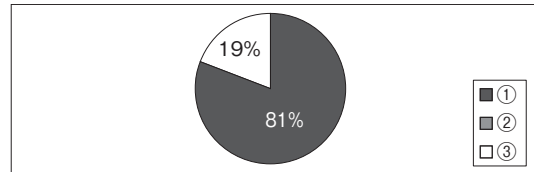
総回答者数 27



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	22
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	5

総回答者数 27



授業体験コース アンケート集計 保健医療技術学部

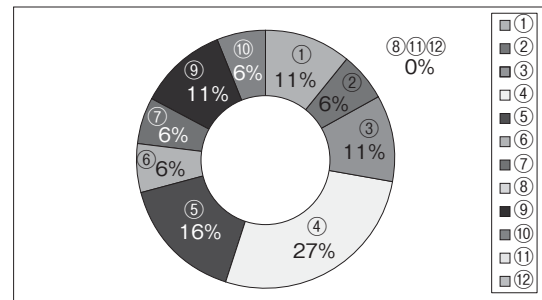
Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	2
②	自宅が大学に近かったため	1
③	通学方法などを確認するため	2
④	大学の雰囲気を知るため	5
⑤	友人を作るため	3
⑥	大学生活に不安があったため	1
⑦	大学での授業内容を知るため	1
⑧	自校教育について聞きたかったため	0
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	2
⑩	体験授業の内容に興味があったため	1
⑪	教員のことを知るため	0
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 18

受講者数 5人 回答者数 5人 回答率 100%



Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

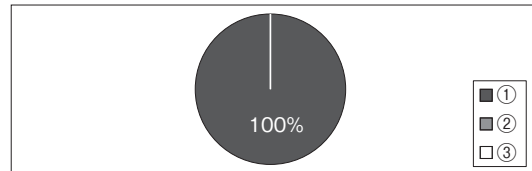
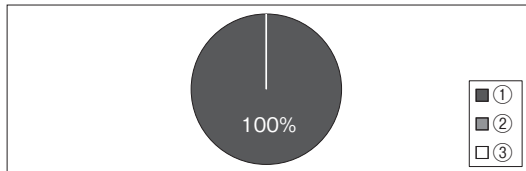
①	わかりやすかった	5
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 5

Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	5
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 5



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午前の授業)

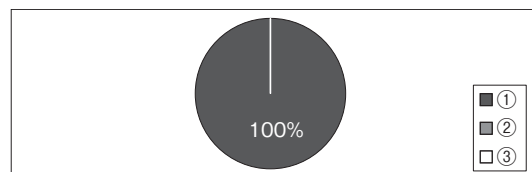
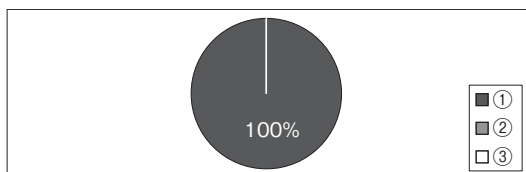
①	わかりやすかった	5
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 5

Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？
(午後の授業)

①	わかりやすかった	3
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 3

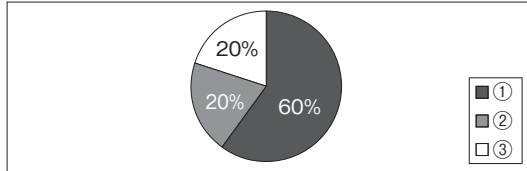


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	3
②	感じていなかった	1
③	どちらともいえない	1

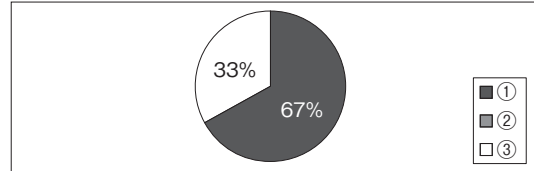
総回答者数 5



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	2
②	不安はなくならなかった	0
③	どちらともいえない	1

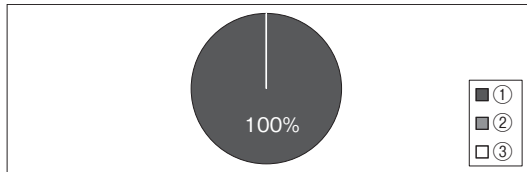
総回答者数 3



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	5
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

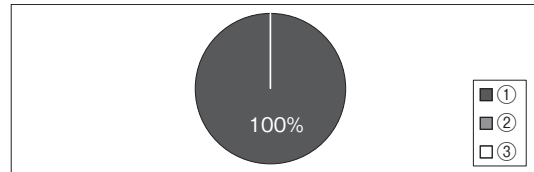
総回答者数 5



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	5
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 5



FD Review

FD 研究会

第1回FD研究会
初年次教育

2008年5月14日(水) 文責 達富洋二

初年次教育について、「初年次教育」担当の達富から以下のような話題を提供し、意見交流を行った。

話題提供

達富： 高等学校から大学につながる期間の教育については、「入学前教育」「導入教育」「補習教育」「接続教育」等の様々なとらえ方がなされている。

きょうの研究会では、資料の通り「FD等に関する学長諮問委員会」における諮問事項について、本学の初年次教育実施に向けて、内容の検討を行いたい。

話題提供者としては、初年次教育を、各学部・学科の専門分野に特化したものではなく、全学部共通の「学びの導入」を図ることを目指した教育内容にしたいと考えている。大学全入という背景からも、その必要性を感じている。

配付資料の冊子『知へのステップ』（学習技術研究会）を参考にして、忌憚のないご意見を伺いたい。

意見交流

室員： 社会福祉学部では、学部共通テキストの作成を検討している。今後、FDでのテキスト事業との兼ね合いが必要となろう。

室員： この冊子の内容なら、社会学部でも使用可能だと思う。

室員： この冊子は、4回生や通信教育部生に対して読ませてみても価値がある。

室員： この冊子のタイトル名では、どういう中身かが瞬時に分かりにくく、あまり適切に思えない。これならば、タイトルを「初年次教育ガイドブック」と変更し、全学共通のガイドラインにすべきであろう。

また、常々思うことだが、理学療法士を志す学生に対し、入学前の面接実施が資質面を測る上で必要と感じている。

室員： 「日本語文章表現」との授業の兼ね合いでみると、このテキストは適切に思う。
(第3・4・8・9章)

なお、他大学では、「友人の作り方」も初年次教育の一環とし、3日程度の合宿を実施するケースもある。

達富： もし、本学でこの種のテキストを独自作成しようとした場合、教授法開発室が主体となるべきだと思う。

室員： 予算面についての十分な考慮が必要となる。その点について客員の考えはどうか。

室員： テキストについては、とりあえず1年目は既存の冊子を使用し、2年目以降、

原稿が揃い次第、独自テキストを作成する流れにする。そうすれば、予算面はクリアできるのではないだろうか。

第1回研究会では、初年次教育についての個人の考えを聞き合い、意見交流を行った。初年次教育についてのとらえ方も多様であることが分かるとともに、本学で取り組むにあたって留意しなければならないことがらも明らかになった。

まとめ

本学においても、初年次教育に取り組み、定着を図ることが求められている。実際に初年次教育に取り組むにあたって検討していかなければならない点は以下の通りである。

- (ア) 学生の学習づくりを目的とするのか、学生の仲間づくりを目的とするのか。両方か。
- (イ) 全学的に共通する取り組みとするのか、学部学科の特性に準拠した取り組みとするのか。
- (ウ) どの科目において行うか、複数の科目群として行うのか
- (エ) 市販テキストを用いるのか、自学開発教材を用いるのか。

これらの点について具体化した計画を立てることが今後の課題である。

参考

2009年3月に開催される「2008年度第14回FDフォーラム」における「初年次教育」分科会のテーマ（記述：達富）は以下の通りである。

テーマ：「初年次教育の展望と課題」

初年次教育に取り組み、定着を図ることが求められている。初年次学生の資質や能力の傾向が従来とは異なってきたからである。

このことは、「授業を運営していくにあたって、教員の教授法をどのように改善するか」という問題とは別の問題である。

「学生の学習づくりを目的とするのか・学生の仲間づくりを目的とするのか」「全学的に共通する取り組みとするのか・学部学科の特性に準拠した取り組みとするのか」「どの科目において行うのか・複数の科目群として行うのか」「市販テキストを用いるのか・自学開発教材を用いるのか」など、要検討のことがらも少なくない。

本分科会では、初年次教育を導入している大学、あるいは導入を検討している大学に共通する問題点について事例を通して考察を図りたい。

第2回 FD 研究会
授業アンケート

2008年11月12日(水) 文責 小林 隆

授業アンケートについて、担当の小林から以下のような話題を提供し、意見交流を行った。

話題提供

小林： 本年度より、学生の学習状況を把握し、それを授業改善に役立てるというように授業アンケートの趣旨をとらえなおした。授業アンケートから全学的な学生の学習状況を読み取ると、真面目に授業に出席するが事前・事後の学習はあまりしていないことが読み取れる。しかし、授業内容は理解できたと回答している学生が多い。この点を切り口として先生方からのご意見を賜りたい。

意見交流

室員： 解釈の違いがあるが、「理解できた」の意味合いが浅いのではないかと思う。例えば試験をやったときの実感で言うと、本当に理解している学生は100人に1人か2人だ。本当に授業を理解した上で書いている答案とは思えないレベルで、でも本人は理解したと思っているのだろうと。ちょっと危険な状態かなと思う。事前・事後の勉強をしなくても理解できたとと思っている学生がどんどん出てきたと解釈できて怖い。予習・復習しなかったらついていけないというのが私の大学時代のだけでも、そうっていない。

小林： 事前・事後の学習があまりなされていないのに、授業に出席して理解したつもりになっている。

室員： 文科省の基準で言えば1単位45時間という学習時間というのが設定されていて、授業時間というのは、本当はその中の一部である。従って、単位当たりの学習時間が確保されていないのが実態である。事前・事後の学習をあまりしていないのに熱心に授業に取り組みました。こんなことはあり得るのか。

室員： 実は今、半期32単位、年間64単位というのが単位の上限である。この上限は問題があるのでは。大学基準協会の認証評価の結果について、非常に厳しく指摘されている。つまり、年間32単位で1単位につき45時間の学習時間を確保したら実際に寝る暇がない。大学全体が単位当たりの学習時間を確保しようという発想になっていない。非常に構造的な問題だ。ぜひ、構造の問題に取り組んでもらいたい。

室員： アメリカ型は来週までに3冊読んでこいとか、4冊読んでこい。それこそ文字どおりの課題がある。しかし、現状は講演会に行くような感じで1回のみでわかる。だから、浅い理解の答案用紙である。それこそ週14回授業をやればやるほど、本を読む時間もなくなってしまう。昔の学生は休み時間、休暇中に本を読んでいたが、読む時間がなくなってしまうのだから、なおさら読まない。

室員： 授業には到達度が設定される。到達度はシラバスに反映されていなければいけない。その到達度に即して15回の事業が組み立てられていないといけないのだけれども、シラバス自体がきちんとできていない。文部科学省が要請しているのは、そういう到達目標をきちんと設定しなさいということと科目間連携を設定しなさいということだ。個別の到達度と、科目が連携しながらカリキュラム全体としての到達度を設定する。つまり、プログラムの組み立てができていない。

室員： 私の学部は履修モデルがあり到達度が比較的明確だが、それは国家試験があるから。しかし、国家試験を意識しすぎると専門学校になってしまう。非常にジレンマがある。

室員： 型破りでユニークなとんでもない授業が少なくなり、どうかなと思うこともある。

小林： 教員が求めるところまで学習が深まっていないのではないかという危機感が確認できた。本当はもっともっと深いのだというところを気付かせられるような授業改善に全学的に取り組んでいく必要がある。

以上のように、第2回研究会では、授業アンケートから読み取れた学生の学習状況の解釈に基づいて授業改善について話し合った。そして、個々の授業の改善を図る一方で、全体的・構造的な問題としても考えていく必要があることが確認できた。

この後、議論は授業の適正規模や授業環境のことに発展していった。人的・物的な資源を整えるためにはもちろん経費が必要であるが、キャンパス整備計画と連動して、可能な限りの努力を求めたい。

まとめ

以上のように、第2回のFD研究会では、明確なディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づいてカリキュラムのスリム化を図るとともに科目間の連携を図り、その中で学生の主体的で深い学習（事前・事後の学習を含む）を促す授業のあり方を考えて行かなくてはならないことが提言された。それは、つまり15回で完結する理解型・クローズドエンド型の授業ではなく、授業後に発展していく思考型・創造型・オープンエンド型の授業であろう。

また、平成22年度の全学的なカリキュラム改編やキャンパス整備計画とも連動し、更に学生の学習を促進していく環境を整える必要があることも改めて確認しておきたい。

2008年12月17日(水) 文責 藤松素子

12月に開催した授業公開をふりかえり、授業提供者も迎えて今回のとりくみについての評価と現状の課題、および今後の方向性を検討することを目的として研究会を開催した。

話題提供

授業提供者： 全学共通科目である講義の性格上、学生に主題そのものに興味をもってもらえるよう工夫している。具体的には、学生は一般的に配布資料が多すぎるのを嫌う傾向があるため、基本的にレジュメ1枚におさめるようにしている。板書が少ないと不安だという学生がいるので、できるだけ補足的に板書を活用している。大教室での講義のため出席管理に悩むことが多いが、今年度は冒頭でカードを配り回収する方法を採用している。講義に関する意見があれば、カードの裏に書かせるよう指導している。また、抽象的な話にならないよう、できるだけ具体的な事例をおりませながら説明をしている。

授業提供者： 学生の私語の問題、講義に集中できない問題、寝ている問題等が指摘されているが、そうさせない工夫が必要である。担当科目は専門科目で、その内容に興味のある学生が目的意識をもって受講している。学生には90分の授業の見通しを持たせることが大切で、ここまでは授業を聴き、ここからは各自の意見を言い、ここからはみんなでディスカッションするという流れを常に伝えることで学生は理解し、授業に集中できると思う。また、学生は授業にいろいろな期待をもって臨んでいる。それゆえに、期待はずれの授業だとクレームも多い。自分の授業内容・方法の課題をみつけるためにも、今回のような授業公開はとても有益だと思う。

授業提供者： 学部基幹科目を担当。小集団の参加型授業を展開。報告グループ、質問グループ、フロアからコメントするグループと分けて、各自に役割を付与することで、学生の主体的な参加を促している。学生間に温度差があるのは課題であるが、できるだけ私語をさせず、集中させるための工夫を試行錯誤で行っている。また、毎回、相互評価をさせるようにしている。報告や発言内容だけでなく、グループ間のコミュニケーション等についても数値化すると同時に具体的なコメントを記載してもらっている。次の授業の際にその振り返りをしながら、展開のヒントとして活用している。

話題提供者： 学部の実技系専門科目を担当。受講者数、授業の性格上、教員が一方的に話すような場面はほとんどなく、学生同士が二人で一組になって相互に関わるような場面が多いので、私語等が問題になることはほとんどない。学生は目的意識が明確で、必要な技術の習得をせざるをえない状況なので熱心にと

りくんでいる。ただし、学生 40 名弱に教員 1 名体制では、十分な指導ができないという限界がある。

司 会： 授業を提供した立場から、その意義や感想をご自由に。

授業提供者： 緊張感があった。新人の教員に受けてもらうのもよいかもしれない。個人的には同じ科目を受け持つ別の教員の講義を受けてみたい。必修という最も興味をもちにくい授業を 1 講時に設定することの是非や私語問題等、さまざまなことを考える機会となって有益であった。今後どうしていくべきかについては、まだ考えが及んでいない。

授業提供者： 授業評価こそ、教育学部の教員がエネルギーをさき、アイデアを出す課題。何をみるべきか、どう評価するべきか検討すべき。領域の同じ者、異なる者に観てもらふことで、さまざまなことがわかる。その意見に真摯に耳を傾けて改善にむすびつけることが必要。

授業提供者： 依頼がきた時には、正直つらいと思ったが、やってみると意見がもらえるのは率直にうれしいし役にたつ。今後は、学生からの評価の高い先生に公開してもらってはどうか。学ぶべきことが多いと思う。

授業提供者： できるだけたくさんの先生に観てもらいたいし、自分も観たい。専門の違う先生からの意見ももらいたかった。自分の授業を積極的に変えていくためのヒントがえられると思う。朝 9 時から夕方 5 時までいつでも観られるような設定を工夫してみてもよいのでは。

意見交流

室 員： 提供者の積極的な意見を聞き、授業公開日を設定するのではなく、「授業公開教員」を設定するのも一案だと考えた。各学部 1 名を選出し、担当科目の 14 回すべてを公開可能にし、事前に申し込んだ上でどの回にも参加できるような形態をとってみると参加しやすく、特別な期間だけでなく日常的な授業公開が可能となる。考えてもよいのではないか。

また、授業評価の基準は一定のものではないのではないか。小集団のゼミと 200 人をこえる大講義では、おのずとその方法・進行は異なる。その特殊性に応じた評価基準を考えていくことが必要だろう。

さらに、学部学科で共通の基準を設定するのは困難なため、学部学科の FD 活動を本格化させることが必要になってきているのではないか。

室 員： 授業は、観ても観られても刺激的である。領域を問わず、その内容は言うに及ばず、運営方法ひとつとっても大きなヒントになる。教員研修として大授業公開を設定し、全学的に取り組んでみるのもおもしろい。

室 員： 自分の授業を高める研修として役立つだけでなく、教員の交流ができるのがとてもよい。

室 員： 日常的に公開する、いつでも扉をあけておくという機運が広がるとよい。教員相互の日常的な交流も深まる。

室 員： 話術に長ける、授業運営のうまい教員の授業は確かに参考になる。他方で、大講義室の 200 人を超える講義での限界をふまえた参観も意味があるのではないか。

まとめ

授業提供者の積極的な発言に刺激され、活発な意見交流をすることができた。
次年度に向けての検討課題は以下の通りである。

- 1) 授業改善に際して、提供者・参加者双方に有意義な授業公開ではあるが、現状のような公開日設定では、希望者が参加すること自体に困難を有するため、授業公開教員を設定し、いつでも参加可能な条件を整備する。
- 2) 1回の授業を公開・参加するだけでなく、相互の意見交流の場を確保することがより重要である。その中から、相互の授業改善に関わる教訓がえられる。
- 3) 希望者の参加を可能とする方法のひとつとして、教員研修として模擬講義的に授業公開を行うことも考えられる。

第4回FD研究会
英語基礎力調査

2009年1月14日(水) 文責 持留 浩 二

英語基礎力調査について、「英語基礎力調査」担当の持留から以下のような話題を提供し、意見交流を行った。

話題提供

持留： 佛教大学ではカリキュラム改革が実施された2004年度より、全新1回生を対象にして、入学時と1回生終了時にTOEIC Bridge IPテストを使用した英語基礎力調査を実施している。

今日の研究会では、まず2007年度と2008年度春学期の基礎力調査結果及び基礎力調査と同時に行われるアンケートの結果を見てもらい、佛教大学1回生の英語力の実態を知ってもらいたい。そしてその上で、今後のよりよい英語教育のために何が必要なのか、忌憚ない意見をお伺いしたい。

また以前から行っているアンケートについて、その内容を、より詳しく学生のニーズを知るためのものに改善するつもりなので、あわせてその改善案についてもご意見をお伺いしたい。

意見交流

室員： 英語基礎力調査の際に行われるアンケート項目に、学習意欲以外の項目、例えば、学習効果がどれだけあったかとか、その学習によって何か役に立ったことがあったのかとか、英語学習をトータルに問うというアンケートであってもいいのではないか。

室員： 英語の授業は習熟度別で編成されているが、クラスにレベルがあるのであれば、シラバスも当然そうあるべきで、習熟度別という意識を教員も含めて徹底すべきではないか。

室員： 入試種別による学生の学力の差が大きくて授業を困難なものにしているところがある。大学として低い学力で入ってきている学生に対しリメディアル等でフォローする必要がある。

室員： レベルの低い学生のクラスは10人以下のクラスにするなどして、かなり英語力の低い学生のケアをしなければならない。

室員： 佛教大学では、資格免許がたくさん取れるという特性上、上限の履修登録単位

数が多く設定されており、なかなか一つ一つの授業に学習時間がついていかないという悪い面がある。履修モデルをしっかりと作り上げる必要がある。

室員： 語学の授業であれば、やはり GPA を導入して、何らかの共通テストで成績の 7 割くらいはつけてしまうくらいに強力にやるのも一つの方法ではないか。

室員： いろんなバラエティーある授業があってもいいかなと思う。音楽を使った楽しい授業や、本や雑誌を読めるようになりたい人のための授業、徹底的にコミュニケーションをしたい人のための授業、リメディアルに徹した授業もあっていいし TOEIC でいい点数を取るための授業があってもいい。そんな風に習熟度ではなくニーズによるクラス編成も面白いのでは。

室員： 英語圏の海外に提携校を作って数か月留学させる、そこまでいなくても、ある程度英語力がついたらネイティブと交流できるとか、そういう目標があったら学生にとって大きなモチベーションになるかもしれない。

第 4 回研究会では、英語基礎力調査についてだけでなく、英語の授業一般について自由な意見の交流が行われ、大いに参考になった。普段は他学科の教員が英語教育についてどう考えているのか聞く機会があまりないので、今回の研究会は私にとって新鮮で有益なものとなった。

まとめ

英語基礎力調査はただ単に調査で終わってしまっただけではいけない。その調査結果をいかにして授業改善に結び付けていくのかを考えることが FD としてしなければならないことである。正直 FD だけでできることは限られている。それでもできる範囲で調査結果を活用すべきだし、どのように活用すべきなのかも今回の研究会で徐々に明らかになってきた。それらを以下にまとめてみたい。

- (ア) アンケートの内容を、より詳しく学生の英語学習への意識を知ることのできるものに工夫する（これはすでに出来上がっており 2009 年度の調査で実施予定）。
- (イ) 英語基礎力調査の結果、そしてその結果の分析を佛教大学の英語教員（専任非常勤を問わず）にフィードバックする。同時にアンケートの結果も教員間でシェアし、学生のニーズや実態を分かってもらう。

以上の点については FD だからこそできることだと思うので、少しでも英語の授業改善に貢献できるよう 2009 年度も FD 活動を続けていきたい。英語教員に学生のニーズを伝え、その一方で各英語教員から意見を聴取し FD 活動に反映させる、そんな風にリエゾンの役割を果たすことができれば理想である。

e-Learning

2009年2月18日(水) 文責 有田和臣

e-Learningの現状と今後について、意見交流を行った。「e-Learning」担当有田が他委員会出席で前半不在のため、メディア教材開発・知財課の瀬澤課長による資料説明から始められた。

資料説明 メディア教材開発・知財課（以下、「メディア課」と略）

* 利用状況

2005年秋学期から暫定的に運用しているe-Learningシステムは、利用教員・科目数が、学期を重ねるごとに数倍の単位で増加し続けている。2007年秋学期ごろより、文学部、社会学部、社会福祉学部の教員の利用増加が目立つ。中でも専門科目・ゼミで利用増加が見られる。しかしそれでも全体から見れば少数にとどまっている。

* e-Learning システム 2008 年秋学期教員・学生アンケート

教員からは、メリットとして、学生の取り組みの様子を把握できた、課題提出確認と、その課題へのコメント返信が簡便化された、教材箱の利用で授業進行がスムーズになった、等があげられた。デメリットとして、利用開始日の遅さ、画面のわかりづらさ、携帯電話からの投稿機能がない、等が挙げられた。

学生からは、メリットとして、フォーラムによる意見交換の面白さ、講義概要の把握のしやすさ、予復習のしやすさ、課題をこなす習慣がついた、等が挙げられた。デメリットとして、携帯からの読み書きができない、大学内のパソコンが満席で課題ができないことがある、等が挙げられた。

要望として、教員から、使用手順の簡略化、学生からは、携帯電話からの利用を可能にすること、対面授業との使い分けの明確化等が出された。

意見交流

* 機能の充実について

室員： 機能的にはすでに十分なものをもっているのではないか。これ以上はなくてもよい。

有田： あとは使い勝手を洗練していきたい。自分が設定方法を理解していないだけかもしれないが、フォーラムを一度に全体を閲覧できる簡便な形式にして欲しい。何度もクリックしないと書き込みを読めないのでは、利用者は増えないだろう。

室員： 自分は、書き込みを一覧できるような設定にすることで、うまく運用できているように思う。

瀬澤： 確かに、そのような設定も可能になっている。

有田： また、ウェブ上でレポート提出を受ける場合、誰が提出済みかを簡便にチェッ

クできると、使用する教員が増えるだろう。

瀬澤： 提出者一覧を表示することも可能になっている。設定次第で、便利な使い方ができるので、いつでも相談に来てほしい。

室員： 携帯・モバイルからの読み書きの要望も強い。アンケートなどできると便利だ。全学生にノートパソコンをもたせている大学もあるが。

瀬澤： 携帯使用の可能化も検討中ではあるが、通信料金の学生負担、サイズの大きな資料のやり取りができない、等の問題もあり、使用は必要最小限な場面に抑えたい。

* 学生ポータルサイトについて

室員： 大学生活に必要な情報を集約した学生ポータルサイトの設置を望みたい。そこを見れば必要な情報がすべて得られるような。韓国では成績も紙ベースでは配布しない。履修登録などもウェブ上でできるようだ。非常に電子化が進んでいる。

有田： 卒業および免許取得に必要な科目の一覧と、既得・要取得単位数、レポート提出、成績、時間割、呼び出しなどの掲示情報、等、個々の学生に必要な情報が集約された学生ポータルサイトができれば理想的だろう。

* TA 制度その他について

瀬澤： e-Leaning システムをさらに広く運営して頂くために、先生方への広報にも力を入れたい。先生方が使いたくなるような目玉をつくりたい。

室員： ウェブ運営が進めば教員の負担も問題になろう。TA 制度の整備が必要だろう。上回生が下級生に教えるシステムの整備、学科はりつけの TA の設置、TA と奨学金の連動制度の整備、等を考えるべき時に来ているのではないか。

ポケベル時代の学生は、不便な道具で頻繁に情報を交換し合った。今は携帯電話を通じて、決して使いやすいとは言えない数字ボタンを使って頻繁にメールのやり取りをする。小さな画面で、ウェブの閲覧・書き込みまで行う。つまりウェブシステムの本質は、ネットワークでつながっているという事実である。その他の不便さは、実は大きな問題ではない。その点を生かした新しいシステム利用の視点はないものか、今後も模索していきたい。

まとめ

本研究会を通して明確化された、本学が e-Leaning システムを運用するにあたって検討していくべき課題は以下の通りである。

- (ア) 機能的には、必要十分なものに精選され、練れたものになってきている。今後はさらなる使用手順の洗練が望まれる（直感的に理解できる画面・より少ない手順を望む）。
- (イ) 便利な機能も、知られていないために利用者数が少数にとどまっている状況が伺える。学内広報活動にも力を入れたい。
- (ウ) システムの機能そのもののみならず、TA 制度の充実など、システム運用に伴う教員負担を軽減するための周辺運用環境の整備が望まれる。
- (エ) 先進的な学生ポータルサイトの開設なども、将来的には視野に入れたい。

これらの点について具体化した計画を立てることが今後の課題である。

FD Review

FD Review

FD
フォーラム

第14回FDフォーラム 学生が身につけるべき力とは何かー個性ある学士課程教育の創造ー

シンポジウム

2009年2月28日 於：龍谷大学 文責 小林 隆

1. 趣旨説明：木野 茂（立命館大学 共通教育推進機構 教授）

2. 話題提供

2.1 山形大学の挑戦

結城 章夫（山形大学 学長）

- ① 国立大学の法人化とその後
- ② 山形大学の経営の基本方針
- ③ 「結城プラン」の策定と1年ごとのPCDAサイクルの確立
- ④ 教養教育の改革

2.2 学生が身につけるべき力とは何か

石川 憲一（金沢工業大学 学長）

- ① 金沢工業大学の構成
- ② 金沢工業大学（KIT）の教育理念と目標
- ③ 教育改革の方向性
- ④ 教育を支える組織
- ⑤ 研究を支える組織
- ⑥ 金沢工業大学の人間力教育とプロジェクトデザイン教育
- ⑦ 「人間力」の構成要素
- ⑧ 「人間力」と「学力」との関係
- ⑨ 「人間力」を涵養する基礎教育
- ⑩ 修学ポートフォリオ
- ⑪ キャリアポートフォリオ
- ⑫ プロジェクトデザイン教育の基本的な目標
- ⑬ プロジェクトデザイン過程とは
- ⑭ 数理工教育センター
- ⑮ 個人指導（チューター活動）
- ⑯ キャリア教育の実践
- ⑰ 進路指導
- ⑱ 学生への学長メッセージ

2.3 学生が身につけるべき力とは何か

田中 每実（京都大学 高等教育研究開発推進センター長）

- ① 主題の意味
- ② タイトルの分析
- ③ 山形大学と金沢工業大学
- ④ 一般的議論（1）－制度・組織的連関－
- ⑤ 学士課程教育を取り巻く一般的状況（常套的立論）
- ⑥ 立論の制約性
- ⑦ 高等教育改革の現状
- ⑧ 一般的議論（2）－学生が身につけるべき力－
- ⑨ 「身につけるべき力」の多様な名称
- ⑩ 「例示」としての「学士力」
- ⑪ 学士課程教育の個別性－京都大学という事例－
- ⑫ 「自由の学風」のもとでの無秩序で分散型の教育改革
- ⑬ ヒアリングから見る京大の教育改善
- ⑭ 教育改革の現状とセンターの立場
 - ・ローカリズムの尊重
 - ・啓蒙ではなく共同の連携へ
 - ・改革の自己組織化の援助
- ⑮ 個性的な学士課程教育の創造
- ⑯ 「個性ある学士課程教育の創造」は、FDの進展と同時に進行する。
- ⑰ 連携の可能性
- ⑱ 関西地区FD連絡協議会

3. 佛教大学のFDに活用していきたいことから

3.1 具体的なことから

- ・金沢工業大学（「人間力教育」と「プロジェクトデザイン教育」）に見られるような明確で具体的な教育理念と方向性
- ・大学としてのディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの明確化と共有
- ・各学部のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づく具体的な教育課程の策定
- ・FD活動の全学的な構造化と組織化
- ・佛教大学としての「最適解」の探究

3.2 所見

個人的な感想だが、山形大学の結城学長は大学の組織的経営の観点からの発表・発言、金沢工業大学の石川学長は信念を持つ教育者としての視点からの発表・発言、京都大学の田中教授は概念の整理・分析と自大学を含めた各大学のFDを客観的な立場から分析を行う研究者としての視点からの発表・発言のようにとらえられた。大学の規模や性質からFDは一概に一般化できないが、金沢工業大学のように強烈的リーダーシップの元にFD活動を推し進めていく必要性を感じると同時に京都大学のような「自由な学風」の中から

個性的な学生が育つ良さを感じ、ジレンマに陥ってしまった。田中教授の指摘するところの佛教大学としての「最適解」を探したい。

いずれにしても各教員の授業力の向上はもちろんのこと、学生の自立（自律）と「自己実現」を目標として自身のキャリアデザインに基づく主体的な学習計画を立てさせる仕掛けやその支援の方策を全学的・組織的に考えていく必要がある。そのためには、「FD Review vol.3」で清水先生が述べるように、単に授業アンケートや授業公開の実施だけでなく、どのような資質や能力をもった学生を育成するのかを明確にして教育課程を具現化するとともに、佛教大学の全教職員が「佛教大学の学生を教育する共同体」になるための具体的な方法の中長期計画のもとに展開していかなければならないと考える。

第4ミニ・シンポジウム 大学教育におけるeラーニングシステムの可能性

2009年3月1日 於：龍谷大学 文責 有田和臣

1. 趣旨説明：河野勝彦（京都産業大学副学長 教育エクセレンス支援センター長）

学士課程教育の質保証、質的向上が求められているが、eラーニングがそれにどのような役割を果たしうるのか、大学教育におけるeラーニングシステムの可能性について集中的に検討することが、当シンポジウムの狙いである。eラーニングは、物理的な時空に制約されないことから、その活用可能性が期待されてきたが、コンテンツ制作、人的サポート等にかかわるeラーニング固有の克服すべき問題点もあって、その大幅な普及を制約してきた。しかし、既に多くの大学で導入されている学習支援システム（LMS）の活用により、eラーニングは正規科目教育のみならず、高大接続授業や入学前教育、また大学間連携教育や生涯教育を含めて可能性が開かれているはずである。eラーニングの抱える困難の克服と可能性を論議したい。

2. 話題提供

2.1 大学教育におけるeラーニングシステムの可能性

坪内伸夫（京都産業大学 情報センター課長）

- 2.1.1 京都産業大学における教育の情報化
- 2.1.2 4年経過した moodle 利用状況
- 2.1.3 moodle の機能と活用実態
- 2.1.4 関連科目や履修情報はすべて moodle に組み込まれている
- 2.1.5 どのようなメリットで利用が進んだか

2.2 学部教育におけるeラーニングの利用と評価

穂屋下茂（佐賀大学 理工学部機械システム工学科）

- 2.2.1 eラーニング導入の必要性
- 2.2.2 eラーニングの概要
- 2.2.3 ネット講義及び学習管理システム
- 2.2.4 eラーニングの実施（2002年度）
- 2.2.5 ネット講義の評価
- 2.2.6 今後のeラーニングの展開

2.3 eラーニングコンテンツの制作と多分野での利用について

(佐賀大学)

- 2.3.1 新学習管理システムの構築 (NetWalkers から moodle へ)
- 2.3.2 講義コンテンツのオーサリング方法 (SMIL, Producer から Flash へ)
- 2.3.3 講義コンテンツのデザインと問題点への対処
- 2.3.4 eラーニングの実施状況
- 2.3.5 利用の拡大
- 2.3.6 今後のeラーニング展開に向けて

2.4 高等教育の地域展開 —通信教育部のeラーニングコンソーシアム—

加藤幸雄 (日本福祉大学 副学長)

- 2.4.1 戦略的大学連携支援事業と本学の取り組み
- 2.4.2 本学におけるeラーニング基盤の確立 —通信教育部の取組 (2001)
- 2.4.3 eラーニングのメリット
- 2.4.4 連携GPがねらうもの
- 2.4.5 生涯学習型ネットワークキャンパスへ

3. 佛教大学のFDに活用していきたい事柄

すでに一定期間、授業のネット配信を実施してきた大学の経験から導き出された、eラーニングにおける以下のような問題点や課題は、そのまま本学の実践にも役立つだろう。

【利点】

- ・教授スキルが向上する
- ・出張の際などに利用できる
- ・予習、復習、欠席した際の補習に使える
- ・質問がしやすいので質問が多い

【問題点】

- ・早送りがないと時間ロスが大きい
- ・カメラ目線、話し方など、収録のためのトレーニングが必要
- ・講義収録にかなりのエネルギーを使う
- ・いつでもパソコンやインターネットの使い方を支援してくれる人が必要

【要望・課題】

- ・CD-ROM 盤で発行してほしい
- ・ISDN やアナログ回線でも視聴できるように、数種類の画質を用意してほしい
- ・ストリーミングではなくダウンロード形式にほしい
- ・講義の時間と残り時間の表示がほしい
- ・質問に簡単に答えられるシステムがほしい (教員)
- ・ネット講義に関するマニュアルの作成 (教員)
- ・質の高いコンテンツを数多く保有するために大学間連携が必要 (教員)

第1分科会 1単位45時間の学習の実質化の光と陰

2009年3月1日 於：龍谷大学 文責 近藤敏夫

1. 趣旨説明：松本和一郎（龍谷大学 理工学部教授 大学教育開発センター長）

単位に関する規定は従来から大学設置基準で定められていたが、実際には各大学の裁量で1単位当たりの授業時間や授業日数が決められてきた。しかし近年、大学設置基準に照らして学習時間を確保するよう、文部科学省から指導がなされている。大学が組織的に学生の学習時間を確保する時期にきている。

科目ごとに単位の实質化を図るのが基本ではあるが、卒業までの4年間でよりよい教育効果を上げるために学習時間を確保する必要もある。その他、インターンシップや国外での語学研修など、長期休暇を利用した活動との調整も必要になる。また、教員の研究時間を確保しなければ、結果的に教育の改善には結びつかない。

2. 話題提供

2.1 単位の实質化に向けて

安岡高志（立命館大学 教育開発推進機構教授）

2.1.1 学位授与の方針について

2.1.2 教育課程編成・実施の方針について

教育課程の体系化、単位制度の实質化、教育方法の改善、成績評価

[大学に期待される取組]

自己点検・評価活動の一環として学習時間等の実態を把握し、単位制度を实質化させる。

学部・学科等の目指す学習成果を踏まえて、授業計画を適切に定め、学生に明確に示す。

学生が各セメスターで履修する科目の数・種類が過多とならないようにする。

2.2 半期15回の授業機会を確保した大学の工夫と労苦、そして結果

宮本孝三（帝塚山大学 学習支援センター部長）

2.2.1 学年歴の決定について

原案作成から教員委員会で承認を取るまでの苦労

2.2.2 半期15回の根拠

資格取得にかかわる文部科学省・厚生労働省からの指導

2.2.3 工夫と苦労

祝日等の授業日への変更、年末年始休暇の短縮、補講日を授業日として活用

2.2.4 学士課程教育の構築に向けて

2.3 実質的な学習時間と回数確保の試み ——60分週2回授業——

植田正暢（福岡女学院短期大学部 英語科准教授）

2.3.1 60分授業の導入

短大の英語のクラスから60分週2回授業を導入し、現在は4年制大学でも実施している。

短大の「基礎演習」では60分週3回授業も実施している。

2.3.2 学習効果は上がったのか？

60分授業と並行して習熟度別クラス編成を実施したため、60分授業が学力向上の決定的要因になっているか不明

2.3.3 60分授業の課題

時間割過密化による学生への負担、時間割作成が困難、授業の組み立て・準備の工夫 教職員が組織的に取り組み、学生から理解を得ることが必要

2.4 単位の実質化と学習計画

林 久夫（龍谷大学 理工学部教授、教務主任）

2.4.1 諸外国の学生との学習時間の比較

日本の学生が授業時間外の学修が少ない。

授業時間外の学修を倍にすれば諸外国とほぼ同じ学習時間を確保することが可能

2.4.2 4年間の学習効果を上げるために

学部・学科の教育方針によって単位数が学習時間に対応していないことがある（卒業研究の比重の高さなど）

入学から卒業までの学習計画のなかで学習時間を確保すべき

TA制度導入などで大学が自習・復習のためのスペースと機会を提供

3. 佛教大学のFDに活用していきたいことから

3.1 具体的なことから

- ・15週の授業日確保のために補講日の活用（形式的には授業日だが休講にしても可とする）
- ・キャップ制（セメスター・学年ごとに、取得単位数の上限をコントロールする）
- ・科目の特性に合わせて週1回90分授業にこだわらず、多様な授業形態をとる
- ・TA制度の導入と同時に、大学内で自習・復習のスペースを確保する
- ・各学部・学科の教育方針を明確化し、授業時間外の学習時間を含めて計画を立てる
- ・科目によっては1単位30時間の授業時間にする（大学設置基準では1単位が15時間から30時間の授業時間に設定されている）

3.2 所見

第1分科会では事前に参加者にアンケート調査が実施され、報告者からの話題提供の後、各大学の現状に合わせて今後の方針・方策を討論する形式がとられた。各大学とも現行は大学設置基準を満たしていないが、次年度以降、15週の授業日（試験日を除く）を確保する大学が増加すると考えられる。1単位45時間の学習時間の確保に関しては、全科目でこれを実現することは不可能であるが、授業時間外の学修を大学が組織的に支援することが望まれる。

第4分科会 教養・文化教育としての外国語教育

2009年3月1日 於：龍谷大学 文責 持留 浩 二

1. 趣旨説明：秋澤雅男（京都薬科大学 一般教育准教授）・野田四郎（京都ノートルダム女子大学 人間文化学科教授）

外国語教育は、外国語の文法規則とその運用技法を教えるだけではなく、その外国語に基づき形成された教養・文化を教えることでもある。しかし、現在の初修外国語教育は、外国語大学の専攻課程を除き、授業時間数の減少等により、多くの場合、初歩的な文法と読本・会話の授業を通して、その外国語文化圏の教養・文化の特徴を伝えることで、学生たちに母語の特徴と異文化の理解を促進することに主眼が置かれている。この現状に甘んずることなく、大学教育の基盤を成す教養教育の活性化を目指す「教養・文化教育としての外国語教育」について、別の積極的な方途も含めて、議論してみたい。（フォーラムパンフレットより）

2. 報告

2.1 近畿大学におけるドイツ語教育の現状と展望

山取 清（近畿大学 語学教育部教授）

2.1.1 大学設置基準の大綱化と外国語教育への影響

（大綱化と近畿大学のカリキュラム改革、国際対話能力の育成と英語教育の再編）

2.1.2 近畿大学における第二外国語教育の課題と展望

（外国語教育における構造的変化の意味、第二外国語の教育目標とは何か、教員における意識改革の必要性、現状の課題と展望）

2.2 学生に対して私ができること・学生に対して私がしていること

清原文代（大阪府立大学 総合教育研究機構准教授）

2.2.1 出席カードの質問欄・復習リクエスト欄、授業の記録：ブログ「清原の中文教室」

2.2.2 学習支援

（LMSの利用、憶える課題文、セルフチェックシート、学生による重要な語句選択、各種検定試験の紹介、関連科目の紹介、Webサイトによる学習支援情報の発信）

2.2.3 初修外国語の授業の中での中国文化紹介

2.2.4 教室の壁を越えて—教材のインターネット配信を通じた社会貢献

2.3 教養・文化としての外国語教育

西山教行（京都大学大学院 人間・環境学研究科准教授）

2.3.1 公共財としての教育、外国語教育は公共財か

2.3.2 英語単一言語主義の功罪、英語一極集中と現実の齟齬

2.3.3 教育は投資か、消費か

2.4 慶応大学湘南藤沢キャンパス（SFC）のスペイン語教育

—理想と現実、教室と現場を結ぶ—

山本純一（慶應義塾大学 環境情報学部教授）／

寺田裕子（慶應義塾大学 総合政策学部訪問講師）

2.4.1 コース設計の理念

2.4.2 新しいカリキュラムとシラバス

2.4.3 学生参加型の教材開発と教室活動（宿題システム、自習学習教材の開発）

2.4.4 日本語による講義科目・大学院との連携

3. 佛教大学のFDに活用していきたいことから

3.1 具体的なことから

- ・語学スキルのみを教えるのではなくそれぞれの国の文化を教えることにより、学生の語学に対するモチベーションを作り出す
- ・ITを取り入れた語学教育（教師によるブログの作成、PodcastやPDFファイルで語学教材を作成しインターネット経由で学生に配信、授業以外での学習を支援するネット上の宿題システム）
- ・地域社会への貢献（インターネット等を通じて市民に開かれた語学教育、i-tunesやYouTubeを使っでの授業公開）

3.2 所見

正直 e-learning がこれほどまで進んでいるのかと、急激な IT 化への流れを実感した。私自身は正直それほど授業に IT を取り入れているわけではないし、佛教大学の教室の IT 設備は充実しているとは言い難いので、従来型の授業でいいだろうと思いついていたところがあったが、この分科会の報告を聞いていて、e-learning にもう少し目を向ける必要があることを強く実感した。

あと、大学は公共財であり、それゆえ大学の教育資源は社会に提供すべきであるという議論が印象的だった。実際アメリカでは多くの大学が YouTube や i-tunes を通じて授業を公開していることが指摘されていた。教育機関は自律的に利益を生み出すことができないので国が税を投入するわけだが、税を投入する以上教育機関には公共に利益を提供する必要があるというわけだ。

最後に、e-learning の話や国の教育経済学の話など話題は多岐にわたっていたが、やはり語学教育は、学生がその授業を受けて得をしたと思うような授業をすべきという、当た

り前だが大切な認識は報告者の皆さんの根底にあったような気がする。何よりも大切なのは教師の姿勢なのだと改めて思った。

FD Review

總括 / 展望



2008年度の回顧と2009年度の展望

教学部長 八木 透

2008年度を振り返って、本学のFD活動に関して一番に報告すべき事項は、何といても、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に佛教大学を代表校とする18大学・短期大学の連携事業「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」が採択されたことだと思います。この事業は、京都地域の18の連携大学・短期大学におけるFD活動の改善を図り、高等教育機関としての使命である教育の質の向上に資すること、および現在のFD活動の問題点を解決することを目的としています。

従来のFD活動は、各大学や団体が実施するフォーラム等の講演会に参加して、その時々々のFD関連情報の収集、他大学の教職員との情報交換等を行ってきましたが、具体的で効果のあるFD活動には繋がってきませんでした。今回の取組みは、学士課程におけるFDの義務化をむかえ、各大学・短期大学において具体的なFD活動の充実が問われている中で、①FDコンサルティング、②FD認定研修プログラムの提供、③FDプログラム開発・検証のモニタリングやコーディネート、④海外・国内のFD・SD情報の蓄積と発信の4領域において、実効性のあるプログラムを策定することによって、現状の打開と改善につなげることを目指しています。またFDの先進的な取り組みを、国内・海外問わず調査・研究し、FD活動の京都モデルを開発すると同時に、FDを支援する立場である職員の能力開発を視野に入れ、SDプログラムの要素と連動させたFDプログラムを開発し、教職協働を支援するための体制と基盤を確立することが期待されています。これを契機に、本学内でもFD活動がますます活性化されんことを願うものであります。

また2009年度においては、次のような課題が考えられると思います。第1に、授業アンケートのさらなる充実と、教員へのフィードバックの方法の改善です。アンケート実施率をさらに高めるとともに、アンケート結果の活用法についてもさらに議論を重ねてゆく必要があると思います。第2に、授業公開の有効的な実施方法の検討が必要だと思います。今のままではせっかくの機会が活かされていないといえます。全学的にそのための特別な時間を確保するなどの思い切った策が求められるでしょう。第3に、2010年度の実施に向けて、初年次教育のための全学共通シラバスを作成することが求められます。この点については教務委員会とも連携しながら、効率よく進めてゆく必要があるでしょう。

ところで、山際伸之新学長の発案により、9月に全学生に対して「満足度調査」が実施されることになりました。教授法開発室においては、この調査の成果を十分に活用して、学生のニーズに合った教授法の開発に繋げてゆくことが肝要だと思います。

活動記錄

FD Review

FD Review

活動記録

2008年

- 4月3日(木) 基礎学力調査実施(1回生)
英語基礎力調査実施(1回生)
- 4月4日(金) 基礎学力調査実施(3回生)
- 4月8日(火) 第1回教授法開発室会議
- 4月16日(水) 第2回教授法開発室会議
- 4月23日(水) 第1回教育開発委員会
- 4月26日(土) 関西地区FD連絡協議会設立総会出席(於京都大学芝欄会館、達富洋二・持留浩二参加)
- 5月7日(水) 第3回教授法開発室会議
- 5月14日(水) 第4回教授法開発室会議
第1回FD研究会(初年次教育)
- 5月28日(水) 第2回教育開発委員会
- 6月4日(水) 第5回教授法開発室会議
- 6月11日(水) 第6回教授法開発室会議
- 6月18日(水) 第3回教育開発委員会
- 7月1日(火) 『FD Review』vol.3 刊行
- 7月1日(火) ~22日(火) 通学春学期授業アンケート
- 7月2日(水) 第7回教授法開発室会議
- 7月9日(水) 第8回教授法開発室会議
- 7月20日(日) ~通信教育部夏期スクーリング授業アンケート実施
*以降、スクーリングごとに授業アンケート実施
- 9月10日(水) 第9回教授法開発室会議
- 9月17日(水) 第4回教育開発委員会
- 10月1日(水) 第10回教授法開発室会議
- 10月15日(水) 第11回教授法開発室会議
- 10月29日(水) 第5回教育開発委員会
- 11月12日(水) 第12回教授法開発室会議
第2回FD研究会(授業アンケート)
- 11月22日(土) 京都高等教育研究センター2008年度「第2回FDセミナー」(於同志社大、岸田 恩参加)
- 11月29日(土) ~30日(日) 初年次教育学会(於玉川大学、達富洋二参加)
- 12月2日(火) 秋学期授業公開(5限「臨床運動療法学演習A」白星伸一)
- 12月4日(木) 秋学期授業公開(1限「社会学入門ゼミ2Am」林 隆紀)
秋学期授業公開(4限「知的障害教育II A」堀家由妃代)
- 12月5日(金) 高大連携教育フォーラム(於キャンパスプラザ京都、有田和臣・山本理絵参加)

- 12月 6日 (土) ～ 7日 (日) 大学教育学会 2008 年度課題研究集会 (於岡山大学、達富洋二参加)
- 12月 9日 (火) 秋学期授業公開 (1限「法然の生涯と思想 A8」曾和義宏)
- 12月10日 (水) 第13回教授法開発室会議
- 12月11日 (木) 秋学期授業公開 (5限「老人福祉論 2Ab」坂本 勉)
- 12月15日 (月) ～ 1月23日 (金) 通学秋学期授業アンケート
- 12月17日 (水) 第3回FD研究会 (授業公開)
- 12月21日 (日) 第1回入学前教育 (特別推薦教育連携校) ガイダンス実施

2009年

- 1月14日 (水) 第4回FD研究会 (英語基礎力調査)
- 1月21日 (水) 第14回教授法開発室会議
- 1月28日 (水) 第2回入学前教育 (特別推薦教育連携校) 対面授業実施
- 2月14日 (土) 第6回大学教育セミナー (於ホテル金沢、達富洋二参加)
- 2月18日 (水) 第15回教授法開発室会議
第5回FD研究会 (e-Learning)
- 2月25日 (水) 第3回入学前教育 (特別推薦教育連携校) 対面授業実施
- 2月28日 (土) 第14回FDフォーラム (於龍谷大学深草学舎、榎本福寿、藤松素子、小林 隆、日下隆一、山本博子、岸田 恩、山本理絵参加)
- 3月 1日 (日) 第14回FDフォーラム (於龍谷大学深草学舎、有田和臣、近藤敏夫、持留浩二参加)
入学前教育「授業体験コース」実施
- 3月 4日 (水) 第4回入学前教育 (特別推薦教育連携校) 対面授業実施



FD Review



教授法開発室

2008 年度

室長 達富 洋二 (教育学科)
室員 有田 和臣 (人文学科)
榎本 福寿 (人文学科)
持留 浩二 (英米学科)
小林 隆 (教育学科)
近藤 敏夫 (現代社会学科)
藤松 素子 (社会福祉学科)
日下 隆一 (理学療法学科)

事務局スタッフ

八木 透 (教学部長 人文学科)
山本 博子 (教育開発課長)
岸田 恩 (教育開発課主任)
山本 理絵 (教育開発課契約専門職員)

2009 年度

室長 藤松 素子 (社会福祉学科)
室員 小野田俊蔵 (人文学科)
水谷 隆之 (人文学科)
持留 浩二 (英米学科)
小林 隆 (教育学科)
達富 洋二 (教育学科)
近藤 敏夫 (現代社会学科)
田中 智子 (社会福祉学科)
漆葉 成彦 (作業療法学科)

事務局スタッフ

八木 透 (教学部長 人文学科)
山本 博子 (教育開発課長)
吉岡 典子 (教育開発課主任)
山本 理絵 (教育開発課契約専門職員)

FD Review vol.4

発行日 2009年7月1日
発行者 佛教大学教授法開発室
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL (075) 491-2141 (代)

印刷者 株式会社 田中プリント
〒600-8047 京都市下京区松原通麴屋町東入
TEL 075-343-0006 FAX 075-341-4476



BUKKYO UNIVERSITY